

章	項 目	特 記 事 項	試験杭	杭伏図による	(4.2.2)	杭の施工	(4.5.5) (4.5.8)	施工箇所	鉄筋コンクリート標準図 の値に加える寸法 (mm)	③ レディーミクスト コンクリートの類別	④ セメントの種類	⑤ 骨材の種類	⑥ 混和材料	⑦ 無筋コンクリート 及びこれに準ずる コンクリート	⑧ コンクリートの 仕上り
1 一 般 共 通 事 項	① 適用	(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁 営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年度）」 （以下、「標仕」という。）による。 (2) 項目は、番号に ○印の付いたものを適用する。 (3) 特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。 (4) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標仕の当該項目、 当該図又は当該表を示す。 (5) 製造所名は、順不同とし「株式会社」等の記載は省略する。 また「 」内は製品名を示す。 ② 適用基準等	※日本建築学会発行「建築工事標準仕様書・同解説」（4章～7章に限る） ※日本建築学会発行「鉄骨工事技術指針」	5 杭の載荷試験	試験方法 地盤工学会発行「 地盤調査標準・同解説 」による。 試験位置は図示による (4.2.3) 測定項目 杭先端、中間、杭頭について応力及び変位測定 載荷方法 ・載荷方法A ・載荷方法B サイクル数 ・1サイクル ・多サイクル 荷重段階数（ ）段階 最大荷重：（ ）kN 提出書類等 載荷試験計画書、報告書を提出し、監督職員の承諾を得る	6 地盤の載荷試験	試験方法 地盤工学会発行「地盤調査法」による。 試験位置は図示による (4.2.4) 載荷板 φ300 最大荷重度：（ ）kN/m ² サイクル数 ・1サイクル ・多サイクル 段階数（ ）段階 提出書類等 載荷試験計画書、報告書を提出し、監督職員の承諾を得る	① 圧接完了後の試験	※超音波探傷試験 ・引張試験 (5.4.10) ※外観試験 試験対象は全ての圧接部とする。 ○試験報告書を提出する 超音波探傷試験の実施者は鉄筋加工・組立業者に所属しない検査機関とする	③ レディーミクスト コンクリートの類別	④ セメントの種類	⑤ 骨材の種類	⑥ 混和材料	⑦ 無筋コンクリート 及びこれに準ずる コンクリート	⑧ コンクリートの 仕上り
	② 適用基準等	※日本建築学会発行「建築工事標準仕様書・同解説」（4章～7章に限る） ※日本建築学会発行「鉄骨工事技術指針」	5 杭の載荷試験	試験方法 地盤工学会発行「地盤調査法」による。 試験位置は図示による (4.2.3) 測定項目 杭先端、中間、杭頭について応力及び変位測定 載荷方法 ・載荷方法A ・載荷方法B サイクル数 ・1サイクル ・多サイクル 荷重段階数（ ）段階 最大荷重：（ ）kN 提出書類等 載荷試験計画書、報告書を提出し、監督職員の承諾を得る	① 圧接完了後の試験	※超音波探傷試験 ・引張試験 (5.4.10) ※外観試験 試験対象は全ての圧接部とする。 ○試験報告書を提出する 超音波探傷試験の実施者は鉄筋加工・組立業者に所属しない検査機関とする									
4	① 施工管理技術者	※適用する ・適用しない (4.3.2) (4.4.2) (4.5.2)	※適用する ・適用しない (4.3.2) (4.4.2) (4.5.2)	7 地盤改良	仕様等	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）	③ レディーミクスト コンクリートの類別	④ セメントの種類	⑤ 骨材の種類	⑥ 混和材料	⑦ 無筋コンクリート 及びこれに準ずる コンクリート	⑧ コンクリートの 仕上り
地 業 工 事	② 支持地盤	○杭基礎 (4.3.4～5) (4.4.4) (4.5.5～6) ・支持地盤の位置及び種類 ○図示（ボーリング柱状図に記載） ・直接基礎 ・支持地盤の位置及び種類 ・図示 ・ 試験掘り ・行う ○行わない 位置等 ・図示	② 支持地盤	○杭基礎 (4.3.4～5) (4.4.4) (4.5.5～6) ・支持地盤の位置及び種類 ○図示（ボーリング柱状図に記載） ・直接基礎 ・支持地盤の位置及び種類 ・図示 ・ 試験掘り ・行う ○行わない 位置等 ・図示	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	③ 既製コンクリート杭 地業・鋼杭地業	種類 ○既製コンクリート杭 (4.3.1) (4.3.3) ⊗遠心力高強度コンクリート杭（PHC杭） ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）（一財）日本建築センターの評定 又は評価を受けたもの ○外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）（一財）日本建築センターの評定 又は評価を受けたもの (4.4.1) (4.4.3) ・鋼杭 JIS A 5525 ・鋼管杭 JIS A 5526 ・H形鋼杭 杭仕様 杭伏図による 試験杭 杭伏図による (4.2.2) 先端部形状 ※開放形 ・閉そく平たん形 (4.3.3) 施工法 (4.3.4～5) (4.4.4) ・セメントミルク工法 ○特定埋込み杭工法 H13 国土交通省告示第1113号第6 ・プレボーリング拡大根固め工法（セメントミルク併用） ・中掘り拡大根固め工法（セメントミルク併用） ○プレボーリング根固め工法（セメントミルク併用）NEWスーパーFK工法 杭周固定液 ※使用する 杭頭の処理 ※切断しない ・ (4.3.8) (4.4.6) 杭頭補強 ※5章鉄筋工事による ・ 杭の継手 (4.3.6) (4.4.5) ○機械式継手（※TPジョイント ・PJジョイント） ・溶接継手 ・JASPPジョイント 製造所 杭の施工 (4.3.4) (4.3.9) (4.4.7) ○杭の根入れ長さ（ボーリング柱状図に記載） ○水平方向のずれ 位置ずれが生じた場合、監督職員の指示により適切な補強を行う 水平方向の位置ずれの精度（100mm） ○垂直方向 杭頭天端レベルの管理は、高止まりの生じないよう行うこと 高止まりが生じた場合、監督職員の指示により杭頭をカットする セメントの種類 ※高炉セメントB種 ・ (4.5.4) コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	③ 既製コンクリート杭 地業・鋼杭地業	種類 ○既製コンクリート杭 (4.3.1) (4.3.3) ⊗遠心力高強度コンクリート杭（PHC杭） ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭（PRC杭）（一財）日本建築センターの評定 又は評価を受けたもの ○外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭）（一財）日本建築センターの評定 又は評価を受けたもの (4.4.1) (4.4.3) ・鋼杭 JIS A 5525 ・鋼管杭 JIS A 5526 ・H形鋼杭 杭仕様 杭伏図による 試験杭 杭伏図による (4.2.2) 先端部形状 ※開放形 ・閉そく平たん形 (4.3.3) 施工法 (4.3.4～5) (4.4.4) ・セメントミルク工法 ○特定埋込み杭工法 H13 国土交通省告示第1113号第6 ・プレボーリング拡大根固め工法（セメントミルク併用） ・中掘り拡大根固め工法（セメントミルク併用） ○プレボーリング根固め工法（セメントミルク併用）NEWスーパーFK工法 杭周固定液 ※使用する 杭頭の処理 ※切断しない ・ (4.3.8) (4.4.6) 杭頭補強 ※5章鉄筋工事による ・ 杭の継手 (4.3.6) (4.4.5) ○機械式継手（※TPジョイント ・PJジョイント） ・溶接継手 ・JASPPジョイント 製造所 杭の施工 (4.3.4) (4.3.9) (4.4.7) ○杭の根入れ長さ（ボーリング柱状図に記載） ○水平方向のずれ 位置ずれが生じた場合、監督職員の指示により適切な補強を行う 水平方向の位置ずれの精度（100mm） ○垂直方向 杭頭天端レベルの管理は、高止まりの生じないよう行うこと 高止まりが生じた場合、監督職員の指示により杭頭をカットする セメントの種類 ※高炉セメントB種 ・ (4.5.4) コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	④ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	④ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑤ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑤ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑥ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑥ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑦ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑦ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑧ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑨ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑨ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑩ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑩ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑪ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑪ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑫ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑫ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑬ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑬ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑭ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑭ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑮ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑮ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑯ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑯ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑰ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑰ 現場コンクリート打	コンクリートの種別及び設計基準強度（Fc） (4.5.4) (表4.5.1) ・A種 ※B種（ ）N/mm ² ・スランブ（ ）cm 調合管理強度 構造体強度補正值（S）による補正值 (4.5.4) ※3 N/mm ² ・ （ただし、(4.5.6)に規定する工法の場合、工法で定められた条件の値とする） 掘削工法 ・アースドリル工法（・安定液使用 ・無水掘削） (4.5.5) ・リバース工法 ・オールケーシング工法（孔内の水張 ・行う ・行わない） 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 (4.5.6) ・拡底杭工法 杭仕様 杭詳細図による	⑧ 砂利及び砂地業	材 料 ※再生クラッシャーラン ・切込み砂利及び切込み碎石 (4.6.2) ・締め固めに適した砂 ・川砂又は砕砂 地業厚さ(mm) ※60 ・ (4.6.3)	① 帯筋	○H形（仕口部） ・W-I形 ・SP形 ○既製溶接閉鎖形（（一財）日本建築センター評定品）							
	⑱ 現場コンクリート														

6	コン ク リ ー ト 工 事	コンクリートの仕上りの平坦さの標準値				対象	試験項目	試験方法	試験回数	試料採取	種 別	種 別 ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ABM400 ・ ABM490 ◎SS400	(7.2.4)	⑤ アンカーボルト	種 別 ・ ABR400 ・ ABR490 ・ ABM400 ・ ABM490 ◎SS400	(7.2.4)	⑥ 頭付きスタッド	JIS B 1198 製造所 技量資格者：（一社）スタッド協会の資格保有者 ・ A級 ※B級 ・ F級	(7.2.8) (7.7.2)	⑦ ターンバックル	JIS B 1198 製造所 技量資格者：（一社）スタッド協会の資格保有者 ・ A級 ※B級 ・ F級	(7.2.8) (7.7.2)	⑧ 床構造用の デッキプレート	JIS G 3352(デッキプレート)の規格品とする 種類の記号 ※SDP2G (Z12, Z27) (合成スラブ用認定品) ・ SDP2G (合成スラブセラー用認定品) ・	(7.2.7)	⑨ 溶接工作	溶接標準図による スカラップの形式 ◎改良スカラップ形式 ◎ノンスカラップ形式 鋼製エンドタブを切断する箇所（ ） 切断範囲（ ）	(7.2.5) (7.6.4) (7.6.7)	⑩ 溶接部の試験	検査方法 (7.6.11) (7.6.12) (表7.6.2) (表7.6.3) ※超音波探傷試験検査(日本建築学会発行「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準」による) ・ スタッド溶接 15 度打撃曲げ試験検査 (7.7.6) ・ 検査範囲 ◎工場溶接 ※抜き取り検査（但し、社内自主検査は100%とする） AQL ・ 2.5% ・ 4.0% 検査水準 ・ 第1水準 ・ 第2水準 ・ 第3水準 ・ 第4水準 ・ 第5水準 ※第6水準 ・ 全数検査 ◎現場溶接(すべての完全溶け込み溶接部を対象とする) ※全数検査 検査の実施者は鉄骨製作工場に所属しない検査機関とする 検査機関 ・	⑪ 溶接部許容差 日本建築学会発行「鉄骨精度測定指針」による 入熱バス間温度の溶接条件 ※溶接標準図 ⑫ 精度 日本建築学会発行「鉄骨精度測定指針」による 通しダイヤフラムの許容誤差 ※H12建設省告示第1464号第二号イ(1)(2)に規定 ⑬ アンカーボルトの 保持及び埋込み工法 ◎構造用アンカーボルト（※図示 ・ ） ・ 建方用アンカーボルト（ ・ A種 ※B種 ・ ） (7.10.3) (表7.10.1) ⑭ 柱底均し モルタル工法 均しモルタルは無収縮混和材入りモルタルとする 圧縮強度材齢28日50N/mm ² 以上 (7.2.9) 無収縮混和材 ・ 均しモルタルの工法 (表7.10.2) ※A種 ・ B種 適用範囲 この節に規定する事項以外は、18章 塗装工事 による 工場塗装の範囲 (7.8.2) ※構仕による 耐火被覆材の接着する面 ※含まない ・ 含む ・ 工場塗装の回数 ・ 1回 ※2回 現場塗装の回数 ・ 1回 ・ 2回 ◎補修 塗料の種類 (7.8.4) (18.3.2) (表18.3.1) ※A種 ※ JIS K 5674 鉛クロムフリー錆止めペイント ・ B種	⑫ 耐火被覆 種別 (7.9.2~7.9.9) ・ ラス張りモルタル塗り(左官工法)（ ・ 柱 ・ 梁 ・ 床 ・ プレース ） ◎耐火材吹付け(吹付け工法) （ ◎柱 ◎梁 ・ 床 ・ プレース ） ・ 乾式 ◎半乾式 ・ 湿式 ・ ・ 耐火板張り(接着工法) （ ・ 柱 ・ 梁 ・ 床 ・ プレース ） ◎耐火塗料 ・ 耐火材巻付け 耐火被覆材の厚さ（耐火時間） ※図示 ・ ⑬ 梁貫通孔補強 ・ 補強プレート法 ・ 補強トラス法 ※既製梁貫通孔補強金物	⑬ 耐火被覆 種別 (7.9.2~7.9.9) ・ ラス張りモルタル塗り(左官工法)（ ・ 柱 ・ 梁 ・ 床 ・ プレース ） ◎耐火材吹付け(吹付け工法) （ ◎柱 ◎梁 ・ 床 ・ プレース ） ・ 乾式 ◎半乾式 ・ 湿式 ・ ・ 耐火板張り(接着工法) （ ・ 柱 ・ 梁 ・ 床 ・ プレース ） ◎耐火塗料 ・ 耐火材巻付け 耐火被覆材の厚さ（耐火時間） ※図示 ・ ⑬ 梁貫通孔補強 ・ 補強プレート法 ・ 補強トラス法 ※既製梁貫通孔補強金物	⑭ 養生 ⑮ 耐震スリット	⑯ 型枠	コンクリートの 内外装仕上げ	平坦さ	適用部位による仕上りの目安 柱・梁・壁 床	コンクリートが見え掛りとなる場合又は仕上げ厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な表面状態が必要な場合	3mにつき7mm以下	化粧打放しコンクリート、 塗装仕上げ、 壁紙張り、 接着剤による陶磁器質タイル張り	合成樹脂塗材、 ビニル系床材張り、 床コンクリート直均し仕上げ、 フリーアクセスフロア（重敷式）	仕上げ厚さが7mm未満の場合その他良好な平坦さが必要な場合	3mにつき10mm以下	仕上塗材塗り	カーペット張り、 防水下地、 セルフレベリング材塗り	仕上げ厚さが7mm以上の場合又は下地の影響を受けにくい仕上げの場合	1mにつき10mm以下	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、 モルタル塗り、 鋼線下地	せき板の材料 (6.8.2) ※コンクリート型枠用合板 ◎床型枠用デッキプレート（適用箇所：図示） ・ 断熱材兼用型枠材（適用箇所：） スリーブの材料 (6.8.2) (表6.8.1) ・ 鋼管（適用箇所：） ◎硬質塩化ビニル管（適用箇所： 地中部分で水密を要しない部分） ◎溶融亜鉛めっき鋼板（適用箇所： 人通孔、地中部分以外(紙チューブ箇所除く） ◎つば付鋼管（適用箇所： 地中部分等水密を要する部分） ◎紙チューブ（適用箇所： 梁以外の箇所でスリーブ径が200以下の部分） ただし防火区画を貫通する場合には硬質塩化ビニル管は使用しない	コンクリート打込み後、散水その他の方法で湿潤を保つ (6.7.1) (6.7.2) (表6.7.1) (6.11.4) (6.12.4) (6.13.4)	方 向	タイプ	耐火性能	防水性能	◎垂直方向 ◎水平方向 ◎スリット幅 ・ 25mm ・	◎全貫通型スリット ・ 部分貫通型スリット	◎耐火火型 ・ 非耐火火型	◎有り ・ 無し	目 地	内壁（幅×深さ）	外壁（幅×深さ）	目地材 目地寸法（mm） 製造会社	シーリング材（見え掛かりのみ） シーリング材（内外とも）	⑰ 試験	下表に示す試験項目は原則として全て実施すること 試験要領書及び試験結果報告書を監督職員に提出すること 試験員 ・ （一財）日本建築総合試験所の「コンクリート現場試験技能者認定」を受けた者 ・ （一財）建材試験センターの「コンクリート採取試験技能者認定」を受けた者	対象	試験項目	試験方法	試験回数	試料採取	セメントが劣化しているおそれがある場合	◎JIS G 3136（建築構造用圧延鋼材）(SN400A, B, C SN490B, C) ◎JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）(SS400) ・ JIS G 3106（溶接構造用圧延鋼材）(SM400A, SM490A) ・ JIS G 3475（建築構造用炭素鋼鋼管）(STKM400W, B, STKM490B) ◎JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）(STK400, STK490) ◎国土交通大臣認定品 ・ 国土交通大臣認定品 ◎JIS G 3466（一般構造用角形鋼管）(STKR400) ◎JIS G 3350（一般構造用軽量形鋼）(SSC400) ただし、JIS G 3444、JIS G 3475については肉厚 6mm以下のものは(+)の誤差を認めない 使用箇所は図示による	◎JIS G 3136（建築構造用圧延鋼材）(SN400A, B, C SN490B, C) ◎JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）(SS400) ・ JIS G 3106（溶接構造用圧延鋼材）(SM400A, SM490A) ・ JIS G 3475（建築構造用炭素鋼鋼管）(STKM400W, B, STKM490B) ◎JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）(STK400, STK490) ◎国土交通大臣認定品 ・ 国土交通大臣認定品 ◎JIS G 3466（一般構造用角形鋼管）(STKR400) ◎JIS G 3350（一般構造用軽量形鋼）(SSC400) ただし、JIS G 3444、JIS G 3475については肉厚 6mm以下のものは(+)の誤差を認めない 使用箇所は図示による	◎JIS G 3136（建築構造用圧延鋼材）(SN400A, B, C SN490B, C) ◎JIS G 3101（一般構造用圧延鋼材）(SS400) ・ JIS G 3106（溶接構造用圧延鋼材）(SM400A, SM490A)
---	----------------------------------	--------------------	--	--	--	----	------	------	------	------	-----	---	---------	-----------	---	---------	-----------	---	-----------------	-----------	---	-----------------	--------------------	--	---------	--------	--	-------------------------	----------	--	--	---	---	------------------	------	-------------------	-----	-----------------------------	--	------------	--	---	-------------------------------	-------------	--------	----------------------------------	-----------------------------------	-------------	--	--	---	-----	-----	------	------	-----------------------------------	--------------------------	------------------	-------------	-----	----------	----------	-------------------------	---------------------------------	------	---	----	------	------	------	------	---------------------	---	---	--

鉄筋コンクリート標準図

適用

設計図及び構造特記仕様書に記載ある事項のほかは、この鉄筋コンクリート標準図による。
特記されていない事項は JASS5（2018年版）による。
鉄骨鉄筋コンクリート造もこの標準図を適用する。

1. 鉄筋の加工

1. 鉄筋の折曲げ

折曲げ角度

折曲げ図

SD295A, SD295B
SD345

SD390

SD490

備考

D16以下

D19～D41

D19～D41

D25以下

D29～D41

180°

D

3d
以上

4d
以上

5d
以上

注) 5

注) 5

135°

D

3d
以上

4d
以上

5d
以上

注) 5

注) 5

90°

D

3d
以上

4d
以上

5d
以上

5d
以上

6d
以上

135°
90°
(幅止め筋)

D

3d
以上

4d
以上

—

—

—

折曲げ角度

折曲げ図

SD295A, SD295B
SD345, SD390

使用箇所

D16以下

D19～D25

D19～D41

90°
以上

D

3d
以上

4d
以上

—

あばら筋・帯筋・スパイラル筋

D

4d
以上
(5d以上)

6d
以上
(6d以上)

8d
以上
(8d以上)

その他の鉄筋

※() 内寸法は、SD390に適用する。

注) 1. Dは曲げ内法直径
2. dは呼び名に用いた数値
3. 壁筋の自由側端の先端で90° フックまたは180° フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
4. 折曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監督職員の承認を得ること。
5. SD490の鉄筋を90° を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監督職員の承認を得ること。
6. 異形鉄筋のフック必要箇所
a. 柱の四すみにある主筋で、重ね継手及び最上階の柱頭にある場合。(丸柱を除く)
b. 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端にある場合。
ただし、基礎梁を除く。

柱

梁

● 印 フックの必要な鉄筋

c. 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
d. 杭基礎のベース筋
e. 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

2. 鉄筋相互のあき

梁断面

柱断面

e ≧ 1.25x (粗骨材の最大寸法)
e ≧ 25mm
e ≧ 1.5x (異形鉄筋の径)
> 印は2段配筋を示す

主筋と平行する鉄骨とのあきも上記の e 以上とする。

2. 鉄筋の継手及び定着

1. 鉄筋の継手及び定着の長さ

鉄筋の種類	設計基準強度 Fc (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ	
		L1	L2	L3	L4h
SD295A SD295B	18	45d	40d	小梁 スラブ	35d 30d
	21	40d	35d (40d)		30d 25d
	24 27	35d (40d)	30d (40d)		25d 20d
SD345	18	50d	40d	10d	35d 30d
	21	45d	35d (40d)		30d 25d
	24 27	40d	35d (40d)		25d 20d
SD390	18	50d	40d	10d	35d 30d
	21	50d	40d		35d 30d
	24 27	45d	40d		35d 30d

注) 1. L1, L4h: 2. 以外の直接定着の長さ及びフックあり定着の長さ
2. L2, L3h: 割製破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
3. L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。)。なお、片持小梁及び片持スラブの場合は、20 d 及び10 d を25 d 以上とする。
4. L4h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックあり定着の場合は、(2) に示すようにフック部分 含まない。
また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
7. () 内を、適用する ※ 適用しない

(2) 定着の方法

(イ) 直線定着の長さ

(ロ) フックあり定着の長さ

(ハ) 折曲げ定着

梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ

小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ

折り曲げ定着の鉄筋の定着長さLが、(1) のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を直線定着の長さ以上とし、かつ余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さLa又はLbを(3) に示す長さ(かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として柱せいの3/4倍以上)とする。

(3) 投影定着長さ

鉄筋の種類	設計基準強度 Fc (N/mm ²)	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
SD390	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d

注) 1. La: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。)
2. Lb: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

2. 隣合う継手の位置

圧接または溶接の場合	フックのない場合	フックのある場合	機械式の場合
a ≧ 400mm	a = 0.5L1	a ≧ 0.5L1	a = 0.5L1h

継手の重ね長さ
1節半以上かつ 150mm以上

定着の長さ
1節半以上かつ 150mm以上

鉄筋

(スラブの場合)

(壁の場合)

3. 溶接金網の継手及び定着

継手の重ね長さ
1節半以上かつ 150mm以上

定着の長さ
1節半以上かつ 150mm以上

鉄筋

(スラブの場合)

(壁の場合)

4. スパイラル筋の継手及び定着

5. 鉄筋の最小かぶり厚さ

構造部分の種類別

土に接しない部分	土に接する部分	煙突など高熱を受ける部分
スラブ、耐力壁、柱、梁、スラブ、壁	基礎、擁壁、耐圧スラブ	
20mm	40mm	60mm

注) 1. * 印のかぶり厚さは普通コンクリートに適用する
2. 仕上げありとは、モルタル塗りなどの仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 柱及び梁の主筋に異形鉄筋(D29以上)を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを、径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
6. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所には、上表は適用しない。

4. 基礎梁の継手及び定着

1. 基礎梁筋の継手及び定着

(1) 独立基礎で基礎梁にスラブがつかない場合

(2) 独立基礎で基礎梁にスラブがつく場合

(3) 連続基礎及びべた基礎の場合

注) 1. 印は継手位置を示す 印は余長位置を示す
2. 梁主筋のみ込み長さ (La※) は、柱せいの3/4倍以上とする。
3. 印は継手位置を示す。

(1) 連続基礎及びべた基礎の場合 (FB符号)

(2) 杭基礎及び独立基礎の場合は6. 2小梁筋の継手及び定着による

(1) 上記1. 2項目による
(2) 上端主筋の定着はやむ得ない場合、上向きとすることができる。
(3) 梁筋は原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。梁筋を柱内に折り曲げて定着する場合は柱せいの3/4倍以上のみ込ませる。ただし、やむを得ずはり内に定着する場合は下図による。

柱

梁

(4) あばら筋の割付け、腹筋及び幅止め筋は6. 梁による。

5. 柱

1. 主筋

(1) 定着

(2) 継手

かぶり厚さ

重ね継手

上階の鉄筋が多い場合

圧接継手

下階の鉄筋が多い場合

1500 ≧ かつ ≧ 500

1500 ≧ かつ ≧ 500

ho/2+15d

ho/2+15d

150mm

150mm

梁幅

n

b ≦ 500

500 < b ≦ 800

800 < b

3

5

≧ 200

設計番号

作成日

種別/備考

工事名称

図面名称

図面番号

20210533

2024. 03

一級建築士 No. 252480
設備設計一級建築士 No. 1028

川越中学校建設工事

鉄筋コンクリート標準図 その1
縮尺 A1: -
A3: -

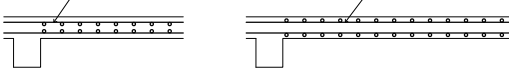

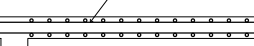
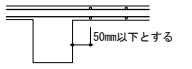
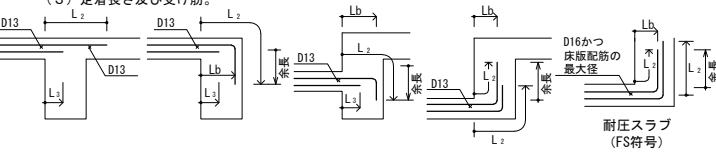
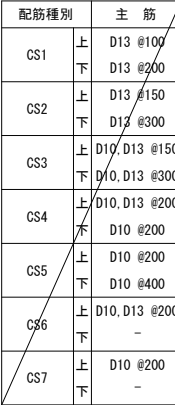
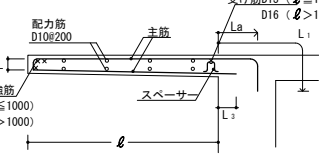
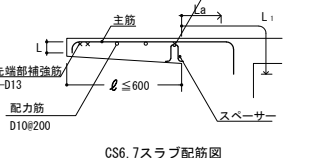
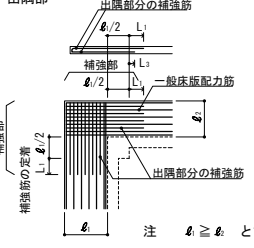
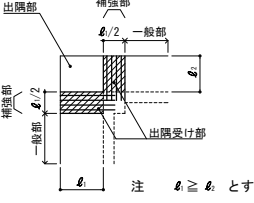
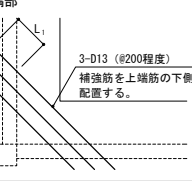
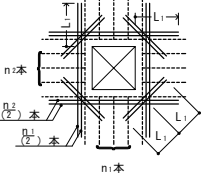
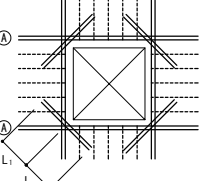
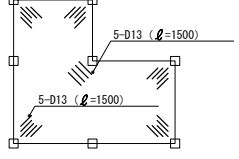
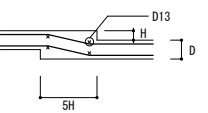
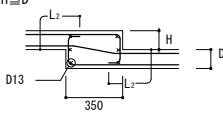
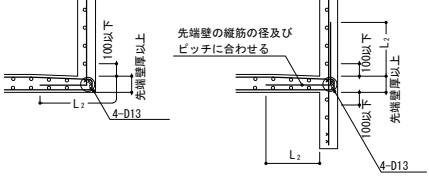
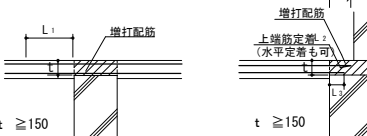
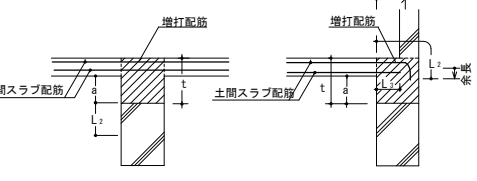
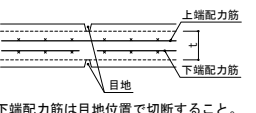
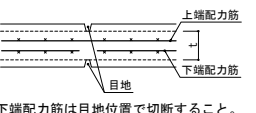
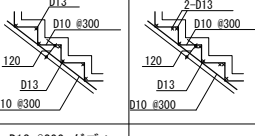
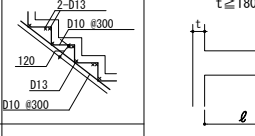
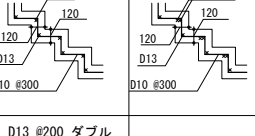
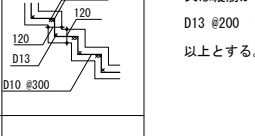
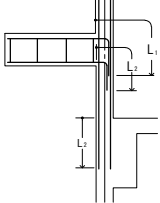
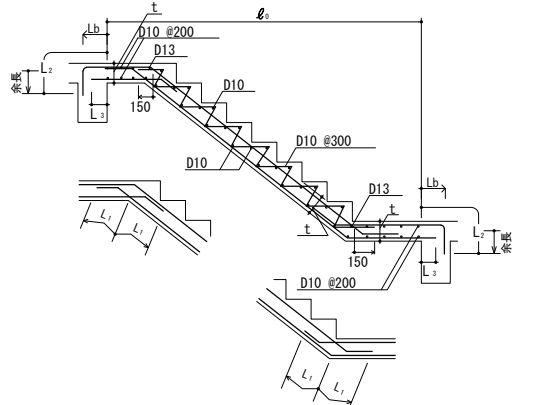
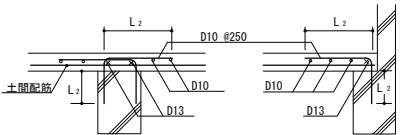
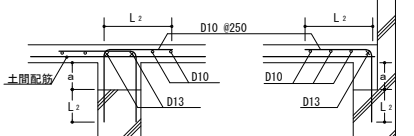
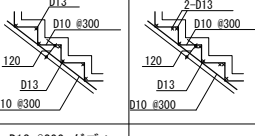
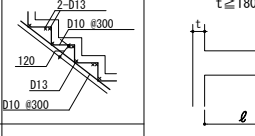
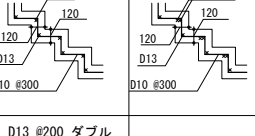
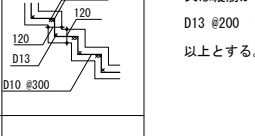
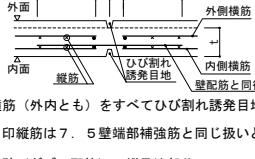
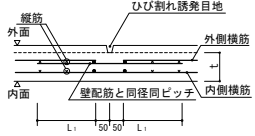
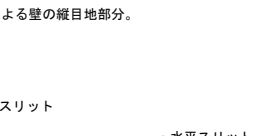
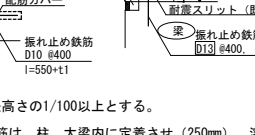
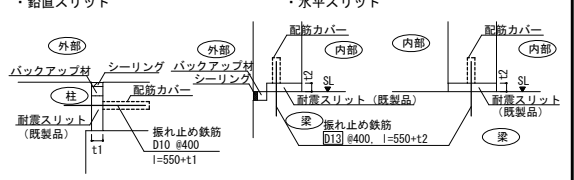
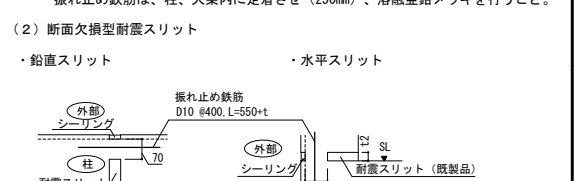
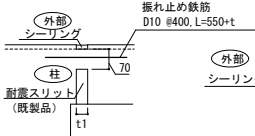
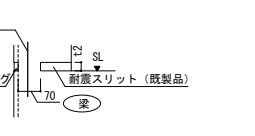
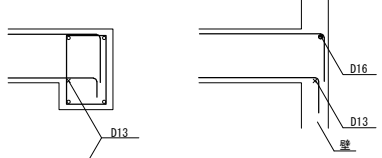
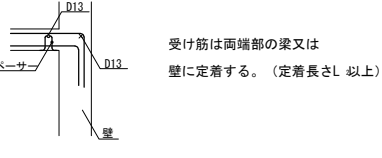
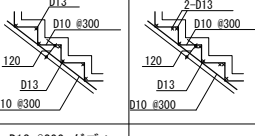
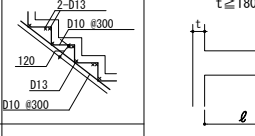
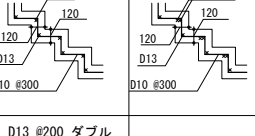
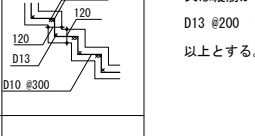
S003

一級建築士 No. 273069
高木 耕一

一級建築士 No. 345792
中牟田 昌慶

担当
一級建築士 No. 343695
久保 久志

株式会社東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

<div>1 1. 床 版</div> <div>1. S 形配筋表</div> <table><tr><th>配筋種別</th><th>短辺方向・主筋</th><th>長辺方向・配力筋</th><th>配筋種別</th><th>短辺方向・主筋</th><th>長辺方向・配力筋</th></tr><tr><td>S1</td><td>上 下</td><td>D13 @100 D13 @100</td><td>S9</td><td>上 下</td><td>D10, D13@150 D10, D13@150</td></tr><tr><td>S2</td><td>上 下</td><td>同 上</td><td>S10</td><td>上 下</td><td>D10, D13@200 D10, D13@200</td></tr><tr><td>S3</td><td>上 下</td><td>同 上</td><td>S11</td><td>上 下</td><td>D10 @200 D10 @200</td></tr><tr><td>S4</td><td>上 下</td><td>D13 @150 D13 @150</td><td>S12</td><td>上 下</td><td>D10 @250 D10 @250</td></tr><tr><td>S5</td><td>上 下</td><td>同 上</td><td>S13</td><td>上 下</td><td>D10 @200 D10 @200</td></tr><tr><td>S6</td><td>上 下</td><td>同 上</td><td>S14</td><td>上 下</td><td>D10 @250 D10 @250</td></tr><tr><td>S7</td><td>上 下</td><td>D10, D13@150 D10, D13@150</td><td></td><td>上 下</td><td></td></tr><tr><td>S8</td><td>上 下</td><td>同 上</td><td></td><td>上 下</td><td></td></tr></table> <div><p>S 形スラブ配筋図</p></div> <div><p>短辺方向主筋</p></div> <div><p>長辺方向主筋</p></div> <div>(1) スラブ配筋の割付け</div> <div><p>50mm以下とする</p></div> <div>(2) 鉄筋の継手長さはL₁とする。</div> <div>(3) 定着長さ及び受け筋。</div> <div><p>耐圧スラブ (FS符号)</p></div> <div>2. CS 形配筋表</div> <table><tr><th>配筋種別</th><th>主 筋</th></tr><tr><td>CS1</td><td>上 下</td></tr><tr><td>CS2</td><td>上 下</td></tr><tr><td>CS3</td><td>上 下</td></tr><tr><td>CS4</td><td>上 下</td></tr><tr><td>CS5</td><td>上 下</td></tr><tr><td>CS6</td><td>上 下</td></tr><tr><td>CS7</td><td>上 下</td></tr></table> <div><p>CS形配筋表</p></div> <div><p>CS1~5スラブ配筋図</p></div> <div><p>CS6, 7スラブ配筋図</p></div> <div>3. 片持ちスラブの出隅及び入隅部分の補強</div> <div>(1) 出隅部</div> <div><p>出隅部分の補強筋</p></div> <div><p>出隅部分の補強筋</p></div> <div>(2) 入隅部</div> <div><p>入隅部分の補強筋</p></div> <div>4. スラブ開口部の補 強</div> <div>(1) スラブ開口部の最大径が700mm 以下の場合</div> <div><p>隅角部は斜め方向に2-D10を上下筋の内側に配筋する。</p></div> <div>(2) 700mm <スラブ開口の最大径≤1000mm 以下の場合</div> <div><p>隅角部は斜め方向に2-D13を上下筋の内側に配筋する。</p></div> <div>注) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強不要とする。</div> <div>5. 屋根スラブの補強</div> <div><p>屋根スラブの出すみ及び入すみ部分には左図により補強筋を上端筋の下側に配置する。</p></div> <div>6. スラブに段差がある場合の補強</div> <div>(1) H≤Dの場合</div> <div><p>・H≤70</p></div> <div>(2) H>Dの場合</div> <div><p>原則として小梁を設けること</p></div> <div>7. 先端に壁が付く場合</div> <div><p>先端壁の縦筋の径及びピッチに合わせる</p></div> <div>8. 土間スラブ等の打ち継ぎ補強</div> <div>基礎梁とスラブを一体打ちとしない場合の補強は下記による。</div> <div>(1) 基礎梁に直接載る場合</div> <div><p>増打配筋</p></div> <div>(2) 基礎梁に直接載らない場合</div> <div><p>増打配筋</p></div> <div>コンクリート天端までの t をもとに 10. 柱・梁の増打補強筋により増打配筋を行う。</div> <div><p>増打配筋</p></div> <div>9. 片持ちスラブの目地部配筋</div> <div><p>目地部配筋</p></div>	配筋種別	短辺方向・主筋	長辺方向・配力筋	配筋種別	短辺方向・主筋	長辺方向・配力筋	S1	上 下	D13 @100 D13 @100	S9	上 下	D10, D13@150 D10, D13@150	S2	上 下	同 上	S10	上 下	D10, D13@200 D10, D13@200	S3	上 下	同 上	S11	上 下	D10 @200 D10 @200	S4	上 下	D13 @150 D13 @150	S12	上 下	D10 @250 D10 @250	S5	上 下	同 上	S13	上 下	D10 @200 D10 @200	S6	上 下	同 上	S14	上 下	D10 @250 D10 @250	S7	上 下	D10, D13@150 D10, D13@150		上 下		S8	上 下	同 上		上 下		配筋種別	主 筋	CS1	上 下	CS2	上 下	CS3	上 下	CS4	上 下	CS5	上 下	CS6	上 下	CS7	上 下	<div>1 2. 階 段</div> <div>1. 片持ち床版形</div> <table><tr><th>スパン (mm)</th><th>ℓ ≤ 1500</th><th>1500 < ℓ ≤ 2000</th><th>備 考</th></tr><tr><td>配筋種別</td><td>KA1</td><td>KA2</td><td></td></tr><tr><td>配筋図</td><td></td><td></td><td>t ≥ 180</td></tr><tr><td>踊 場</td><td>D13 @200 ダブル 厚 150</td><td>厚</td><td></td></tr><tr><td>配筋種別</td><td>KA3</td><td>KA4</td><td></td></tr><tr><td>配筋図</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>踊 場</td><td>D13 @200 ダブル 厚 150</td><td>厚</td><td></td></tr></table> <div><p>階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に降ろす。</p></div> <div>2. 二辺固定床版形</div> <table><tr><th>配 筋 種 別</th><th>スパン (mm)</th><th>床 版 厚 t (mm)</th><th>全 域 上 端 筋</th><th>下 端 筋</th></tr><tr><td>KB1</td><td>ℓ₁ ≤ 3000</td><td>150</td><td>D13@200</td><td>D13@200</td></tr><tr><td>KB2</td><td>3000 < ℓ₁ ≤ 3500</td><td>150</td><td>D13@150</td><td>D13@150</td></tr><tr><td>KB3</td><td>3500 < ℓ₁ ≤ 4000</td><td>150</td><td>D13@100</td><td>D13@100</td></tr><tr><td>KB4</td><td>4000 < ℓ₁ ≤ 4500</td><td>180</td><td>D13, D16@150</td><td>D13, D16@150</td></tr><tr><td>KB5</td><td>4500 < ℓ₁ ≤ 5000</td><td>180</td><td>D16@150</td><td>D16@150</td></tr><tr><td>KB6</td><td>5000 < ℓ₁ ≤ 5500</td><td>180</td><td>D16@125</td><td>D16@125</td></tr><tr><td>KB7</td><td>5500 < ℓ₁ ≤ 6000</td><td>200</td><td>D16@100</td><td>D16@100</td></tr></table> <div><p>二辺固定床版形の配筋</p></div> <div>1 3. 土間コンクリート</div> <div>1. 配 筋</div> <div>2. 補 強 筋</div> <div>(1) 床梁に直接載る場合</div> <div><p>床梁に直接載る場合の配筋</p></div> <div>(2) 床梁に直接載らない場合</div> <div><p>床梁に直接載らない場合の配筋</p></div> <div>a > 300の場合は10. 増打補強を適用する。</div>	スパン (mm)	ℓ ≤ 1500	1500 < ℓ ≤ 2000	備 考	配筋種別	KA1	KA2		配筋図			t ≥ 180	踊 場	D13 @200 ダブル 厚 150	厚		配筋種別	KA3	KA4		配筋図				踊 場	D13 @200 ダブル 厚 150	厚		配 筋 種 別	スパン (mm)	床 版 厚 t (mm)	全 域 上 端 筋	下 端 筋	KB1	ℓ ₁ ≤ 3000	150	D13@200	D13@200	KB2	3000 < ℓ ₁ ≤ 3500	150	D13@150	D13@150	KB3	3500 < ℓ ₁ ≤ 4000	150	D13@100	D13@100	KB4	4000 < ℓ ₁ ≤ 4500	180	D13, D16@150	D13, D16@150	KB5	4500 < ℓ ₁ ≤ 5000	180	D16@150	D16@150	KB6	5000 < ℓ ₁ ≤ 5500	180	D16@125	D16@125	KB7	5500 < ℓ ₁ ≤ 6000	200	D16@100	D16@100	<div>1 4. 外壁ひび割れ誘発目地部配筋及び耐震スリット</div> <div>1. 一 般 壁</div> <div>(1) 配筋要領</div> <div><p>外壁 (外内とも) をすべてひび割れ誘発目地部で分断する。 ・印縦筋は7. 5 壁端部補強筋と同じ扱いとする。</p></div> <div>(2) 適用範囲</div> <div><p>外壁 (ダブル配筋) の縦目地部分</p></div> <div>2. 耐 力 壁</div> <div>(1) 配筋要領</div> <div><p>外側横筋をすべてひび割れ誘発目地部で分断する。 ・印縦筋は7. 5 壁端部補強筋と同じ扱いとする。</p></div> <div>(2) 適用範囲</div> <div><p>外壁 (ダブル配筋) で耐力壁と指定した壁、又は特記による壁の縦目地部分。</p></div> <div>3. 耐震スリット</div> <div>(1) 全貫通型耐震スリット</div> <div>・鉛直スリット</div> <div><p>鉛直スリット</p></div> <div>・水平スリット</div> <div><p>水平スリット</p></div> <div>t 1は柱内法高さの1/100以上とする。 t 2 : ※25mm</div> <div>振れ止め鉄筋は、柱、大梁内に定着させ (250mm)、溶融亜鉛メッキを行うこと。</div> <div>(2) 断面欠損型耐震スリット</div> <div>・鉛直スリット</div> <div><p>鉛直スリット</p></div> <div>・水平スリット</div> <div><p>水平スリット</p></div> <div>t 1は柱内法高さの1/100以上とする。 t 2 : ※25mm</div> <div>(3) 耐震スリットの仕様</div> <div>耐火構造の外壁及び防火区画の壁に設ける耐震スリットは耐火仕様とする。</div> <div>1 5. 受 け 筋</div> <div>1. 梁の場合</div> <div><p>受け筋長さは左図のように (梁幅+2L₁) 以上とする。</p></div> <div>2. スラブの場合</div> <div><p>受け筋は両端部の梁又は壁に定着する。(定着長さL₁以上)</p></div> <div>梁に定着する場合の受け筋は11. 床版の項による。</div>	<table><tr><td>設計番号</td><td>20210533</td><td>作成日</td><td>2024. 03</td><td>種別/備考</td><td>工事名称</td><td>図面番号</td></tr><tr><td>一級建築士 No. 273069</td><td>高木 耕一</td><td>一級建築士 No. 345792</td><td>中牟田 昌慶</td><td>一級建築士 No. 252480</td><td>川越中学校建設工事</td><td rowspan="3">S006</td></tr><tr><td>構造設計一級建築士 No. 9786</td><td>高木 耕一</td><td>構造設計一級建築士 No. 9786</td><td>中牟田 昌慶</td><td>設備設計一級建築士 No. 1028</td><td>図面名称</td></tr><tr><td></td><td>高木 耕一</td><td></td><td>中牟田 昌慶</td><td></td><td>鉄筋コンクリート標準図 其の4 縮尺 A1: - A3: -</td></tr></table>	設計番号	20210533	作成日	2024. 03	種別/備考	工事名称	図面番号	一級建築士 No. 273069	高木 耕一	一級建築士 No. 345792	中牟田 昌慶	一級建築士 No. 252480	川越中学校建設工事	S006	構造設計一級建築士 No. 9786	高木 耕一	構造設計一級建築士 No. 9786	中牟田 昌慶	設備設計一級建築士 No. 1028	図面名称		高木 耕一		中牟田 昌慶		鉄筋コンクリート標準図 其の4 縮尺 A1: - A3: -
配筋種別	短辺方向・主筋	長辺方向・配力筋	配筋種別	短辺方向・主筋	長辺方向・配力筋																																																																																																																																																																		
S1	上 下	D13 @100 D13 @100	S9	上 下	D10, D13@150 D10, D13@150																																																																																																																																																																		
S2	上 下	同 上	S10	上 下	D10, D13@200 D10, D13@200																																																																																																																																																																		
S3	上 下	同 上	S11	上 下	D10 @200 D10 @200																																																																																																																																																																		
S4	上 下	D13 @150 D13 @150	S12	上 下	D10 @250 D10 @250																																																																																																																																																																		
S5	上 下	同 上	S13	上 下	D10 @200 D10 @200																																																																																																																																																																		
S6	上 下	同 上	S14	上 下	D10 @250 D10 @250																																																																																																																																																																		
S7	上 下	D10, D13@150 D10, D13@150		上 下																																																																																																																																																																			
S8	上 下	同 上		上 下																																																																																																																																																																			
配筋種別	主 筋																																																																																																																																																																						
CS1	上 下																																																																																																																																																																						
CS2	上 下																																																																																																																																																																						
CS3	上 下																																																																																																																																																																						
CS4	上 下																																																																																																																																																																						
CS5	上 下																																																																																																																																																																						
CS6	上 下																																																																																																																																																																						
CS7	上 下																																																																																																																																																																						
スパン (mm)	ℓ ≤ 1500	1500 < ℓ ≤ 2000	備 考																																																																																																																																																																				
配筋種別	KA1	KA2																																																																																																																																																																					
配筋図			t ≥ 180																																																																																																																																																																				
踊 場	D13 @200 ダブル 厚 150	厚																																																																																																																																																																					
配筋種別	KA3	KA4																																																																																																																																																																					
配筋図																																																																																																																																																																							
踊 場	D13 @200 ダブル 厚 150	厚																																																																																																																																																																					
配 筋 種 別	スパン (mm)	床 版 厚 t (mm)	全 域 上 端 筋	下 端 筋																																																																																																																																																																			
KB1	ℓ ₁ ≤ 3000	150	D13@200	D13@200																																																																																																																																																																			
KB2	3000 < ℓ ₁ ≤ 3500	150	D13@150	D13@150																																																																																																																																																																			
KB3	3500 < ℓ ₁ ≤ 4000	150	D13@100	D13@100																																																																																																																																																																			
KB4	4000 < ℓ ₁ ≤ 4500	180	D13, D16@150	D13, D16@150																																																																																																																																																																			
KB5	4500 < ℓ ₁ ≤ 5000	180	D16@150	D16@150																																																																																																																																																																			
KB6	5000 < ℓ ₁ ≤ 5500	180	D16@125	D16@125																																																																																																																																																																			
KB7	5500 < ℓ ₁ ≤ 6000	200	D16@100	D16@100																																																																																																																																																																			
設計番号	20210533	作成日	2024. 03	種別/備考	工事名称	図面番号																																																																																																																																																																	
一級建築士 No. 273069	高木 耕一	一級建築士 No. 345792	中牟田 昌慶	一級建築士 No. 252480	川越中学校建設工事	S006																																																																																																																																																																	
構造設計一級建築士 No. 9786	高木 耕一	構造設計一級建築士 No. 9786	中牟田 昌慶	設備設計一級建築士 No. 1028	図面名称																																																																																																																																																																		
	高木 耕一		中牟田 昌慶		鉄筋コンクリート標準図 其の4 縮尺 A1: - A3: -																																																																																																																																																																		

鉄 骨 標 準 図

1. 適用

2. ボルト及び高力ボルト接合

設計図書及び構造特記仕様書に記載ある事項のほかは、この鉄骨標準図による。

(1) 縁端距離及びピッチ

溶 接 規 準 図		(2) すみ肉溶接		(単位 mm)		(5) 注記事項		4. 余 盛 り	
適 用		設計図書及び構造特記仕様書に記載ある事項のほかは、この溶接規準図による。 特記のない事項は J A S S 6 による。				イ) 突合せ溶接		突合せ継手・かど継手・すみ肉溶接及びフレア溶接の溶接部には、 余盛りを行い、その高さの限度は下表による。	
1. 溶 接 継 手 標 準		(単位 mm)						溶 接 工 法	
種 別	(1) 突合せ溶接		サブマージアーク自動溶接		(A)			突合せ継手・かど継手	
	1. 片面溶接	2. 両面溶接	1. 片面溶接	2. 両面溶接				すみ肉溶接・フレア溶接	
突 合 せ 継 手 (B)	t ≤ 6		t ≤ 12					3mm 以下	
								3mm 以下	
	6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22						
	19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40						
	t ≤ 6		t ≤ 12						
	6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22						
T 形 継 手 (T)	19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40						
か ど 継 手 (L)	t ≤ 6		t ≤ 12						
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19							
19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40							
鋼管分岐継手詳細									

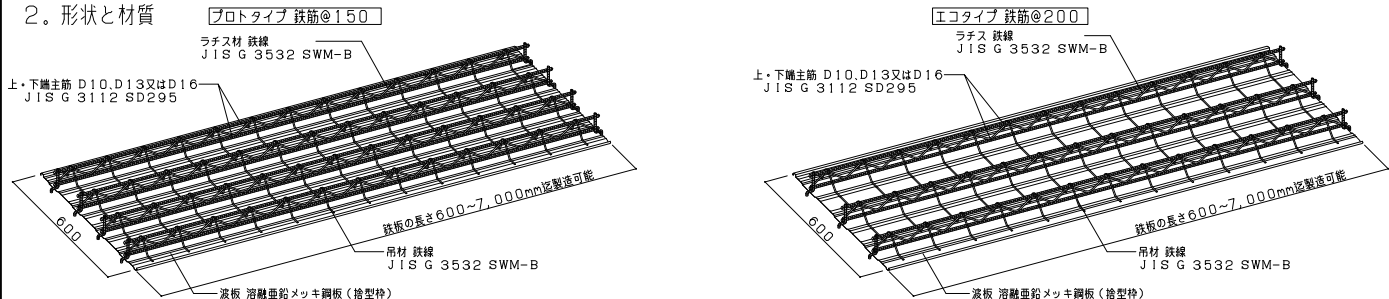
鉄筋トラス付捨型枠工法標準図

(鉄筋トラス付捨て型枠床版工法)

1. 工法の概要

本構造は、上端主筋と下端主筋の両者をつなぐラチス材および吊材、波板で構成するニューフェローデッキに、必要な現場施工部を設置し、コンクリートを打設することにより、コンクリート硬化後ニューフェローデッキの上端主筋および下端主筋とコンクリートが一体となるスラブである。
本工法特性：下端主筋及び下端配力筋を設けない工法として日本建築総合試験所建築技術性能証明を取得。
(日本建築総合試験所：GBRC性能証明 第22-12号)

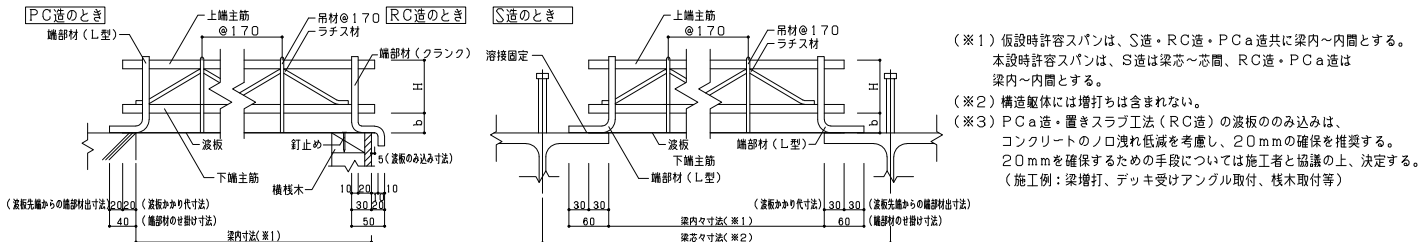
2. 形状と材質



3. 断面図



4. 標準納まり図



5. 施工手順及び留意事項

(1) 搬入・荷揚げ・仮置

- 搬入は、当該現場の工区、工程に応じて作成された荷姿図および合番図と、積荷を照合し、施工計画に従って行う。
 - 荷揚げは、現場クレーンに依り、専用の治具等を用いて4点吊りにて行うものとする。専用の治具には、トラスから地面に荷下ろしするものと、躯体(上部)に荷揚げするものがある。その際、波板、吊材等ニューフェローデッキの部材を变形、破壊させないように注意する。
 - 仮置きする場合は、端部材のかり代を確保するとともに、風飛養生を十分にを行い、ニューフェローデッキ梱包および副資材の落下を防止
- (2) 敷込み・加工・固定
- 敷込みは、割付け計画に従ってあらかじめ墨出しを行い、所定の位置に不陸を生じないように注意して敷込む。
 - 各構造のデッキのみ込み、かり代は右の表に示す。
 - RC造・SRC造の型枠には、枝木へ釘を使用し固定する。PCa造の場合は、PCa梁のあばら筋に掛けたつなぎ筋をニューフェローデッキの端部材に溶接にて固定する。
 - 固定位置は、RC造、SRC造、PCa造の幅方向については1枚(600mm幅)に対し片側1ヶ所以上とする。

		RC造 SRC造	PCa造 置スラブ(RC造)
構造躯体(※2) への波板のみ込み	性能証明基準 割付け標準設定	10mm以下	10mm以下
施工安全上の 端部材かり代	性能証明基準 割付け標準設定	5mm	5mm(20mm※3)
			30mm以上
			40mm

- 加工は、柱廻りの切り欠き加工を行い、端部材を切断した場合には、所定の位置に新たに端部材をアーク溶接にて取付け直す。

		S造
波板のかり代	性能証明基準 割付け標準設定	30mm
施工安全上の 端部材かり代	性能証明基準 割付け標準設定	30mm以上
		60mm

(3) 梁鉄筋の施工(鉄筋工事)

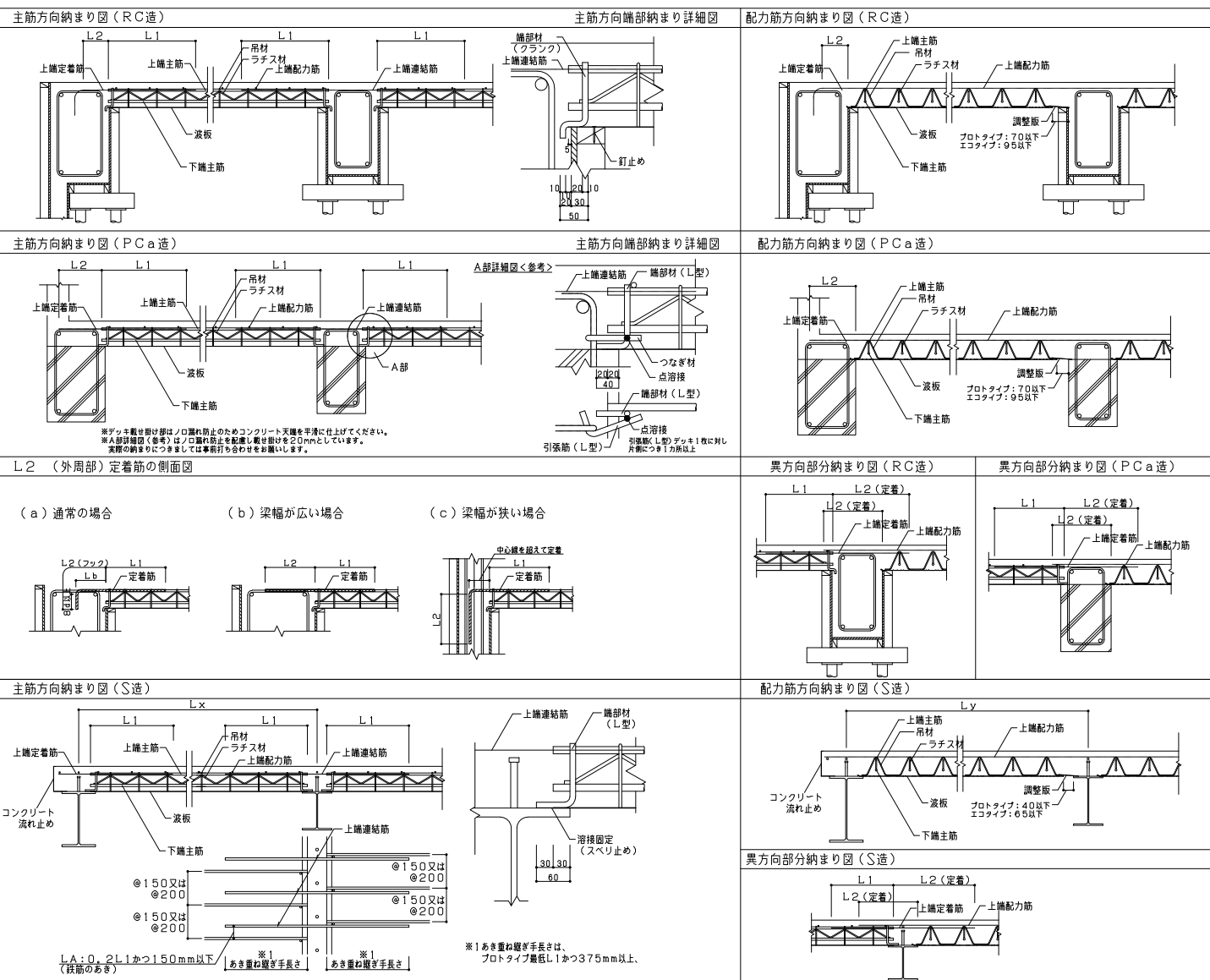
- (4) 梁の上端連結(定着)筋の施工(鉄筋工事)
 - 継手長さはL1、定着長さはL2とする。

- (5) 上端配力筋の施工(鉄筋工事)
 - 継手長さはL1、定着長さはL2とする。

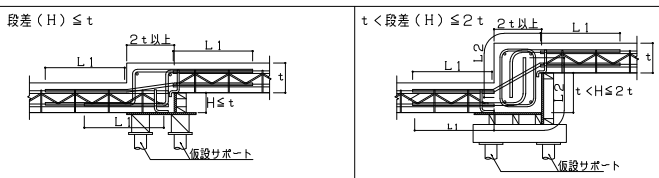
(6) 留意事項

- トラス筋は施工時の支保工の役目を持つ構造材である為、部材の切断はしないこと。
- 設備・配管工事の為、コン打以前に切断の必要がある場合は事前に対応策を設けること。
- 開口部は、大きさにより定められた補強筋を配筋すること。
- 仮設時有効スパンを超える場合は、必ず適切な位置に仮設サポートを設けること。

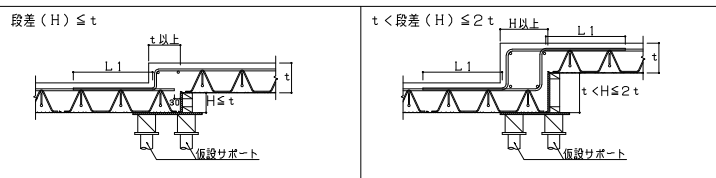
標準納まり図



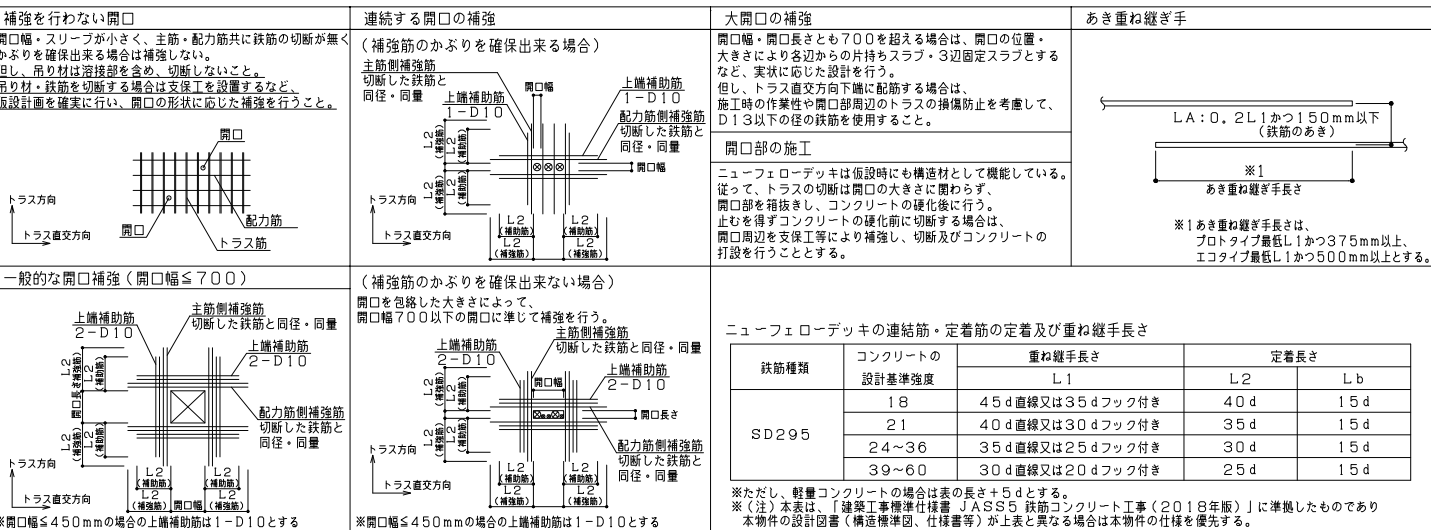
主筋方向段差納まり図<参考>



配力筋方向段差納まり図<参考>



ニューフェローデッキ開口補強要領



設計番号	作成日	種別/備考	工事名称	図面番号
20210533	2024. 03	種別/備考	川越中学校建設工事	
一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792	一級建築士 No. 252480	図面名称	
高木 耕一	構造成計一級建築士 No. 9786	設備設計一級建築士 No. 1028	鉄筋トラス付捨型枠工法標準図1	
	中牟田 昌慶	石田 正之	縮尺	
		久保 久志	A1: -	
			A3: -	
				S009

6. 運搬・建方

(1) 輸送計画

製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。

☑

輸送計画書の提出（）

(2) 集積・保管

集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥による割れが発生するため避ける。

☑

集積場の確認（）

(3) 建方計画

☑

建方計画書の提出

アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。

(4) 施工時の安全性

建方作業中および作業後、構架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承認を受ける。また、強風などによる諸外力に対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。

☐

施工時の安全性に対する検討書の提出

☐

施工時荷重条件の通知

(5) アンカーボルトの施工

・

芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。

・

アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを行う。

・

アンカーボルトはダブルナットとする。

☐

適用除外（）

・

土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。

(6) 建方精度

・

建方の精度基準は下記による。

☑

建物の倒れ

：

☐

 $e \leq H / 2500 + 5\text{mm}$ かつ $e \leq 20\text{mm}$

☑

（ $e \leq H / 1000$ ）

☑

梁の水平度

：

☐

 $e \leq L / 700 + 5\text{mm}$ かつ $e \leq 10\text{mm}$

☑

（節点間のレベル差）

☑

（ $e \leq L / 1000$ ）

☑

建物のわん曲

：

☑

 $e \leq L / 2500\text{mm}$ かつ $e \leq 20\text{mm}$

☐

（）

☑

柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置

柱据え付け面の基準高さからの誤差

：

☑

 $\pm 3\text{mm}$ 以下

☐

（）

通り芯からの誤差

：

☑

 $\pm 3\text{mm}$ 以下

☐

（）

階高

：

☑

 $-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}$

☐

（）

・

建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。

(7) 施工状況の検査

☑

アンカーボルト施工時の立会い検査

☑

施工者自主検査記録の提出（）

☑

地組み時の立会い検査

☑

施工者自主検査記録の提出（）

☑

建方時の立会い検査

☑

施工者自主検査記録の提出（）

☐

建方後の施工状況の検査

☑

施工者自主検査記録の提出（）

☑

最終確認

工事中に発生するボルトの緩み、接合具および接合金物に影響する材の割れ、接着面のはがれ等注意到意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。

☑

施工者自主検査記録の提出（）

集成材等木質工事特記仕様書

1 共通事項

1-1 適用範囲

本仕様書は、木質部材を主要構造体に用いた木工事に適用する。

1-2 準拠基準

a

日本農林規格

農林水産省

b

木造建築工事標準仕様書

公共建築協会

c

建築工事標準仕様書

公共建築協会

d

建築工事標準仕様書・同解説

日本建築学会

e

木質構造設計規準・同解説

日本建築学会

f

鋼構造接合部設計指針

日本建築学会

1-3 用語・記号

本仕様書内では、直交集成板をCLTと表記する。

1-4 特記事項の適用

特記事項等は、●印を適用する。（○印は適用しない）

同一項目に●印が2ヶ所以上ある場合は、共にこの工事に適用し、その適用範囲は、設計図書による。

2 CLT

2-1 仕様・規格

a

CLTの製造工場は、低ホルムアルデヒド直交集成板JAS認定工場であること。

b

樹種・等級

樹種	強度等級		
OSギ	OM×60A	OS30A	OS60A

※構成の区分は部材リストによる。

接着性能	<div>○使用環境A</div>	<div>○使用環境B</div>	<div>○使用環境C</div>
------	-------------------	-------------------	-------------------

ホルムアルデヒド放散量	<div>○F☆☆☆☆</div>	<div>○F☆☆☆</div>
-------------	-------------------	------------------

c 製品の工場での表面仕上げは、下記の通り

表面仕上げ	<div>○無処理</div>
	<div>○エポキシパテ補修の上サンダー仕上げ</div>

d 寸法精度

区 分		許容差（表の数値以下）
厚さ	75mm以下のもの	±1.5mm
	75mm超のもの	表示された厚さの±2%
幅		±3.0mm
長さ		±6.5mm
表面における対角線の差		3.0mm

3 構造用集成材

3-1 仕様・規格

a

構造用集成材の製造工場は、低ホルムアルデヒド構造用集成材JAS認定工場であること。

b

樹種・等級

樹種	強度等級		
ベイマツ	OE105-F345	OE135-F375	OE105-F300
スギ	●E65-F225	OE65-F255	OE75-F240
カラマツ ヒノキ	OE95-F315	●E95-F270	

接着性能	<div>○使用環境A</div>	<div>●使用環境B</div>	<div>○使用環境C</div>
------	-------------------	-------------------	-------------------

ホルムアルデヒド放散量	<div>●F☆☆☆☆</div>	<div>○F☆☆☆</div>
-------------	-------------------	------------------

c 製品の工場での表面仕上げは、下記の通り

表面仕上げ	<div>○無処理</div>
	<div>●エポキシパテ補修の上プレーナー仕上げ</div>

寸法精度

区 分		許容差（表の数値以下）		
短辺	大断面	±1.5mm		
	小・中断面	+1.5mm -0.5mm		
長辺	大断面	±1.5% （ただし、±5mmを超えないこと）		
	小・中断面	300mm以下のもの	+1.5mm -0.5mm	
		300mm超のもの	±0.5%（ただし、+5mm、 -3mm を超えないこと）	
長さ		±5mm		

3 工場塗装

区 分			
CLT	程 度	<div>○無塗装</div> <div>●汚れ防止</div>	1回塗り
	塗 装	<div>○</div>	
構造用集成材	程 度	<div>○無塗装</div> <div>●汚れ防止</div> <div>●木口（吸水防止）</div>	1回塗り 1回塗り
		<div>○バトン</div> <div>○オスモカラー</div>	#501(透明) I4315・G17-
	塗 装		

※仕上げ塗装は、仕上げ表による。（別途工事）

4 建て方

特記なき限り 建方の精度基準は下記の通り

a

建物の倒れ

建物の高さの1/1000mm以内

b

建物のわん曲

建物の長さの1/2500 かつ 20mm以内

c

柱据付面の高さおよびアンカーボルトの位置

柱据付面のの基準高さからの誤差は±3mm以内

柱隣接間中心距離の誤差±1mm以内

通り芯からの誤差は±3mm以内

5 工作図及び施工要領書

1

工事に先立ち必要な工作図と共に工場製作要領書及び現場施工計画書を作成し、監督員の承認を受ける。

2

工場製作要領には、下記の事項を記載・添付する。

a.

総則（適用範囲・準拠図書及び規準・変更・質疑・協議・工事関係者への徹底）、工事 認定書

b.

一般事項（工事概要・製作工場・工場略図・管理組織・管理者名・人員配置・作業系統図・工場設備及び使用機器）

c.

材料（使用材料・規格・使用箇所・保管方法）

d.

製作（工作一般・仮組立・接着方法・接合方法・仕上げ面の補修方法・その他）

e.

資格

f.

検査

g.

塗装（材料・工法・施工箇所）

h.

運搬（運搬計画・責任者・養生方法）

i.

工程表

3

現場施工計画書には下記事項を記載する。

a.

現場組織（工事管理組織・担当技術者・要員計画）

b.

建方（仮設計画・場内仮置き方法・地組計画・揚重計画・安全対策）

c.

現場工作（接着・ボルト接合・その他）

d.

資格

e.

検査（建方精度・接合部の試験・検査の要領及び基準）

f.

塗装（材料・工法・施工箇所）

g.

安全管理（安全衛生管理体制・作業主任者及び各種業務有資格者名等）

h.

工程表

4

施工記録は下記事項のうち実施したものを項目別に提出する。

a.

材料試験

b.

工場製品検査（形状・寸法・その他）

c.

現場施工検査（建方精度・その他）

d.

その他試験・検査・主要な補正の記録

6 その他 記号

記 号	BT	ボルト	FB	フラットバー
	LG	ラグスクリュー	HTB	ハイテンションボルト
	DP	ドリフトピン	GP	ガセットプレート
	LSB	ラグスクリューボルト	RP	リブプレート
	PL	プレート	CP	カバープレート
	A.BL	アンカーボルト	FR	フランジプレート
	B.PL	ベースプレート		

木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図 (1)

1. 一般事項	2. 材料	3. アンカーボルト	4. 接合一般
<p>(1) 適用範囲</p> <p>※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。</p> <p>木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。</p> <p>(2) 設計図書</p> <p>設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。</p> <p>(3) 準拠する図書</p> <p>設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（※全て最新版による。）</p> <p>「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修）</p> <p>「公共建築木造工事標準仕様書 平成25年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）</p> <p>「木造計画・設計基準 平成23年版」（国土交通大臣官庁営繕部監修）</p> <p>「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)」（日本住宅・木材技術センター）</p> <p>「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」(2015年改訂版)</p> <p>上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。</p> <p>(4) 設計図書の優先順位</p> <p>設計図書の優先順位は下記による。</p> <p>1. 指示書（現場説明書及び質疑回答書）</p> <p>2. 設計図</p> <p>3. 特記仕様書</p> <p>4. 本標準図</p> <p>(5) 疑義</p> <p>疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。</p> <p>(6) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出</p> <p>工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承認を受ける。</p> <p>(7) 施工図及びプレカット図の提出</p> <p>工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承認を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。</p> <p>(8) 製作工場の選定、承諾</p> <p>設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承認を受ける</p> <p>(9) 各種試験・検査報告書の提出</p> <p>施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。</p> <p>(10) 接合工法</p> <p>本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合方法は、下記による。</p> <p>・継手仕口による在来工法</p> <p>・梁受け金物、及びホソパイプ等による金物工法</p> <p>なお、上記の方法はひとつの建物で混用して構わない。</p> <p>また、本標準図は在来接合工法のみについて記載しており、金物工法を用いる場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。</p> <p>本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承認を得ること。</p> <p>(11) 加工部材に関する留意事項</p> <p>本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場で加工可能な範囲は以下による。</p> <p>・梁:部材断面が幅90mm～150mm、梁成が幅と同寸～450mm、及び材長6m以下</p> <p>・柱:90角～150角の正方形断面、長さ6m以下</p> <p>これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。</p>	<p>(1) 木材及び木質材料</p> <p>主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については特記仕様書で指定する。</p> <p>(2) 接合具</p> <p>a)くぎ</p> <p>主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄丸くぎ（N釘）または太め鉄丸くぎ（CN釘）または溶融亜鉛メッキ太め鉄丸くぎ（ZN釘）またはステンレス鋼釘（S釘）またはせこうボード用くぎ（GN釘）を用いる。</p> <p>b)木質構造用ビス</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとし、造作用のビス（コーススレッド等）を用いてはならない。</p> <p>使用箇所・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>c)ボルト・ナット・座金</p> <p>1) 主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。</p> <p>・ボルトはJIS B 1051 ,ナットはJIS B 1052 に規定される機械的性質を満たす炭素鋼</p> <p>・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト及びナット</p> <p>【 Zマーク表示金物 】</p> <p>【 Dマーク表示金物 】</p> <p>【 Sマーク表示金物 】</p> <p>・上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット</p> <p>2) 主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。</p> <p>3) ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を緊結する場合には適切な寸法と厚みのある座金を用いる。</p> <p>※ ボルト・ナット及び座金の使用部位、種類、材質、寸法、表面処理については特記仕様書で指定する。</p> <p>d)ドリフトピン・ラグスクリュー</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとする。使用箇所・材質・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>e)木栓・木ダボ</p> <p>主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。</p> <p>樹種・径等については、特記仕様書で指定する。</p> <p>節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。</p> <p>(3) 接合金物</p> <p>a)規格金物</p> <p>構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。</p> <p>・JIS A 5531 ; 木構造用金物</p> <p>・公益財団法人日本住宅・木材技術センターによる規格に準じた金物；</p> <p>Zマーク表示金物、又は Cマーク表示金物</p> <p>・同等認定金物；Dマーク表示金物</p> <p>・性能認定金物；Sマーク表示金物</p> <p>上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として使用できる。</p> <p>使用部位と金物の名称、材質、その他については特記仕様書で指定する。</p> <p>b)製作金物</p> <p>製作金物の使用部位・材質・形状・寸法・溶接仕様・表面処理等については、特記仕様書及び設計図による。</p> <p>(4) 接着剤</p> <p>原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む場合はこの限りではない。</p> <p>建築現場で用いる接着剤の名称・材質・使用環境等については特記仕様書による。</p> <p>(5) 防腐防蟻処理及び耐候処理</p> <p>防腐防蟻処理及び耐候処理（塗装）は特記仕様書で指定する。</p> <p>土台及び外壁の地盤面から1m以下の構造材については適切な防腐防蟻処理を行う。</p> <p>適切な防腐防蟻処理については特記仕様書で指定する。</p>	<p>※共通事項</p> <p>・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。</p> <p>(1) 土台固定用アンカーボルト</p> <p>a).アンカーボルトの埋設位置； アンカーボルトの埋設位置は以下による。</p> <p>-1.耐力壁<筋交い,合板仕様共通>の下部；</p> <p>耐力壁<筋交い,合板仕様共通>の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置<柱芯より200mm内外>とする。</p> <p>200 以下</p> <p>引張金物専用アンカーボルト M16以上 埋込み長さ ≥ 360 mm</p> <p>土台</p> <p>基礎天端</p> <p>柱</p> <p>土台</p> <p>アンカーボルト</p> <p>アンカーボルト</p> <p>※ J型及びL型アンカーボルトを用いる場合の必要埋込み長さを示す。</p> <p>200 以下</p> <p>（見下げ）</p> <p>-2.土台切れの端部及び、土台の継手仕口；</p> <p>土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。</p> <p>当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。</p> <p>継手の場合</p> <p>男木</p> <p>女木</p> <p>土台</p> <p>アンカーボルト</p> <p>男木</p> <p>女木</p> <p>基礎天端</p> <p>70 程度</p> <p>※ J型及びL型アンカーボルトを用いる場合の必要埋込み長さを示す。</p> <p>仕口の場合</p> <p>土台</p> <p>男木</p> <p>女木</p> <p>アンカーボルト</p> <p>200 程度</p> <p>土台切れの場合（柱勝ち取り等）</p> <p>アンカーボルト</p> <p>土台</p> <p>200 以下</p> <p>（見下げ）</p> <p>（見下げ）</p> <p>△ 基礎天端</p> <p>△ 通り芯、又は柱芯</p> <p>-3.その他； 上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。</p> <p>(2) 引張金物専用アンカーボルト</p> <p>a).引張金物専用アンカーボルトの径</p> <p>引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。</p> <p>b).引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ</p> <p>引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、J型アンカーボルトを用いる場合は、360 mm 以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満たす埋込み長さとする。</p>	<p>(1) 釘接合</p> <p>・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。</p> <p>・面材表面に対し、釘頭がめり込んではならない。</p> <p>・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうえに手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。</p> <p>・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。</p> <p>・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。</p> <p>(2) 木質構造用ビス接合</p> <p>・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。</p> <p>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；</p> <p>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</p> <p>上記以外の樹種・・・・・・呼び径の 40～70 %</p> <p>※ 先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2／3程度とする。</p> <p>(3) ボルト接合</p> <p>・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</p> <p>・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締付けない。</p> <p>・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。但し、座掘り座金等、ナットと座金が一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。</p> <p>・引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。</p> <p>(4) ラグスクリュー接合</p> <p>・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。</p> <p>・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</p> <p>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；</p> <p>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</p> <p>上記以外の樹種・・・・・・呼び径の 40～70 %</p> <p>※ 先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。</p> <p>・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。</p> <p>・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。</p> <p>・鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切剛ネジタイプとし、転造ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。</p> <p>・呼び径 M12以下；+1.0mm</p> <p>・呼び径 M16以上；+1.5mm</p> <p>(5) ドリフトピン接合</p> <p>・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</p> <p>・ドリフトピンは、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、孔に対しテーパのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。</p> <p>(6) 木栓接合</p> <p>・木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</p> <p>・木栓は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないように注意し、無理な打撃を加えてはならない。</p> <p>・木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。</p> <p>(7) グルードインロッド接合</p> <p>・グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等挿入して、樹脂接着剤等注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。</p> <p>・グルードインロッド接合は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。</p>

V.27915

		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 No. 273069 高木 耕一	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之	担当 一級建築士 No. 343695 久保 久志	図面名称 木造標準図 その1 縮尺 A1: - A3: -
						S013

木造軸組接合部標準図(3)

6. 耐力壁

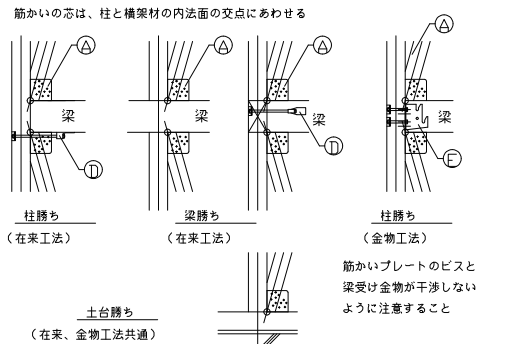
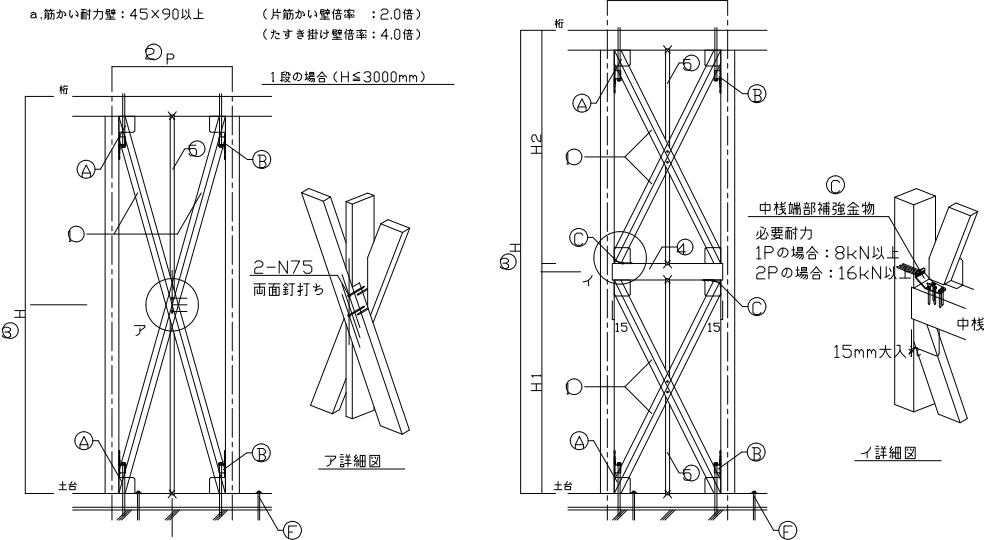
(注) (単位)mm

6.1共通事項

各部仕口形状は、(3)高耐力仕様構造用合板張り耐力壁を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。
面材張り耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする。2mmを超える場合は隅り合う釘との中間部に増し打ちすること。
耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。
柱の有効延長比(断面の最小二次半径に対する底層長さの比)は、150以下とすること。

6.2耐力壁の仕様

(1) 施行令46条に準じた耐力壁



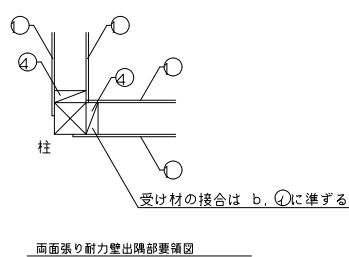
1)各部材料および寸法
① 筋かい: 45mm×90mm以上(節目切れ等軽微なもの)
② 柱間隔: 900mm≦P≦2000mm
③ 高さH≦3000mm: 1段、H>3000mm: 2段 2段の場合: 6000mm≧H>3000mm H1及びH2は、H/2内外
④ 中核: 幅: 柱と同等、成≥柱幅
⑤ 間柱: 幅30mm以上、間隔500mm以下 端部は上下横架材の間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち

②)各部仕口形状及び性能
④ 筋かい端部: 突き付けの上 筋かいプレート(2倍用)を使用 在来工法及び金物工法とも柱梁ビスどめタイプを基本とする
⑤ 各階の柱頭柱脚部: ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
⑥ 中核端部: 15mm大入れの上、必要耐力以上の金物を横向きに使用 必要耐力: 1Pの場合→8kN以上、2Pの場合→16kN以上
⑦ 梁端部在来仕口部補強金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする ⑧ 梁端部金物工法梁受け金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする
⑨ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設ける

(2) 昭56建告110号に準じた耐力壁

a.面材張り大壁仕様耐力壁

(片面張り壁倍率: 2.5倍)
(両面張り壁倍率: 5.0倍)



1)各部材料および寸法

① 面材: 構造用合板 t=9mm以上又はOSB t=9mm以上
② 柱間隔: 600mm≦P≦2000mm
③ 高さ: H≦6000mm
④ 間柱: 幅30以上、間隔500mm以下(合板継目部は幅45mm以上)
⑤ 中核: 幅90mm以上

2)各部仕口形状及び性能

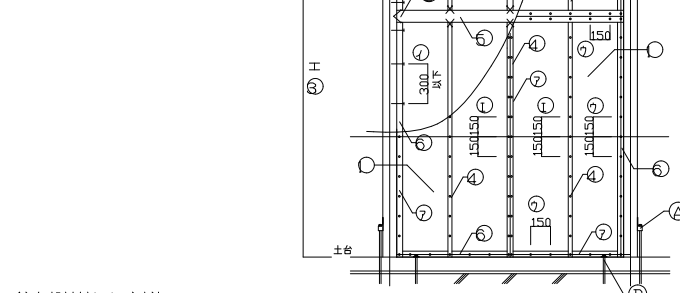
④ 各階の柱頭柱脚部: ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
⑤ 中核端部: まぐさ欠きに15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
⑥ 間柱端部: 間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
⑦ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設ける

3)構造用合板の釘打ち方法

構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする
⑦ 柱及びはりに対するかかり寸法: 22.5mm以上 合板に対するへり空き: 10mm以上 柱はりのへり空き: 12.5mm以上 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
⑧ 横架材・柱: N50@150mm以下
⑨ 中核: N50@150mm以下 ⑩ 間柱: N50@150mm以下

b.受け材付き真壁仕様耐力壁

(片面張り壁倍率: 2.5倍)
(両面張り壁倍率: 5.0倍)



1)各部材料および寸法

① 面材: 構造用合板 t=9mm以上又はOSB t=9mm以上
② 柱間隔: 600mm≦P≦2000mm
③ 高さ: H≦6000mm
④ 間柱: 幅30以上、間隔500mm以下(合板継目部は幅45mm以上)
⑤ 中核: 幅90mm以上
⑥ 受け材: 幅45mm以上

2)各部仕口形状及び性能

④ 各階の柱頭柱脚部: ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
⑤ 中核端部: 突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
⑥ 間柱端部: 突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
⑦ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設ける

3)構造用合板の釘打ち方法

構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする
⑦ 受け材に対するかかり寸法: 22.5mm以上 合板に対するへり空き: 10mm以上 受け材のへり空き: 12.5mm以上 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
⑧ 受け材と柱はり: N90@300mm以下(両面構造用合板(又はOSB)張りの場合は@150以下)
⑨ 受け材、中核: N50@150mm以下 ⑩ 間柱: N50@150mm以下

(3) 高耐力仕様構造用合板張り耐力壁(JIS A 3301標準仕様): 短期許容せん断耐力 $\Delta Q_a=29.6kN/m$
本耐力壁を採用する場合は、設計図書に試験成績書を添付すること

a.条件及び仕様

1)各部材料

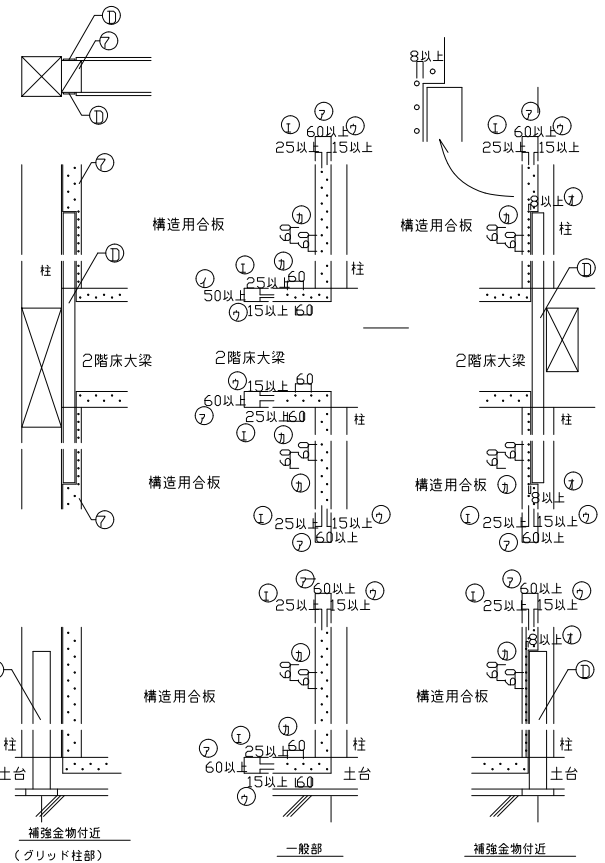
① 面材: 構造用合板 t=12mm 両面張り
② 間隔: 900mm≦P≦1000mm
③ 高さ: 1800mm≦H≦3650mm
④ 高耐力壁を用いる場合のグリッド柱: 150mm×150mm以上 (グリッド柱: X方向とY方向の主要鉛直構面の交点の柱)
⑤ 高耐力壁の端部および合板継ぎ目部の柱: 120mm×120mm以上
⑥ 構造用合板継ぎ目部横つなぎ材: 120mm×120mm以上
⑦ グリッド柱に取付く受け材: 75mm×120mm以上
⑧ 間柱: 見付け45mm以上、見込み120mm以上、間隔P/3以下
⑨ 小屋柱: 120mm×120mm以上

2)各部仕口形状及び性能

④ 柱頭柱脚部: 厚さ30mm×深さ90mm以上
⑤ 中核端部ホゾ: 片側から柱に取り付く場合: 厚さ30mm×深さ90mmホゾ差し 両側から柱に取り付く場合: 厚さ30mm×深さ60mmホゾ差し
⑥ 間柱両端: 横架材への溝加工及び15mm程度大入れ
⑦ 各階の柱頭柱脚部: 水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
⑧ 耐力壁のせん断を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M16アンカーボルト耐力壁1P当り2本設ける

3)各部への釘打及びビス止め

構造用合板はたて張り、4周を釘打ちする
⑦ ⑦を除き、柱及びはりに対するかかり寸法: 60mm以上
⑧ 2階耐力壁合板を2階床大梁へ留め付ける場合かかり代: 50mm以上
⑨ ⑦を除き、合板に対するへり空き: 15mm以上
⑩ 柱はりのへり空き: 25mm以上
⑪ 金物が干渉しへり空きが確保できない合板部分のへり空き: 8mm以上
⑫ 横架材・柱・受け材: N50@60mmチドリ打ち
⑬ 間柱: N50@90mm打ち
⑭ ⑦の受け材とグリッド柱: 木質構造用ビスφ6、L130~150@100(2列)で留め付ける



6.3その他の耐力壁

- 木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)の詳細計算法による面材張り耐力壁については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- 指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された耐力壁については試験成績書の仕様に基づき準拠することとする。
- 大臣認定を取得した耐力壁については、認定書に記載された適用範囲及び仕様を守ること。

平成27年 9月15日発行 一般社団法人 中大規模木造プレカッタ技術協会

設計番号 20210533 一級建築士 No. 273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 木造標準図 その3 縮尺 A1: - A3: -	図面番号 S015
---	---	--	---	--------------

木造軸組接合部標準図(4)

7. 水平構面

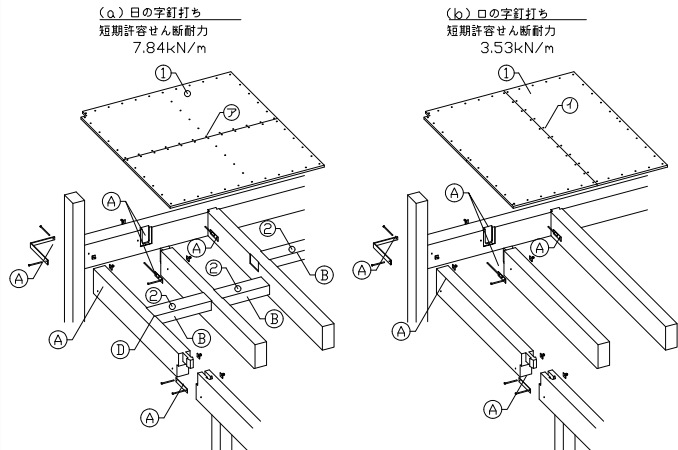
(注) (単位)mm

7.1共通事項

- ・各部仕口形状は、(3) 高耐力仕様屋根・床水平構面を除き、木造軸組接合部標準図(2) 5.軸組標準接合部に準ずる。
- ・木造軸組み工法住宅の許容応力度設計(2008年)の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- ・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に準拠することとする。

7.2水平構面の仕様

(1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面

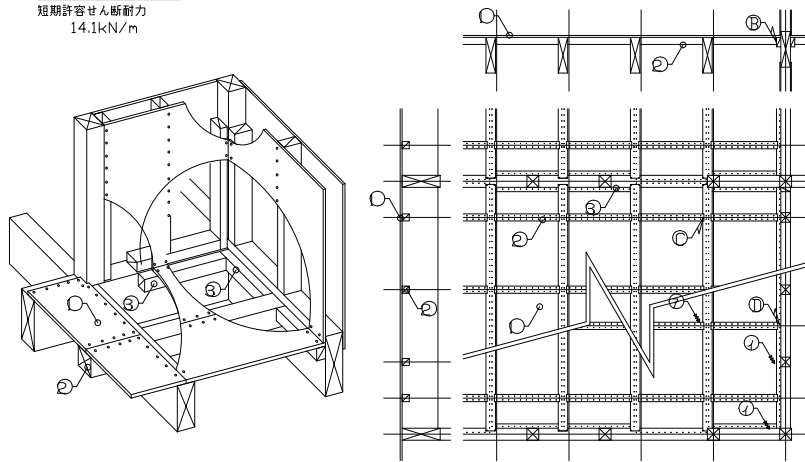


- 1)各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}\sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
 - ② 甲乙梁：幅 45mm 以上 \times せい 45mm 以上・梁及び甲乙梁の間隔 1000mm 以下
- 2)各部仕口形状及び性能
- ④ 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - ⑥ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
 - ⑦ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ N75 1本斜め打ち
- 3)各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板はN75@150mm日の字釘打ちで横架材,甲乙梁,床受材に留め付ける
 - ⑧ 構造用合板はN75@150mm日の字釘打ちで横架材,甲乙梁,床受材に留め付ける
- 注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする
2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること
口の字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、たわみ等に注意する事

7.3 JISA3301仕様高耐力水平構面

(1) 2階床水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
14.1kN/m



1)各部材料

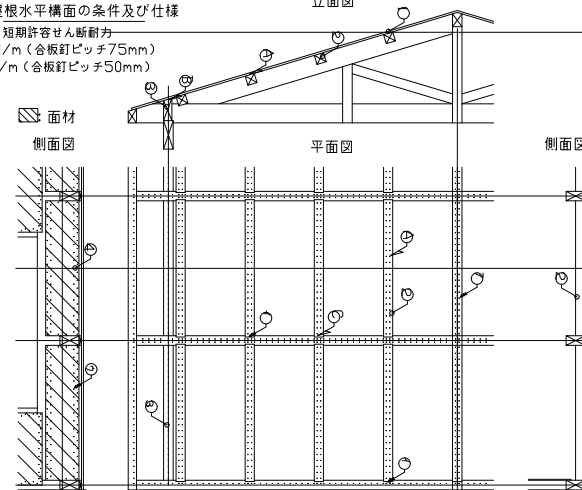
- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 又は 28mm 横架材に直張り
- ② 甲乙梁： $90\text{mm}\times 90\text{mm}$ の正角材又は幅 $75\text{mm}\times$ 成 120mm 製材を平使い
- ③ 大梁側面に取り付け床受材：幅 $55\text{mm}\sim 75\text{mm}\times$ 成 120mm の製材

2)各部仕口形状及び性能

- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - ⑤ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
 - ⑥ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
 - ⑦ 甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ $15\text{mm}\times$ 成 60mm 切り欠き甲乙梁は成 60mm 分大入れし床受け材勝ちの納まりとする
- 3)各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板はN75@75mm日の字釘打ちで横架材,甲乙梁,床受材に留め付ける
 - ⑧ 大梁側面へ取り付け床受材は木質構造用ビス $\phi 6$,L130~150を150 mmピッチの二列打ちとして留め付ける

(2) 屋根水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
13.5kN/m (合板釘ピッチ75mm)
19.1kN/m (合板釘ピッチ50mm)



1)各部材料

- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}$ 登梁及び母屋に直張り
- ② 母屋：幅 $120\text{mm}\times$ 成 120mm の製材
多雪区域(3級及び4級)の場合は幅 $120\text{mm}\times$ 成 150mm の製材
- ③ 軒先転び止め：幅 $105\text{mm}\times$ 成 300mm の製材を用い、天端は屋根面に合わせ切り欠く
- ④ 軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板： $t=12\text{mm}$

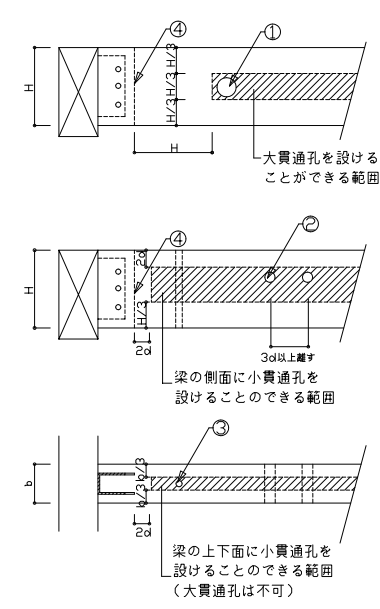
2)各部仕口形状及び性能

- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
 - ⑤ 屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
 - ⑥ 母屋端部は登梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
- 3)各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 13.5kN/m仕様：構造用合板はN75@75mm4周(口の字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
19.1kN/m仕様：構造用合板はN75@50mm4周(口の字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
 - ⑧ 母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビス $\phi 5$,L150(頭部径 $\phi 12.5$ 以上ねじ部長さ50以上)1本を斜め打ちとする
 - ⑨ 軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は、N50<ぎを50 mmピッチの千鳥打ちとして留め付ける

8. 貫通孔

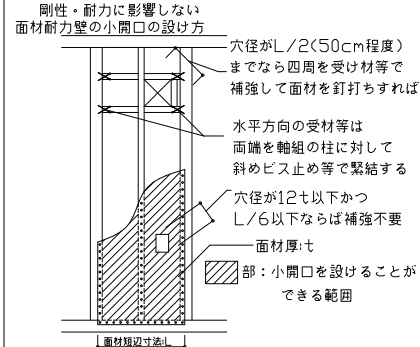
8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

- ① 大貫通孔： $d\leq H/4$ かつ 150mm
- ② 小貫通孔： $d\leq 30\text{mm}$ (隣り合う孔は3d以上離す)
- ③ 縦小貫通孔： $d\leq b/6$ かつ 30mm
- ④ 接合金物用切り欠きライン



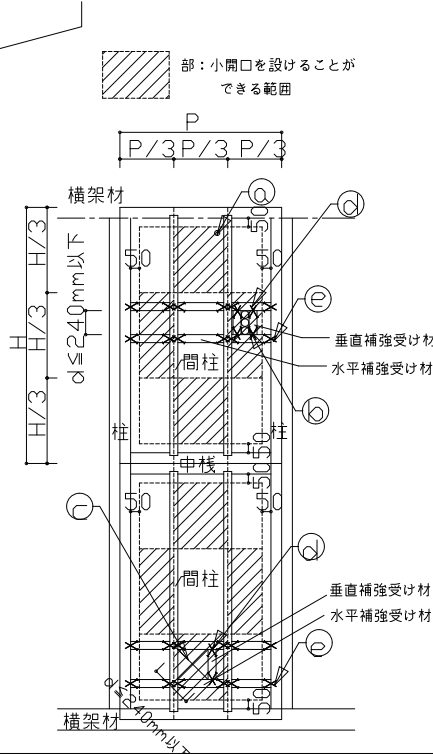
8.2 耐力壁貫通孔

(1)小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)
※壁倍率7倍までの孔開けルール
剛性・耐力に影響しない
面材耐力壁の小開口の設け方



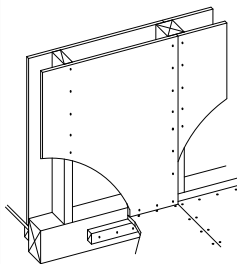
(2)高耐力仕様合板貼耐力壁(JISA3301標準仕様)
※壁倍率7倍を超える場合の孔開けルール(JISA3301仕様)

- 貫通孔基準
- ① 小貫通孔($d\leq 30\text{mm}$)
1区画につき1か所までなら補強不要
 - ② 小貫通孔 $\times 3$ (外接円の径 $d\leq 40\text{mm}$)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可
 - ③ 大貫通孔($d\leq 40\text{mm}$)
四周を補強受材で補強
面材1枚につき1か所のみ可
- 釘打ち及び断面
- ④ 合板から補強受材へN50@90mmで釘打ち
補強受材は間柱と寸法以上の断面
 - ⑤ 補強受材材の留め付けは斜めビス2本止め

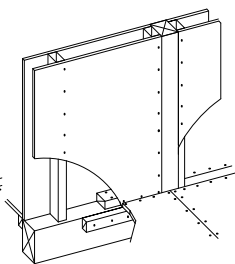


告示耐力壁-床納まり

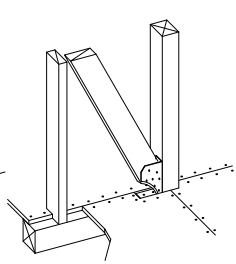
大壁合板耐力壁-床構面
(壁務)



真壁合板耐力壁-床構面
(壁務)

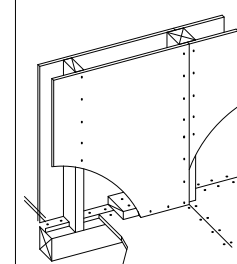


筋違耐力壁-床構面
(筋違務)

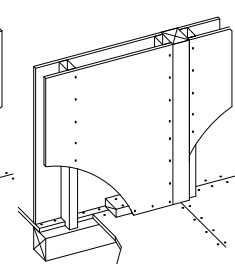


認定仕様例示)日合連(JPMA)仕様耐力壁-床務納まり

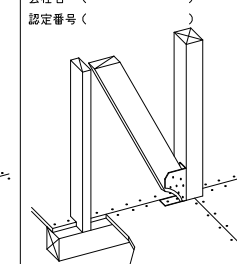
大壁合板耐力壁-床務
認定番号：FRM-0296



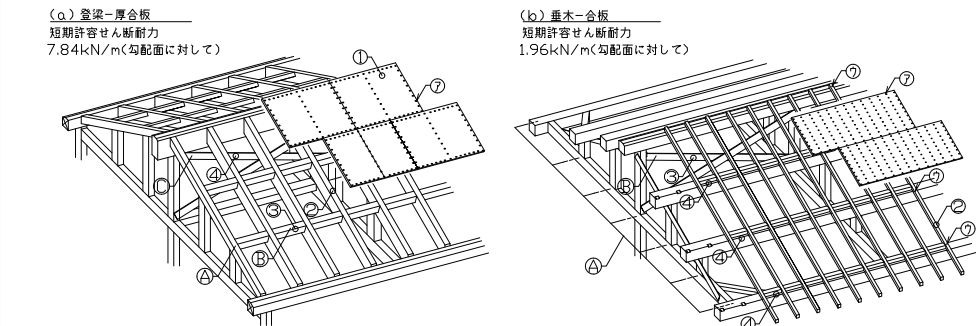
真壁合板耐力壁-床務
認定番号：FRM-0298



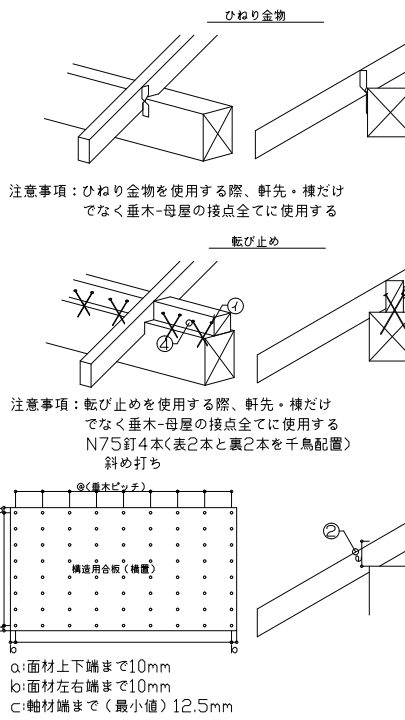
筋違金物による床務納まり
筋違耐力壁-床構面
(床務：大臣認定仕様)
会社名 ()
認定番号 ()



(2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面

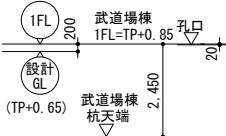
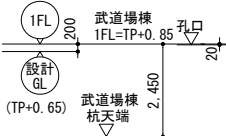


- 1)各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板 $t=24\text{mm}\sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
 - ② 登梁：幅 105mm 以上 \times せい 105mm 以上 間隔 1000mm 以下
 - ③ 甲乙梁：幅 $45\text{mm}\times$ せい 45mm 以上 間隔 1000mm 以下
 - ④ 小屋耐力壁：15mm以上 \times 90mm以上
(端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)
- 2)各部仕口形状及び性能
- ④ 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - ⑥ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線以上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事
- 3)各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板はN75@150mmで日の字に垂木に留め付ける
- 注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする
- 1)各部材料および寸法
- ① 面材：構造用合板 $t=9\text{mm}\sim 15\text{mm}$ (横置)
 - ② 垂木：幅 45mm 以上 \times せい $45\text{mm}\sim 90\text{mm}\times 500\text{mm}$ 以下
 - ③ 小屋耐力壁：15mm以上 \times 90mm以上
(端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)
 - ④ 転び止め：45mm \times 60mm程度
- 2)各部仕口形状及び性能
- ④ 母屋ピッチ：1000mm以下
 - ⑤ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線以上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事
- 3)各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板はN50@150mmで川の字に垂木に留め付ける
 - ⑧ 転び止めを梁に2-N75斜め釘止め
 - ⑨ 垂木の留め付けは、垂木の側面から軒先、母屋、横木の上面に対してN75釘2本打ち
- a:面材上下端まで10mm
b:面材左右端まで10mm
c:軸材端まで(最小値)12.5mm



設計番号 20210533 一級建築士 No. 273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 木造標準図 その4 縮尺 A1: - A3: -	図面番号 S016
---	---	--	---	--------------

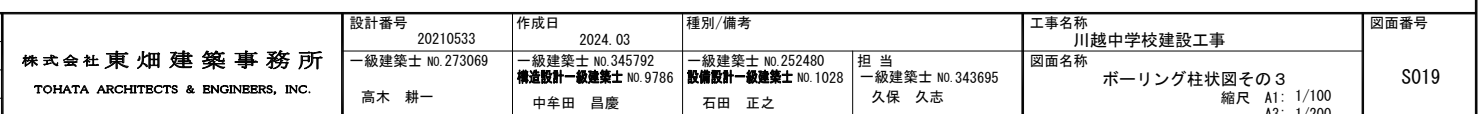
ボーリング名	No. 2	調査位置	三重県三重郡川越町豊田一色地内				北 緯	35° 1' 30.2"
発 注 機 関	川越町教育委員会事務局 学校教育課		調査期間	2022年 8月 9日 ~ 2022年 8月 25日			東 経	136° 40' 11.2"
調査業者名	東邦地味株式会社 電話 (052-937-0107)		主任技師	吉田 宗且	現 場 代 理 人	安藤 貴史 ア 鑑定者 安藤 貴史	ボ ン グ 責任者	松水 敏明
孔 口 標 高	0.83m	角 150° 23' 0.7"	地 盤 勾 配 水平 50° 0'	使用機 試 錘 機	東邦地下工機 製 D-O-D	ハンマ 落下用具	半自動落下装置	
総 掘 進 長	50.30m	度 90° 向	向	エンジン	ヤンマー製 TF120M	ボ ン プ	東邦地下工機 製 BG-4	

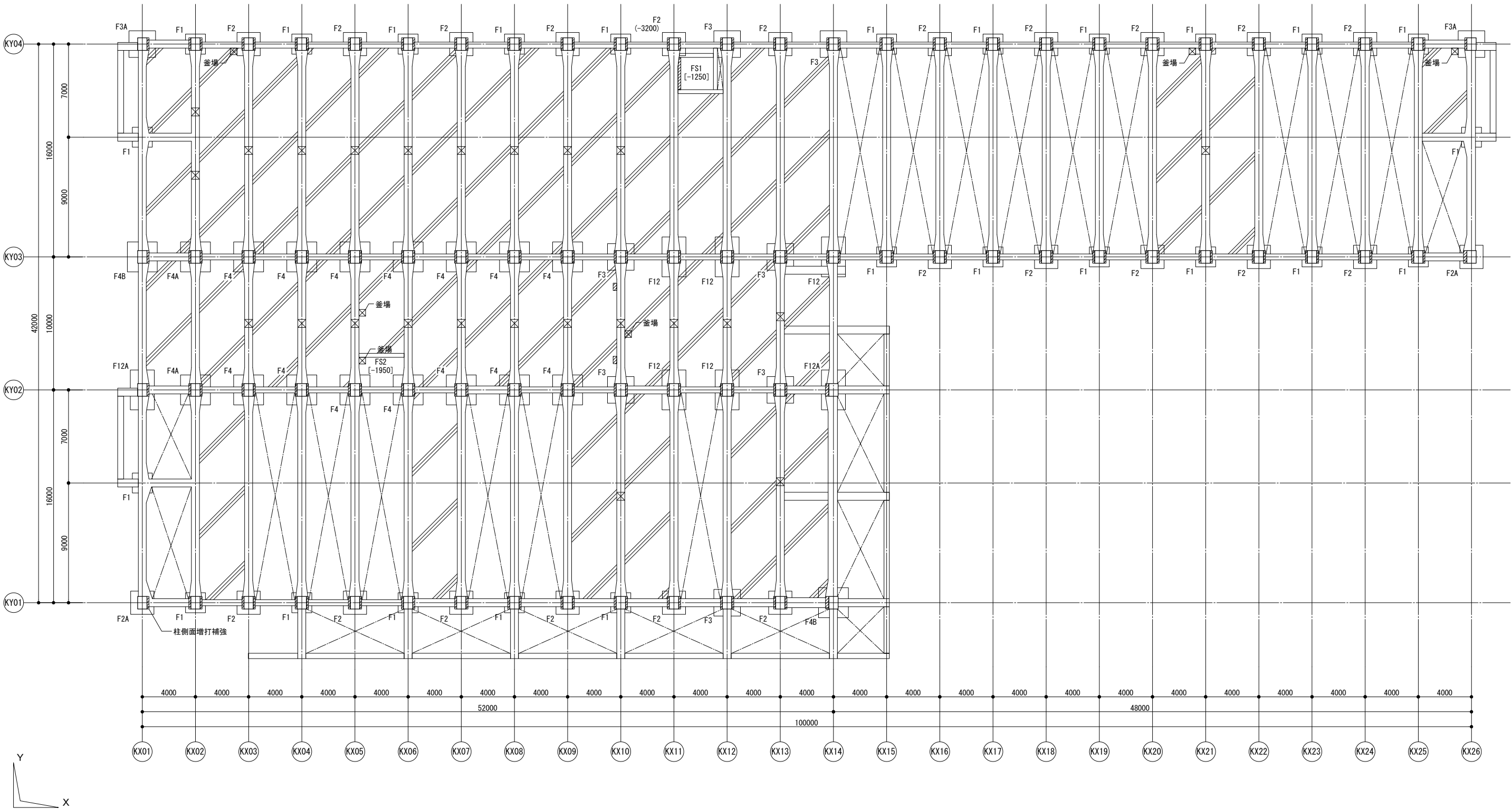


		設計番号 20210533	作成日 2024.03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028	図面名称 ボーリング柱状図その1	S017
		高木 耕一	中牟田 昌慶	担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	
				石田 正之		

株式会社東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

担当
一級建築士 NO.343695
久保 久志

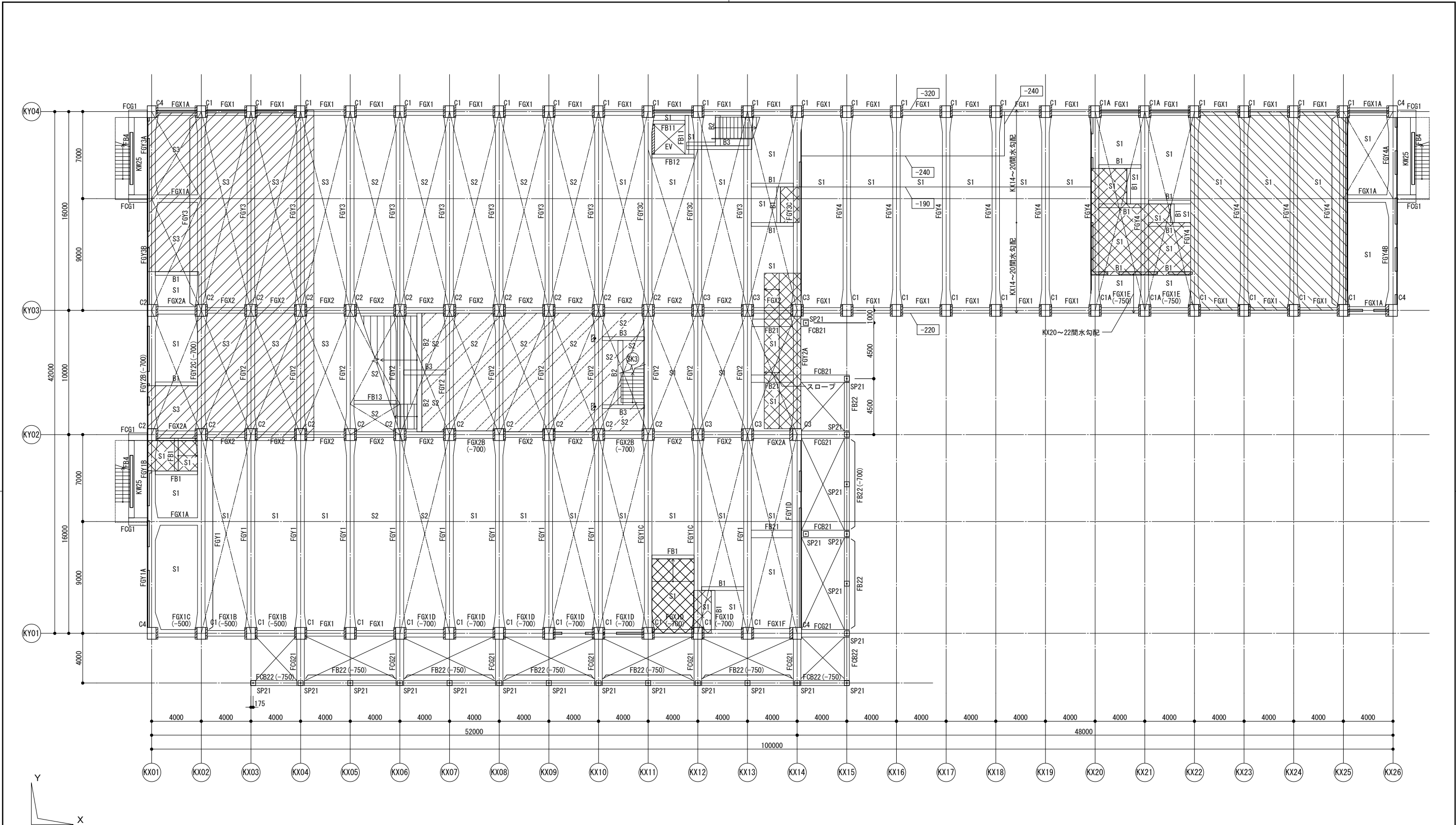
[illegible]



基礎伏図・ビット伏図 (見下げ図)

- 特記を除き、下記とする。
- 設計GL=TP+0.65mとする。
 - 1FL=設計GL+200とする。
 - 通り心=基礎心とする。
 - 基礎下端レベル=1FL-2570とする。
()内は1FLからの基礎下端レベルを示す。
 - スラブ天端レベル=1FL-1950とする。
[]内は 1FLからのスラブ天端レベルを示す。
 - は土間コンクリートを示す。(t=250、X・Y方向共 D10、D13@200ダブル)
鉄筋の定着、継手はS006図の耐圧スラブに同じとする。
土間コンクリート下の地業は十分に転圧を行うこと。
 - は埋め戻し範囲を示す。
 - は人通孔(外径φ600)を示す。

株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		設計番号 20210533 一級建築士 No.273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028 石田 正之	担 当 一級建築士 No.343695 久保 久志	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 基礎伏図・ビット伏図 (校舎棟) 縮尺 A1:1/150(A1) A3:1/300(A3)	図面番号 S102
--	--	--	---	--	---------------------------------	--	--------------



1階床伏図 (見下げ図)

特記を除き、下記とする。

1. 1FL=設計GL+200(設計GL=TP+0.65m)

2. 基礎梁天端レベルは 1FL-400とする。
()内は1FLからの基礎梁天端レベルを示す。

3. スラブ天端レベルは 1FL-30とする。
上記以外は右表による。
KX14~22間の屋根のある広場は図示により
-100 は1FLからのスラブ天端レベルを示す。

※数値は1FLからとする

記号	スラブ上端	小梁上端	備考
なし	-30	-400	
斜線	-150	-400	スラブ上押さえコン t=150
斜線	-150	-400	スロープ(→印):FL-150~-50
斜線	-200	-400	
斜線	-300	-400	

4. スラブ上端と梁上端が違う場合は、梁上端を増打とする。

5. 斜線は梁側面打増しを示す。

6. 特記なき柱心=通心とする。

7. 特記なきRC壁はW180とする。

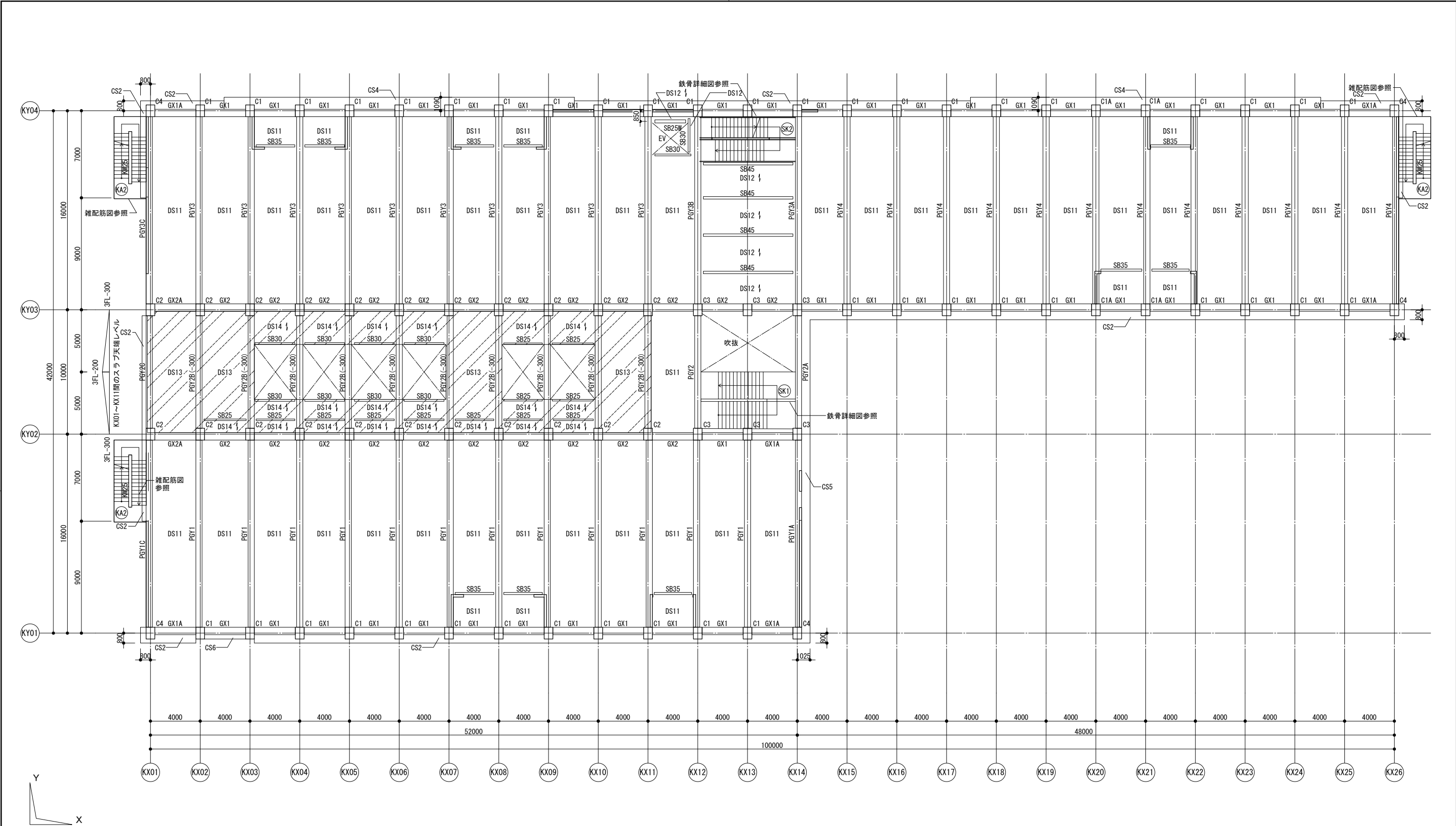
8. 印は下部ビット範囲を示す




9. KAO, KBOはRC階段を示し、配筋は鉄筋コンクリート標準図(4)による。

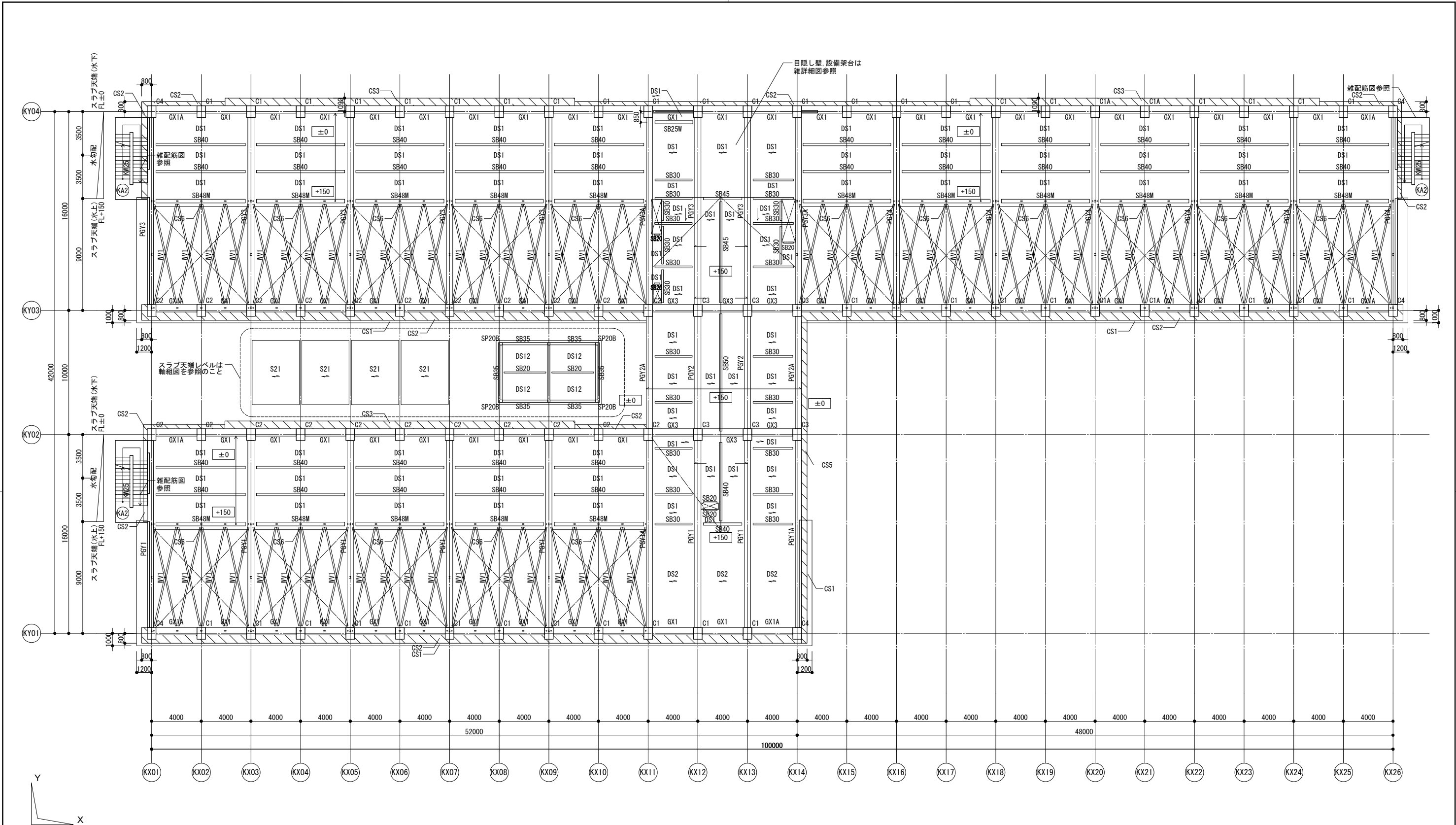
10. SKOは鉄骨階段を示し、詳細は鉄骨詳細図による。

11. 印は埋戻範囲を示す

株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533 一級建築士 No.273069 高木 耕一	作成日 2024.03 一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028 石田 正之	担当 一級建築士 No.343695 久保 久志	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 1階床伏図 (校舎棟) 縮尺 A1:1/150(A1) A3:1/300(A3)	図面番号 S103
---	--	--	--	--------------------------------	---	--------------



3階床伏図（見上げ図）										
特記を除き、下記とする。					※数値は3FLからとする					
1. 3FL=2FL+4000	記号	スラブ上端	小梁上端	備考	5. スラブ上端と梁上端が違う場合は、梁上端を増打とする	11. PCa大梁（PG〇〇）の梁側面にスラブが取り付く箇所は PCa大梁側面に増打を施すこと（PC詳細図参照）				
2. 大梁天端レベルは X・Y 方向とも 3FL-30とする。 （ ）内は 3FLからの梁天端レベルを示す。	なし	-30	-180		6. 特記なき柱心＝通心とする。					
3. スラブ天端レベルは 3FL-30とする。 上記以外は右表とする。		-200～-300	-300	水勾配は図示による。	7. 特記なきRC壁はW180とする。					
4.   は スラブ短辺方向（主筋方向）を示す。 特記を除き 短辺方向は  とする。					8.  印は床開口を示す					
					9. KAO, KBOはRC階段を示し、配筋は鉄筋コンクリート標準図（4）による。					
					10. SKOは鉄骨階段を示し、詳細は鉄骨詳細図による。					
					設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号	
株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.					一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695	図面名称 3階床伏図 （校舎棟）	S105
					高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志	縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)	



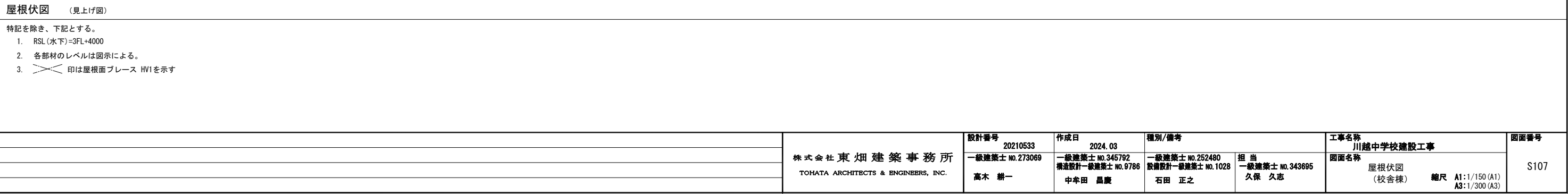
R階床伏図 (見上げ図)

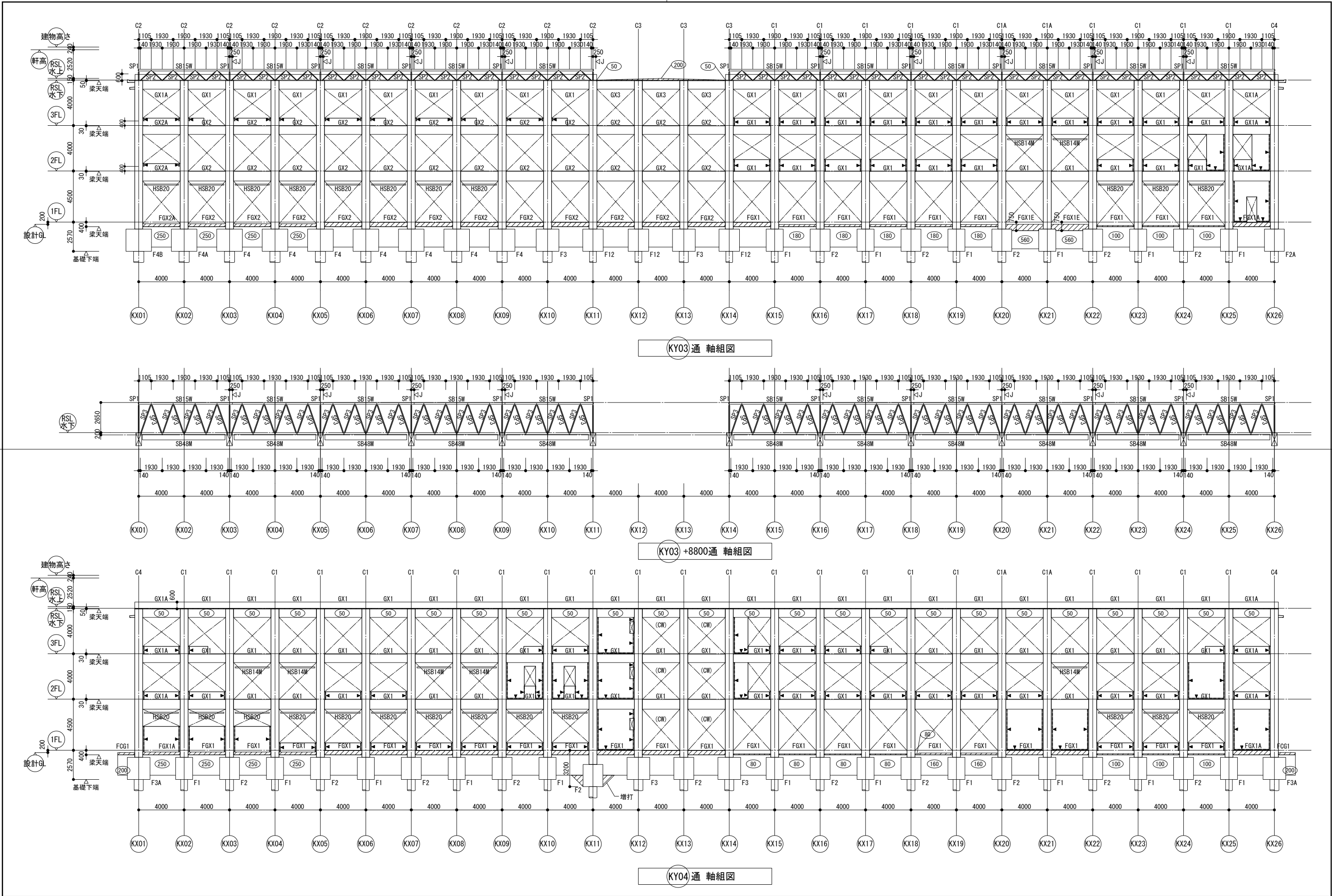
- 特記を除き、下記とする。

 - RSL (水下)=3FL+4000, RSL (水上)=RSL (水下)+150
 - 大梁天端レベルは X・Y 方向とも RSL (水下)-50 とする。
() 内は 3FL からの梁天端レベルを示す。
 - スラブ天端レベルは 図示による。
[+150] は RSL (水下) からのスラブ天端を示す。
スラブは水勾配に合わせて傾斜させる。
スラブの途中で勾配が切り替わる場合は 最も低い勾配に合わせて適宜スラブ上増し打ちとする。
- ※数値はP4RRLからとする

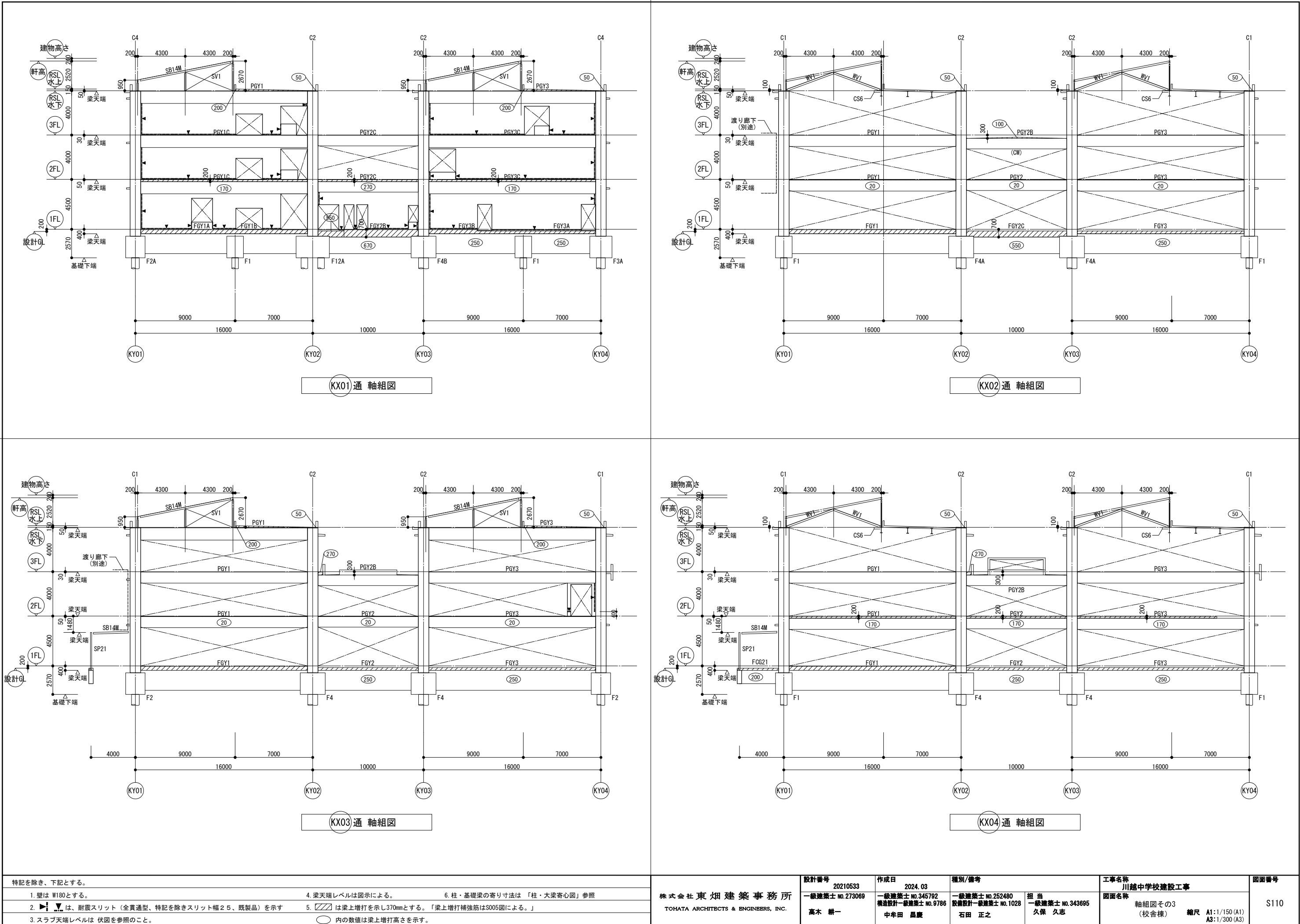
記号	スラブ上端	小梁上端	備考
[なし]	意匠図参照	スラブ下端	水勾配
[なし]	-50	-	底CS1
[斜線]	雑詳細図による	-	底CS2, CS3, CS5
- ↓ は スラブ短辺方向 (主筋方向) を示す。
特記を除き 短辺方向は ↓ とする。
 - スラブ上端と梁上端が違う場合は、梁上端を増打とする
 - 特記なき柱心=通心とする。
 - 特記なきRC壁はW180とする。
 - 印は床開口を示す
 - KA○, BO○はRC階段を示し、配筋は鉄筋コンクリート標準図 (4) による。
- SK○は鉄骨階段を示し、詳細は鉄骨詳細図による。

		設計番号 20210533 一級建築士 No.273069 高木 耕一		作成日 2024. 03 一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786 中牟田 昌慶		種別/備考 一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028 石田 正之		担 当 一級建築士 No.343695 久保 久志		工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 R階床伏図 (校舎棟) 縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)		図面番号 S106
--	--	---	--	--	--	--	--	---------------------------------	--	---	--	--------------

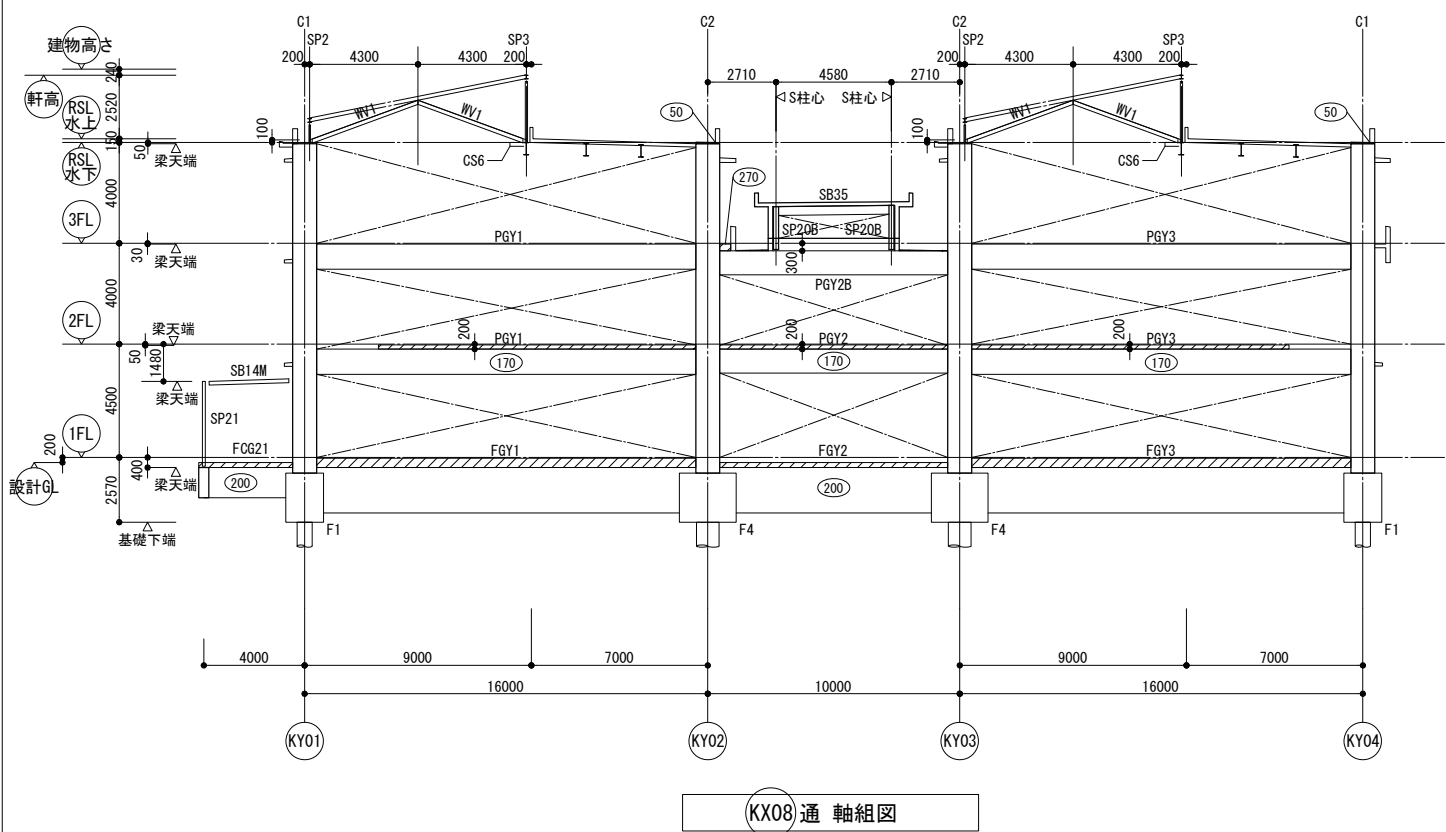
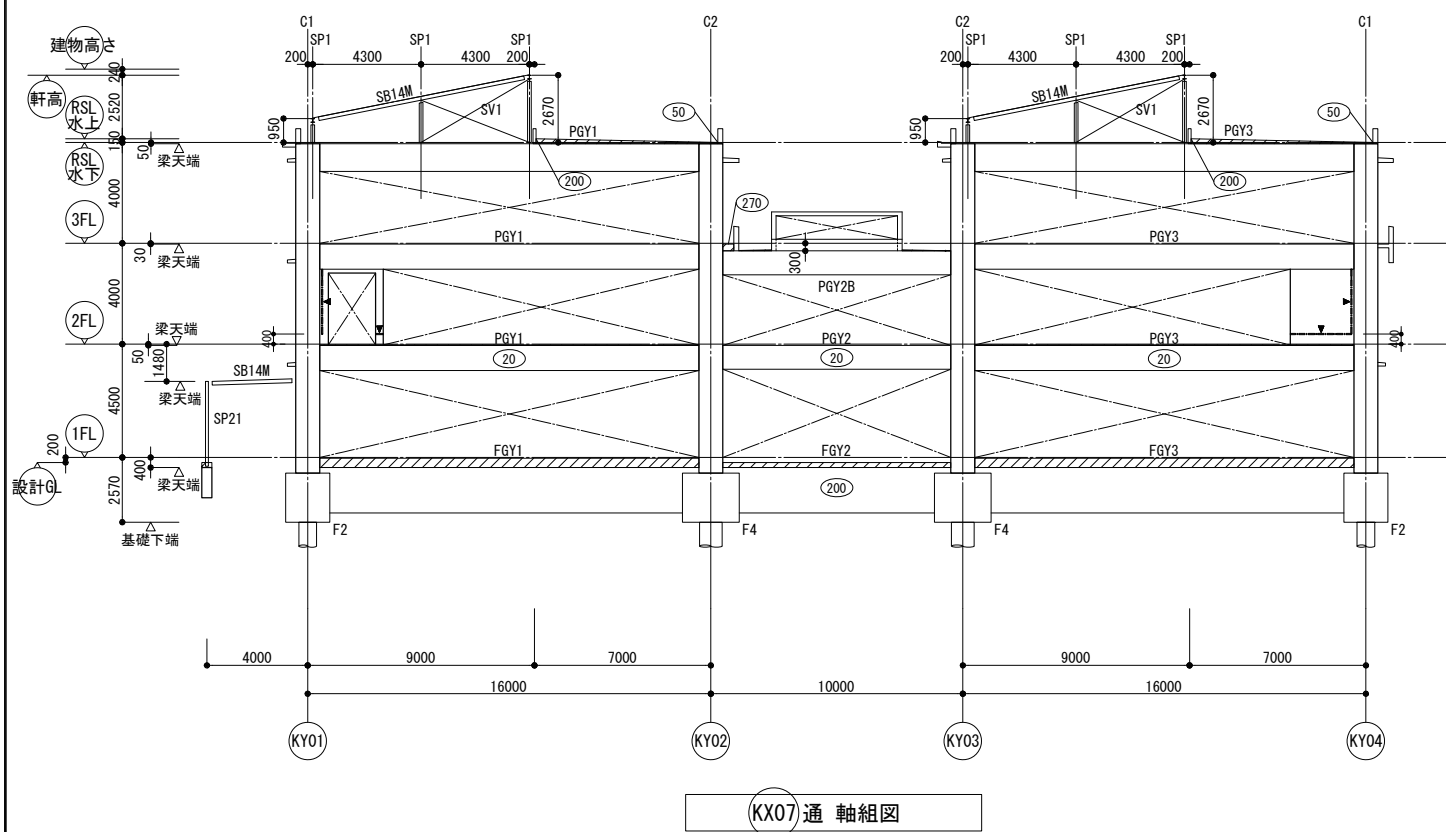
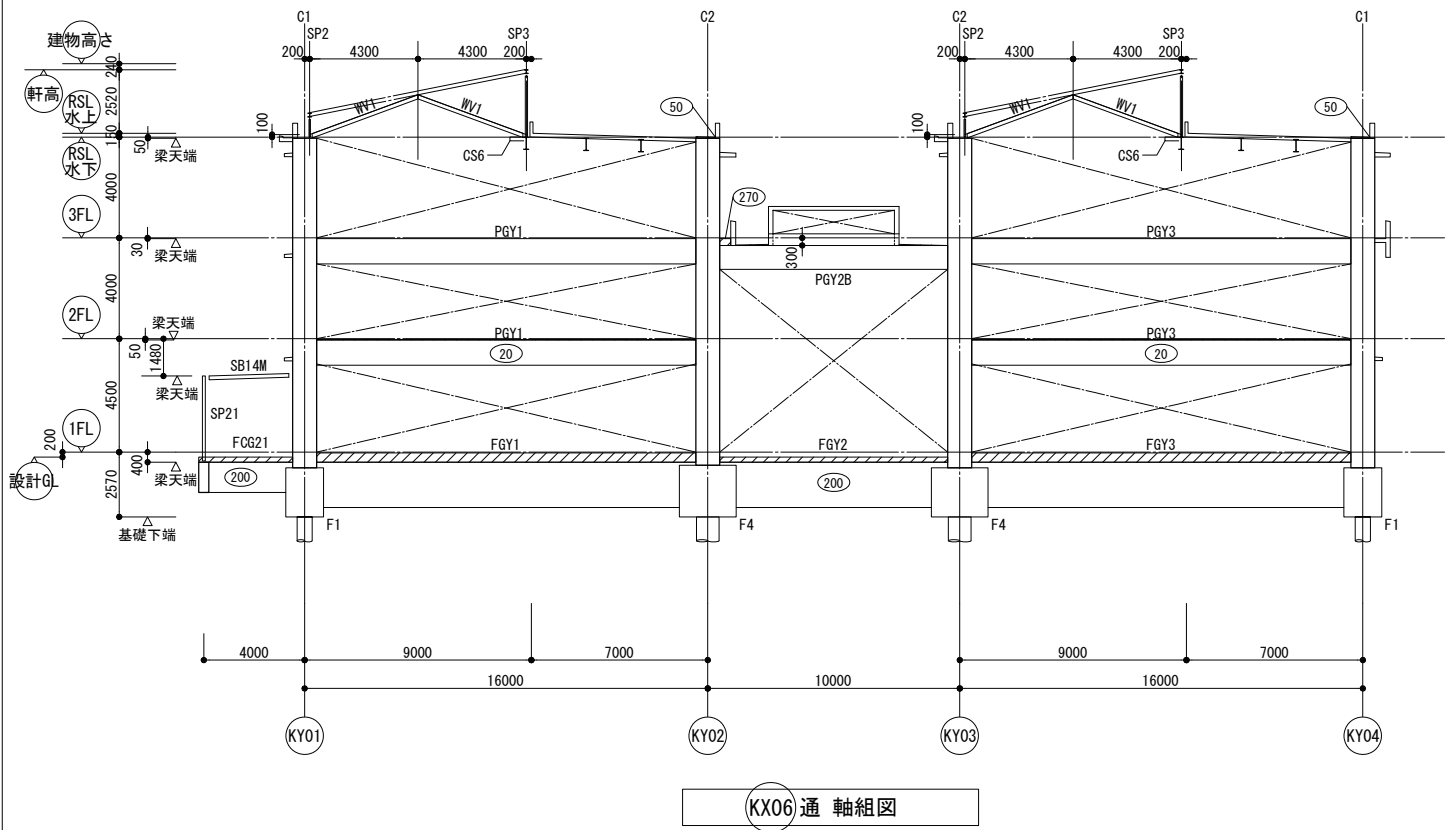
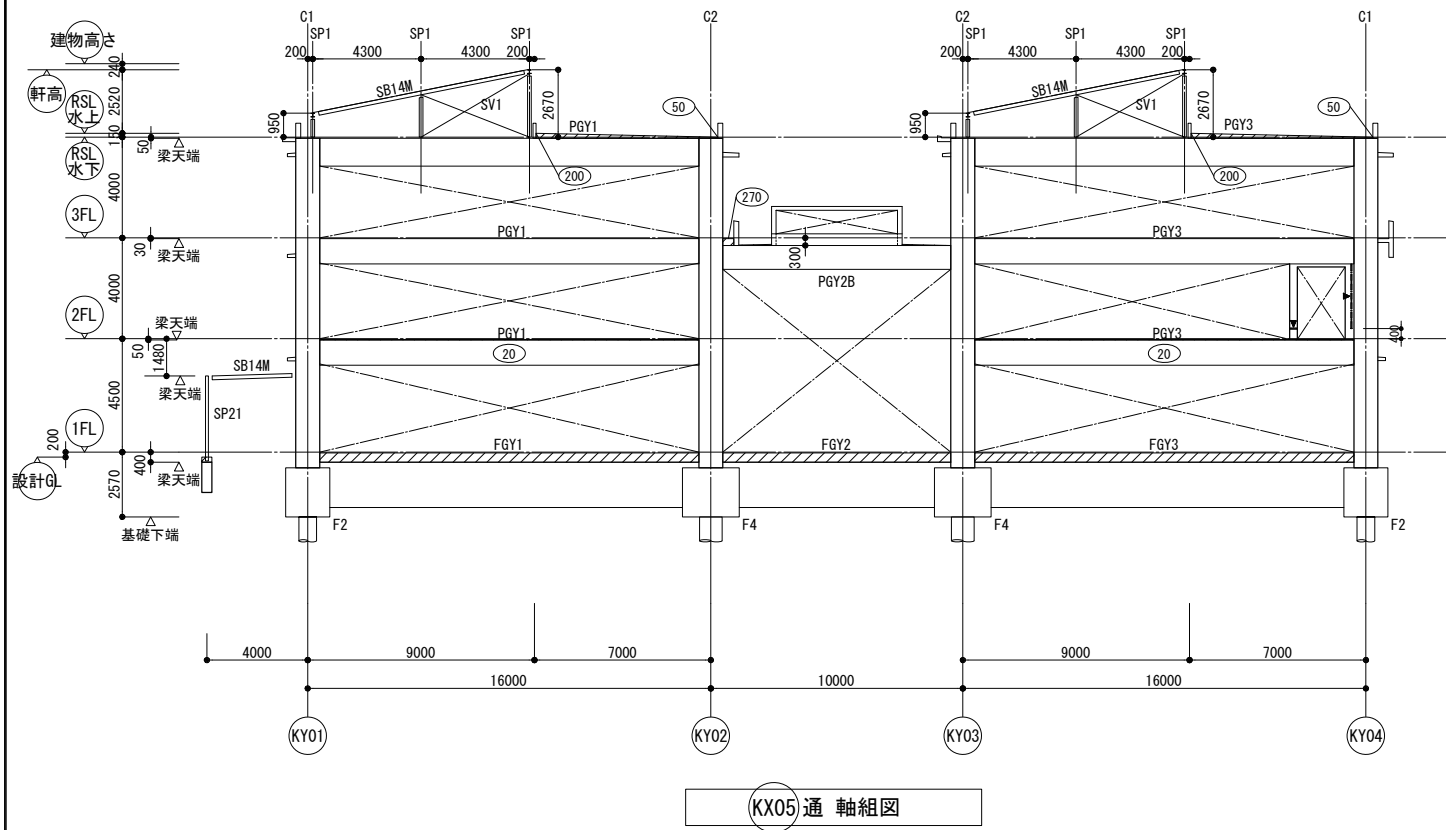




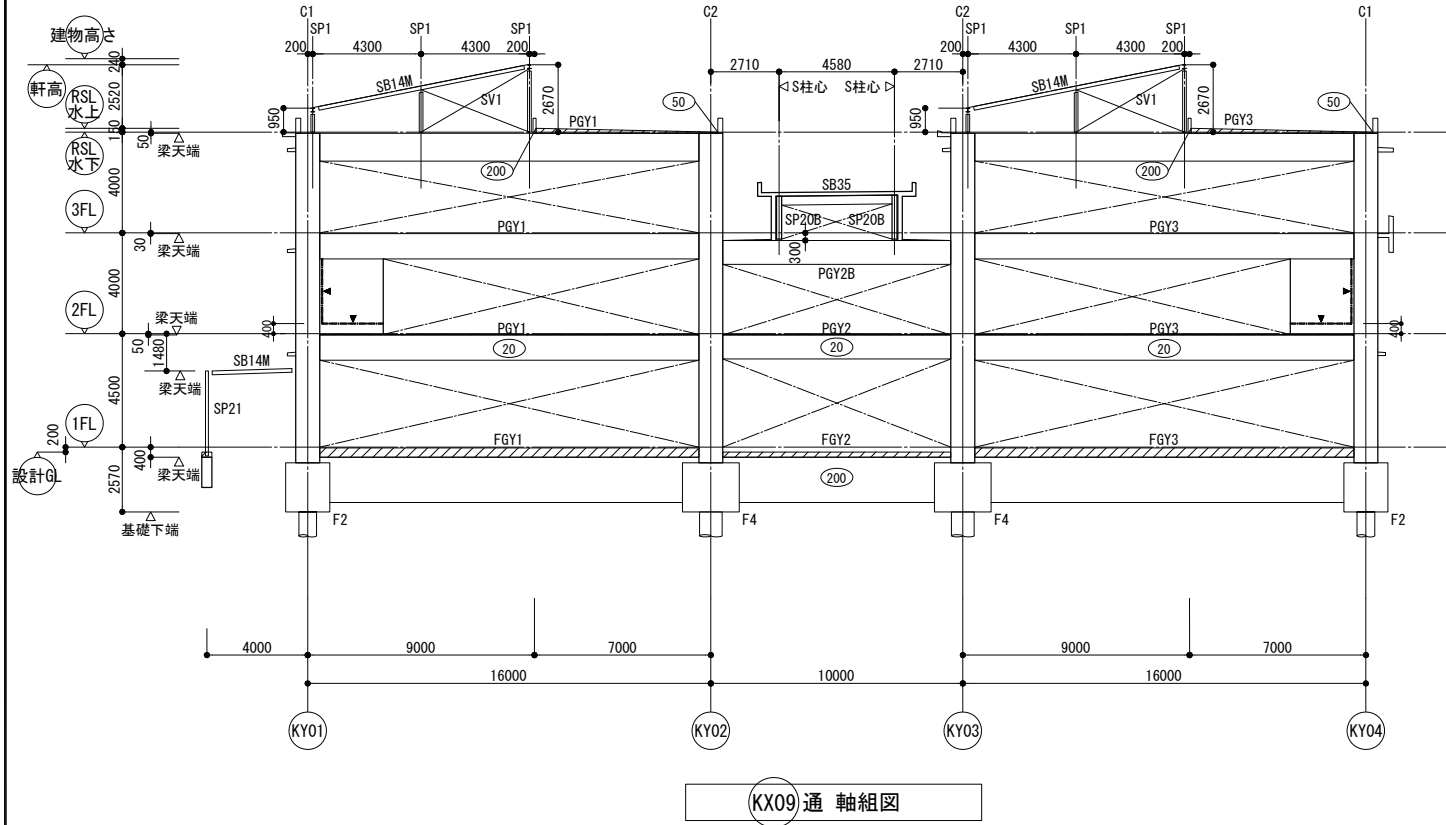
特記を除き、下記とする。						株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S109	
1. 壁は W180とする。		4. 梁天端レベルは図示による。		6. 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄り図」参照			一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695		図面名称 軸組図その2 (校舎棟)
2.  は、耐震スリット（全貫通型、特記を除きスリット幅 2 5、既製品）を示す		5.  は梁上増打を示し370mmとする。「梁上増打補強筋はS005図による。」					高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志		縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)
3. スラブ天端レベルは 伏図を参照のこと。		○ 内の数値は梁上増打高さを示す。										



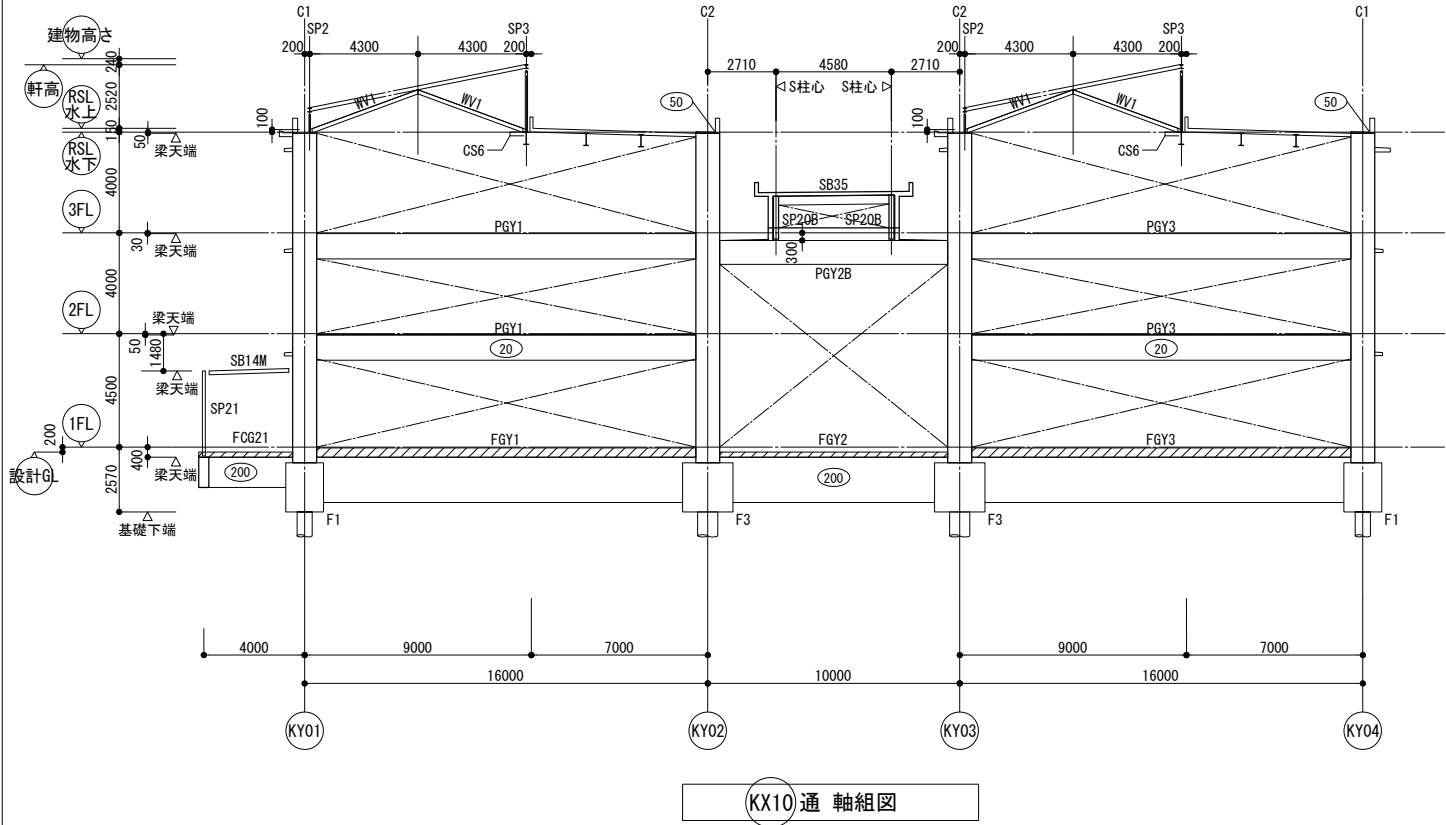
特記を除き、下記とする。				株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S110	
1. 壁は W180とする。		4. 梁天端レベルは図示による。			一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695		図面名称 軸組図その3 (校舎棟)
2.  は、耐震スリット (全貫通型、特記を除きスリット幅 25、既製品) を示す		5.  は梁上増打を示し370mmとする。「梁上増打補強筋はS005図による。」			高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志		縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)
3. スラブ天端レベルは 伏図を参照のこと。		○ 内の数値は梁上増打高さを示す。								



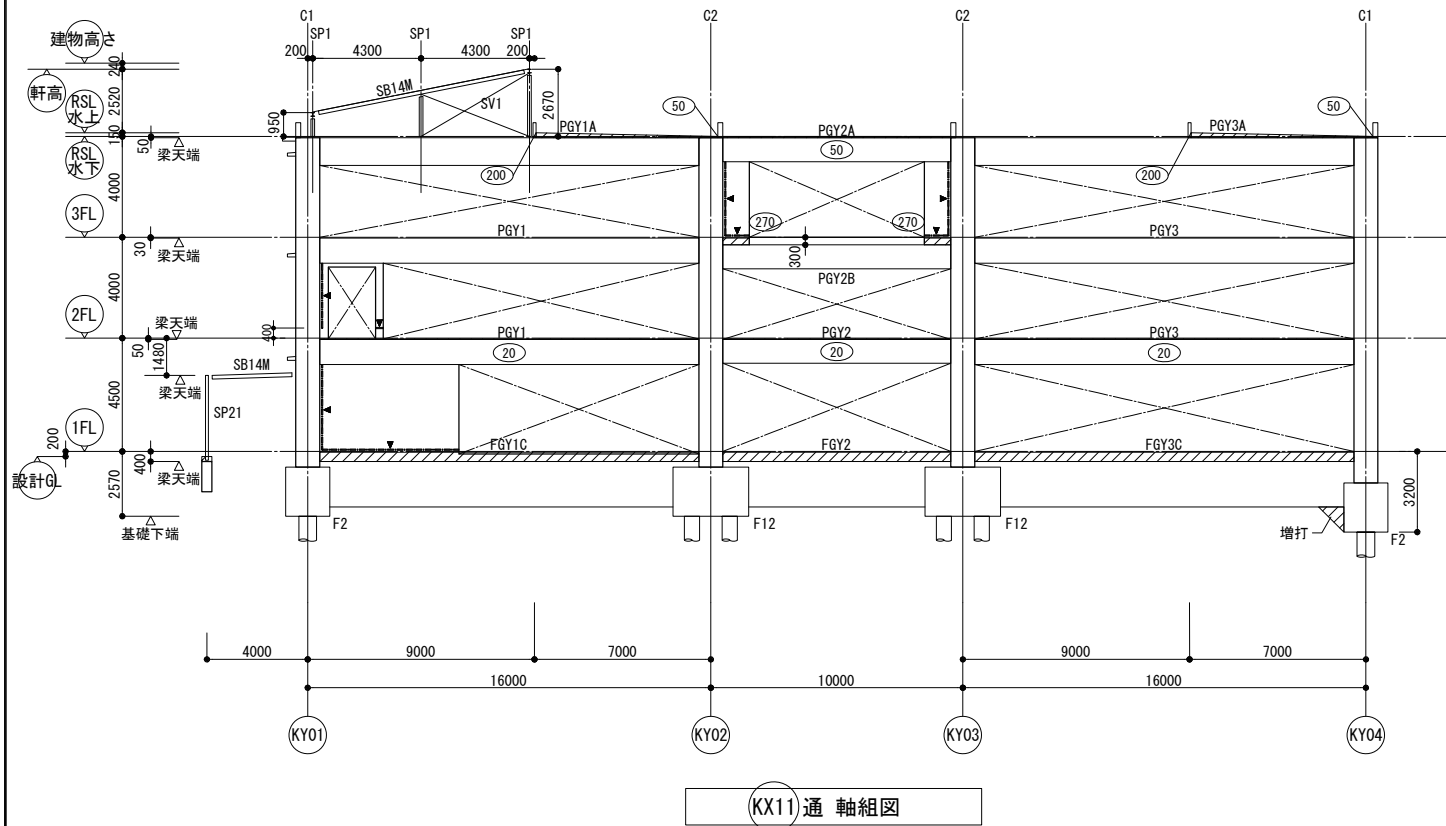
特記を除き、下記とする。				株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		設計番号 20210533		作成日 2024. 03		種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事		図面番号 S111	
1. 壁は W180とする。		4. 梁天端レベルは図示による。				一級建築士 No. 273069		一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786		一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028		図面名称 軸組図その4 (校舎棟)			
2.  は、耐震スリット (全貫通型、特記を除きスリット幅 25、既製品) を示す		5.  は梁上増打を示し370mmとする。「梁上増打補強筋はS005図による。」				高木 耕一		中牟田 昌慶		担当 一級建築士 No. 343695 久保 久志		縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)			
3. スラブ天端レベルは 伏図を参照のこと。		○ 内の数値は梁上増打高さを示す。													



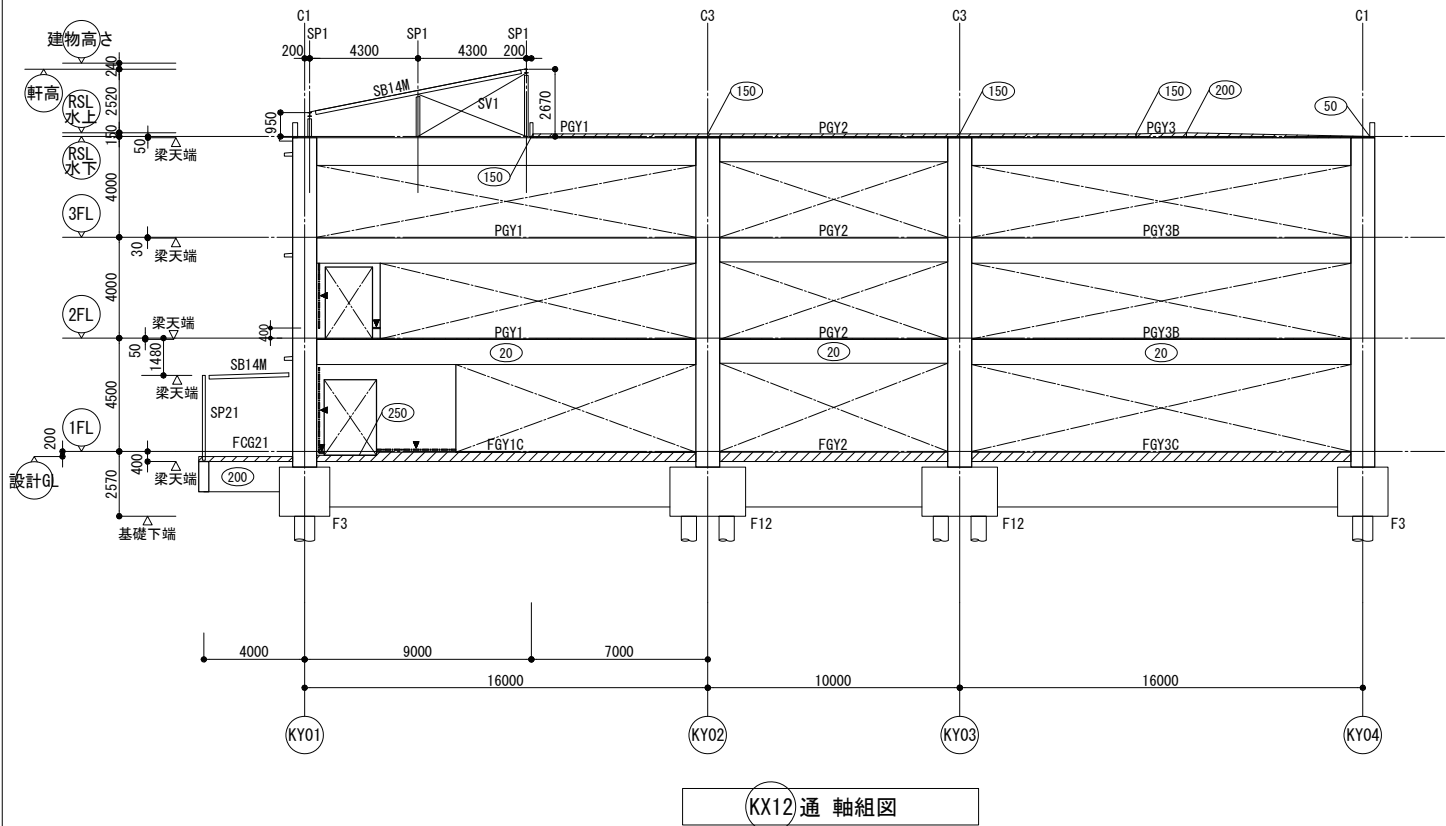
KX09 通 軸組図



KX10 通 軸組図

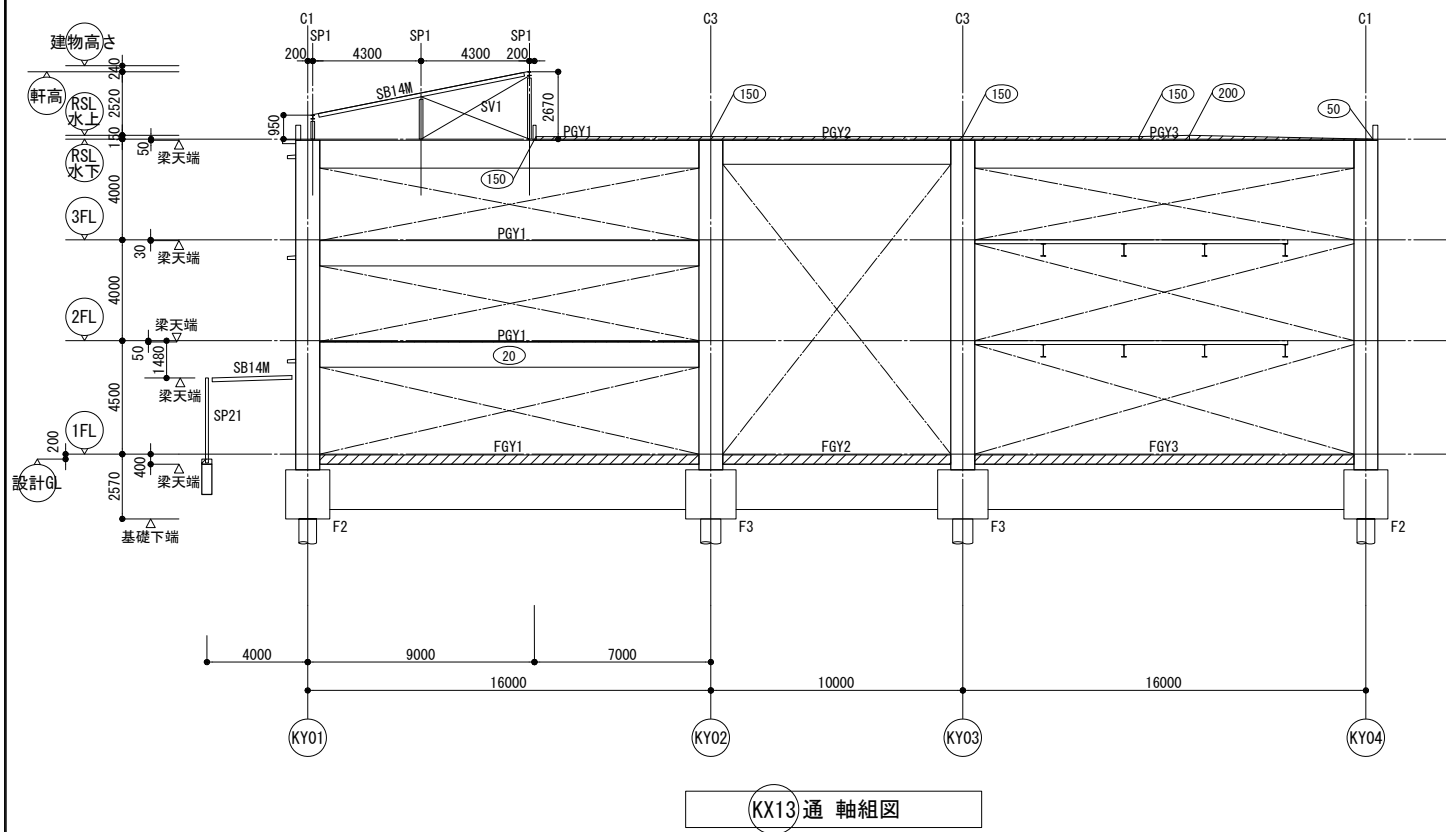


KX11 通 軸組図

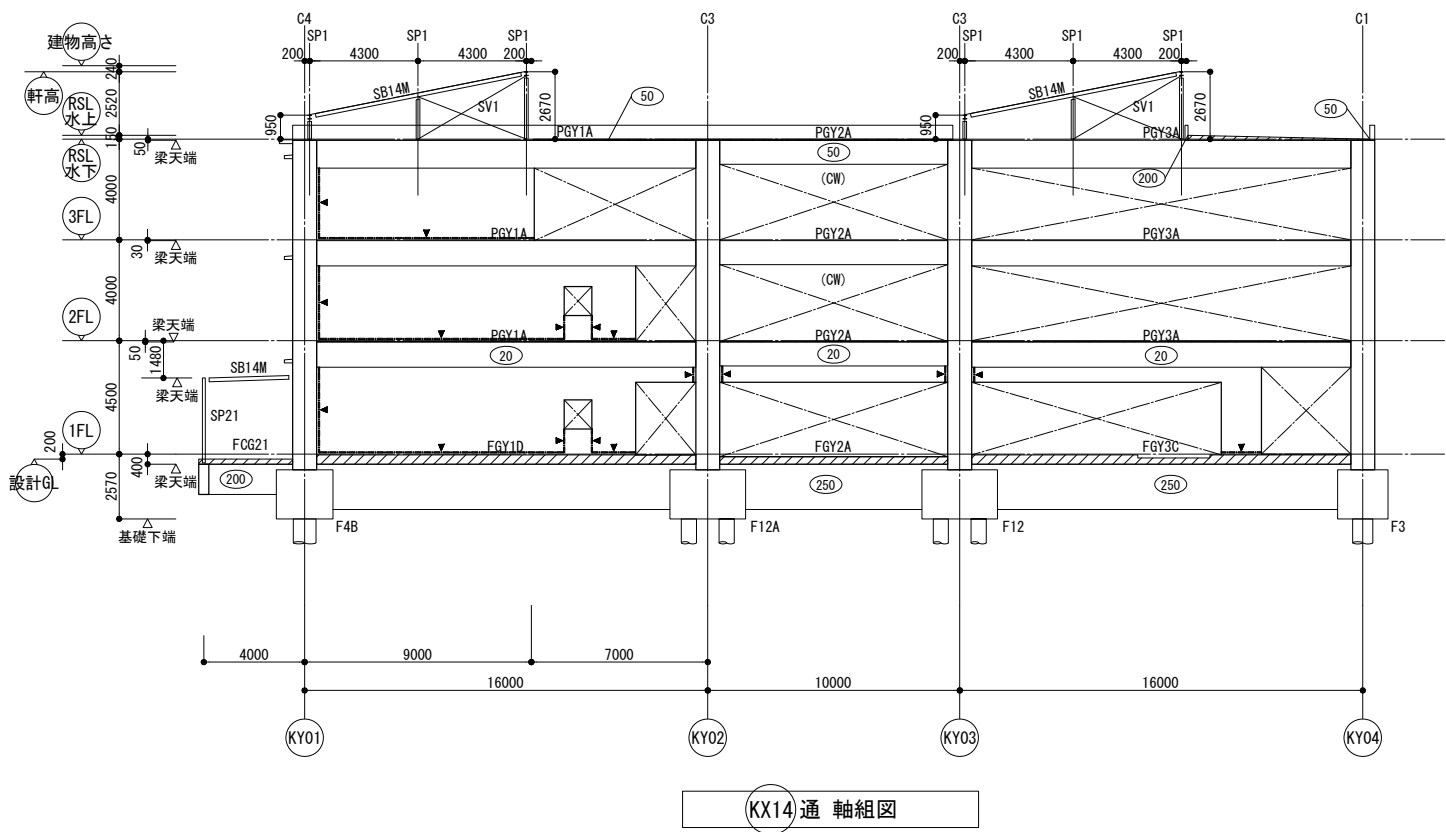


KX12 通 軸組図

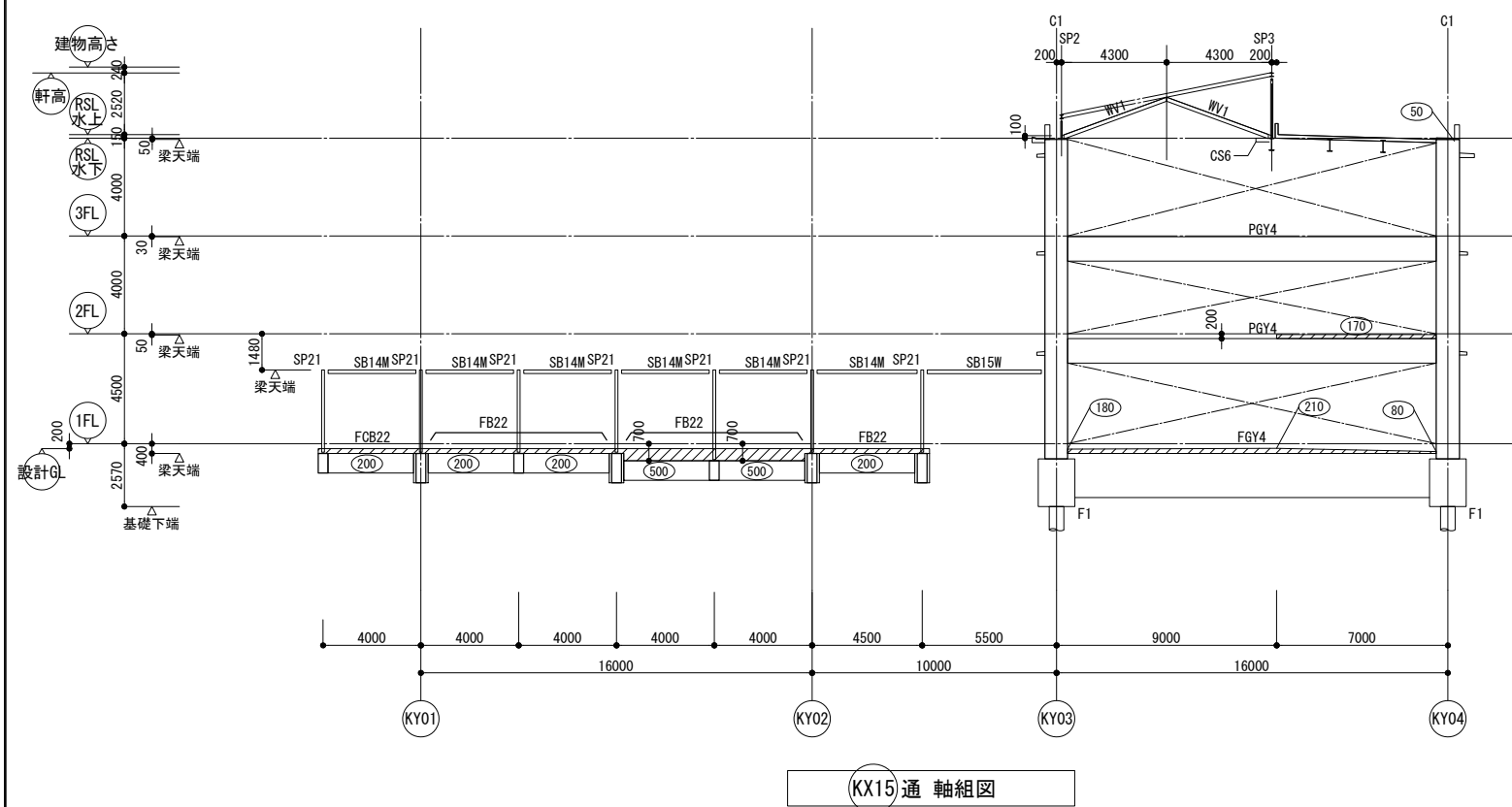
特記を除き、下記とする。				株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S112	
1. 壁は W180とする。		4. 梁天端レベルは図示による。			一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028	担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志		図面名称 軸組図その5 (校舎棟)
2.  は、耐震スリット（全貫通型、特記を除きスリット幅 25、既製品）を示す		5.  は梁上増打を示し370mmとする。「梁上増打補強筋はS005図による。」			高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之			縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)
3. スラブ天端レベルは 伏図を参照のこと。		○ 内の数値は梁上増打高さを示す。								



KX13通 軸組図

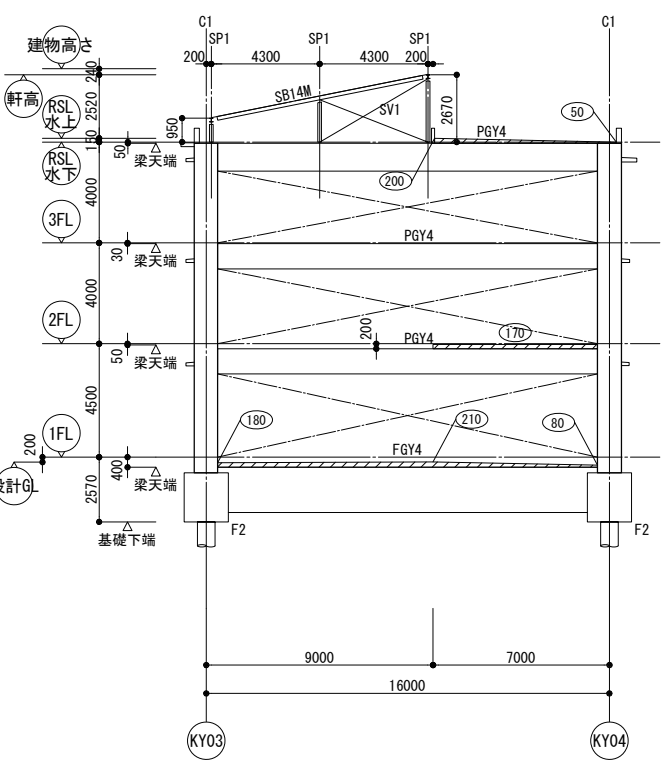
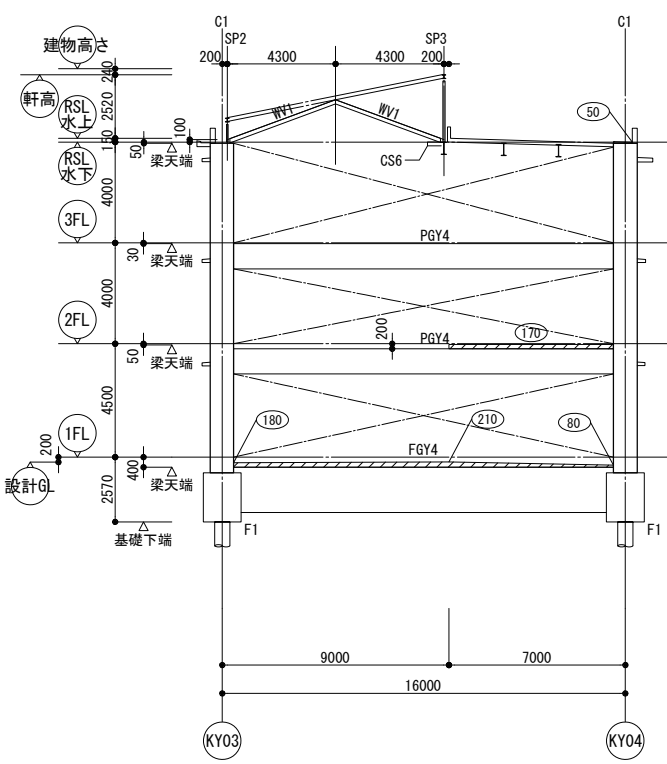
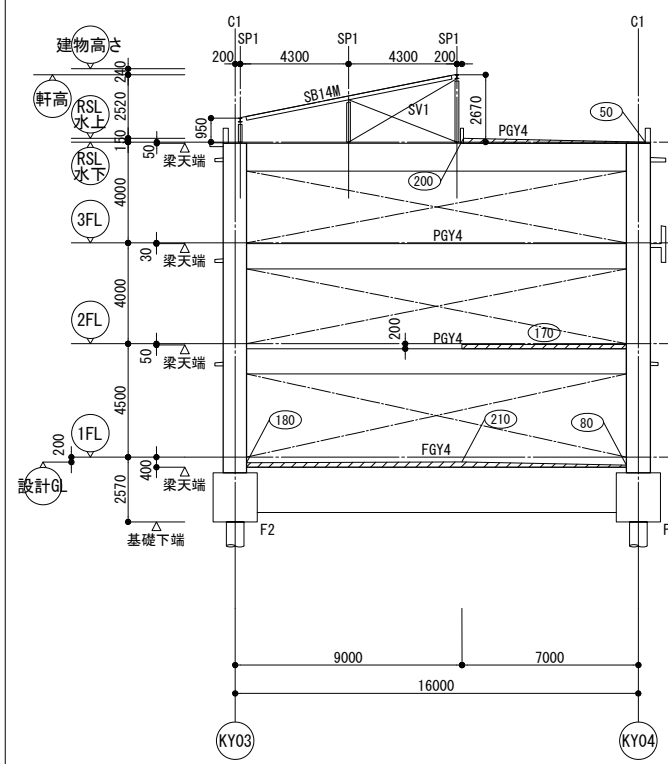
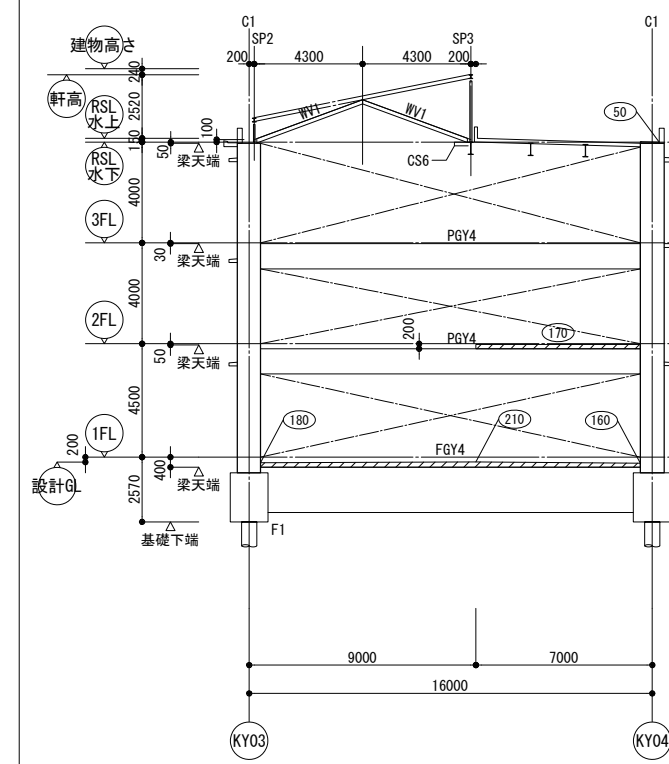
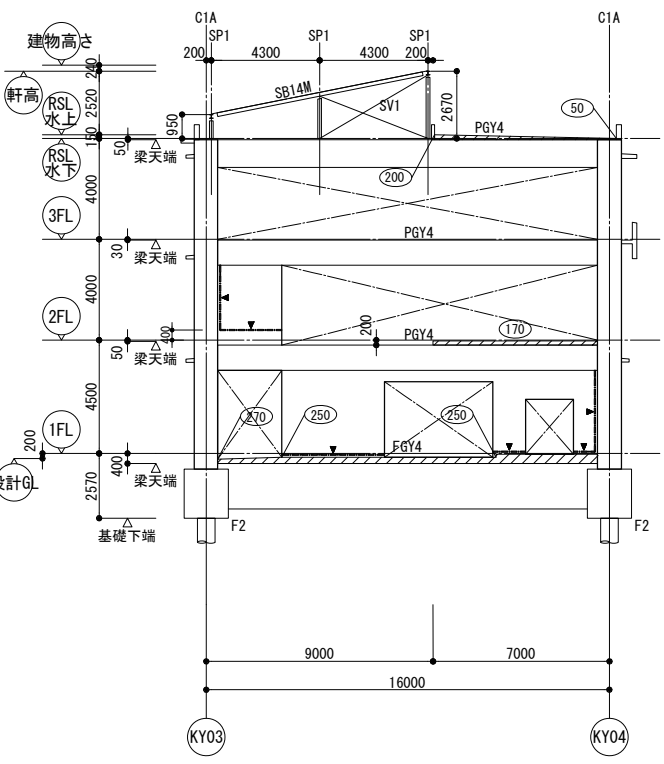
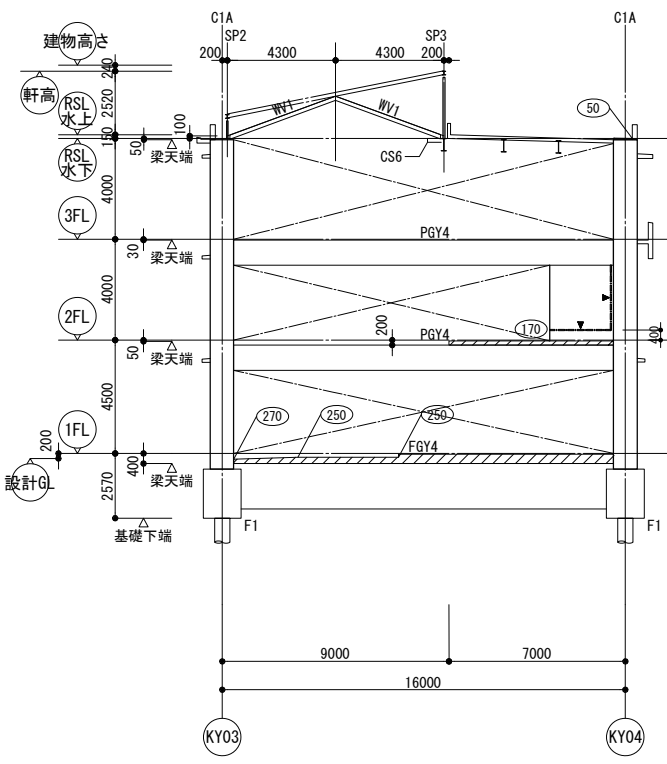
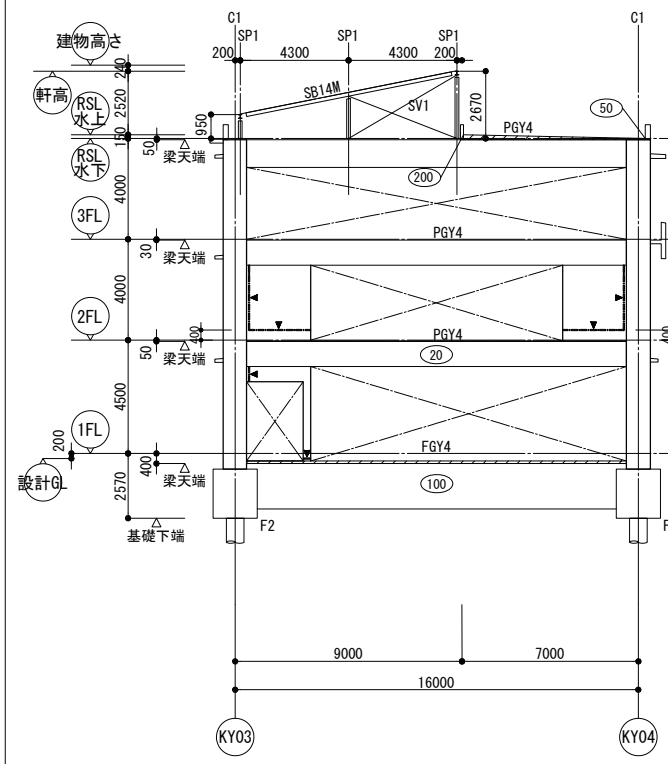
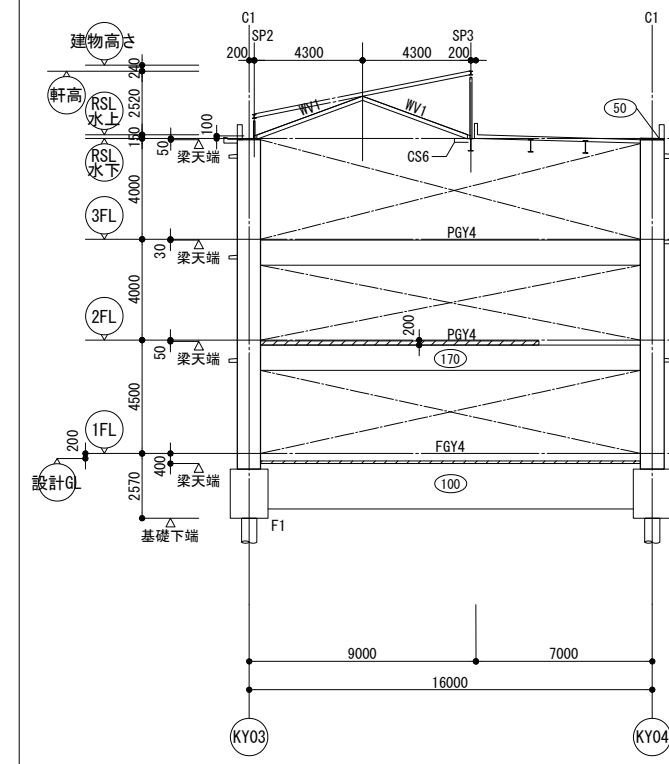





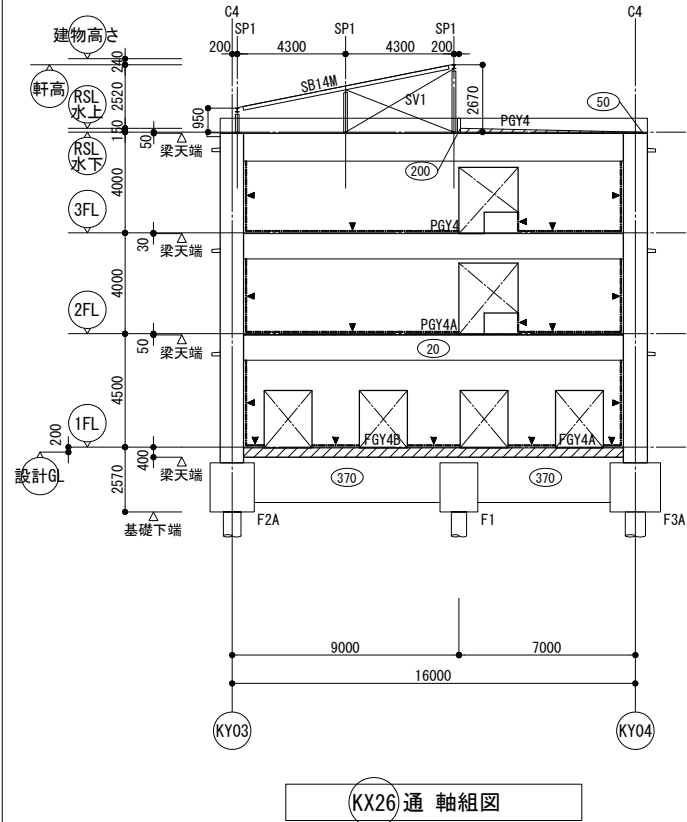
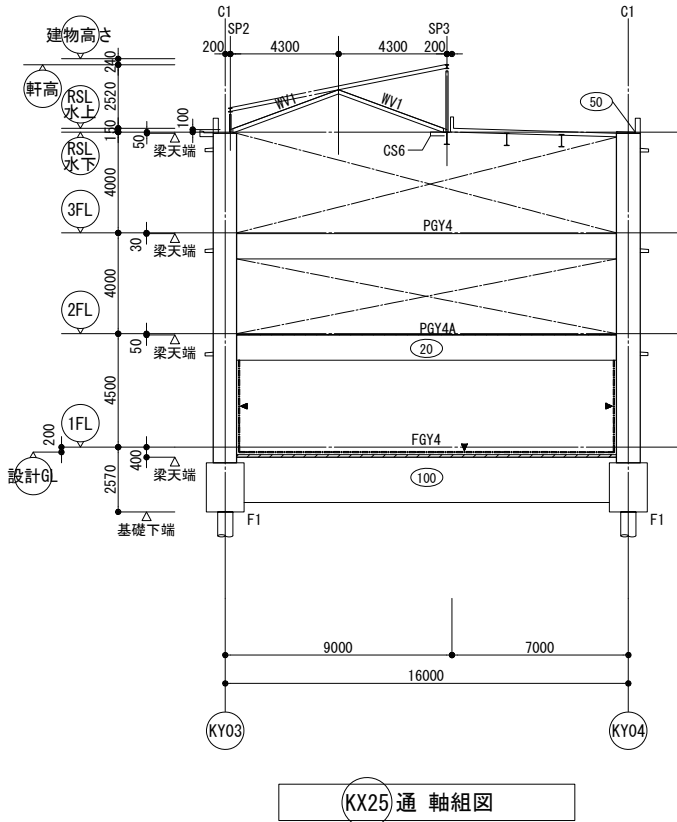
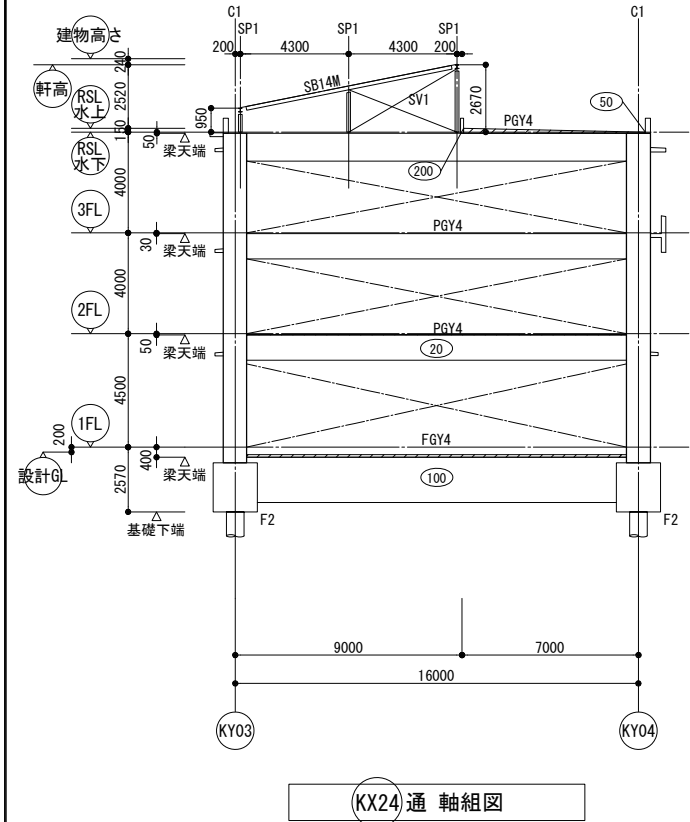
KX14通 軸組図



KX15通 軸組図

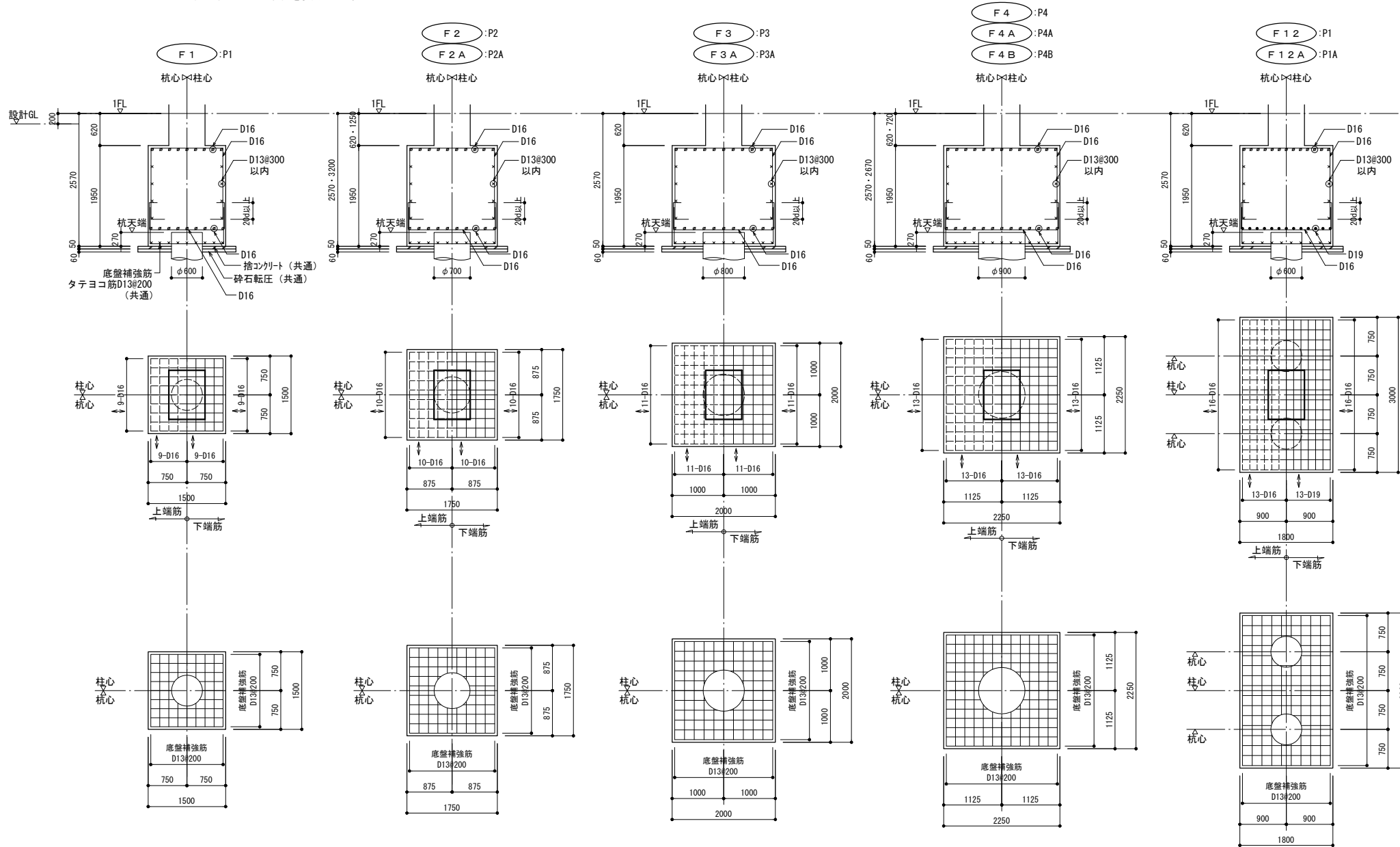
特記を除き、下記とする。			株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S113	
1. 壁は W180とする。	4. 梁天端レベルは図示による。	6. 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄り心図」参照		一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695		図面名称 軸組図その6 (校舎棟)
2.  は、耐震スリット (全貫通型、特記を除きスリット幅 2 5、既製品) を示す	5.  は梁上増打を示し370mmとする。「梁上増打補強筋はS005図による。」			高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志		縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)
3. スラブ天端レベルは 伏図を参照のこと。	 内の数値は梁上増打高さを示す。								

 <p>(KX16)通 軸組図</p>	 <p>(KX17)通 軸組図</p>	 <p>(KX18)通 軸組図</p>	 <p>(KX19)通 軸組図</p>						
 <p>(KX20)通 軸組図</p>	 <p>(KX21)通 軸組図</p>	 <p>(KX22)通 軸組図</p>	 <p>(KX23)通 軸組図</p>						
<div>特記を除き、下記とする。</div> <div><div>1. 壁は W180とする。</div><div>2.   は、耐震スリット（全貫通型、特記を除きスリット幅25、既製品）を示す</div><div>3. スラブ天端レベルは 伏図を参照のこと。</div><div>4. 梁天端レベルは図示による。</div><div>5.  は梁上増打を示し370mmとする。「梁上増打補強筋はS005図による。」</div><div>6. 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄心図」参照</div><div>○内の数値は梁上増打高さを示す。</div></div>				<div>株式会社東畑建築事務所</div> <div>TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.</div>	<div>設計番号</div> <div>20210533</div> <div>一級建築士 No.273069</div> <div>高木 耕一</div>	<div>作成日</div> <div>2024. 03</div> <div>一級建築士 No.345792</div> <div>構造設計一級建築士 No.9786</div> <div>中牟田 昌慶</div>	<div>種別/備考</div> <div>一級建築士 No.252480</div> <div>設備設計一級建築士 No.1028</div> <div>石田 正之</div>	<div>工事名称</div> <div>川越中学校建設工事</div> <div>図面名称</div> <div>軸組図その7 (校舎棟)</div> <div>縮尺</div> <div>A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)</div>	<div>図面番号</div> <div>S114</div>

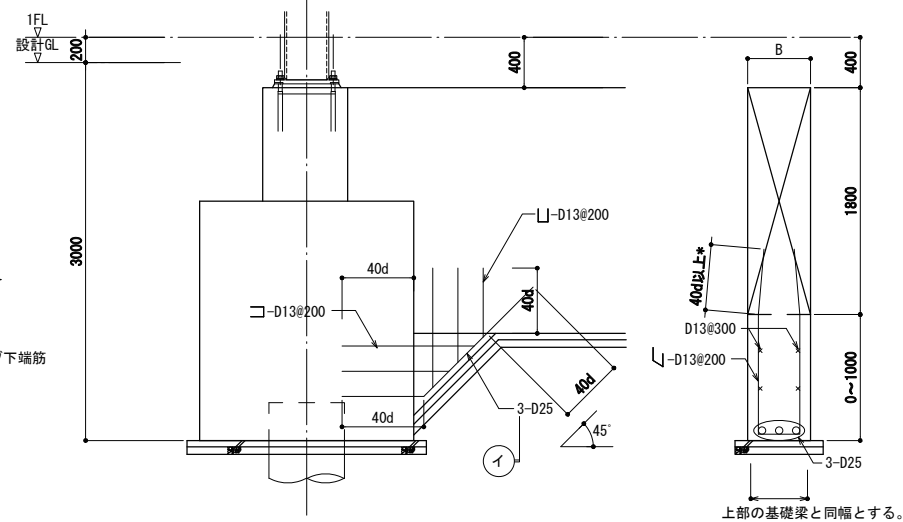


特記を除き、下記とする。			株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S115	
1. 壁は W180とする。	4. 梁天端レベルは図示による。	6. 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄心図」参照		一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028	担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志		図面名称 軸組図その8 (校舎棟)
2.  は、耐震スリット（全貫通型、特記を除きスリット幅 25、既製品）を示す	5.  は梁上増打を示し370mmとする。「梁上増打補強筋はS005図による。」			高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之			縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)
3. スラブ天端レベルは 伏図を参照のこと。	 内の数値は梁上増打高さを示す。								

◎特記事項：礎柱の断面および配筋は 柱断面表又は鉄骨部材リストを参照のこと。
基礎の向きはビット図を参照のこと。



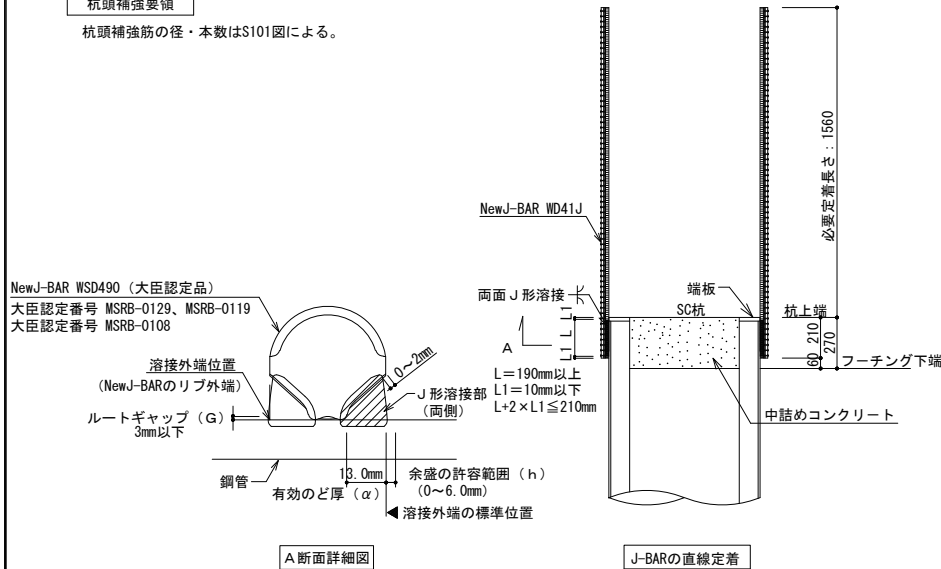
基礎梁下部打増補強（バットレス）配筋要領 1/30



注記：*印寸法は基礎または基礎梁内に40d以上定着する。

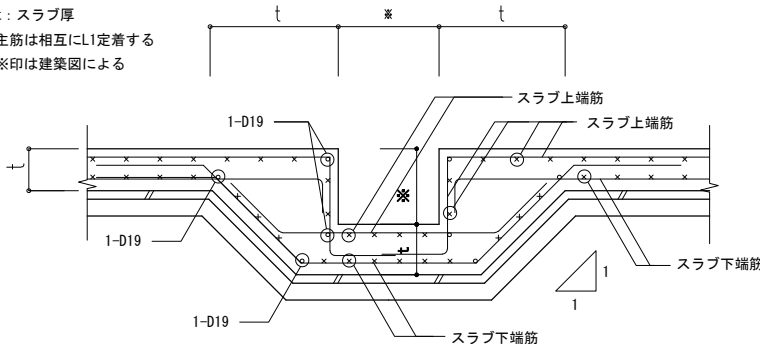
杭頭補強要領

杭頭補強筋の径・本数はS101図による。



釜場配筋図 1/30

- ・t：スラブ厚
- ・主筋は相互にL1定着する
- ・※印は建築図による




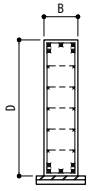
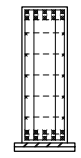
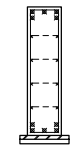
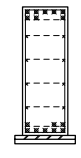
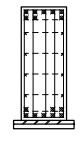
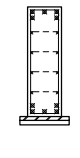
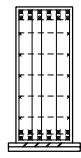
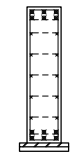
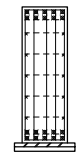
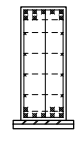
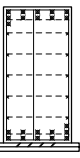
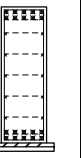
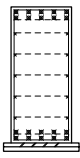
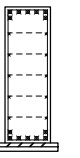

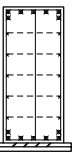
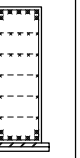
株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		設計番号 20210533 一級建築士 No. 273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之	担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 杭・基礎リスト (校舎棟) 縮尺 A1: 1/50, 30(A1) A3: 1/100, 60(A3)	図面番号 S116
--	--	---	---	--	----------------------------------	--	--------------

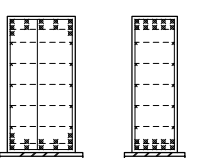
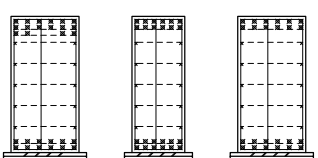
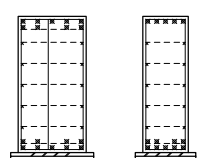
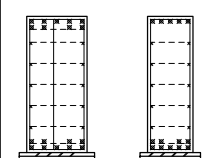
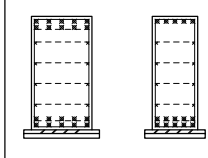
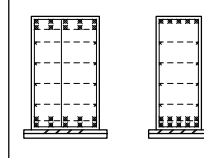
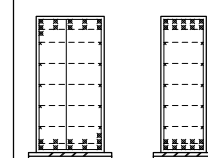
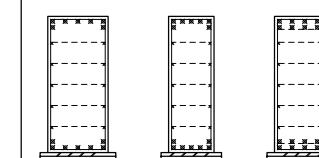
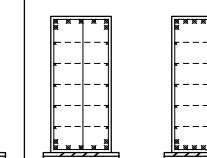
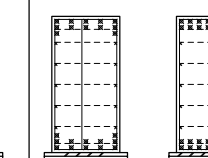
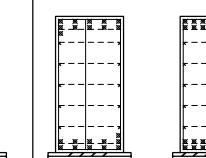
基礎梁断面表 1/50

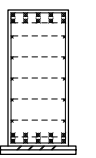
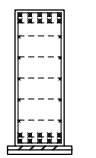
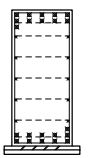
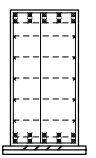
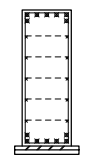
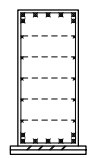
特記外：1. 巾止め筋は マフ型D10@1000以内とする。

2. カットオフの定着長さLdは下表Ldn欄を採用する。記載無き限り端部は (Lo/4+15d) , 中央部は (Lo/2+2x20d) とする。

3. 端部・中央で部材断面が異なる場合  印のあばら筋はハンチ部のみに適用すること。(ハンチ以外は中央と同じ)

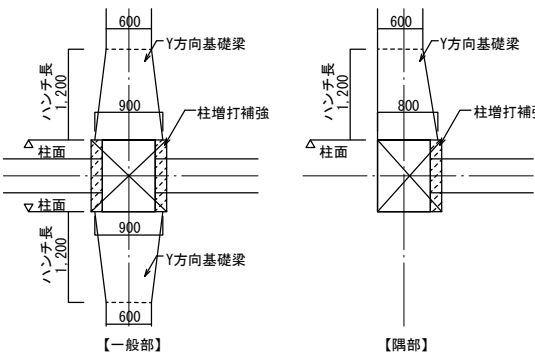
符 号	FGX1	FGX1A	FGX1B	FGX1C	FGX1D	FGX1E	FGX1F	FGX2	FGX2A	FGX2B	FGY1		FGY1A			FGY1B	
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	端 部	中 央	外 端	中 央	内 端	端 部	中 央
断 面																	
B × D	450 X 1800	600 X 1800	450 X 1700	600 X 1700	600 X 1500	450 X 1450	750 X 1800	450 X 1800	600 X 1800	600 X 1500	900X1800	600X1800	800X1800	600X1800	800X1800	800X1800	600X1800
上 端 筋	5-D32	10-D32	5-D32	8-D32	8-D32	5-D32	12-D32	6-D32	10-D32	8-D32	11-D32	10-D32	10-D32	7-D32	7-D32	7-D32	7-D32
下 端 筋	5-D32	10-D32	5-D32	8-D32	8-D32	5-D32	12-D32	6-D32	10-D32	8-D32	11-D32	10-D32	10-D32	7-D32	7-D32	7-D32	7-D32
腹 筋	10-D13	10-D13	8-D13	8-D13	8-D13	8-D13	10-D13	10-D13	10-D13	8-D13	10-D13		10-D13			10-D13	
あばら筋	□-D13@200	■-D13@150	□-D13@200	□-D13@200	■-D13@150	□-D13@150	■-D13@150	□-D13@150	■-D13@150	■-D13@150	■-D13@200	□-D13@200	□-D13@150			□-D13@200	□-D13@200
カットオフ長さLdn	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	上端筋:3400 下端筋:3400	—	—	—	—

符 号	FGY1C		FGY1D			FGY2		FGY2A		FGY2B		FGY2C		FGY3		FGY3A			FGY3B		FGY3C		FGY4	
位 置	端 部	中 央	KY01通端	中 央	KY02通端	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	他 端	中 央	KY04通端	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央
断 面																								
B × D	900X1800	600X1800	900X1800	700X1800	900X1800	900X1800	600X1800	800X1800	600X1800	800X1500	600X1500	900X1500	600X1500	900X1800	600X1800	800X1800	600X1800	800X1800	800X1800	600X1800	900X1800	600X1800	900X1800	600X1800
上 端 筋	12-D32	10-D32	16-D32	12-D32	12-D32	9-D32	5-D32	9-D32	5-D32	10-D32	5-D32	10-D32	5-D32	11-D32	10-D32	7-D32	7-D32	10-D32	7-D32	7-D32	12-D32	10-D32	11-D32	10-D32
下 端 筋	12-D32	10-D32	12-D32	12-D32	12-D32	9-D32	9-D32	9-D32	9-D32	10-D32	10-D32	10-D32	10-D32	11-D32	10-D32	7-D32	7-D32	10-D32	7-D32	7-D32	12-D32	10-D32	11-D32	10-D32
腹 筋	10-D13		10-D13			10-D13		10-D13		8-D13		10-D13		10-D13		10-D13			10-D13		10-D13		10-D13	
あばら筋	■-D13@200	□-D13@200	□-D13@150			■-D13@200	□-D13@200	■-D13@200	□-D13@200	□-D13@150	□-D13@150	■-D13@150	□-D13@150	■-D13@200	□-D13@200	□-D13@150			■-D13@200	□-D13@200	■-D13@200	□-D13@200	■-D13@200	□-D13@200
カットオフ長さLdn	—	—	—	—	—	上端筋:3700	—	上端筋:3700	—	上端筋:3400	—	上端筋:3600	—	—	—	—	—	上端筋:3400 下端筋:3400	—	—	—	—	—	—

符 号	FGY4A			FGY4B		
位 置	他 端	中 央	KY04通端	KY03通端	中 央	他 端
断 面						
B × D	800X1800	650X1800	800X1800	900X1800	650X1800	800X1800
上 端 筋	10-D32	10-D32	11-D32	10-D32	7-D32	7-D32
下 端 筋	10-D32	10-D32	11-D32	10-D32	7-D32	7-D32
腹 筋	10-D13		10-D13		10-D13	
あばら筋	□-D13@150		□-D13@150		□-D13@150	
カットオフ長さLdn	—	—	上端筋:2700 下端筋:2700	上端筋:3300 下端筋:3300	—	—

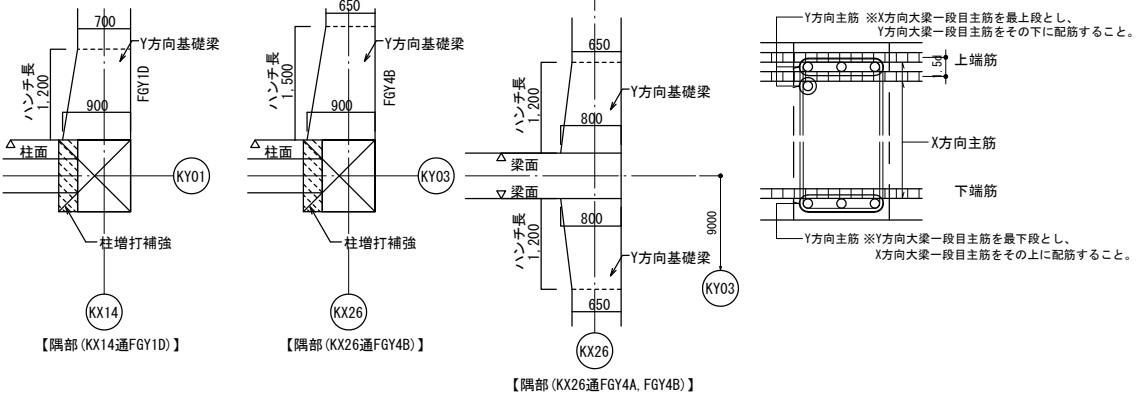
水平ハンチを設ける基礎梁のハンチ長

注記：上部に柱の無い箇所は、梁面からの寸法とする。

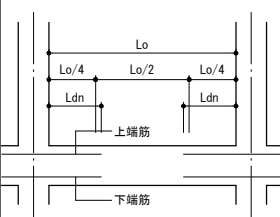


大梁主筋位置関係要領図

1. 主筋の納まりにより位置関係を変更する場合は監理者と協議すること。
2. 2段筋の場合 間隔は1.5d (d:鉄筋径) を確保すること。

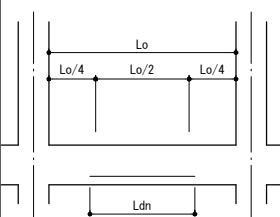


梁端部主筋のカットオフ位置



端部: Ld= (Lo/4+15d, Ldn) の大きい値

梁中央部主筋のカットオフ位置




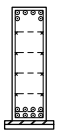

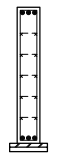
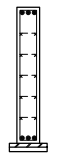
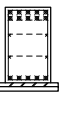


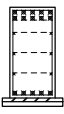

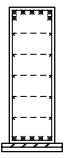
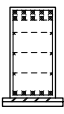


中央部: Ld= (Lo/2+2x20d, Ldn) の大きい値

基礎小梁断面表 1/50

特記外：1. 巾止め筋は マフ型D10@1000以内とする。

2. 2段筋の定着長さLdは下表Ldn欄を採用する。記載無き限り端部は (Lo/4+15d) , 中央部は (Lo/2+2x20d) とする。

符 号	FB1	FB2	FB3	FB4	FB11	FB12	FB13	FB21	FB22		FCB21	FCB22	FCG1	FCG21
位 置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	端 部	中 央	全断面	全断面	全断面	全断面
断 面														
B × D	300 X 600	400 X 600	300 X 600	450 X 1500	300 X 1100	300 X 1800	300 X 1800	600 X 1000	400 X 800		600 X 1200	400 X 800	600 X 1800	600 X 1200
上 端 筋	3-D19	3-D19	3-D19	6-D25	3-D19	3-D19	3-D19	10-D32	3-D25	3-D25	10-D32	3-D25	7-D32	10-D32
下 端 筋	3-D19	3-D19	3-D19	8-D25	3-D19	3-D19	3-D19	5-D32	3-D25	4-D25	5-D32	3-D25	5-D32	5-D32
腹 筋	2-D13	2-D13	2-D13	8-D13	4-D13	10-D13	10-D13	4-D13	2-D13		6-D13	2-D13	10-D13	6-D13
あばら筋	□-D10@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D13@200		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
カットオフ長さLdn	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
		一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028	図面名称 RC部材リストその1 (校舎棟)	S117
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志	
		株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		A1: 1/50, 30(A1) A3: 1/100, 60(A3)		

柱断面表

1. 配筋は S153参照のこと。

符 号	C 1 X × Y	C 2 X × Y	C 3 X × Y	C 4 X × Y
3 階	700X950	700X950	700X950	700X950
2 階	700X950	700X950	700X950	700X950
1 階	700X950	700X950	700X950	700X950

大梁断面表

1. 配筋は S153参照のこと。

符 号	G X 1 B × D	G X 1 A B × D	G X 2 B × D	G X 2 A B × D	C 3 B × D
R 階	600X750	600X750			600X750
3 階	600X750	600X750	600X750	600X750	
2 階	600X850	600X850	600X850	600X850	

P C梁断面表

1. 配筋は S154, S155参照のこと。

符 号	P G Y 1 B × D	P G Y 1 A B × D	P G Y 1 C B × D	P G Y 2 B × D	P G Y 2 A B × D	P G Y 2 B B × D	P G Y 2 C B × D	P G Y 3 B × D	P G Y 3 A B × D	P G Y 3 B B × D	P G Y 4 B × D	P G Y 4 A B × D
R 階	500X1100	500X1100		500X950	500X950			500X1100	500X1100		500X1100	
3 階	500X1000	500X1100	500X1100	500X950	500X950	500X950	500X950	500X1000	500X1100	500X1100	500X1000	
2 階	500X1000	500X1100	500X1100	500X950	500X950		500X950	500X1000	500X1100	500X1100	500X1000	500X1000

小梁断面表 1/50

1. 特記を除き、巾止め筋 D10@1000以下とする

符号	B 1	B 2		B 3	
位置	全 域	端 部	中 央	端 部	中 央
断面					
B × D	300X600	400X800		400X800	
上 端 筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
下 端 筋	3-D19	3-D19	5-D19	3-D19	5-D19
腹 筋	2-D13	2-D13		2-D13	
あばら筋	□-D10@200	□-D13@200		□-D13@200	

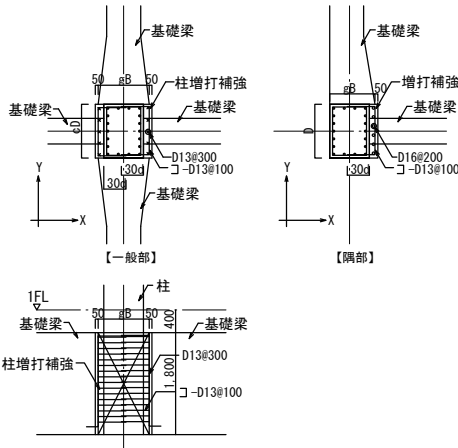
壁断面表 1/30

1. 巾止筋はD10@1000とする。

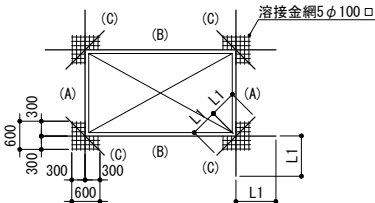
符 号	W180	W200A
断 面		
壁 厚	180	200
タテ筋	D10・D13@200ダブル	D13@100ダブル
ヨコ筋	D10・D13@200ダブル	D13@200ダブル
開口補強	A	4-D16
	B	4-D16
	C	—

1階柱脚部の増打補強要領

gB：柱に取り付くY方向基礎梁の梁幅(最大値)
cD：1階柱のY方向せい



開口部補強筋



注記：溶接金網は一般壁、耐震壁にかかわらず使用する。
溶接金網の1箇所当りの使用枚数は2枚とする。

	株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
		一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695	図面名称 R C部材リストその2 (校舎棟)	S118
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志	縮尺 A1: 1/50, 30(A1) A3: 1/100, 60(A3)	

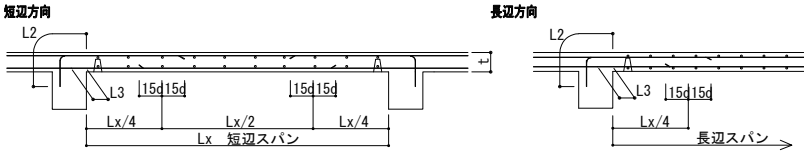
床版断面表

1. S〇〇は在来工法によるスラブ、FS〇〇は在来工法による耐圧盤スラブ、CS〇〇は在来工法による片持スラブを示す。
鉄筋トラス付捨型枠スラブ(DS〇〇)は「S-09 鉄筋トラス付捨型枠工法標準図」を参照のこと。

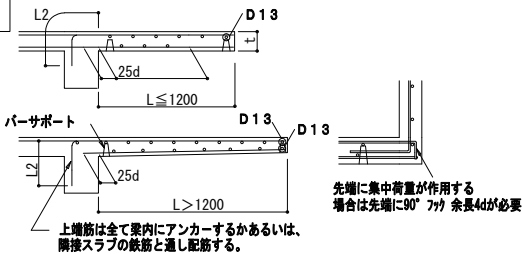
符号	類型	t : スラブ厚 (mm)	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				端部	中央	端部	中央	
S 1	1	150	上端筋	D 10、D 13@200	←	D 10、D 13@200	←	
			下端筋	D 10@200	←	D 10@200	←	
S 2	1	150	上端筋	D 10、D 13@150	←	D 10、D 13@200	←	
			下端筋	D 10@150	←	D 10@200	←	
S 3	1	150	上端筋	D 10、D 13@150	←	D 10、D 13@150	←	
			下端筋	D 10@150	←	D 10@150	←	
S 2 1	1	200	上端筋	D 13@150	←	D 13@100	←	
			下端筋	D 13@150	←	D 13@100	←	
F S 1	1	250	上端筋	D 13@150	←	D 13@150	←	EVビット底盤
			下端筋	D 13@150	←	D 13@150	←	
F S 2	1	250	上端筋	D 13@150	←	D 13@150	←	消火水槽底盤
			下端筋	D 13@150	←	D 13@150	←	
C S 1	2	150	上端筋	D 10、D 13@200	←	D 10@200	←	出隅受け部の配筋は S153図を参照のこと
			下端筋	D 10@200	←	D 10@200	←	
C S 2	2	先端:120 基端:170	上端筋	D 10、D 13@200	←	D 10@200	←	出隅受け部の配筋は S153図を参照のこと
			下端筋	D 10@200	←	D 10@200	←	
C S 3	2	先端:150 基端:180	上端筋	D 13@100	←	D 10@200	←	
			下端筋	D 10、D 13@100	←	D 10@200	←	
C S 4	2	150	上端筋	D 13@100	←	D 10@200	←	
			下端筋	D 10、D 13@100	←	D 10@200	←	
C S 5	2	150	上端筋	D 13@100	←	D 10@200	←	
			下端筋	D 10、D 13@100	←	D 10@200	←	
C S 6	2	150	上端筋	D 10@200	←	D 10@200	←	
			下端筋	D 10@200	←	D 10@200	←	
C S 7	2	250	上端筋	D 10@200	←	D 10@200	←	
			下端筋	D 10@200	←	D 10@200	←	

床版配筋表

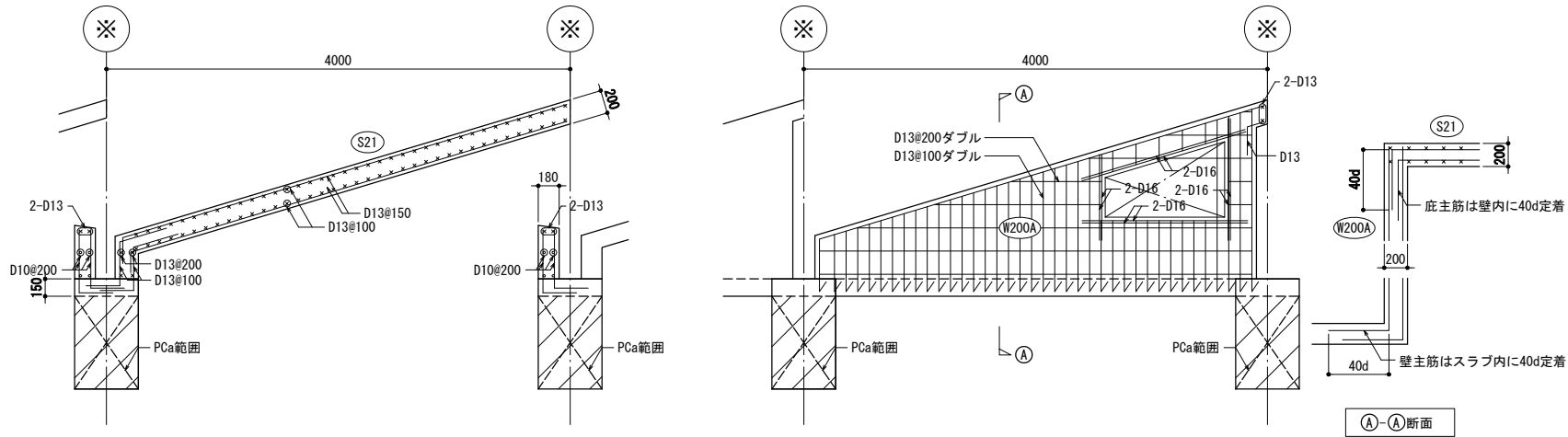
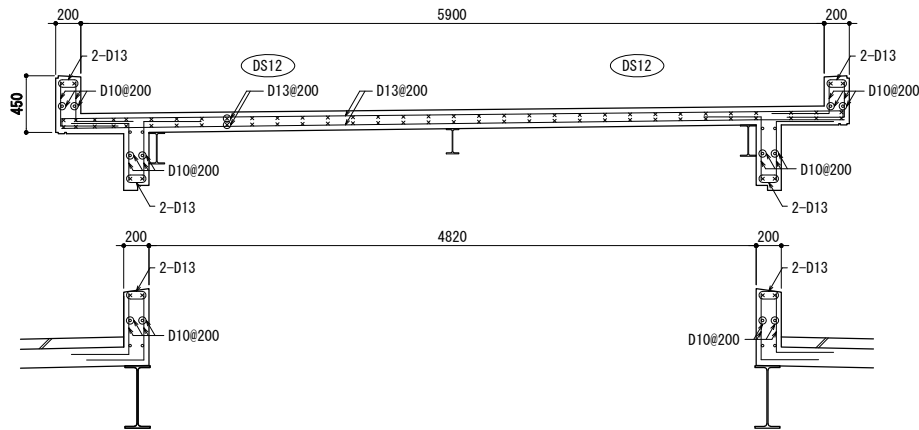
1 型



2 型

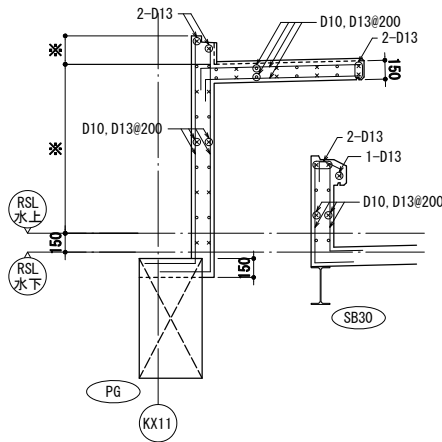


配筋詳細図 1/30

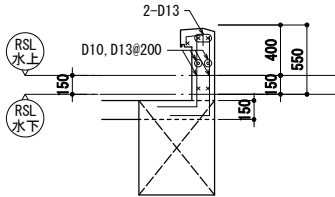


ハト小屋配筋要領 1/30

注記: ※印寸法は意匠図による。



屋上あご付きバラベット配筋要領 1/30

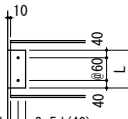
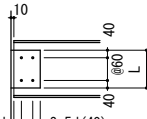
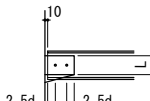
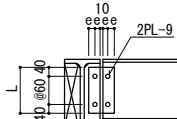


		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 No. 273069 高木 耕一	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之	図面名称 R C部材リストその3 (校舎棟) 縮尺 A1: 1/50 (A1) A3: 1/100 (A3)	S119
				担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志		

二次部材リスト

1. 鋼材はSS400、使用ボルトはHTB(S10T)
ボルトピッチ60mm、鉛直方向のへりあき40mm、水平方向のへりあき50mmとする。

2. 屋外露出部の鉄骨面は溶融亜鉛メッキ(JIS H 8641の2種)とし、ボルトは亜鉛メッキ高力ボルト(F 8 T相当 大臣認定品)とする。

	符号	断 面	継手形式	備 考
小梁・間柱等 ボルト・G、PL	SB10	[−100×50×5×7. 5	G3	G、PL-6、2-M16
	SB14M	H-148×100×6×9	G3	G、PL-9、2-M20
	SB15W	H-150×150×7×10	G3	G、PL-9、2-M20
	SB20	H-200×100×5. 5×8	G1	G、PL-9、2-M20
	SB25	H-250×125×6×9	G1	G、PL-9、2-M20
	SB25W	H-250×250×9×14	G1	G、PL-9、2-M20
	SB30	H-300×150×6. 5×9	G1	G、PL-9、3-M20
	SB35	H-350×175×7×11	G1	G、PL-9、4-M20
	SB40	H-400×200×8×13	G1	G、PL-9、4-M20
	SB45	H-450×200×9×14	G1	G、PL-9、5-M20
	SB48M	H-488×300×11×18	G1	G、PL-12、6-M22
	SB50	H-500×200×10×16	G1	G、PL-12、6-M20
	SB58M	H-588×300×12×20	G1	G、PL-12、7-M22
	SP20B	□-200×200×12(BCR295)		詳細図参考
	SP21	○-114. 3×6(STK400)		柱脚リスト参照
	SP15B	□-150×150×9(STKR400)		G、PL-9、2-M20
	SP19M	H-194×150×6×9	G1	G、PL-9、2-M20
	HSB19M	H-194×150×6×9	G1	G、PL-9、2-M20 横使い
	CHSB19M	H-194×150×6×9	G1	G、PL-9、2-M20 横使い
	HSB20	H-200×100×5. 5×8	G1	G、PL-9、2-M20 横使い
	HSB14M	H-148×100×6×9	G3	G、PL-9、2-M20 横使い
	SB1	[−100×50×5×7. 5	G3	G、PL-6、2-M16
	SP1	H-148×100×6×9		詳細図参考
	SP2	φ-60. 5×5. 5(STK400)		詳細図参考
	SP3	φ-89. 1×5. 5(STK400)		詳細図参考
	WV1	120×150(ヒノキ集成材)		詳細図参考
	SV1	1-M20(J I S丸鋼ブレス)		丸鋼ブレス継手リスト参照
HV1	1-M16(J I S丸鋼ブレス)		丸鋼ブレス継手リスト参照	
SV21	1-M20(J I S丸鋼ブレス)		丸鋼ブレス継手リスト参照	
SV22	1-M24(J I S丸鋼ブレス)		丸鋼ブレス継手リスト参照	
SV31	1-M16(J I S丸鋼ブレス)		丸鋼ブレス継手リスト参照	
母屋	C-100×50×20×2. 3@600		下屋屋根 詳細図参照 G、PL-6 中ボルト2-M12	
G 1		G 2	G 3	G 4
				
(40) 2.5d 2.5d (40)		(40) 2.5d 2.5d (40)		2.5d 2.5d
内はG1-aを示す		内はG2-aを示す		
				
e=40				

丸鋼プレス継手リスト

(JIS5号~7号丸鋼)は、H.T.B (S10T)とする。
屋外露出部は溶融亜鉛メッキ処理を施し、使用ボルトは溶融亜鉛メッキ高力ボルトF8T相当(大臣認定品)とする。

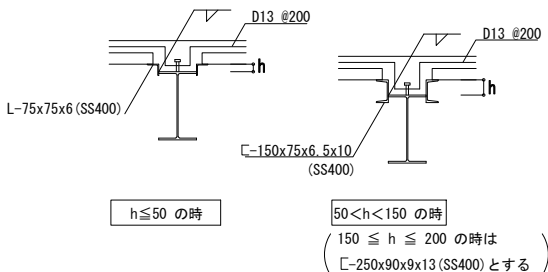
M16 ~ M22 の場合

M24 ~ M33 の場合

符 号	部 材	G. PL -t	羽子板 t × w	羽子板 H.T.B	はしあき		ビッチ p	溶接長 L	B
					e1	e2			
SV21	M20	9	9 × 75	1-M20	50	70	-	75	80
SV22	M24	12	9 × 85	2-M20	50	70	60	85	90
SV31	M16	9	6 × 50	1-M16	50	70	-	65	70

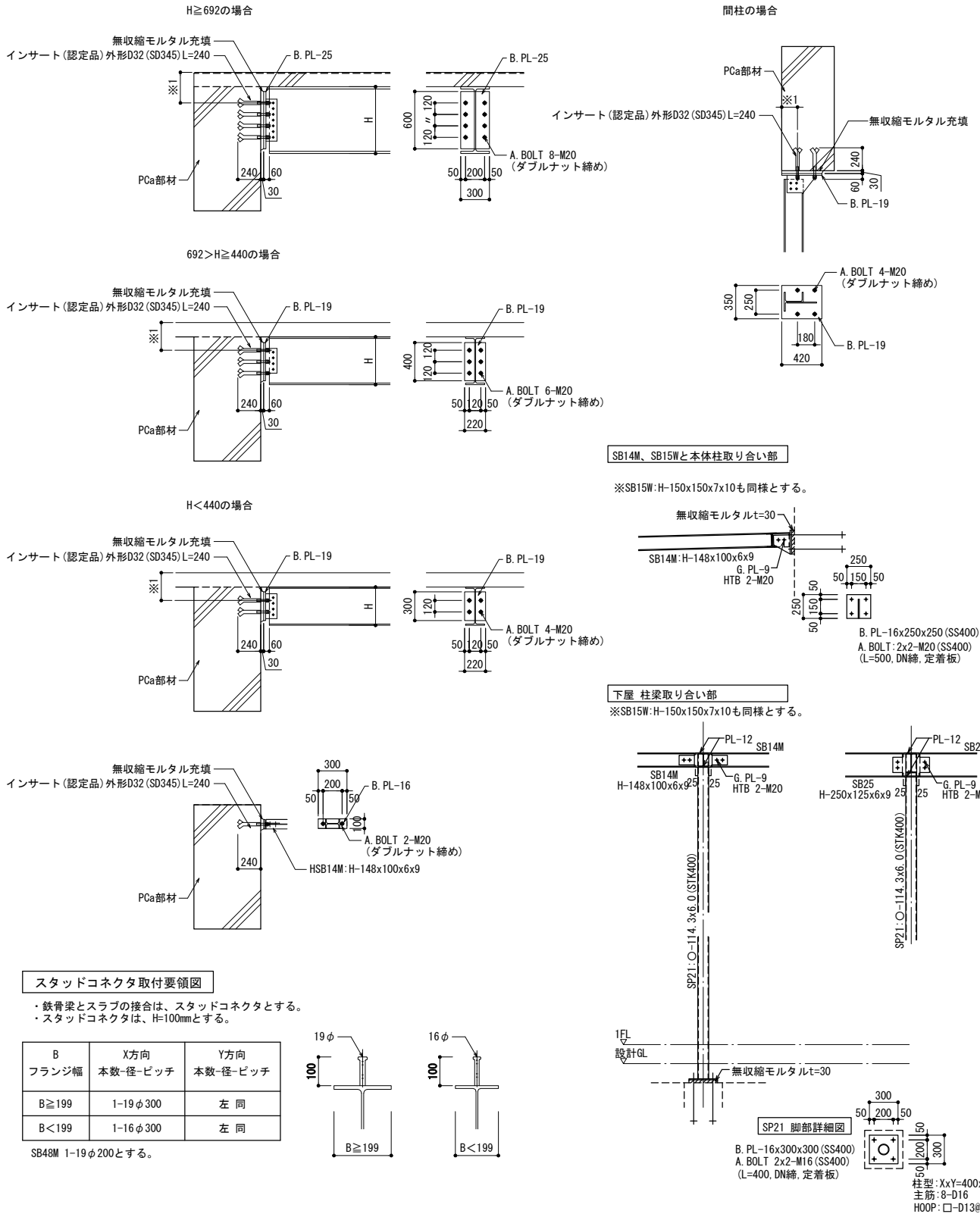
デッキスラブ段差仕様

※スラブ勾配によるレベルの微調整が必要な場合、下記の施工用補助材を設ける事



鉄骨取付要領図

1. B. PL, A. BOLTの材質は SS400とする。

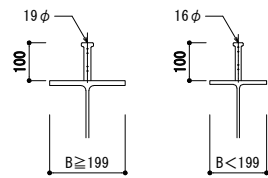


スタッドコネクタ取付要領図

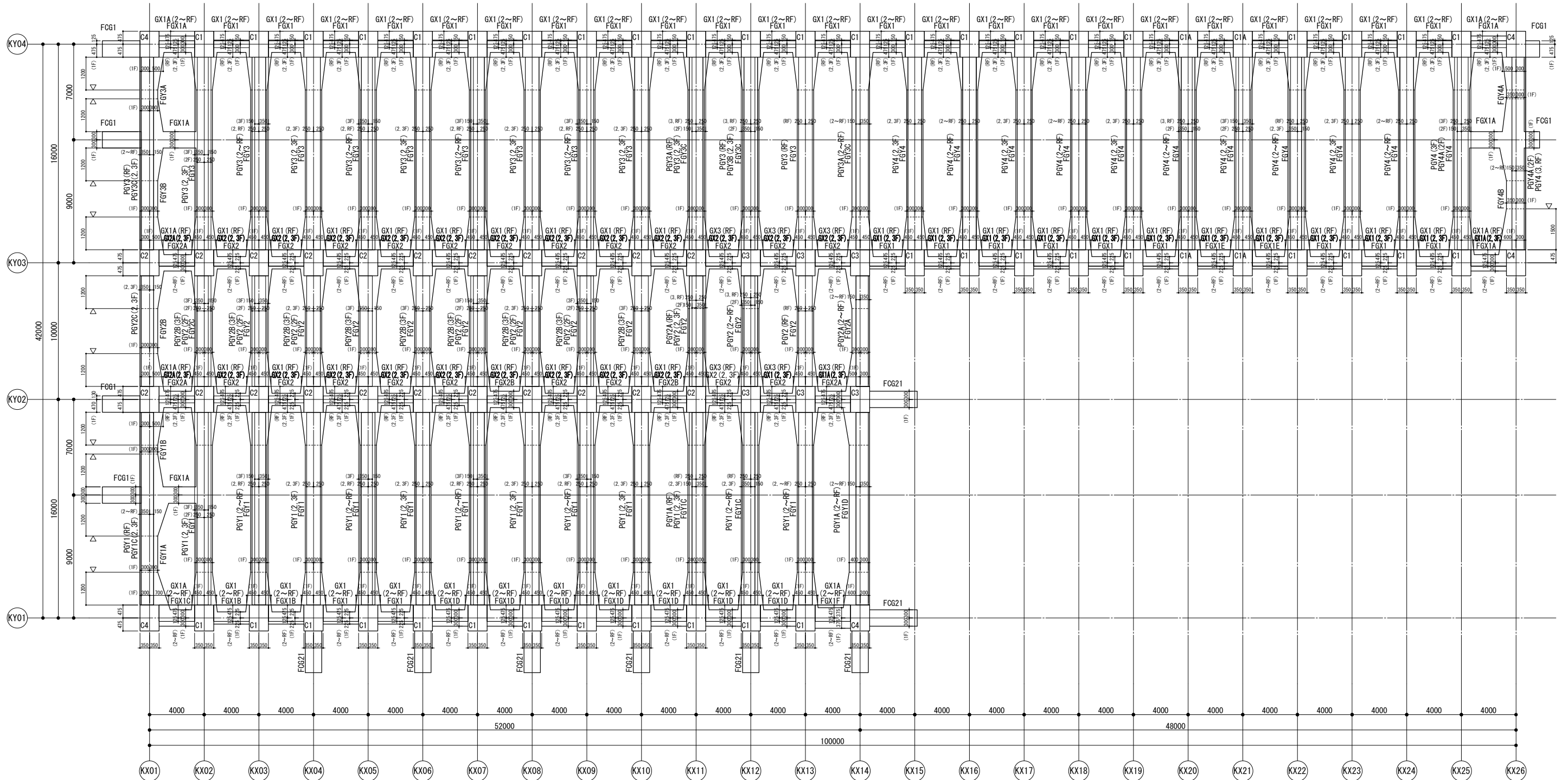
- ・鉄骨梁とスラブの接合は、スタッドコネクタとする。
- ・スタッドコネクタは、 $H=100\text{mm}$ とする。

B フランジ幅	X方向 本数-径-ピッチ	Y方向 本数-径-ピッチ
B ≥ 199	1-19 φ300	左 同
B < 199	1-16 φ300	左 同

SB48M 1-19φ200とする。



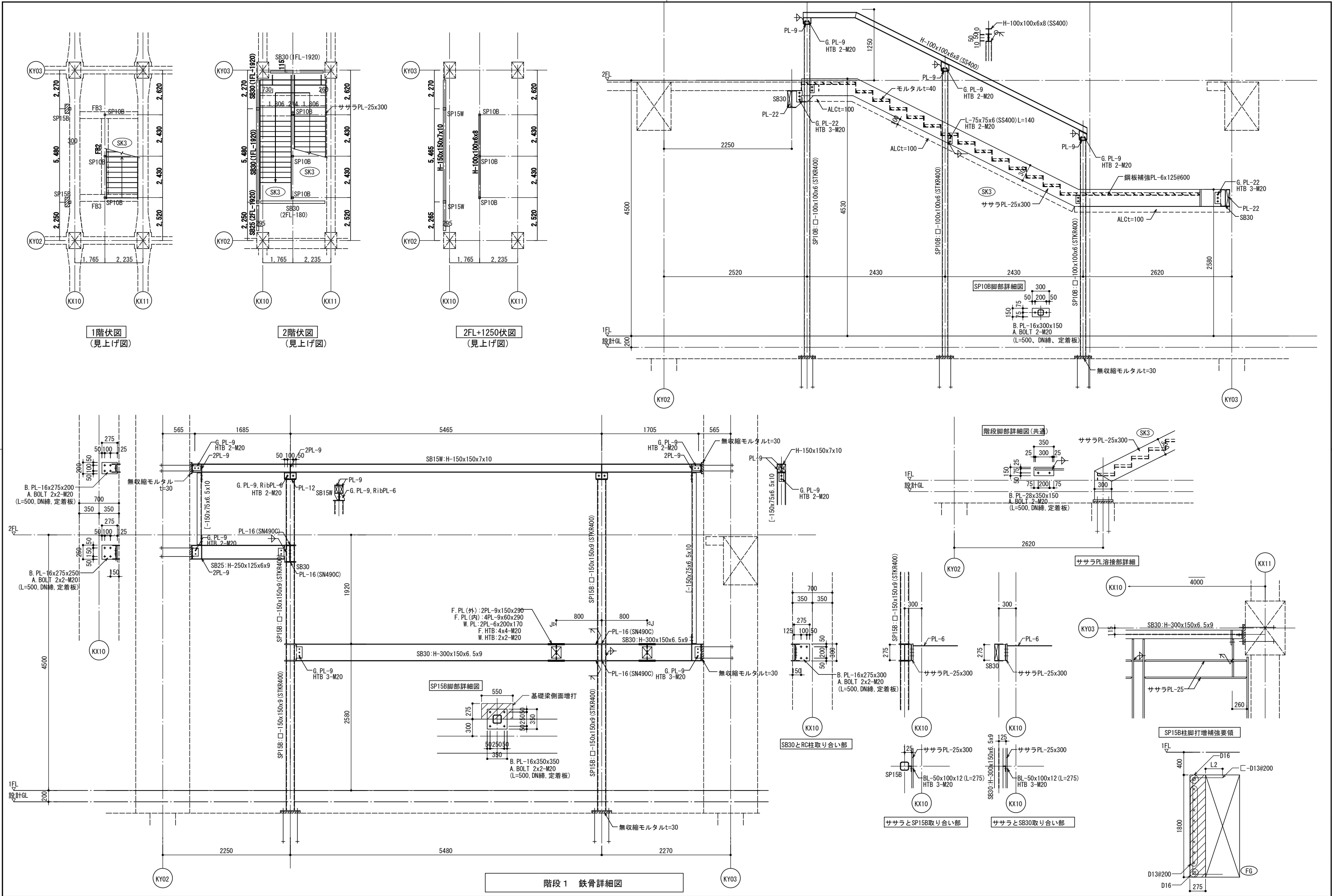
		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
	株式会社 東畑 建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 NO. 273069	一級建築士 NO. 345792 構造設計一級建築士 NO. 9786	一級建築士 NO. 252480 設備設計一級建築士 NO. 1028	担 当 一級建築士 NO. 343695	図面名称 鉄骨部材リスト (校舎棟) 縮尺 A1: 1/30 (A1) A3: 1/60 (A3)	S120
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志		



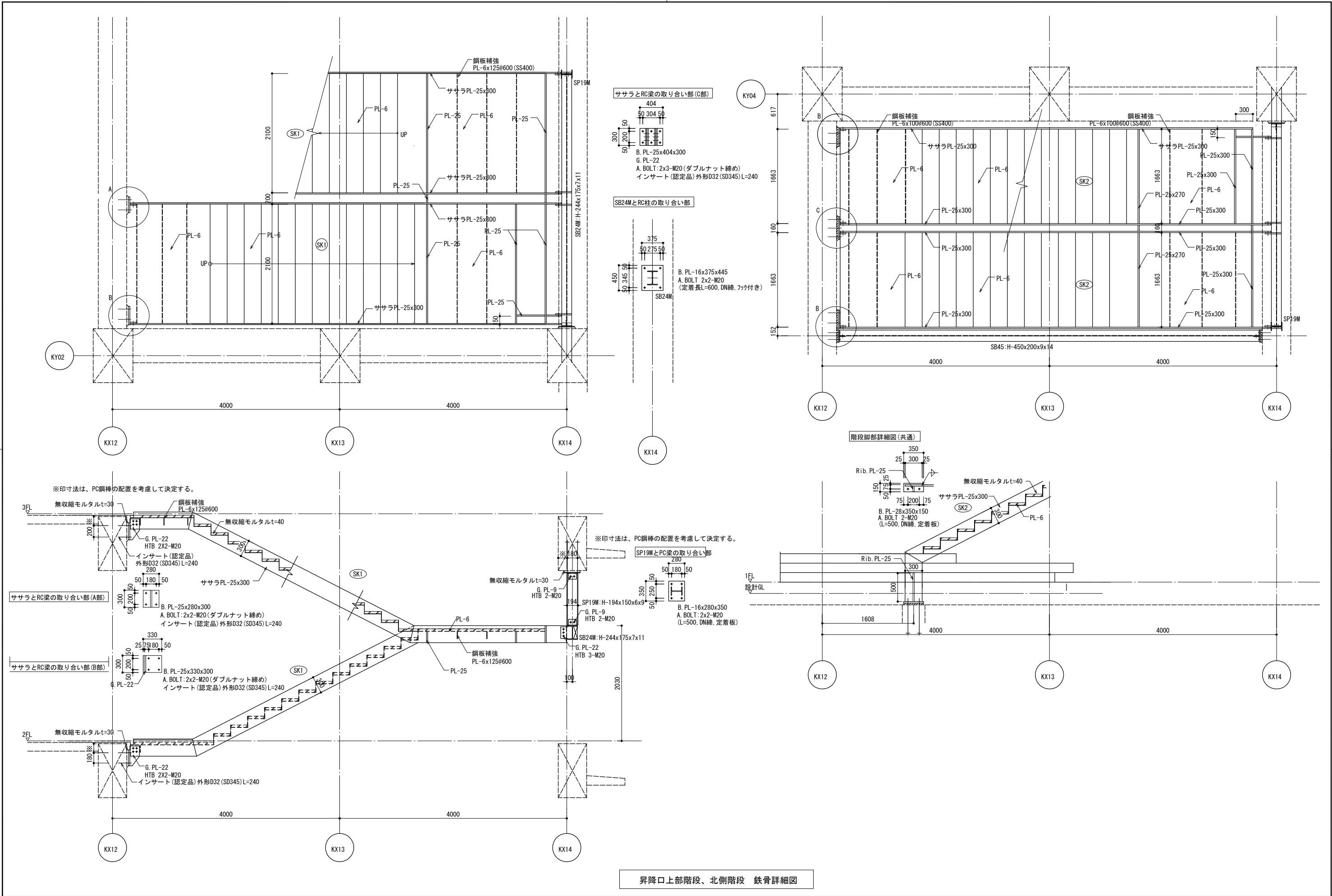
柱寄り芯図

特記を除き、下記とする。
1. ▽印は ハンチ端を示し、ハンチ端=柱面+1200とする。

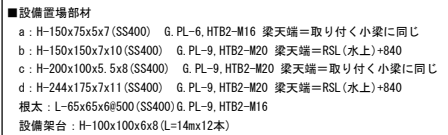
		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考 一級建築士 No.252480	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S121
株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		一級建築士 No.273069 高木 耕一	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786 中牟田 昌慶	一級建築士 No.1028 担 当 一級建築士 No.343695 石田 正之	図面名称 柱寄り芯図 (校舎棟) 縮尺 A1: 1/150, 75(A1) A3: 1/300, 150(A3)	



特記を除き、下記とする。			株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号	20210533	作成日	2024. 03	種別/備考	工事名称	図面番号
1. 鋼材の材質は SS400、高力ボルトはS10Tとする。RC部材との取合部のB. PLはSS400、A. BOLTはSS400とする。				一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792	一級建築士 No. 252480	担 当	川越中学校建設工事	S122	
2. 通しダイヤフラムの板厚は 取り付く梁フランジの2サイズアップ以上かつ梁フランジ厚+6mm以上とし 材質はSN490Cとする。				高木 耕一	構造設計一級建築士 No. 9786	設備設計一級建築士 No. 1028	一級建築士 No. 343695	図面名称		
3. 屋外露出部の鉄骨面は溶融亜鉛メッキ (JIS H8641の2種) とし、ボルトは亜鉛メッキ高力ボルト (F8T相当 大臣認定品) とする。					中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志	鉄骨詳細図その 1 (校舎棟) 縮尺 A1: 1/30 (A1) A3: 1/60 (A3)		

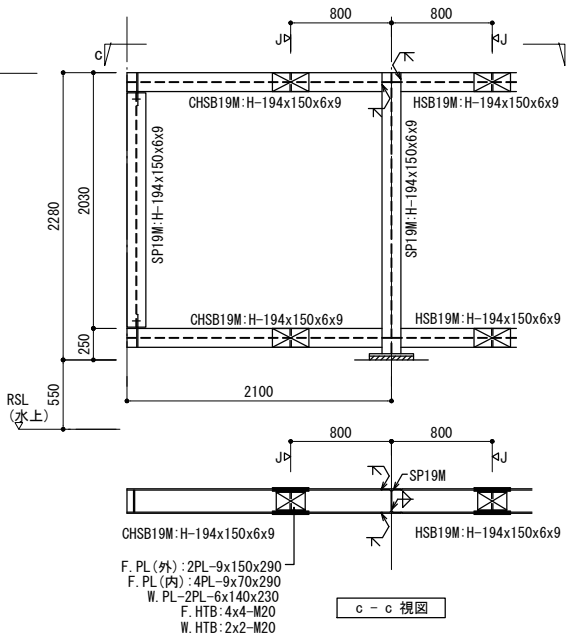


特記を除き、下記とする。				株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号	20210533	作成日	2024. 03	種別/備考	工事名称	図面番号
1. 鋼材の材質は SS400、高力ボルトはS10Tとする。RC部材との取合部のB. PLはSS400、A. BOLTはSS400とする。					一級建築士 No. 273069		一級建築士 No. 345792		一級建築士 No. 252480	川越中学校建設工事	S124
2. 通しダイヤフラムの板厚は 取り付く梁フランジの2サイズアップ以上かつ梁フランジ厚+6mm以上とし 材質はSN490Cとする。							構造設計一級建築士 No. 9786		設備設計一級建築士 No. 1028	図面名称	
3. 屋外露出部の鉄骨面は溶融亜鉛メッキ (JIS H8641の2種) とし、ボルトは亜鉛メッキ高力ボルト (F8T相当 大臣認定品) とする。					高木 耕一		中牟田 昌慶		石田 正之	鉄骨詳細図その3 (校舎棟) 縮尺 A1: 1/30 (A1) A3: 1/60 (A3)	



屋上設備置場 部材配置図

目隠し壁 取り付け詳細図(片持部)



Technical drawing of a reinforced concrete column and foundation. The drawing includes a side elevation and two foundation plans.

Side Elevation:

- Column height: 2280mm (total), 2030mm (column), 250mm (foundation).
- Reinforcement: G. PL-9, HTB 2-M20, SV31-TB-M16, SP19M.
- Foundation: 基礎f1, dimensions 350mm x 350mm and 400mm x 300mm.
- Column width: 500mm.
- Foundation width: 500mm.
- Foundation height: 500mm.
- Foundation reinforcement: 主筋: 8-D16, HOF筋: □-D13@100.

Foundation Plans:

- Plan 1 (Left): 基礎f1, dimensions 350mm x 350mm, reinforcement SP19M.
- Plan 2 (Right): 基礎f1, dimensions 500mm x 500mm, reinforcement 主筋: 8-D16, HOF筋: □-D13@100.

Labels and Dimensions:

- L-125x75x7 (L=150) @2000以内
- 中ボルト 2-M12 @2000以内
- ブレース面
- HSB20: H-200x100x5.5x8
- SP19M: H-194x150x8x9
- C-100x50x20x3.2 (SSC400)
- 50x50x3.2 (SSC400)
- G. PL-9
- HTB 2-M20
- SV31-TB-M16
- TOP筋: 2-□D13
- D10@150
- 無収縮モルタルt=30
- RSL (水上)
- 基礎f1
- 主筋: 8-D16
- HOF筋: □-D13@100
- B. PL-19x350x400
- A. BOLT 2x2-M16 (L=400, DN締, 定着板)

階段取り付け要領図

200 200 200 200 200

200 200 200 200 200

2400

400

RSL (水上)

無収縮モルタルt=30

CH. PL-4.5

PL-12x206

HTB 2-M16

PL-6

20.0%

350

25 300 25

150

75 200 75

B. PL-12x350x150
B. BOLT 2-M16
(L=400, 50N締, 定着板)

TOP筋: 2-□-D10
HOOP: □-D10@200

715

D10@200

F. PL (外): 2PL-9x150x290
F. PL (内): 4PL-9x60x290
W. PL: 2PL-9x80x290
F. HTB: 4x4-M20
W. HTB: 2x2-M20

b: H=150x150x7x10

F. PL (外): 2PL-9x175x290
F. PL (内): 4PL-9x70x290
W. PL: 2PL-9x140x290
F. HTB: 4x4-M20
W. HTB: 2x4-M20

d: H=244x175x7x11

Technical drawing showing the foundation and wall connection for a water tank (RSL (水上)).

Top View (Side Elevation):

- Wall height: 1500x75x5x7 (a)
- Wall thickness: 150x75x5x7 (a)
- Horizontal dimensions: 800, 290
- Reinforcement bars: d: H-244x175x7x11, J

Detail: bとbの取り合い部

- Reinforcement bars: 6 PL-9, HTB 2-M20
- Dimensions: b, b

Bottom View (Plan View):

- Foundation dimensions: 300, 200, 50, 250, 80, 400, 500
- Reinforcement bars: B. PL-16x300x250, A. BOLT 2x2-M20 (L=500 DN継, 定着板)
- Foundation material: 無収縮モルタルt=30
- Foundation type: 基礎f2, f3
- Reinforcement bars: 主筋: 8-D16, HOOP筋: □-D13@100

c-H-200x100x5.5x8

d-H-244x175x7x11

c-H-200x100x5.5x8

d-H-244x175x7x11

dとcの取り合い部

G, PL-9
HTB 2-M20

d

c

a-H-150x75x5x7

d-H-244x175x7x11

800

800

800

J

J

J

G, PL-6
HTB 2-M16

a-H-150x75x5x7

PL-6

110

無収縮モルタルt=30

RSL
(水上)

290

550

110

無収縮モルタルt=30

300

60

200

50

d-H-244x175x7x11

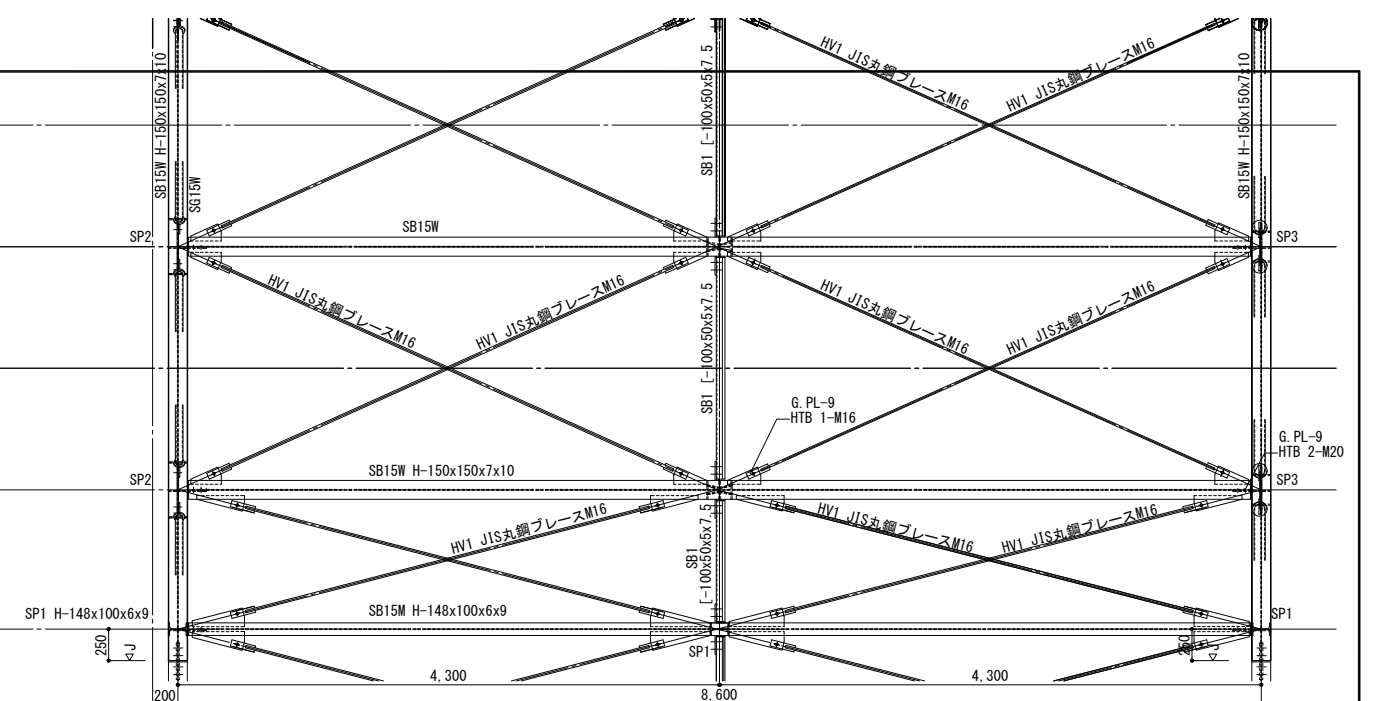
B, PL-16x350x350
A, BOLT 2x2-M20
(L=500, DN線, 定着板)

面番号

S125

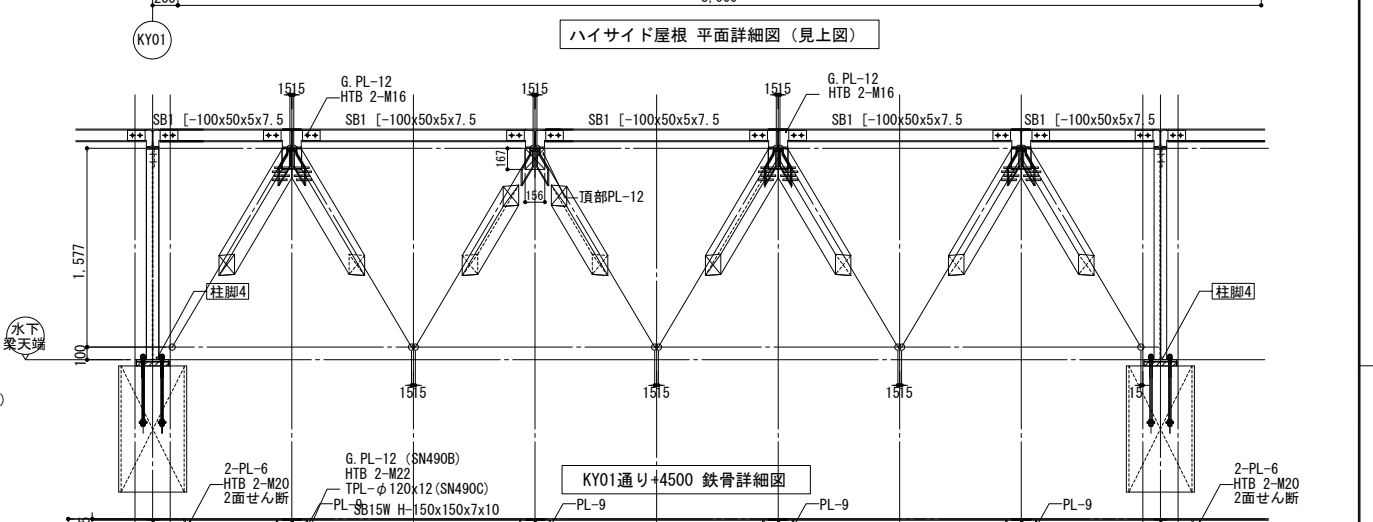
面番号

S126



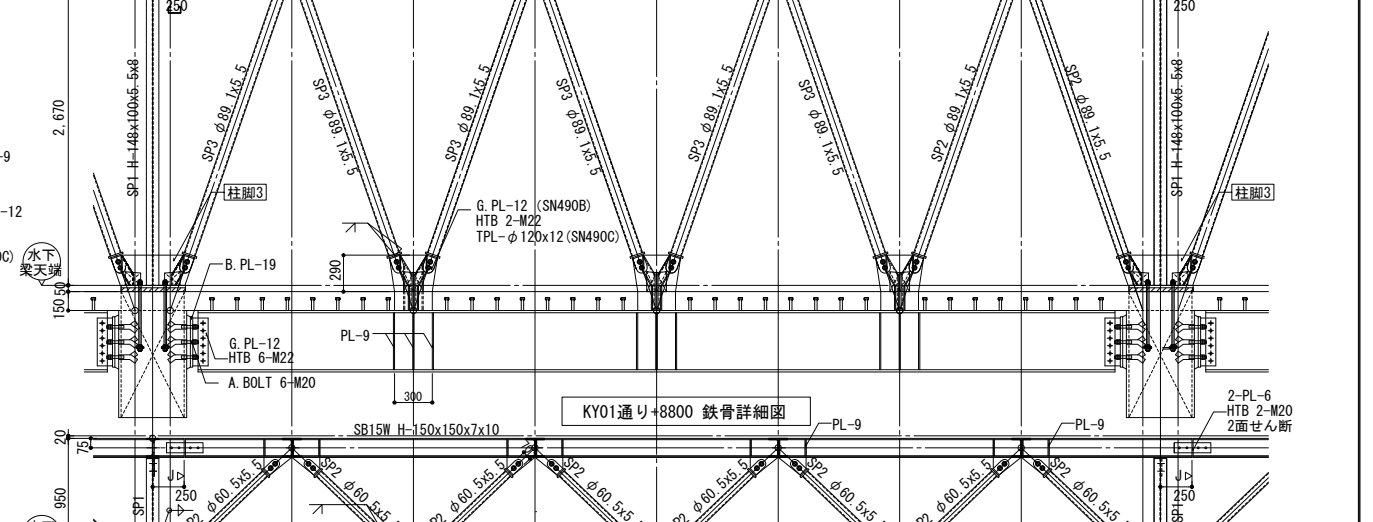
ハイサイド屋根 平面詳細図（見下図）

ハイサイド屋根 平面詳細図（見上図）



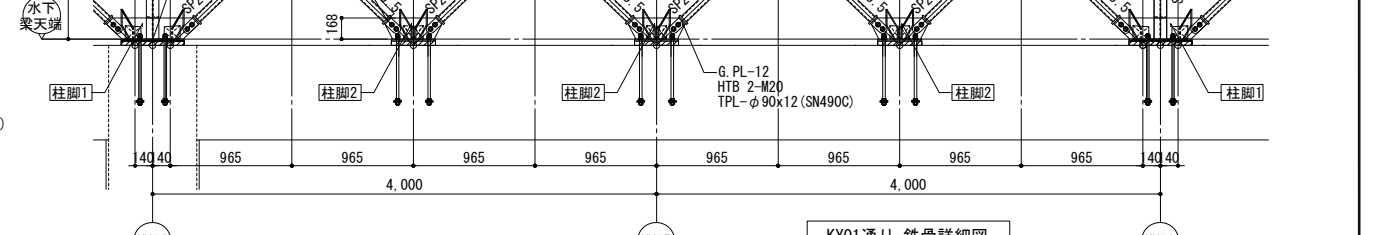
KX6+2000通り 断面詳細図

KY01通り+4500 鉄骨詳細図



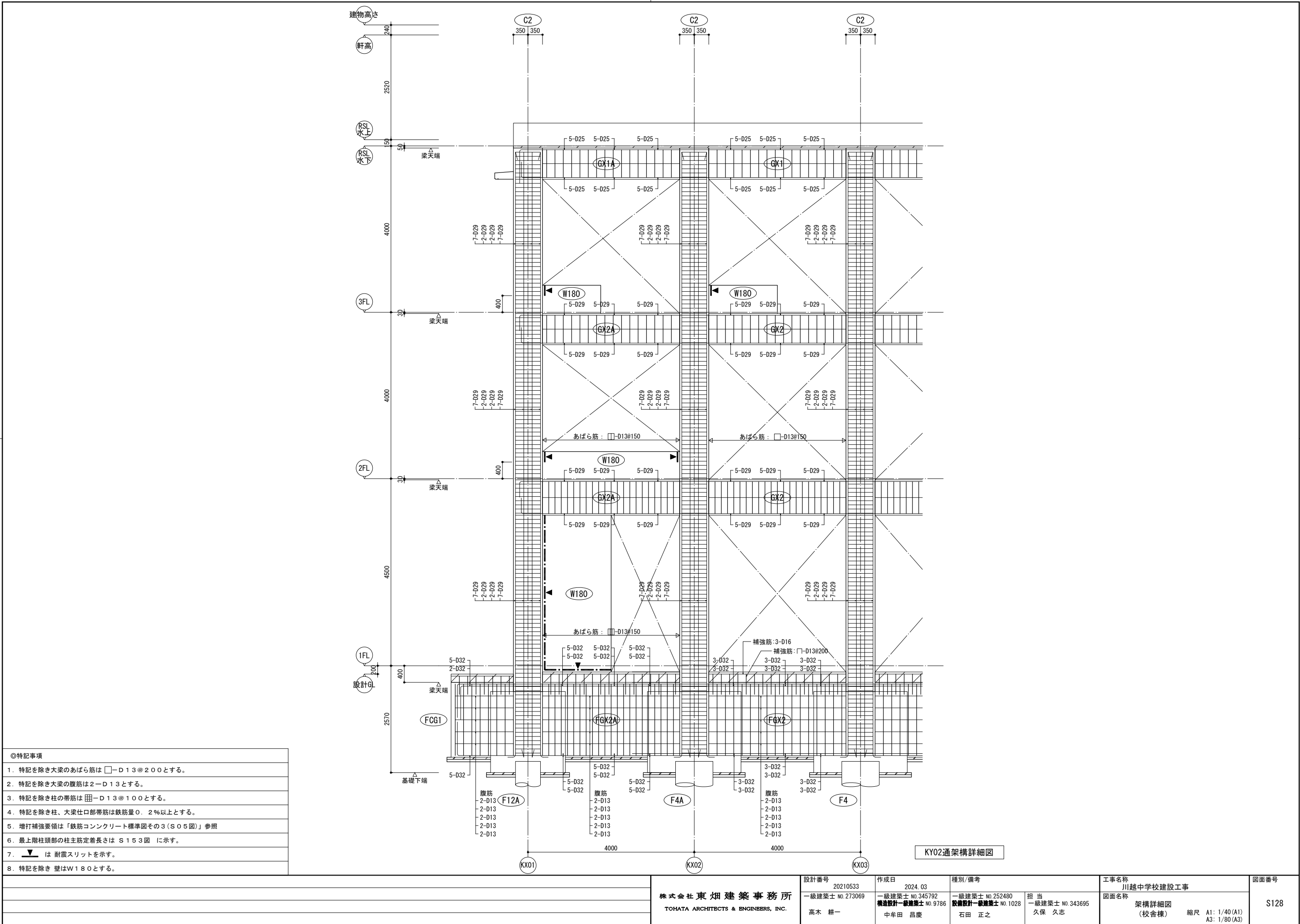
KX6通り 断面詳細図

KY01通り+8800 鉄骨詳細図	
-------------------	--



KY01通り 鉄骨詳細図

特記を除き、下記とする。	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S127
1. 鋼材の材質は SS400、高力ボルトはS10Tとする。		一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028	担当 一級建築士 No. 343695 久保 久志	図面名称 鉄骨詳細図その 6 (校舎棟)	
2. 鋼管の材質はSTK400とする。		高木 耕一	中牟田 昌廣	石田 正之		縮尺 A1: 1/30 (A1) A3: 1/60 (A3)	
3. ハイサイドの耐火被覆・耐火塗料範囲は意匠図による。							



◎特記事項
1. 特記を除き大梁のあばら筋は□-D13@200とする。
2. 特記を除き大梁の腹筋は2-D13とする。
3. 特記を除き柱の帯筋は田-D13@100とする。
4. 特記を除き柱、大梁仕口部帯筋は鉄筋量0.2%以上とする。
5. 増打補強要領は「鉄筋コンクリート標準図その3(S05図)」参照
6. 最上階柱頭部の柱主筋定着長さはS153図に示す。
7. ▼ は耐震スリットを示す。
8. 特記を除き 壁はW180とする。

株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		設計番号 20210533 一級建築士 No. 273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 架構詳細図 (校舎棟) 縮尺 A1: 1/40 (A1) A3: 1/80 (A3)	図面番号 S128
--	--	---	---	--	--	--------------

プレキャストプレストレストコンクリート工事特記仕様書

1. 一般事項

a. 適用の範囲

本仕様書は、本工事の内
(1) . プレキャストコンクリート柱（以下PCaRC柱という）
(2) . プレキャストプレストレストコンクリート大梁（以下PCaPC大梁という）
(3) . プレキャストコンクリート大梁（以下PCaRC大梁という）
及び、これに付随する部分について適用する。

b. 準拠基・規準

本仕様書・特記仕様書ならびに設計図書に図示されていない事項は、
(1) . 全国官報販売協同組合『2009年版プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』（2009年度版）
(2) . 日本建築学会『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』（2022年度版）
(3) . 日本建築学会『プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅱ種PC）構造設計・施工指針・同解説』（2003年度版）
(4) . 日本建築学会『鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説』（2021年度版）
(5) . 日本建築学会『建築工事標準仕様書・同解説（JASS5）鉄筋コンクリート工事』（2022年度版）
(6) . 日本建築学会『建築工事標準仕様書・同解説（JASS10）プレキャストコンクリート工事』（2013年度版）
による。又、これらに指示されていない事項は、監督職員の指示によるものとする。

ただし、グラウト工事については
プレストレスト・コンクリート建設業協会
『PCグラウト施工マニュアル 建築編 2013』（2013年版）による。
『プレストレストコンクリート工事における緊張管理の手引き（建築編）』（2019年版）による。

c. 構造方式・プレストレス導入方式

本建築物の構造方式・プレストレス導入方式は下記の通りとする。

(1) . PCaRC柱・PCaPC大梁・PCaRC大梁は工場に於いて、プレキャスト部材として製作する。
(2) . PCaPC大梁は工場に於いて、プレテンション方式でプレストレスを導入する。
(3) . PCaPC大梁は現場に於いて、ポストテンション方式でプレストレスを導入する。

d. 製作要領

プレキャスト部材の製作にあたっては事前に調合計画、製造方法、養生方法等を検討し、「製作要領書」を監督職員に提出して、その承諾を受けた後に製作を行うものとする。
又、使用材料のミルシートを提出するものとする。

e. 施工計画

施工の順序・方法・工程等の施工計画は、工事着手前によく検討し、「施工計画書」を監督職員に提出して、その承諾を受けた後に施工を行うものとする。

2. 材料

a. 鉄筋

鉄筋コンクリート用棒鋼（JIS G 3112）SD295 D16以下
SD345 D19以上~D25以下
SD390 D29以上
SD390 S13

高強度せん断補強筋
KSS785 S13

b. PC鋼材

PC鋼より線（JIS G 3536）

使 用 場 所	工場緊張	現場緊張（PC梁二次、三次）
用 途	プレテンション用	ポストテンション用
使 用 鋼 材	SWPR7BL-φ15.2mm	
引 張 荷 重	261.0 kN／本	
降 伏 荷 重	222.0 kN／本	
許容引張荷重	導 入 時	188.70 kN／本
	定 着 時	177.60 kN／本
緊張端部設計導入力	177.60 kN／本	
伸 び	3.5 % 以上	

＊ 一時的に過緊張する場合には降伏荷重の0.9倍まで許容するものとする。

c. 鉄筋継手

（財）日本建築センターのA級継手としての評定または評価を取得している継手工法とする。
ただし、柱主筋の鉄筋継手は、モルタル充填式鉄筋継手とし、全てSA級継手とすること。

d. セメント

セメントはJIS R 5210に規定する普通または早強ポルトランドセメントとする。

e. コンクリート

コンクリートの品質は下表の通りとし、その調査は試験練りにより定めることを原則とする。
但し、試験練りの実施については、製造工場に実績がある場合は省略することも出来るものとする。

使 用 場 所	PCaRC柱	PCaPC大 梁	PCaRC大梁		現場打ち部
設 計 基 準 強 度	N／mm ² 60	60	端部（PCa）	中央（現場打ち）	
プレストレス導入時圧縮強度	工場緊張	N／mm ² 30	30	30	30
	現場緊張	N／mm ² 48	48	48	24

f. 混和材

コンクリート中に混和材を用いる場合は、その品質・使用量について監督職員の承諾を受けるものとする。

g. プレストレッシング定着工法

（財）日本建築センターの評定または評価を取得している定着工法（VSL工法等）とする。

3. 型枠及びPC鋼材の配置

a. プレキャスト部材の型枠は、鋼製とし、振動・取り外し・組立・放置等の為に狂いが生じないように充分強固にし、コンクリート打設作業中に支障のないように製造するものとする。

b. PC鋼材は所定位置に正しく配置し、コンクリート打設作業中に狂いが生じないように、組立鉄筋・スターラップ等に緊結するものとする。

c. PC鋼材位置の許容誤差は下記によるものとする。

(1) プレテンション（一次緊張）PC鋼材位置	±5.0 mm
(2) ポストテンション（二次・三次緊張）PC鋼材位置	
部材の最小寸法が60cm未満の部分	±10 mm
部材の最小寸法が60cm以上の部分	±15 mm
上記の許容差は、垂直・水平の方向に別々に適用するものとする。	

4. コンクリートの打ち込み、養生

a. コンクリートの打ち込みにあたっては、打設方法・締め固め・養生方法等についてあらかじめ監督職員の承諾を受けるものとする。

b. コンクリートは層状に端部より中央に打ち進め、間断なく作業するものとする。

c. コンクリートの打ち込みには、型枠振動機又は内部振動機を用いて充分振動締め固めを行うものとする。

d. コンクリート打設後は十分な湿度を与え養生するのはもちろんであるが、プレストレス導入に要する強度に達するまでは特に慎重に養生するものとする。

5. 試験及び検査

a. コンクリートの圧縮試験用供試体は、直径10cm・高さ20cmの標準供試体モールドを用いて製作する。

b. プレストレス導入時の圧縮強度試験用供試体の養生は製作中の部材と同一養生とし、材令28日の圧縮強度試験用供試体の養生は標準養生とする。

c. プレストレス導入時の圧縮強度試験及び材令28日の圧縮強度試験は、それぞれ一回の打設につき3個の供試体について行い、その結果を記録するとともに監督職員に報告するものとする。

d. 材令28日の圧縮強度が、試験の結果所要の強度に達しない部材は、不合格とする。

6. プレストレッシング

a. プレストレス導入の時期は、コンクリートの圧縮強度が 2. 材料 e. コンクリート に示すプレストレス導入時圧縮強度に達した後とする。

b. プレストレッシングの管理は、ジャッキ圧力計の張力とPC鋼材の伸び量を測定して行うものとする。

7. グラウト工事

a. 目的

グラウトは、PC鋼材を充分に包み込みPC鋼材を錆びさせないように保護するとともに、PC鋼材とコンクリートとの付着を得ることを目的とする。

b. 配合

グラウトの配合は次を標準とし圧縮強度は30N／mm²以上とする。
セメント・・・普通ポルトランドセメント

水 セメント 比	45%以下
混和剤（ノンブリージングタイプ）	セメント量の1.0%

グラウトの練り混ぜは電動グラウトミキサーを使用するものとする。
プレミックスタイプを使用する場合は、監督職員の承諾を得る。

c. 強度試験

グラウトの圧縮試験用供試体は、直径5cm・高さ10cmの標準供試体モールドを用いて製作する。
グラウトの材令28日の圧縮強度試験は、注入作業日の1パッチ目に1回で3個の供試体について行い、その結果を記録するとともに監督職員に報告するものとする。

d. 作業

(1) . シース内の閉塞の有無を確認する。
(2) . グラウトの注入は、グラウトポンプを用いシース内に空隙を残さないように入念に行う。
(3) . 排出孔より流出するグラウトが注入孔より注入するものと同じ濃度になるまで注入を続け、排出孔を塞ぐ。
(4) . 排出孔を塞いだ後に続いて注入孔を塞ぐ。

8. 目地モルタル

接合部の目地に用いるモルタルは無収縮モルタルとし、設計基準強度は部材本体のコンクリート設計基準強度以上とする。また、プレストレス導入時圧縮強度は 24 N／mm²以上とする。

9. PC鋼材の端部処理（保護モルタル）

PC鋼材定着員の露出部は、プレストレス導入後すみやかに無収縮モルタルで完全に保護するものとする。

10. 架設及び据え付け

a. 据え付けは、所定の位置・高さに正確に据え付けるものとする。

b. 1階柱脚部のPCaRC柱取合い用柱主筋はテンプレート等を作成し、所定の位置に正確に配置するものとする。
尚、寸法に誤差が生じた場合は監督職員と協議の上、対処方法を決定するものとする。

11. PC専門業者

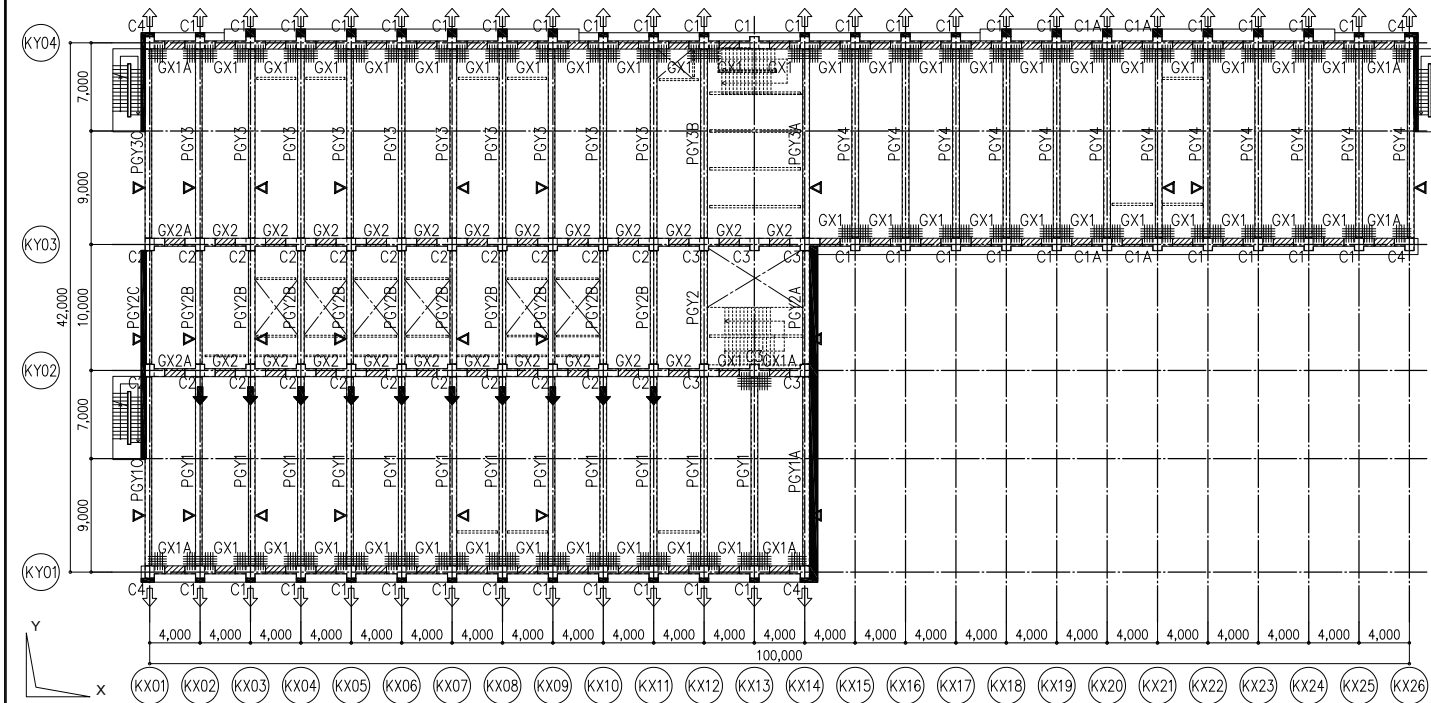
プレキャストコンクリート工事の施工は、PC専門業者の責任施工とする。
PC専門業者は下記によることとし監督職員の承諾を受けること。
・株式会社 建研
・オリエンタル白石 株式会社
・株式会社 ビーエス三菱

尚、施工の範囲はPCaRC柱・PCaPC大梁・PCaRC大梁の製作、運搬、架設、据え付けおよびPC鋼材の配置・緊張・グラウトまでの一式とする。

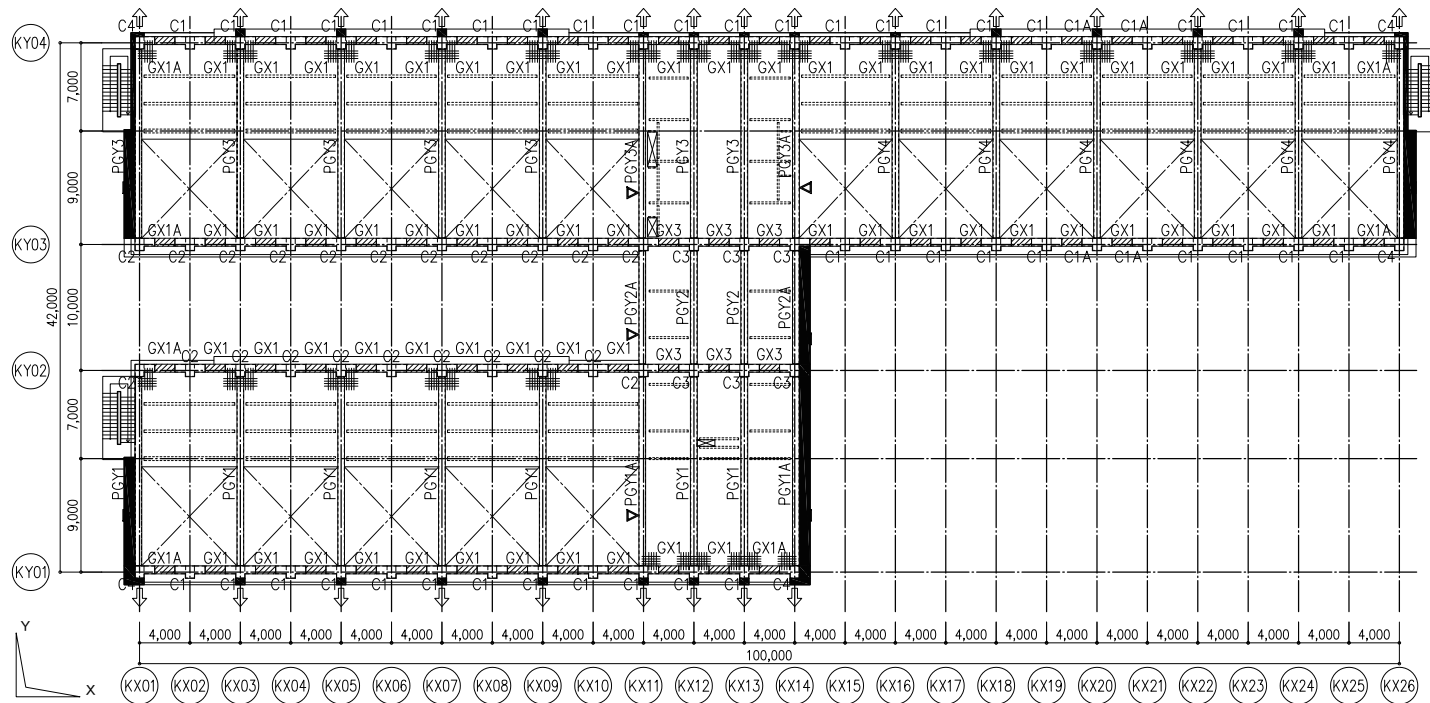
12. 梁貫通孔について

PCaPC大梁に設備用貫通孔を設ける場合は要領について別途検討し、監督職員の承諾を受け決定する。

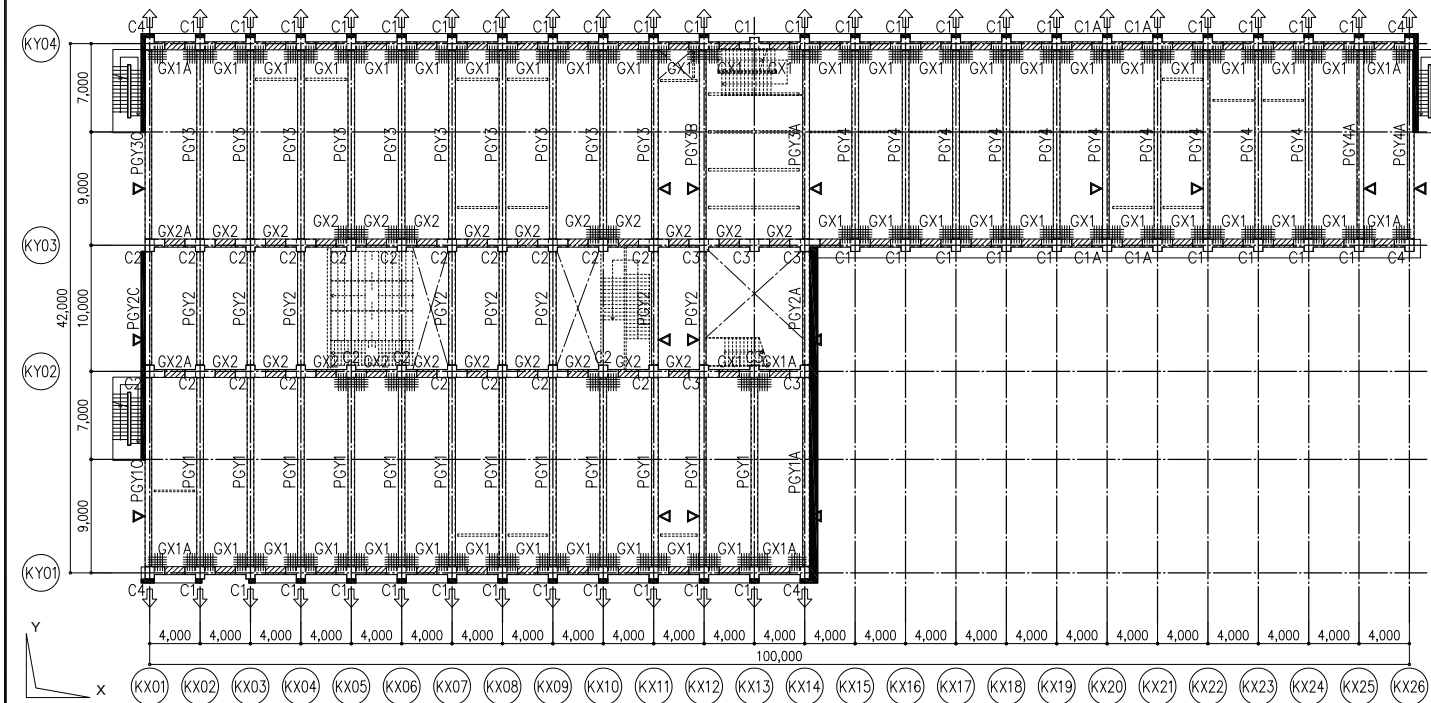
	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号	20210533	作成日	2024. 03	種別/備考	工事名称	図面番号
		一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792	一級建築士 No. 252480	担 当	川越中学校建設工事	S151	
		高木 耕一	構造設計一級建築士 No. 9786	設備設計一級建築士 No. 1028	一級建築士 No. 343695	図面名称		
			中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志	プレキャストプレストレストコンクリート工事特記仕様書 （校舎棟） 縮尺 A1: A3:		



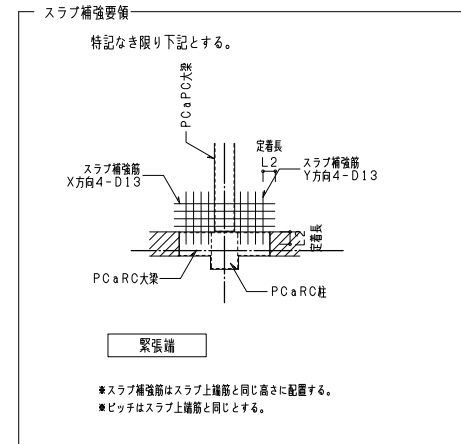
- 特記なき限り下記とする。
- ◁▷ は緊張方向（2次・3次緊張）を示す。
 - は鉄骨小梁を示す。
 - ▨ は現場打ちCONを示す。
 - ▲ は緊張方向（2次緊張）を示す。
 - は緊張後コンクリートあと施工範囲を示す。
 - ▷・◁ はPCaPC梁が柱面=梁面となる面を示す。



- 特記なき限り下記とする。
- ◁▷ は緊張方向（2次・3次緊張）を示す。
 - は鉄骨小梁を示す。
 - ▨ は現場打ちCONを示す。
 - は緊張後コンクリートあと施工範囲を示す。
 - ▷・◁ はPCaPC梁が柱面=梁面となる面を示す。



- 特記なき限り下記とする。
- ◁▷ は緊張方向（2次・3次緊張）を示す。
 - は鉄骨小梁を示す。
 - ▨ は現場打ちCONを示す。
 - は緊張後コンクリートあと施工範囲を示す。
 - ▷・◁ はPCaPC梁が柱面=梁面となる面を示す。



- ※スラブ補強筋はスラブ上端筋と同じ高さに配置する。
※ピッチはスラブ上端筋と同じとする。

株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		設計番号 20210533 一級建築士 NO.273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 NO.345792 構造設計一級建築士 NO.9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 NO.252480 設備設計一級建築士 NO.1028 石田 正之	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 PCa部材KEYPLAN (校舎棟) 縮尺 A1: 1/300 (A1) A3: 1/600 (A3)	図面番号 S152
			担当 一級建築士 NO.343695 久保 久志			

RC柱断面表 1/50

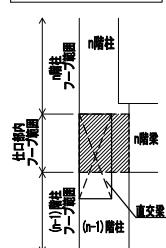
1. () 印は寄せ筋を示す。
2. 柱 joint位置の主筋は鉄筋接手（認定品）により接合するものとする。
3. 仕口部の帯筋は鉄筋量0.2%以上とし、特記外 ㊦D13@150とする。
4. 納まり上フープピッチが広くなる箇所は上下にわけて、等量の鉄筋を配置する。

符 号	C1	C1A	C2	C3	C4
3 階					
X × Y	700×950	700×950	700×950	700×950	700×950
主 筋	18-D29	18-D29	18-D29	18-D29	18-D29
帯 筋	㊦D13@100	㊦D13@100	㊦D13@100	㊦D13@100	㊦D13@100
2 階					
X × Y	700×950	700×950	700×950	700×950	700×950
主 筋	18-D29	18-D29	18-D29	18-D29	18-D29
帯 筋	㊦D13@100	㊦D13@100	㊦D13@100	㊦D13@100	㊦D13@100
1 階					
X × Y	700×950	700×950	700×950	700×950	700×950
主 筋	18-D29	18-D29	22-D29	18-D29	18-D29
帯 筋	㊦S13@100	㊦S13@100	㊦S13@100	㊦S13@100	㊦S13@100

最上階柱頭部 配筋要領

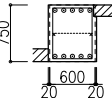
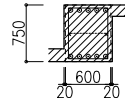
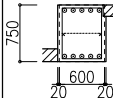
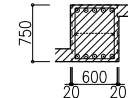
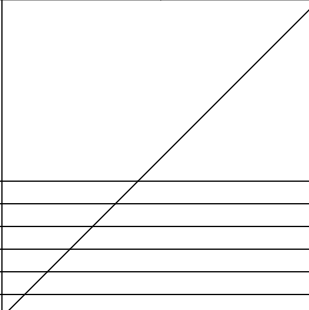
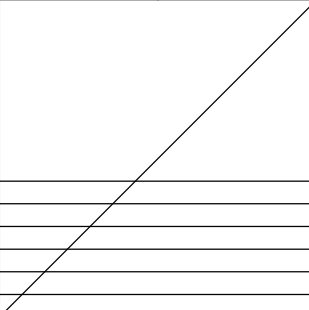
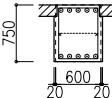
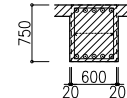
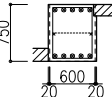
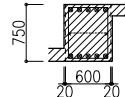
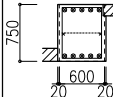
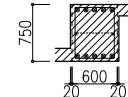
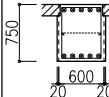
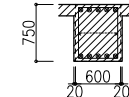
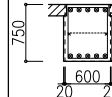
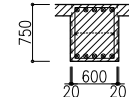
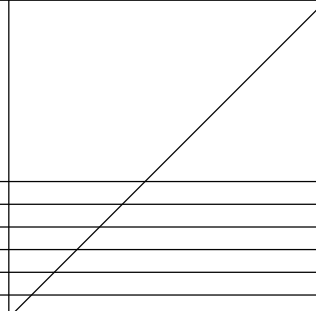
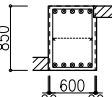
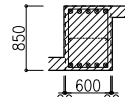
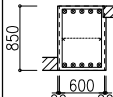
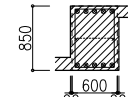
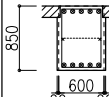
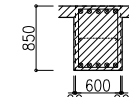
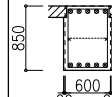
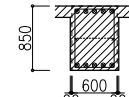
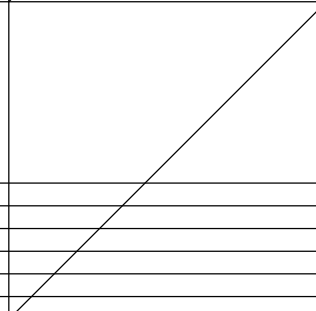
四隅以外の直線定着部について、
直線定着長Lが主筋径D29で
21d(609mm)以上かつ
(3/4)D以上確保する。

仕口部内フープ筋の範囲



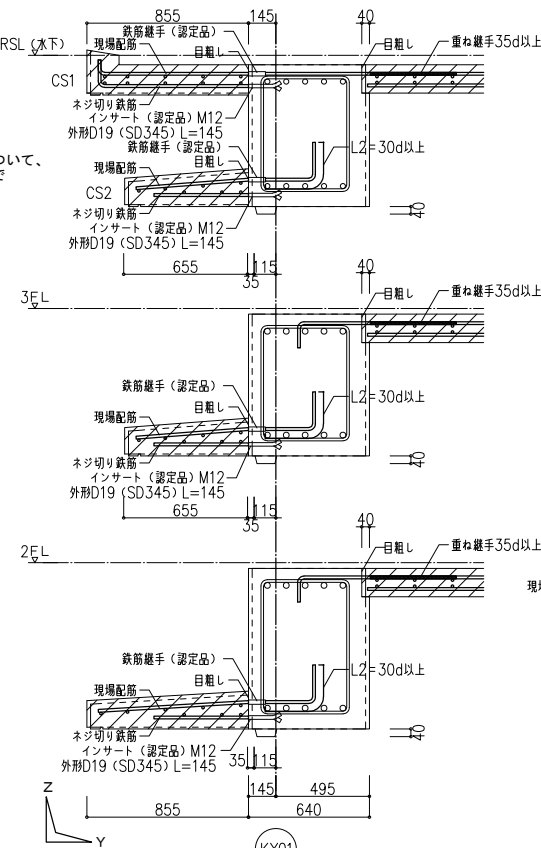
RC大梁断面表 1/50

1. 特記を除き、大梁カットオフ筋長さは 端部：Lo/4+15d・中央部：Lo/4+20dを採用すること
2. ㊦は、現場打ちコンクリートを示す。

符 号	G X 1		G X 1 A		G X 2		G X 2 A		G X 3	
位 置	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部
R 階										
B × D	600 X 750		600 X 750						600 X 750	
上 端 筋	5-D25		5-D25						5-D25	
下 端 筋	5-D25		5-D25						5-D25	
腹 筋	2-D13		2-D13		2-D13		2-D13		2-D13	
あばら筋	□-D13@200		□-D13@200						□-D13@200	
カットオフ長さ	-		-						-	
3 階										
B × D	600 X 750		600 X 750		600 X 750		600 X 750			
上 端 筋	5-D29		5-D29		5-D29		5-D29			
下 端 筋	5-D29		5-D29		5-D29		5-D29			
腹 筋	2-D13		2-D13		2-D13		2-D13		2-D13	
あばら筋	□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	
カットオフ長さ	-		-		-		-			
2 階										
B × D	600 X 850		600 X 850		600 X 850		600 X 850			
上 端 筋	5-D29		5-D29		5-D29		5-D29			
下 端 筋	5-D29		5-D29		5-D29		5-D29			
腹 筋	2-D13		2-D13		2-D13		2-D13		2-D13	
あばら筋	□-D13@150		□-D13@150		□-D13@150		□-D13@150		□-D13@150	
カットオフ長さ	-		-		-		-			

鉄筋継手および差し筋の配筋

符号	上端筋	下端筋
DS1・2	D13@100	—
DS11・12・13・14・15	D13@200	—
CS1・2・3・4・5	D13@100	D13@100



A 断面

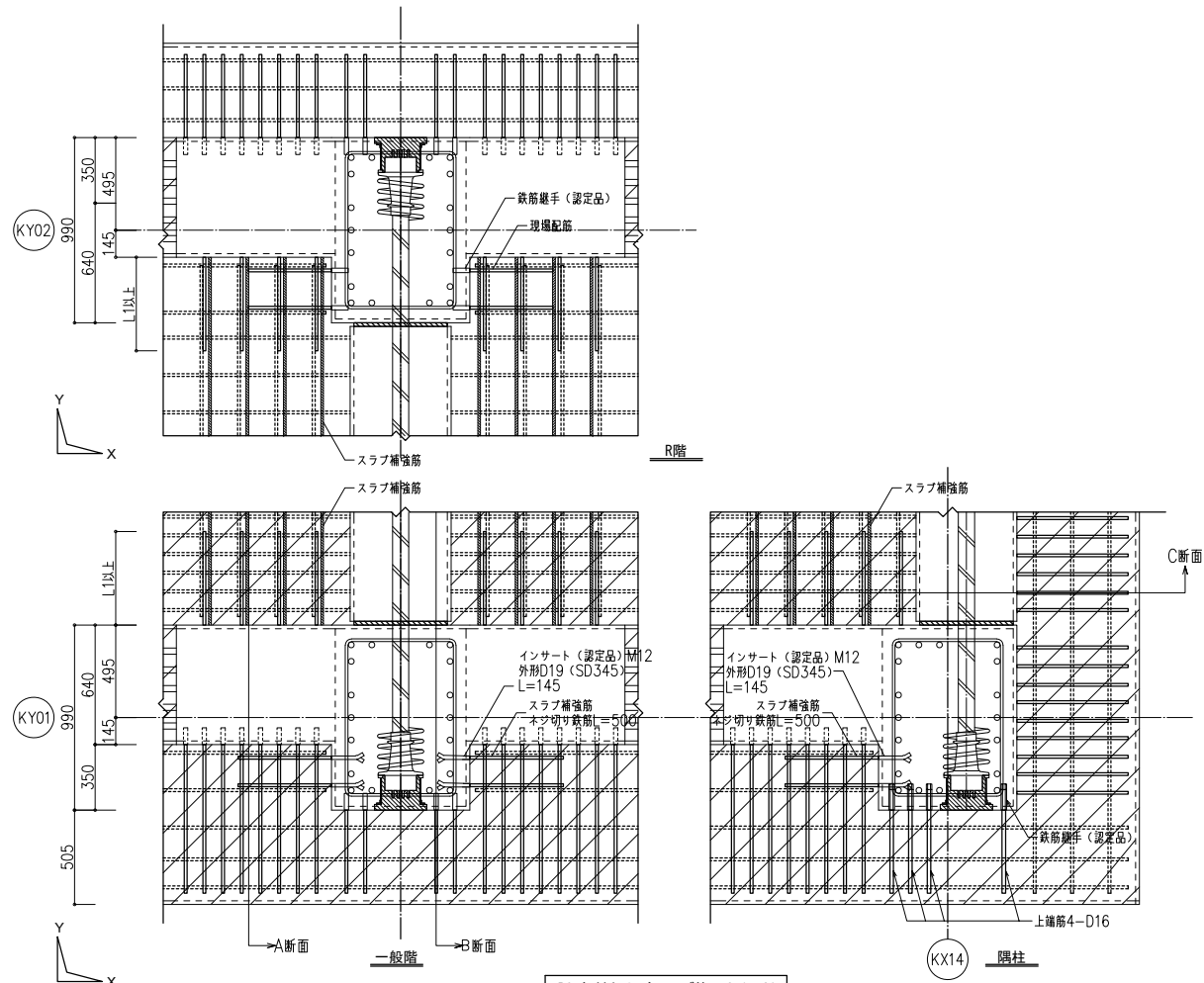
※定着長は「標準図」、「床版配筋表」に倣う

B 断面

※定着長は「標準図」、「床版配筋表」に倣う

C 断面

※定着長は「標準図」、「床版配筋表」に倣う



PCa部材およびスラブ筋 S=1:20

※ ㊦は、現場打ちコンクリートを示す。

株式会社東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号 20210533
一級建築士 No.273069
高木 耕一

作成日 2024.03
一級建築士 No.345792
構造設計一級建築士 No.9786
中牟田 昌慶

種別/備考
一級建築士 No.252480
設備設計一級建築士 No.1028
石田 正之

担 当
一級建築士 No.343695
久保 久志

工事名称
川越中学校建設工事
図面名称
PCaRC部材リスト
(校舎棟)
縮尺 A1:1/50(A1)
A3:1/100(A3)

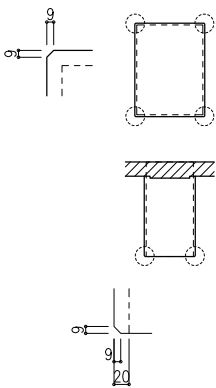
図面番号
S153

PC梁断面表(1) 1/40

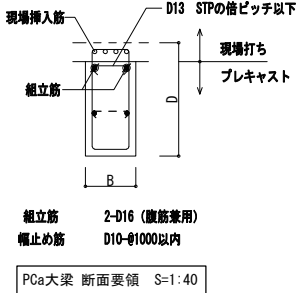
1. 斜線は、現場打ちコンクリートを示す。
2. PC鋼材高さは配線図を参照のこと。

符 号	PGY 1		PGY 1 A		PGY 1 C		PGY 2		PGY 2 A		PGY 2 B		PGY 2 C	
位 置	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部
R 階														
B × D	500X1100		500X1100				500X950		500X950					
上 端 筋	4-D19		4-D19				4-D19		4-D19					
下 端 筋	4-D19		4-D19				4-D19		4-D19					
腹 筋	2-D16+2-D10		2-D16+2-D10				2-D16+2-D10		2-D16+2-D10					
あばら筋	□-D13@100 □-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200		□-D13@100 □-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200							
PC鋼材	×一次緊張 φ二次緊張 ※三次緊張		4-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-6-SWPR7BL-φ15.2mm 2c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-6-SWPR7BL-φ15.2mm 2c-12-SWPR7BL-φ15.2mm					
備 考	-		-				-		-					
3 階														
B × D	500X1000		500X1100		500X1100		500X950		500X950		500X950		500X950	
上 端 筋	4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19	
下 端 筋	4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19	
腹 筋	2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10	
あばら筋	□-D13@100 □-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200		□-D13@100 □-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200		□-D13@100 □-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200	
PC鋼材	×一次緊張 φ二次緊張 ※三次緊張		4-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-9[7]-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-8-SWPR7BL-φ15.2mm 2c-11-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-8-SWPR7BL-φ15.2mm 2c-11-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-9[7]-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-5-SWPR7BL-φ15.2mm 2c-10-SWPR7BL-φ15.2mm	
備 考	[]はKX05, 06, 10通りを示す。		-		-		-		-		[]はKX05, 06, 10通りを示す		-	
2 階														
B × D	500X1000		500X1100		500X1100		500X950		500X950				500X950	
上 端 筋	4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19				4-D19	
下 端 筋	4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19				4-D19	
腹 筋	2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10				2-D16+2-D10	
あばら筋	□-D13@100 □-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200		□-D13@100 □-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200		▨-D13@100 ▨-D13@200	
PC鋼材	×一次緊張 φ二次緊張 ※三次緊張		4-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-10-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-5-SWPR7BL-φ15.2mm 2c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-10-SWPR7BL-φ15.2mm 1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-8-SWPR7BL-φ15.2mm 2c-11-SWPR7BL-φ15.2mm				1c-5-SWPR7BL-φ15.2mm 2c-12-SWPR7BL-φ15.2mm	
備 考	-		-		-		-		-				-	

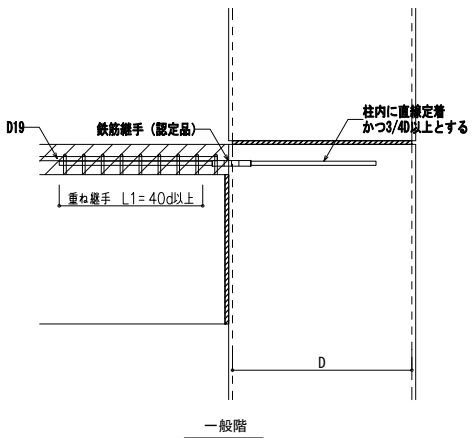
面取り要領 S=1:5, 1:40



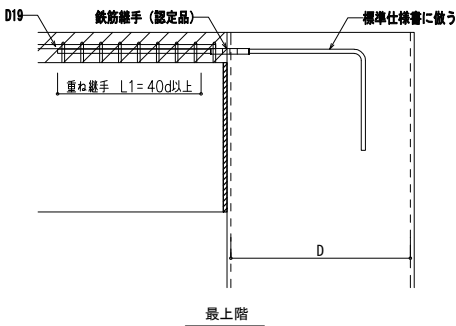
梁底面面取り要領 S=1:5



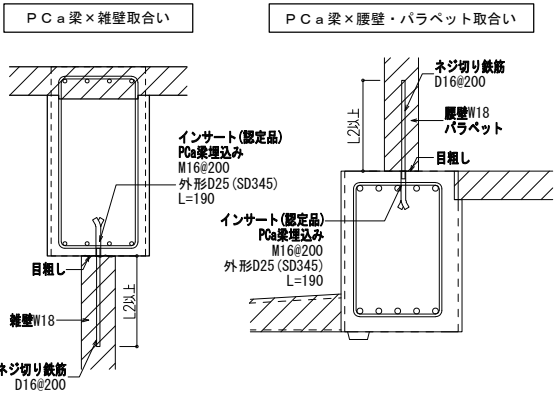
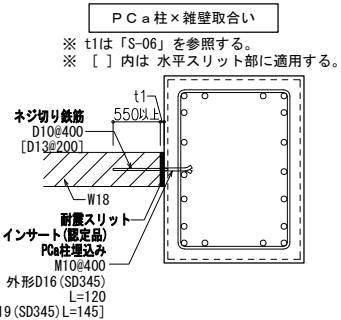
PCa大梁 断面要領 S=1:40



PCaPC大梁 上端筋柱内定着 概要図 S=1:20



上端筋柱内定着 必要箇所リスト				
通り	階	符号	位置	
			左端	右端
KX01	R	PGY1	-	2-D19
KX07	3	PGY1	-	4-D19
	2	PGY3	4-D19	-
KX08	3	PGY1	-	4-D19
KX09	3	PGY1	-	4-D19
	3	PGY3	4-D19	-
KX11	3	PGY1	-	4-D19
	3	PGY3	4-D19	-
KX12	3	PGY3B	2-D19	-
KX25	2	PGY4A	4-D19	4-D19
KX26	2	PGY4A	4-D19	4-D19



※ PCaPC大梁に取り付け垂れ壁・腰壁・バラベットの
緊張後コンクリートあと施工とする。

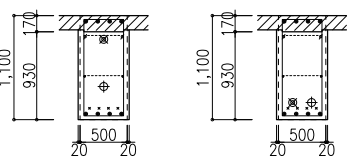
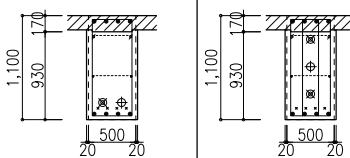
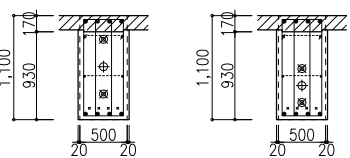
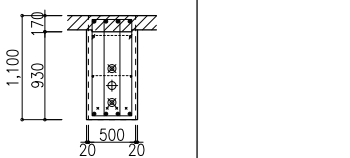


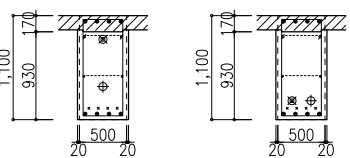
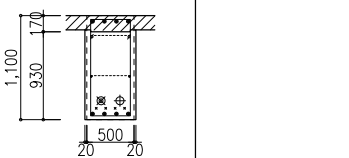

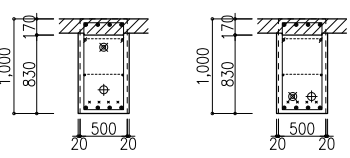
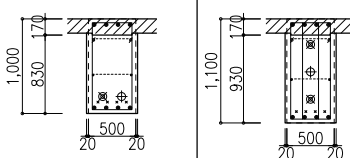
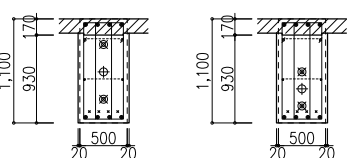
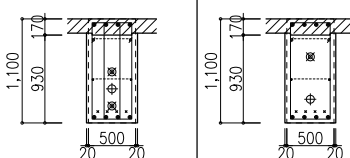
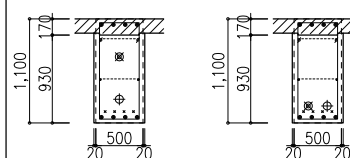
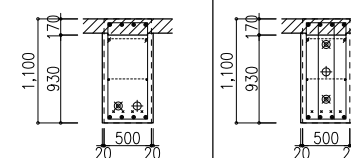
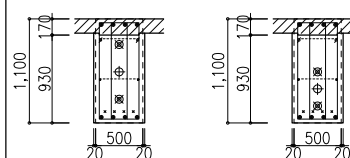
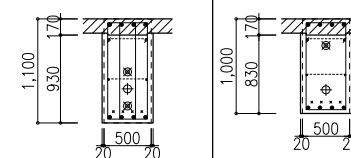
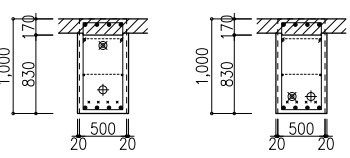
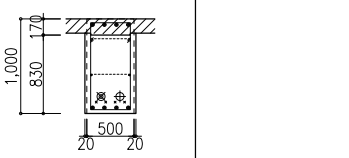

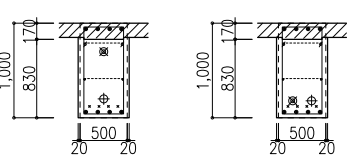
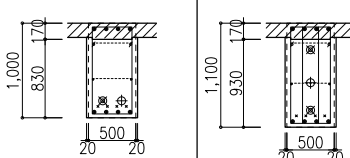
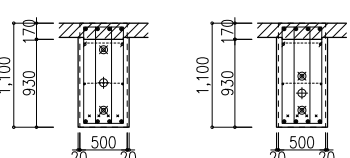
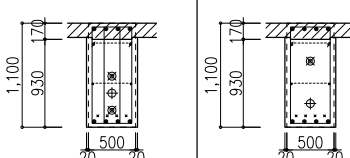
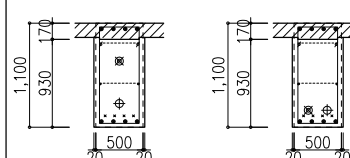
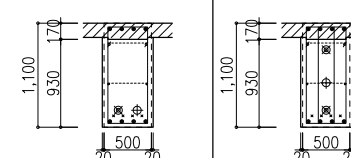
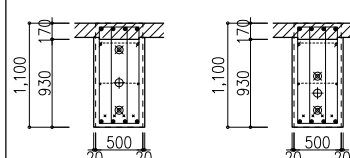
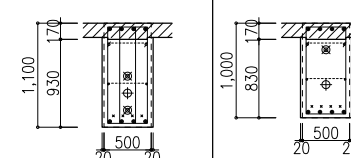
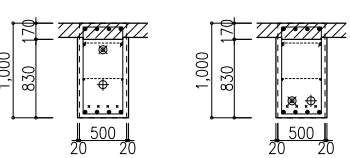
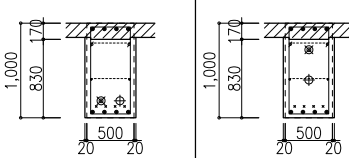
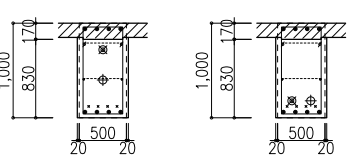
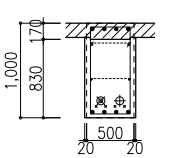
株式会社東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

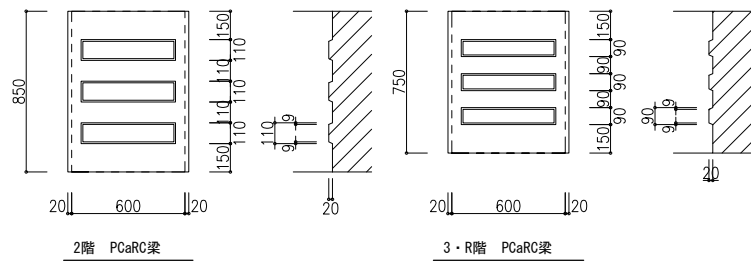
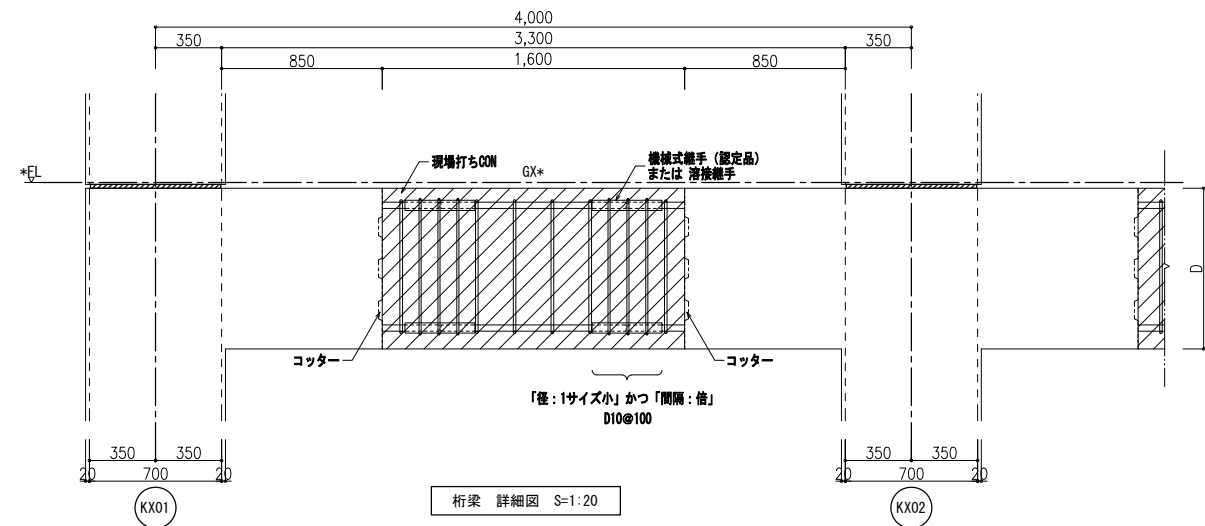
設計番号 20210533
作成日 2024. 03
一級建築士 No. 345792
構造設計一級建築士 No. 9786
高木 耕一
中牟田 昌慶

設計番号 20210533
作成日 2024. 03
一級建築士 No. 252480
設備設計一級建築士 No. 1028
石田 正之

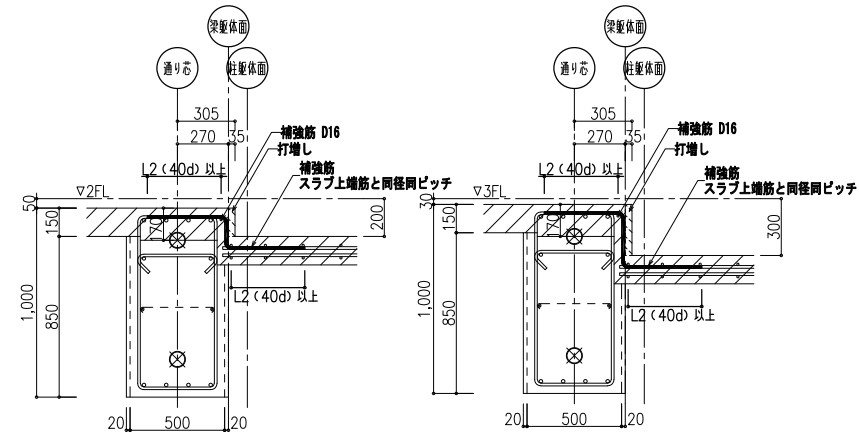
工事名称 川越中学校建設工事
図面名称 PCaPC部材リスト その1
(校舎棟) 縮尺 A1: 1/40(A1)
A3: 1/80(A3)

図面番号 S154

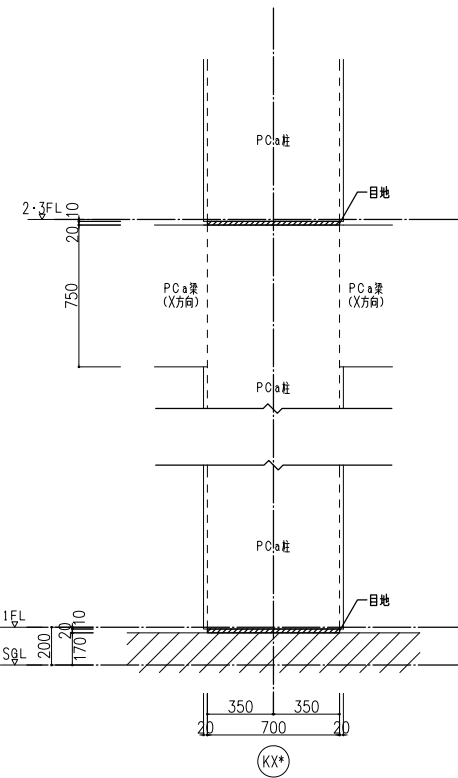
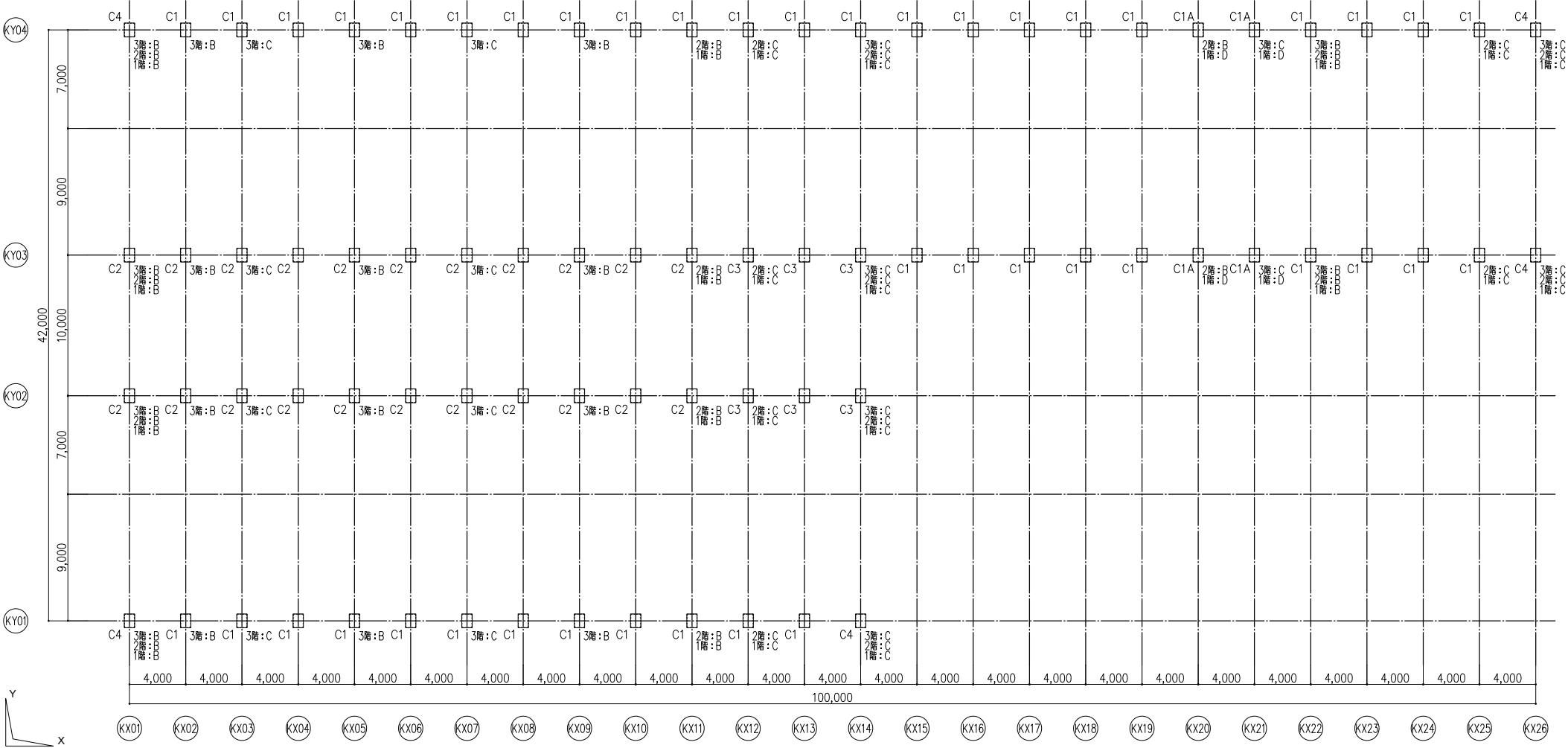
符 号	PGY 3		PGY 3 A		PGY 3 B		PGY 3 C		PGY 4		PGY 4 A	
位 置	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部	端 部	中央部
R 階												
B × D	500X1100		500X1100						500X1100			
上 端 筋	4-D19		4-D19						4-D19			
下 端 筋	4-D19		4-D19						4-D19			
腹 筋	2-D16+2-D10		2-D16+2-D10						2-D16+2-D10			
あばら筋	□-D13@100	□-D13@200	▨-D13@100	▨-D13@200					□-D13@100	□-D13@200		
P C 鋼 材	×一次緊張		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm	
	○二次緊張		1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-6-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-5-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm	
	■三次緊張		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		2c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		2c-10-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm	
	備 考		-		-		-		-		-	
3 階												
B × D	500X1000		500X1100		500X1100		500X1100		500X1000			
上 端 筋	4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19			
下 端 筋	4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19			
腹 筋	2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10			
あばら筋	□-D13@100	□-D13@200	▨-D13@100	▨-D13@200	□-D13@100	□-D13@200	▨-D13@100	▨-D13@200	□-D13@100	□-D13@200		
P C 鋼 材	×一次緊張		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm	
	○二次緊張		1c-9[7]-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-8-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-5-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm	
	■三次緊張		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		2c-11-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm	
	備 考		[]はKX05.06.10通りを示す。		-		-		-		-	
2 階												
B × D	500X1000		500X1100		500X1100		500X1100		500X1000		500X1000	
上 端 筋	4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19	
下 端 筋	4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19		4-D19	
腹 筋	2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10		2-D16+2-D10	
あばら筋	□-D13@100	□-D13@200	▨-D13@100	▨-D13@200	□-D13@100	□-D13@200	▨-D13@100	▨-D13@200	□-D13@100	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@200
P C 鋼 材	×一次緊張		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm		4-SWPR7BL-φ15.2mm	
	○二次緊張		1c-10-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-10-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-5-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-9-SWPR7BL-φ15.2mm	
	■三次緊張		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		2c-11-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm		1c-12-SWPR7BL-φ15.2mm	
	備 考		-		-		-		-		-	



コッター形状詳細図 S=1:20



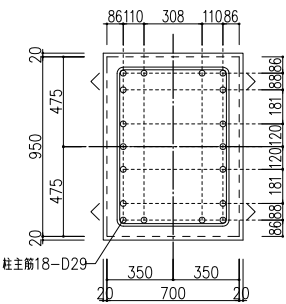
打増し補強筋詳細図 S=1:20



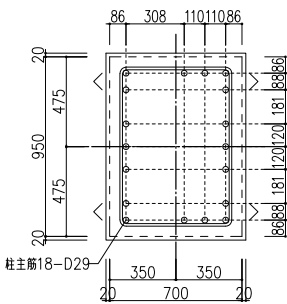
各階柱目地位置 S=1:20

各階柱主筋アンカープラン図 S=1:200

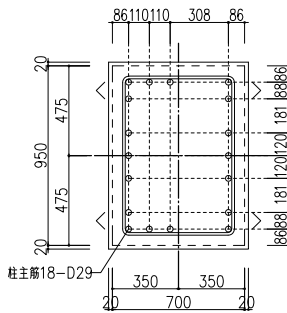
*特記なき限り『アンカープランA』とする。



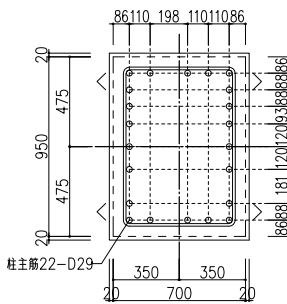
アンカープラン A S=1:20



アンカープラン B S=1:20

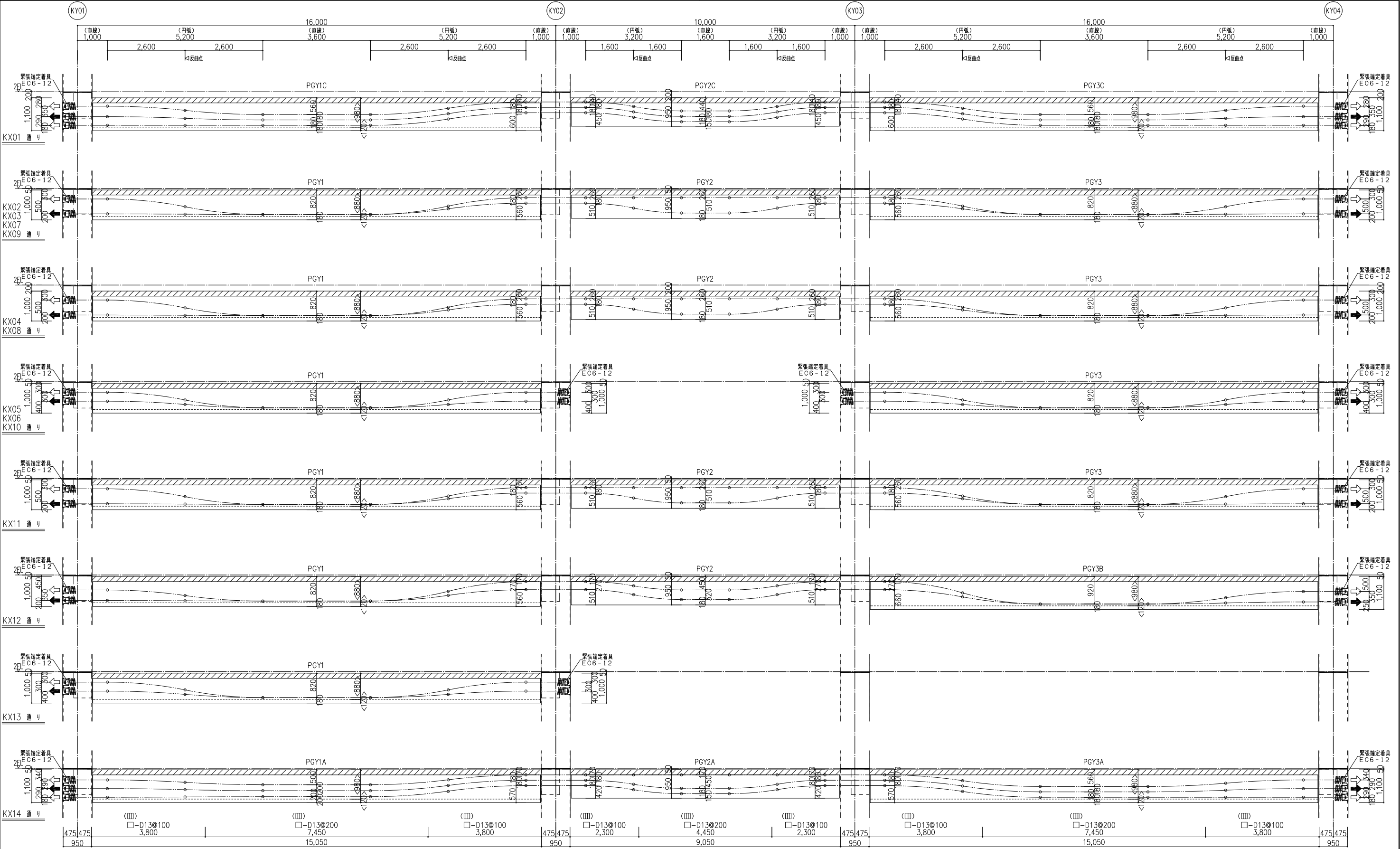


アンカープラン C S=1:20



アンカープラン D S=1:20

	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S156
		一級建築士 NO. 273069	一級建築士 NO. 345792 構造設計一級建築士 NO. 9786	一級建築士 NO. 252480 設備設計一級建築士 NO. 1028	担 当 一級建築士 NO. 343695 久保 久志	図面名称 各階柱主筋アンカープラン図 (校舎棟)	
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之		縮尺 A1: 1/200, 20 (A1) A3: 1/400, 40 (A3)	

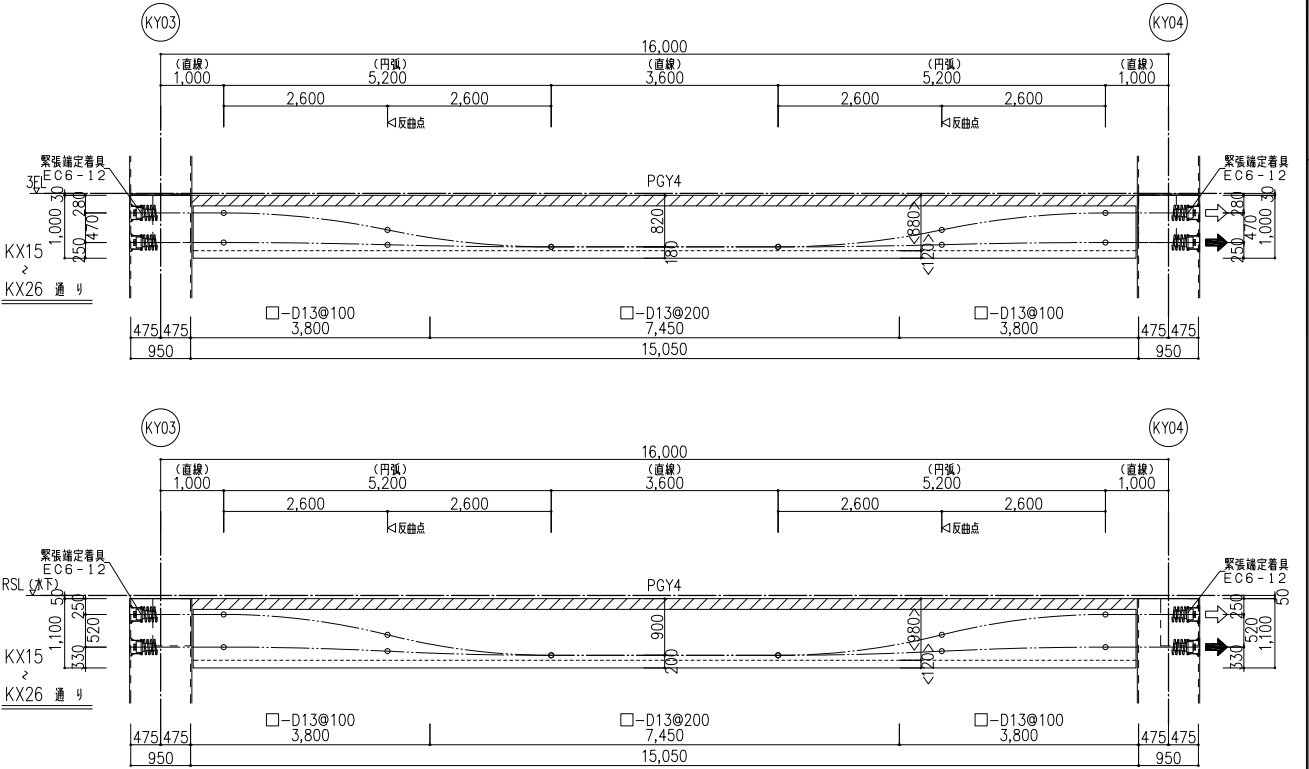
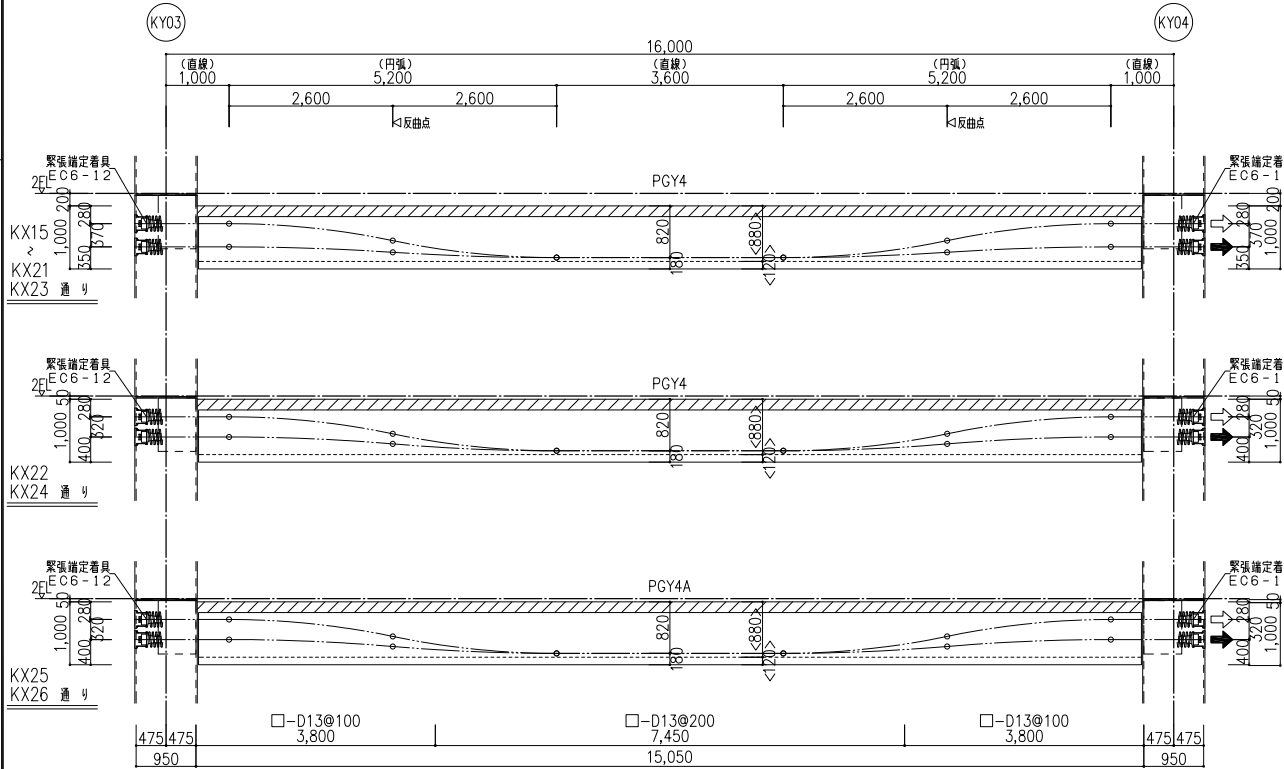
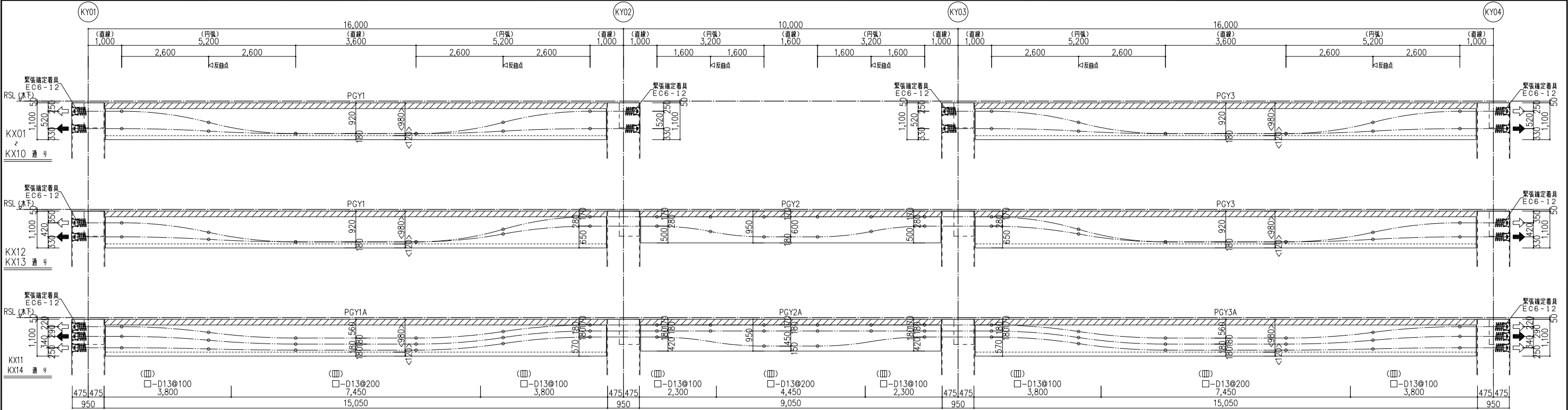


＊（ ）はPGY1A・PGY1Cを示す。＊（ ）はPGY2A・PGY2Cを示す。＊（ ）はPGY3A・PGY3Cを示す。

PC鋼材断面配線図(1) S=1:60

- ＊----は1次緊張(工場緊張)を示し、片引きとする。＊は現場打ちコンクリートを示す。
- ＊<>は1次緊張のPC鋼材の位置を示す。＊緊張端定着具は全て「EC6-12」とする。シース管は全て内径φ80mmとする。
- ＊は2次緊張(現場緊張)を示す。
- ＊<---は3次緊張(現場緊張)を示す。

		設計番号 20210533		作成日 2024. 03		種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事		図面番号	
株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		一級建築士 No. 273069		一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786		一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028		担 当 一級建築士 No. 343695		図面名称 P C鋼材断面配線図 その 1 (校舎棟) 縮尺 A1: 1/60 (A1) A3: 1/120 (A3)	S157
		高木 耕一		中牟田 昌慶		石田 正之		久保 久志			



PC鋼材断面配線図 (3) S=1:60

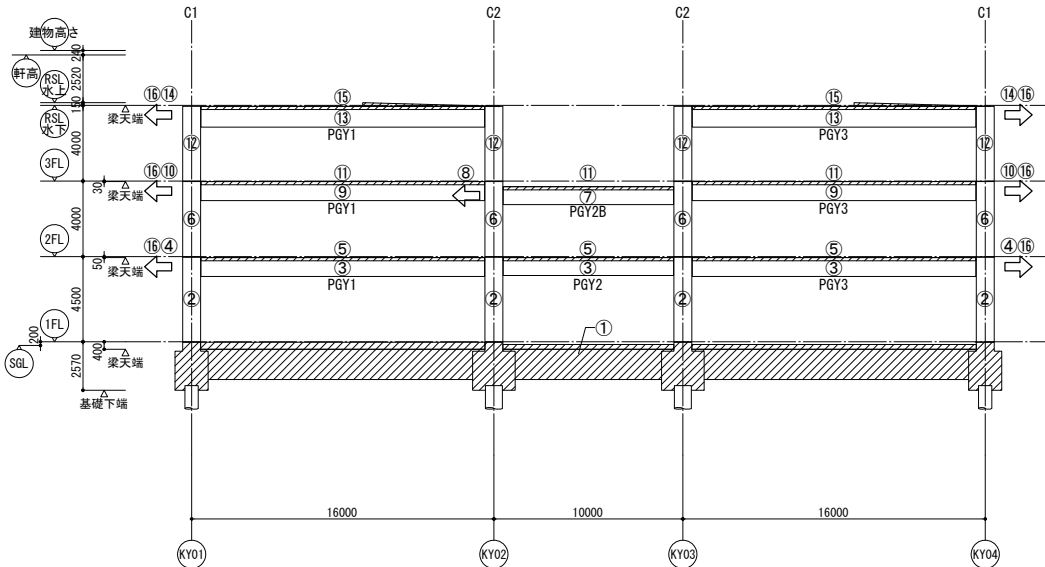
- * --- は1次緊張 (工場緊張) を示し、片引きとする。
- * <> は1次緊張のPC鋼材の位置を示す。
- * ← は2次緊張 (現場緊張) を示す。
- * <← は3次緊張 (現場緊張) を示す。
- * [斜線] は現場打ちコンクリートを示す。
- * 緊張固定着具は全て「EC6-12」とする。シース管は全て内径φ80mmとする。

		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 NO.273069	一級建築士 NO.345792 構造設計一級建築士 NO.9786	一級建築士 NO.252480 設備設計一級建築士 NO.1028	担 当 一級建築士 NO.343695	図面名称 P C鋼材断面配線図 その3 (校舎棟) 縮尺 A1: 1/60 (A1) A3: 1/120 (A3)	S159	
	高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志			

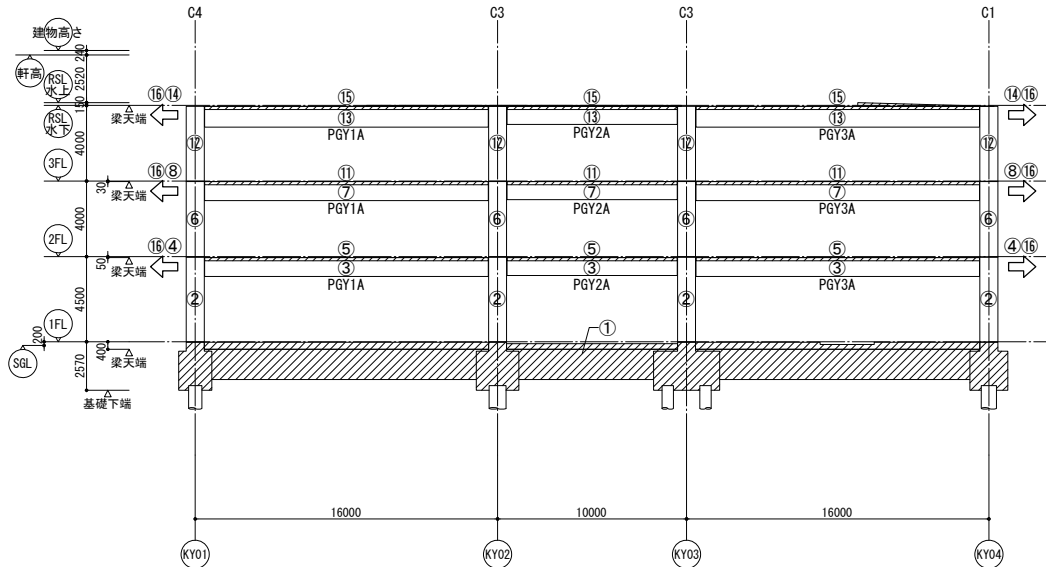
施工順序

①	基礎部コンクリート打設
②	1F PCaRC柱の架設，基礎部の鉄筋接合
③	2F Y方向PCaPC大梁の架設
④	2F Y方向PCaPC大梁の二次緊張
⑤	2F 鉄骨小梁，鉄筋トラス付デッキスラブの架設，配筋，現場打ちコンクリート 打設
⑥	2F PCaRC柱の架設
⑦	3F Y方向PCaPC大梁の架設 <u>※KX02-KX11通りはKY2-KY3通り間のみ</u>
⑧	3F Y方向PCaPC大梁の二次緊張 <u>※KX02-KX11通りはKY2-KY3通り間のみ</u>
⑨	3F KX02-KX11通り KY1-KY2，KY3-KY4通り間 PCaPC大梁の架設
⑩	3F KX02-KX11通り KY1-KY2，KY3-KY4通り間 PCaPC大梁の二次緊張
⑪	3F 鉄骨小梁，鉄筋トラス付デッキスラブの架設，配筋，現場打ちコンクリート 打設
⑫	3F PCaRC柱の架設
⑬	RF Y方向PCaPC大梁の架設
⑭	RF Y方向PCaPC大梁の二次緊張
⑮	RF 鉄骨小梁，鉄筋トラス付デッキスラブの架設，配筋，現場打ちコンクリート 打設
⑯	Y方向PCaPC大梁の三次緊張は、各層のコンクリート 強度発現後とする。

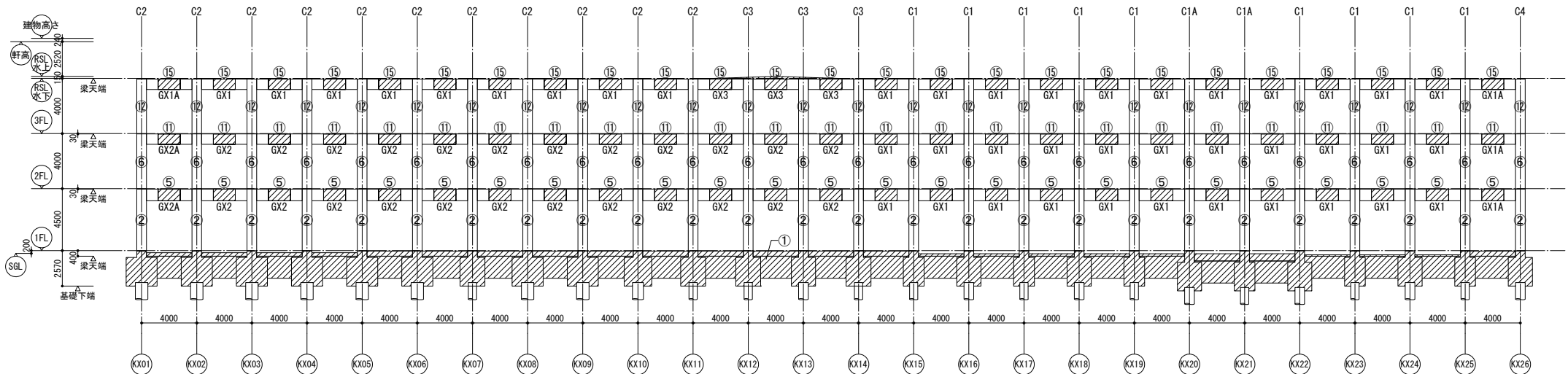
※スラブ以外の現場打ち部の打設時期は、原則としてスラブを打設し三次緊張をした後とする。



(KX03)通 軸組図

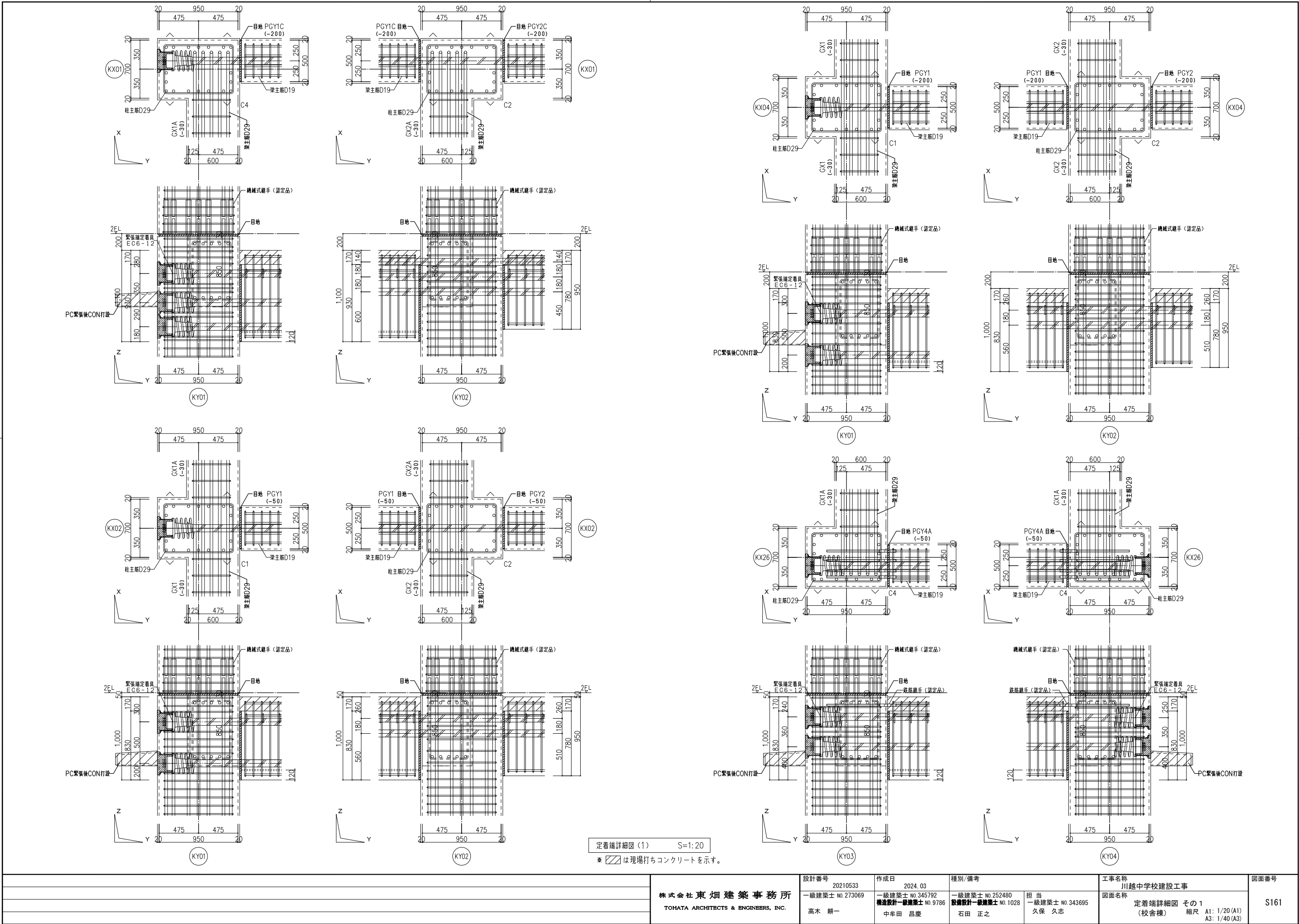


(KX14)通 軸組図

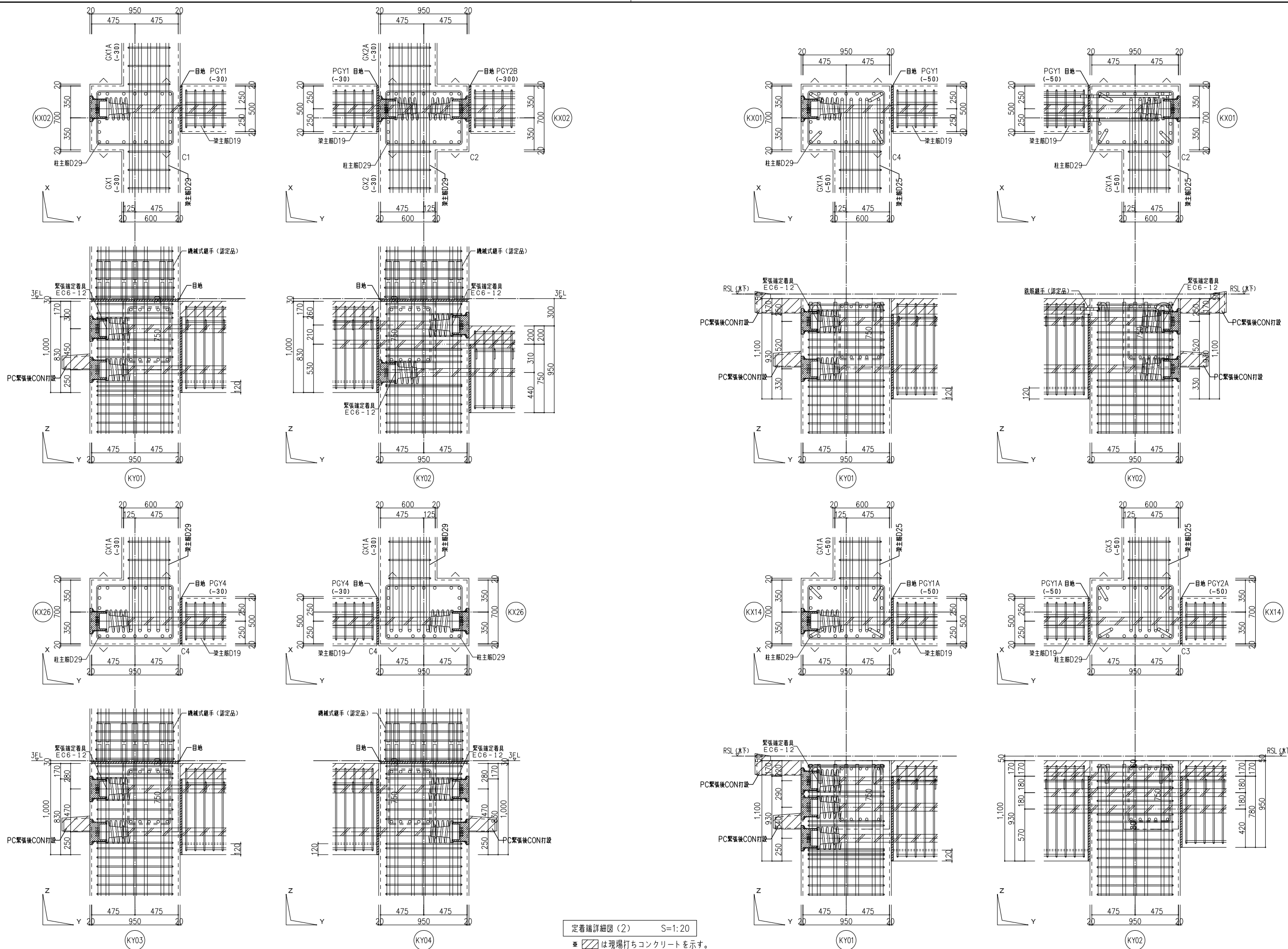


(KY03)通 軸組図

	株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
		一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028	担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志	図面名称 PC建方手順 (校舎棟) 縮尺 A1: 1/200 (A1) A3: 1/400 (A3)	S160
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之			



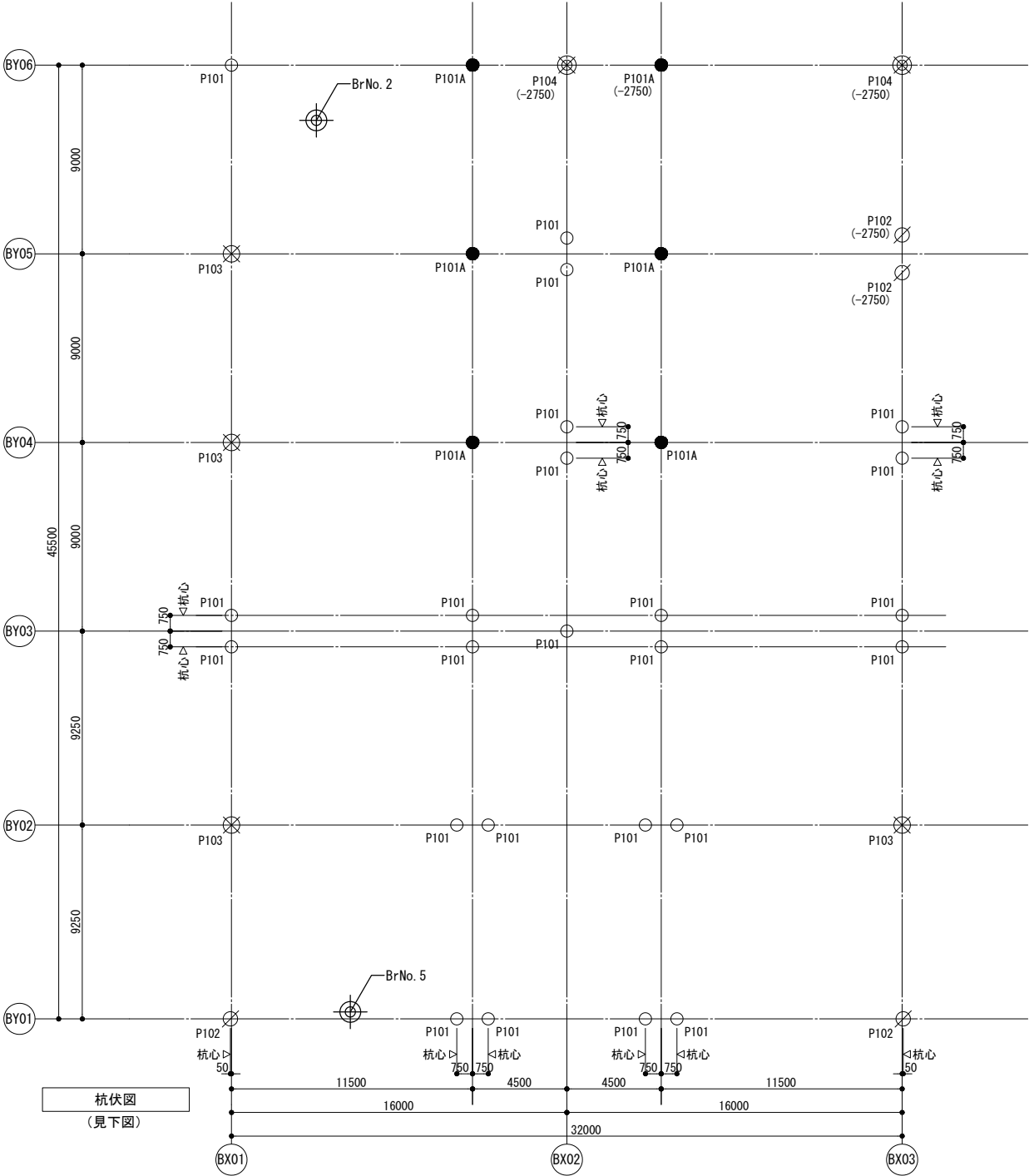
		設計番号 20210533 作成日 2024. 03		種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S161
株式会社東畑建築事務所		一級建築士 No.273069 高木 耕一		一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786 中牟田 昌慶		図面名称 定着端詳細図 その1 (校舎棟)	
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.				一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028 石田 正之		担当 一級建築士 No.343695 久保 久志	
						縮尺 A1: 1/20 (A1) A3: 1/40 (A3)	



定着端詳細図 (2) S=1:20


※ 斜線は現場打ちコンクリートを示す。

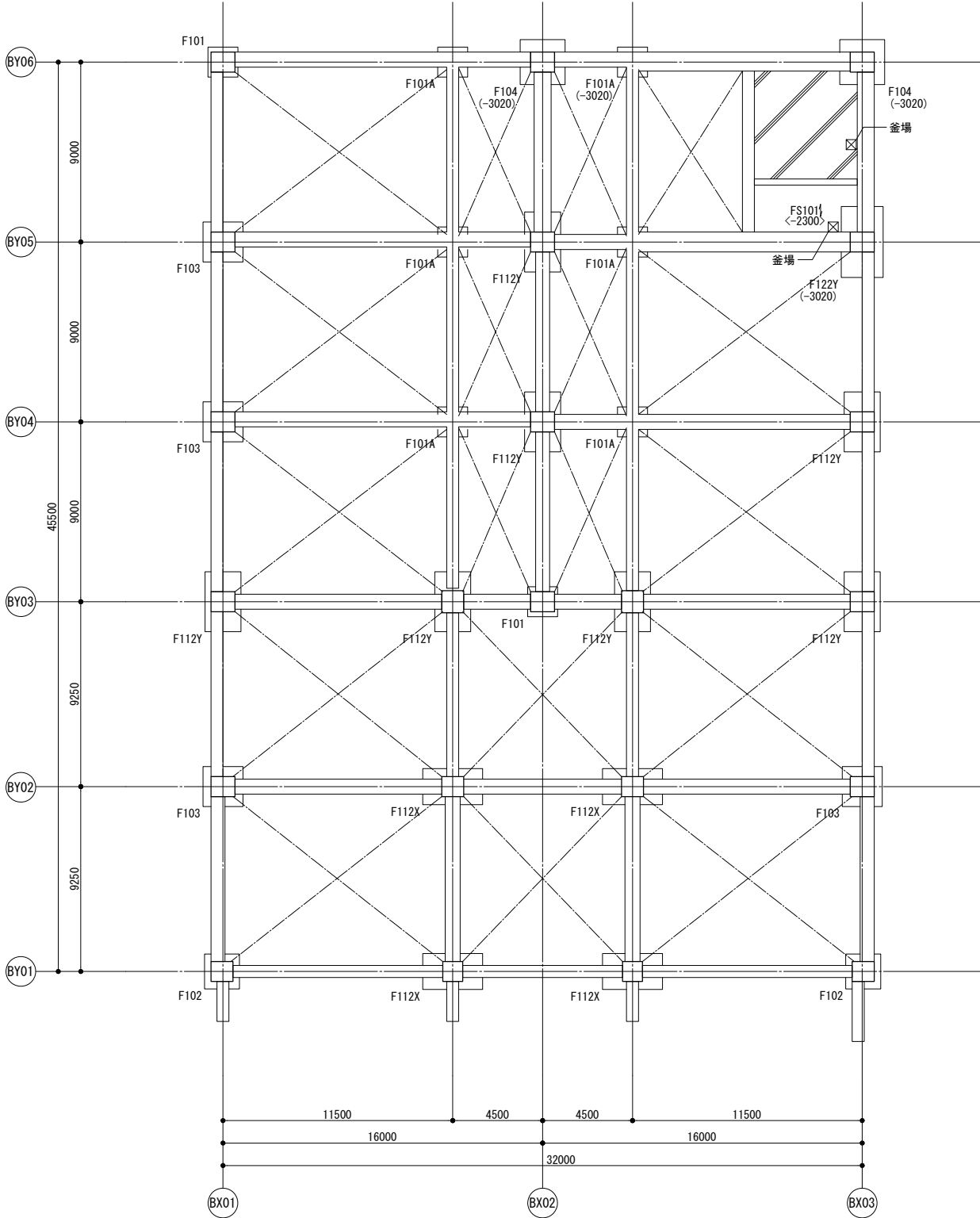
		設計番号 20210533 作成日 2024. 03		種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
株式会社東畑建築事務所		一級建築士 No. 273069		一級建築士 No. 252480		図面名称	S162
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		高木 耕一		構造設計一級建築士 No. 9786		定着端詳細図 その2 (校舎棟)	
		中牟田 昌慶		設備設計一級建築士 No. 1028		縮尺 A1: 1/20 (A1) A3: 1/40 (A3)	



杭符号	記号	杭全長 (m)	本 数 (本)	杭 種					設計用長期 許容支持力 (kN/本)	設計用短期 許容支持力 (kN/本)	設計用終局時 許容支持力 (kN/本)	杭頭補強筋 (WSD490)
				上 杭	中 杭	杭長 (m)	下 杭	杭長 (m)				
P101	○	33	24	SC杭105φ600 (SKK490, t=12, 105N)	PHC杭105φ600 (A種, 105N)	12	節付PHC杭105φ600-750 (A種, 105N)	12	2350	4700	7050	8-WD41J
P101A	●	33	6	SC杭105φ600 (SKK490, t=14, 105N)	PHC杭105φ600 (B種, 105N)	12	節付PHC杭105φ600-750 (A種, 105N)	12	2350	4700	7050	10-WD41J
P102	⊗	33	4	SC杭105φ700 (SKK490, t=12, 105N)	PHC杭105φ700 (A種, 105N)	12	節付PHC杭105φ700-900 (A種, 105N)	12	2650	5300	7950	10-WD41J
P103	⊗	33	4	SC杭105φ800 (SKK490, t=12, 105N)	PHC杭105φ800 (A種, 105N)	12	節付PHC杭105φ800-1000 (A種, 105N)	12	3000	6000	9000	12-WD41J
P104	⊗	33	2	SC杭105φ900 (SKK490, t=12, 105N)	PHC杭105φ900 (A種, 105N)	12	節付PHC杭105φ900-1100 (A種, 105N)	12	3500	7000	10500	16-WD41J



杭伏図 (見下げ図)

- 特記を除き、下記とする。
1. 設計GL=TP+0.65mとする。
2. 1FL=設計GL+200とする。
3. 杭工法はNEWスーパーFK工法 (認定番号TACP-0462～0464)
又は同等以上の支持力が確保できる下記工法とする。
・Hyper-MEGA工法 (膨脹型 拡大比 $\omega=1.0$) (認定番号TACP-0527～0529, TACP-0530～0532)
・Hybrid Kneading工法 (節抗摩擦強化型 節抗部掘削径比 $es=1.5$) (認定番号TACP-0586～0588)
4. 杭天端レベル=1FL-2450とする。
()内は1FLからの杭天端レベルを示す。
5. 通り心=杭心とする。
6.  は ボーリング位置を示す。
7. 水平方向のずれ: 水平方向の位置ずれの精度 $\pm 100\text{mm}$ 以下とする。
位置ずれが生じた場合、監督職員の指示により適切な補強を行うこと。
8. 垂直方向のずれ: 杭頭天端レベルの管理は高止まりの生じないよう行うこと。
9. 杭の継手は 機械式継手 (TPジョイント) とする。

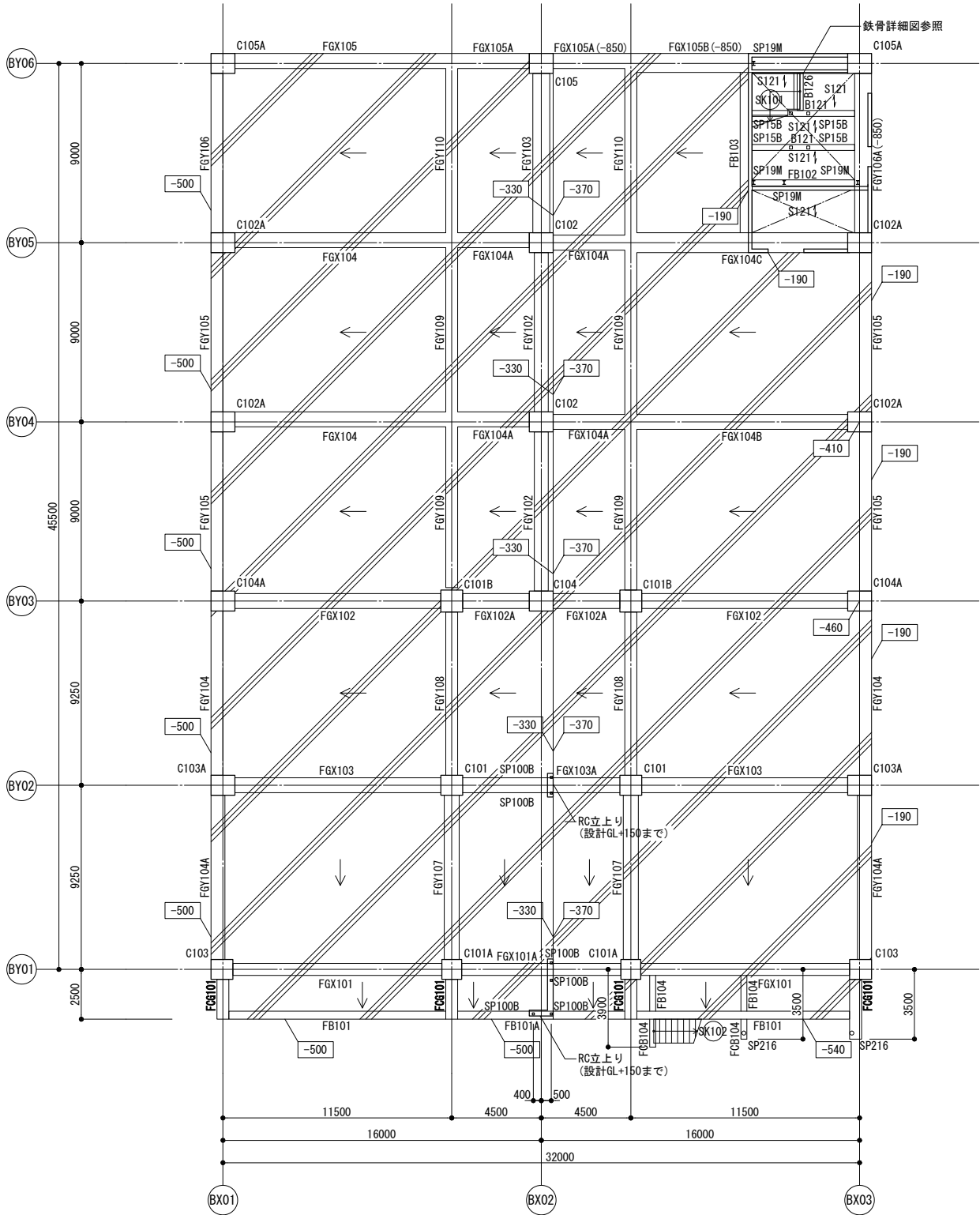


基礎伏図・ビット伏図 (見下げ図)

基礎伏図・ビット伏図 (見下げ図)

- 特記を除き、下記とする。
1. 設計GL=TP+0.65mとする。
2. 1FL=設計GL+200とする。
3. 通り心=基礎心とする。
4. 基礎下端レベル=1FL-2720とする。
()内は1FLからの基礎下端レベルを示す。
5. スラブ天端レベル=1FL-2300とする。
6.  は土間コンクリートを示す。(t=250, X-Y方向共 D10, D13@200ダブル)
鉄筋の定着、継手はS006図の耐圧スラブに同じとする。
土間コンクリート下の地盤は十分に転圧を行うこと。
7.  は埋め戻し範囲を示す。

設計番号 20210533				作成日 2024. 03		種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事		図面番号	
一級建築士 No.273069				一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786		一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028		担 当 一級建築士 No.343695		図面名称	
高木 耕一				中牟田 昌慶		石田 正之		久保 久志		杭伏図・基礎伏図・ビット伏図 (武道場棟) 縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)	

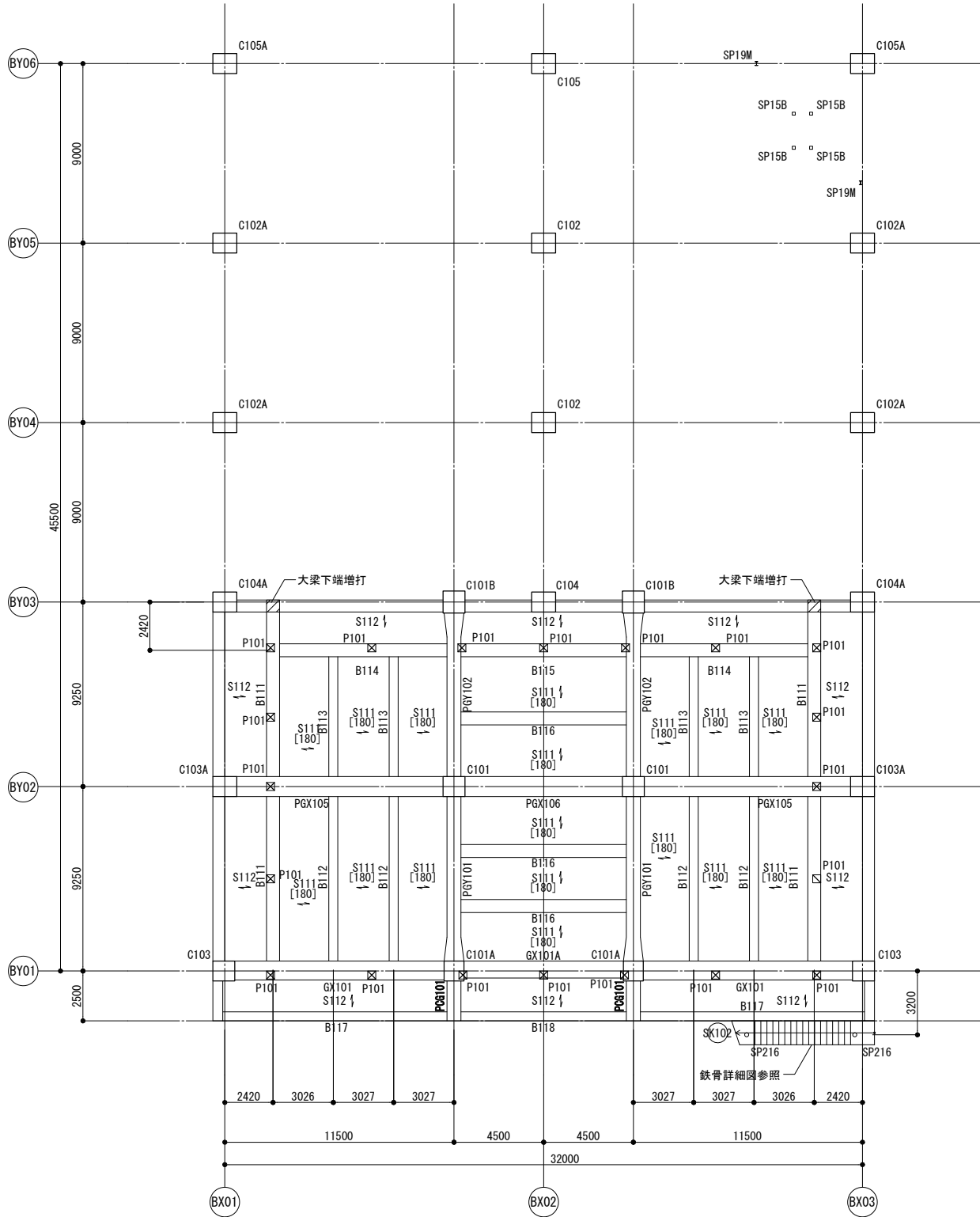


1 階 床 伏 図
(見下図)

< 内数値は

1階床伏図 (見下図)

- 特記を除き、下記とする。
1. 1FL=設計GL+200とする。
2. スラブ天端レベルは 1FL-50とする。
 -550 は1FLからのスラブ天端レベルを示す。
3. 基礎梁天端レベルは 1FL-550とする。
 ()内数値は 1FLからの基礎梁天端レベルを示す。
4. 基礎小梁天端レベルは 1FL-550とする。
5. 印は 下部ビット範囲を示す。
6. 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄心図」参照。
7. 印は 床スラブ配筋の主筋方向を示す。
8. 基礎小梁は 均等配置とする。
9. 壁は W180とする。
10. 耐震スリット位置は 軸組図を参照。
11. 印は 土間コンクリートを示し スラブ天端は図示による。
 土間コンクリート下の地業は十分に転圧を行うこと。
12. < 印は スラブの水勾配(水上一水下)を示す。



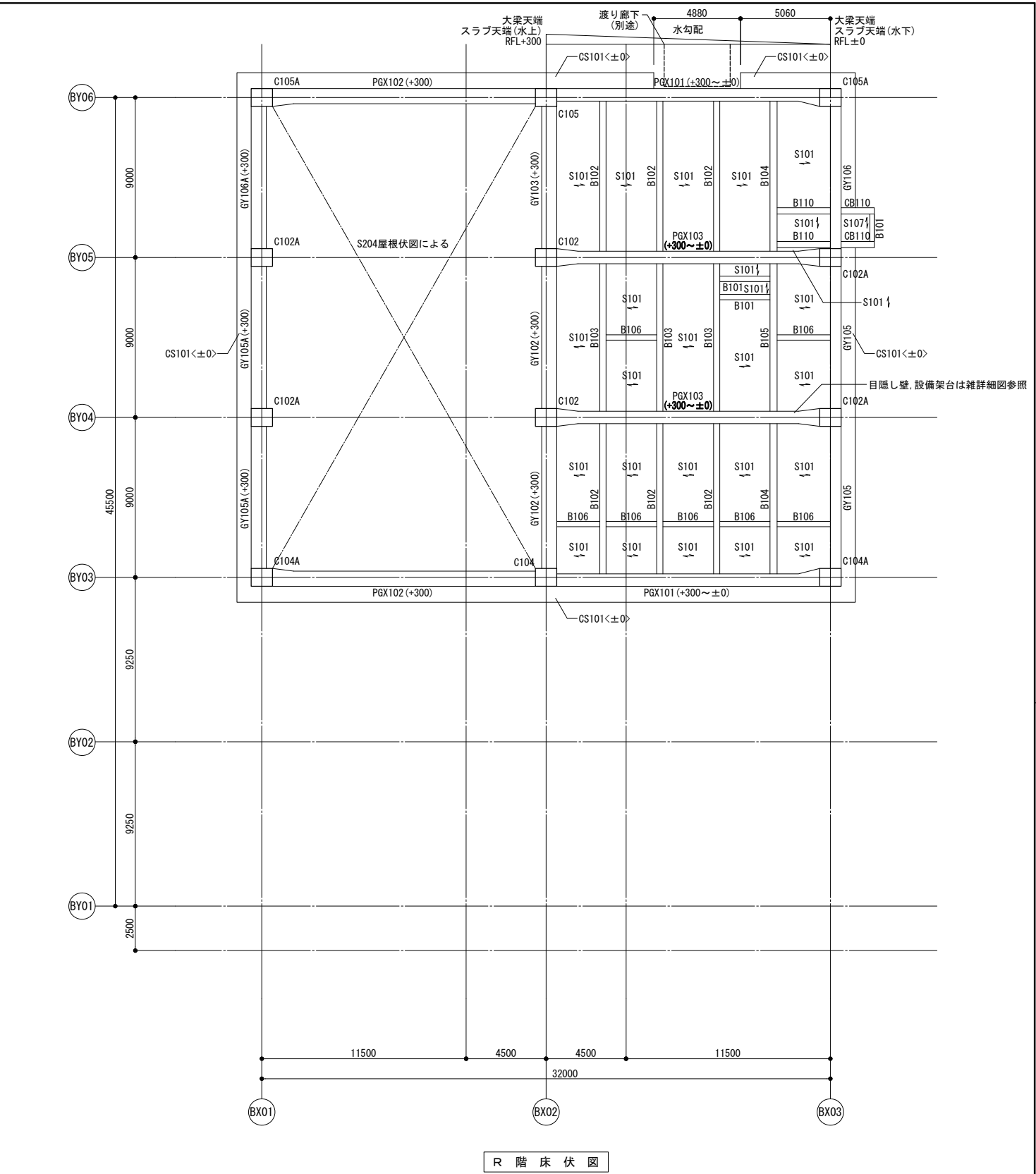
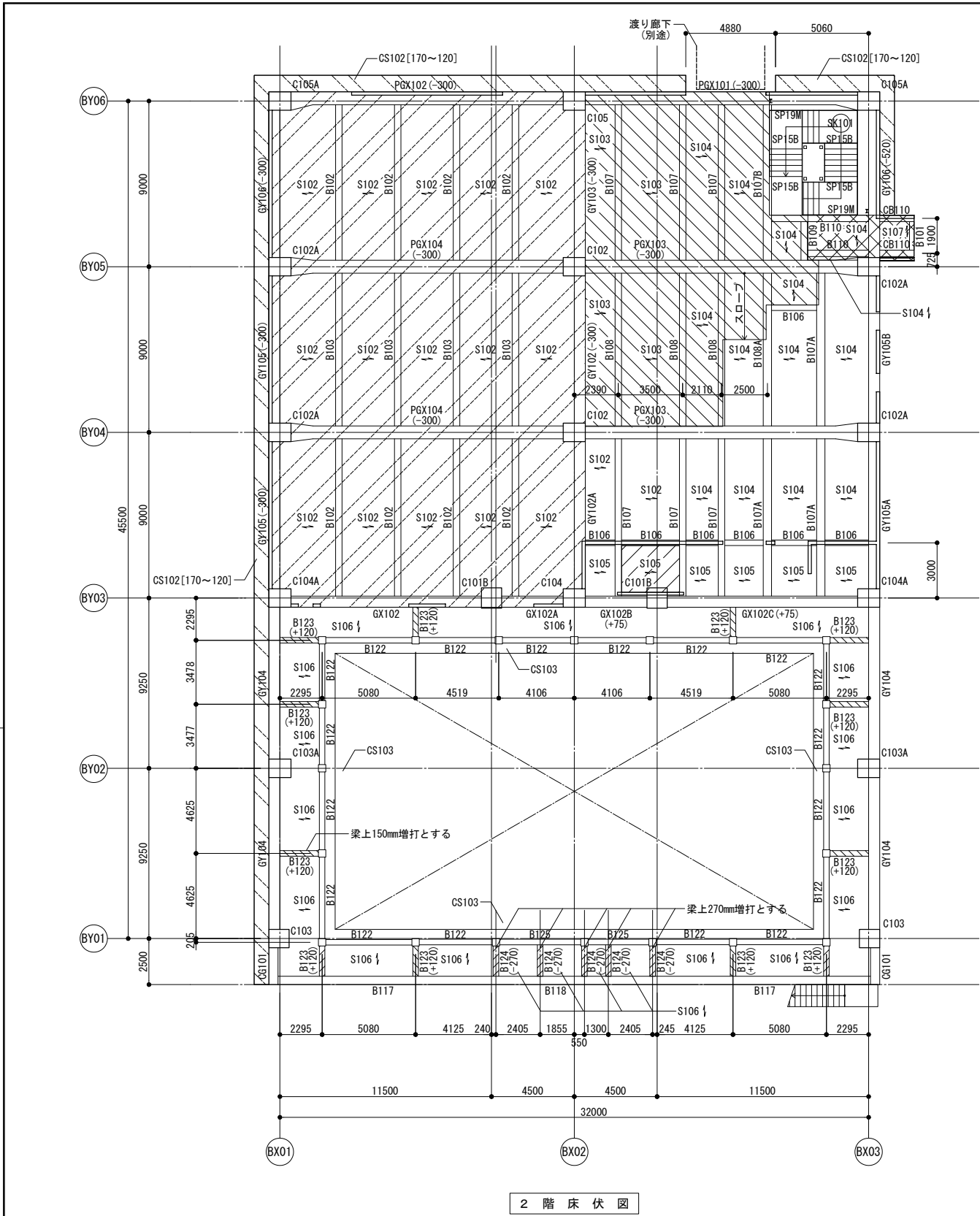
2 階 プール底部床伏図
(見上げ図)

2階プール底部床伏図 (見上げ図)

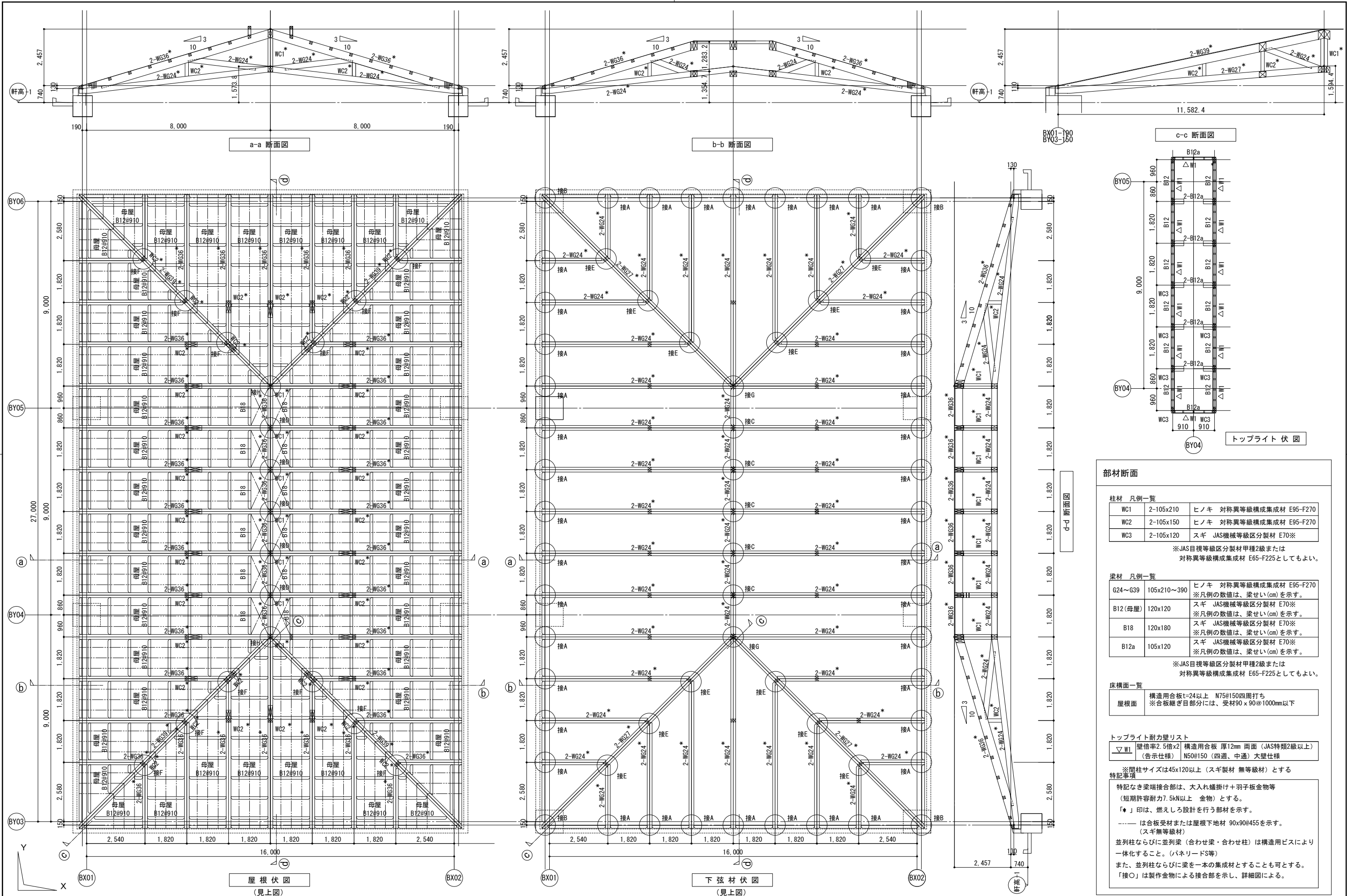
- 特記を除き、下記とする。
1. 2FL=1FL+4500とする。
2. 大梁天端レベルは 2FL-1300とする。
3. 小梁天端レベル=スラブ天端レベルとする。
4. 印は スラブ開口を示す。
5. 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄心図」参照。
6. 印は 床スラブ配筋の主筋方向を示す。
7. 小梁は 均等配置とする。
8. 壁は W180とする。
9. 耐震スリット位置は 軸組図を参照。
10. スラブ厚は150mmとし [〇〇]はスラブ厚を示す。
11. あと施工範囲は 軸組図を参照のこと。

※数値は2FLからとする			
記号	スラブ上端	小梁上端	備考
なし	-1300	-1300	

株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		設計番号 20210533 一級建築士 No.273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028 石田 正之	担 当 一級建築士 No.343695 久保 久志	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 1階床伏図・2階プール底部伏図 (武道場棟) 縮尺 A1:1/150(A1) A3:1/300(A3)	図面番号 S202
---	--	--	---	--	---------------------------------	--	--------------

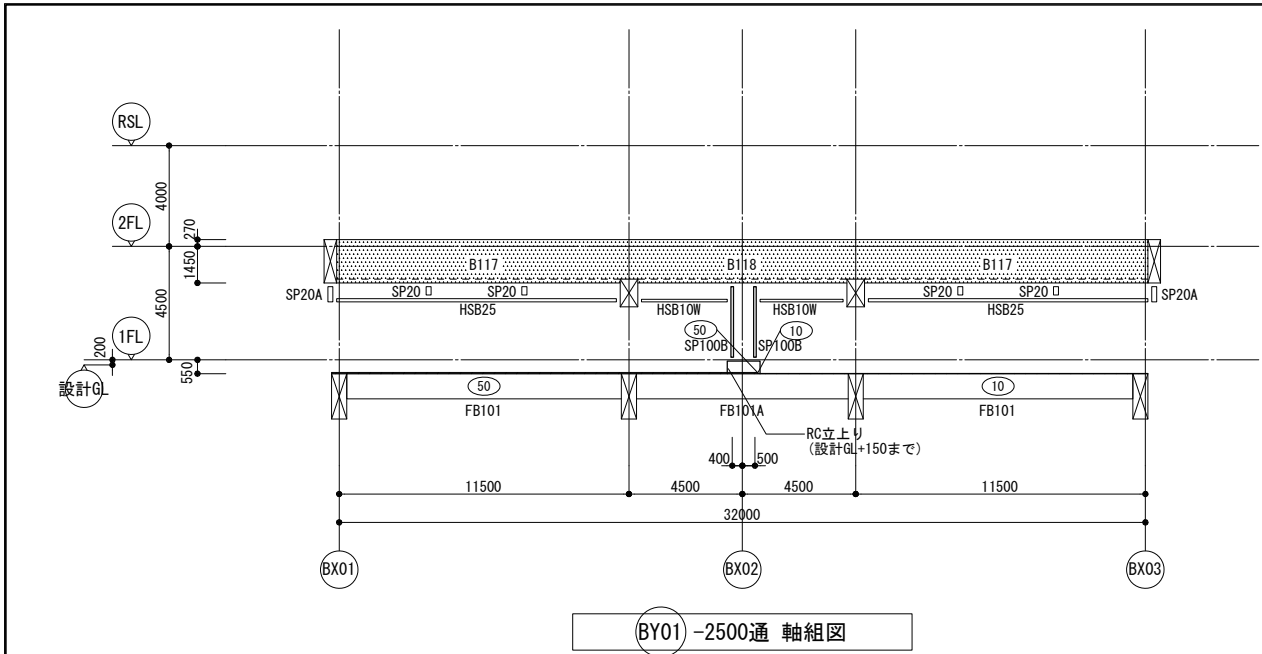


2階床伏図（見上げ図）				屋根伏図（見上げ図）																																																								
特記を除き、下記とする。				特記を除き、下記とする。																																																								
1. 2FL=1FL+4500とする。		6. ↓印は 床スラブ配筋の主筋方向を示す。		1. 軒高1=2FL+4000, 軒高2=軒高1+700とする。		6. 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄心図」参照。																																																						
2. 大梁天端レベルは 2FL+270とする。 ()内数値は 2FLからの大梁天端レベルを示す。		7. 小梁は 均等配置とする。		2. スラブ天端レベルは 図示による。 < >内数値は RFLからのスラブ天端レベルを示す。		7. ↓印は 床スラブ配筋の主筋方向を示す。																																																						
3. 小梁天端レベル=スラブ天端レベルとする。 スラブ天端レベルが複数存在する場合は 最も低いレベルとし適宜梁上増打とする。		8. 壁は W180とする。		3. 大梁天端レベルは RFL±0とする。 ()内は軒高1からの大梁天端レベルとする。		8. 小梁は 均等配置とする。																																																						
4. ☒印は スラブ開口を示す。		9. 耐震スリット位置は 軸組図を参照。		4. 小梁天端レベル=スラブ天端レベルとする。		9. 壁は W180とする。																																																						
5. 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄心図」参照。		10. スラブ厚は150mmとし [170～120]は基礎～先端のスラブ厚を示す。		5. ☒印は スラブ開口を示す。		10. 耐震スリット位置は 軸組図を参照。																																																						
		11. あと施工範囲は 軸組図を参照のこと。				11. あと施工範囲は 軸組図を参照のこと。																																																						
<table><tr><th>記号</th><th>スラブ上端</th><th>小梁上端</th><th>備考</th></tr><tr><td>なし</td><td>+270</td><td>+270</td><td></td></tr><tr><td>斜線</td><td>+75</td><td>+75</td><td></td></tr><tr><td>斜線</td><td>-300</td><td>-300</td><td></td></tr><tr><td>斜線</td><td>-30</td><td>-30</td><td>スロープ:FL+270～-30</td></tr><tr><td>斜線</td><td>-520</td><td>-520</td><td></td></tr><tr><td>斜線</td><td>基礎-580～先端-630</td><td>-</td><td></td></tr></table>				記号	スラブ上端	小梁上端	備考	なし	+270	+270		斜線	+75	+75		斜線	-300	-300		斜線	-30	-30	スロープ:FL+270～-30	斜線	-520	-520		斜線	基礎-580～先端-630	-		<table><tr><th>設計番号</th><th>作成日</th><th>種別/備考</th><th>工事名称</th><th>図面番号</th></tr><tr><td>20210533</td><td>2024. 03</td><td></td><td>川越中学校建設工事</td><td></td></tr><tr><td>一級建築士 No.273069</td><td>一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786</td><td>一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028</td><td>担 当 一級建築士 No.343695 久保 久志</td><td>2階床伏図・R階床伏図 (武道場棟) 縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)</td></tr><tr><td>高木 耕一</td><td>中牟田 昌慶</td><td>石田 正之</td><td></td><td>S203</td></tr><tr><td colspan="5">TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.</td></tr></table>				設計番号	作成日	種別/備考	工事名称	図面番号	20210533	2024. 03		川越中学校建設工事		一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695 久保 久志	2階床伏図・R階床伏図 (武道場棟) 縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)	高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之		S203	TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.				
記号	スラブ上端	小梁上端	備考																																																									
なし	+270	+270																																																										
斜線	+75	+75																																																										
斜線	-300	-300																																																										
斜線	-30	-30	スロープ:FL+270～-30																																																									
斜線	-520	-520																																																										
斜線	基礎-580～先端-630	-																																																										
設計番号	作成日	種別/備考	工事名称	図面番号																																																								
20210533	2024. 03		川越中学校建設工事																																																									
一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695 久保 久志	2階床伏図・R階床伏図 (武道場棟) 縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)																																																								
高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之		S203																																																								
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.																																																												

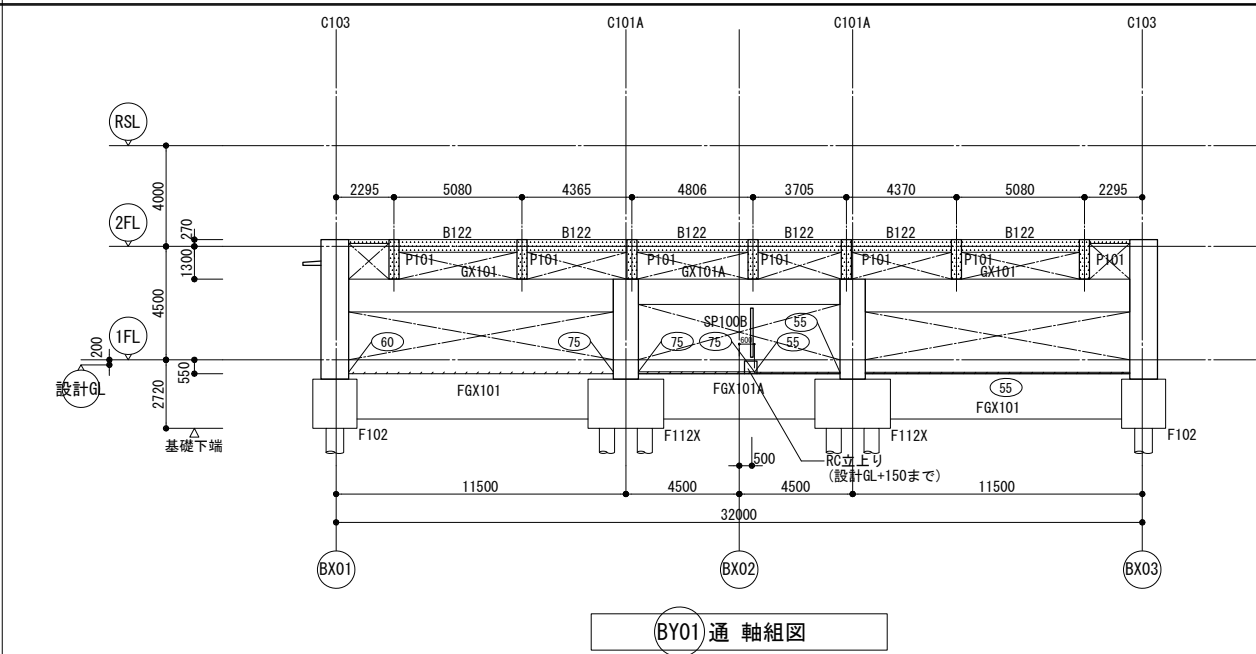


部材断面	
柱材 凡例一覧	
WC1	2-105x210 ヒノキ 対称異等級構成集成材 E95-F270
WC2	2-105x150 ヒノキ 対称異等級構成集成材 E95-F270
WC3	2-105x120 スギ JAS機械等級区分製材 E70※
※JAS目視等級区分製材甲種2級または対称異等級構成集成材 E65-F225としてもよい。	
梁材 凡例一覧	
G24~G39	105x210~390 ヒノキ 対称異等級構成集成材 E95-F270 ※凡例の数値は、梁せい(cm)を示す。
B12(母屋)	120x120 スギ JAS機械等級区分製材 E70※ ※凡例の数値は、梁せい(cm)を示す。
B18	120x180 スギ JAS機械等級区分製材 E70※ ※凡例の数値は、梁せい(cm)を示す。
B12a	105x120 スギ JAS機械等級区分製材 E70※ ※凡例の数値は、梁せい(cm)を示す。
※JAS目視等級区分製材甲種2級または対称異等級構成集成材 E65-F225としてもよい。	
床構面一覧	
屋根面	構造用合板t=24以上 N75@150四周打ち ※合板継ぎ目部分には、受材90×90@1000mm以下
トップライト耐力壁リスト	
▽W1	壁倍率2.5倍x2 構造用合板 厚12mm 両面 (JAS特類2級以上) (告示仕様) N50@150 (四週、中通) 大壁仕様
※間柱サイズは45x120以上 (スギ製材 無等級材) とする	
特記事項	
特記なき梁端接合部は、大入れ懸掛け+羽子板金物等 (短期許容耐力7.5kN以上 金物) とする。	
「※」印は、燃えしろ設計を行う部材を示す。	
----- は合板受材または屋根下地材 90x90@455を示す。 (スギ無等級材)	
並列柱ならびに並列梁 (合わせ梁・合わせ柱) は構造用ビスにより一体化すること。(パネリードS等)	
また、並列柱ならびに梁を一本の集成材とすることも可とする。	
「接○」は製作金物による接合部を示し、詳細図による。	

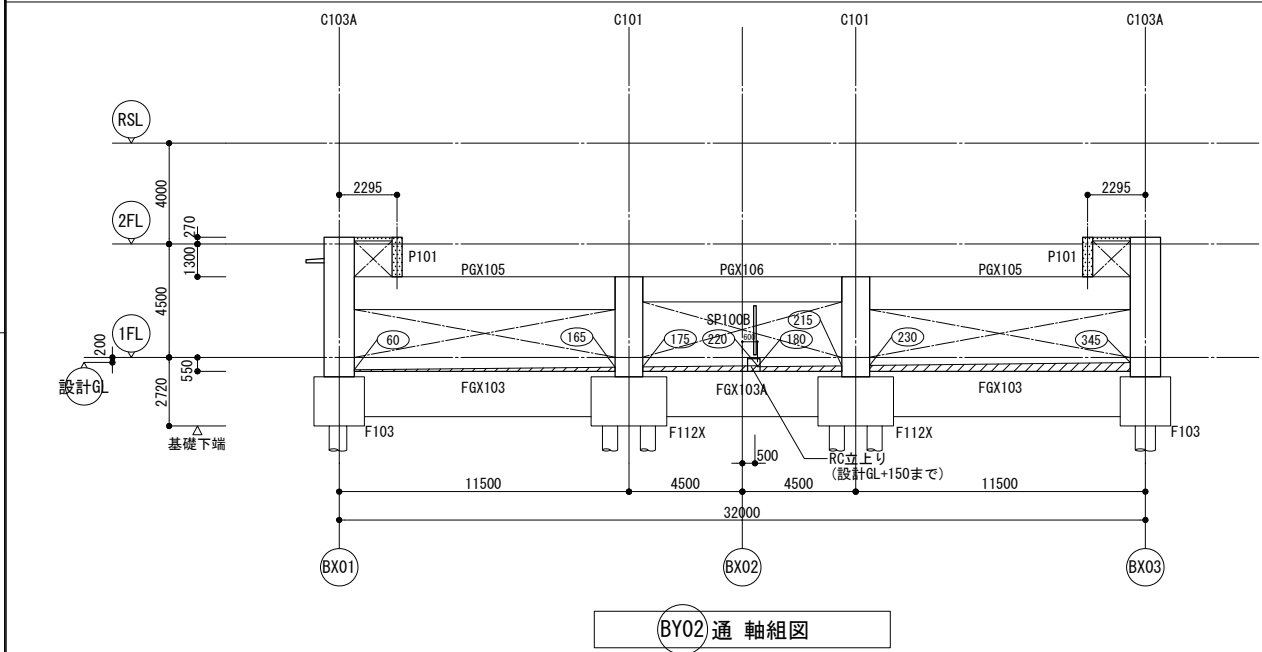
設計番号 20210533 作成日 2024.03 一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786 高木 耕一 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028 石田 正之	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 屋根伏図 (武道場棟) 縮尺 A1:1/75 (A1) A3:1/150 (A3)	図面番号 S204
株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	担当 一級建築士 No.343695 久保 久志		



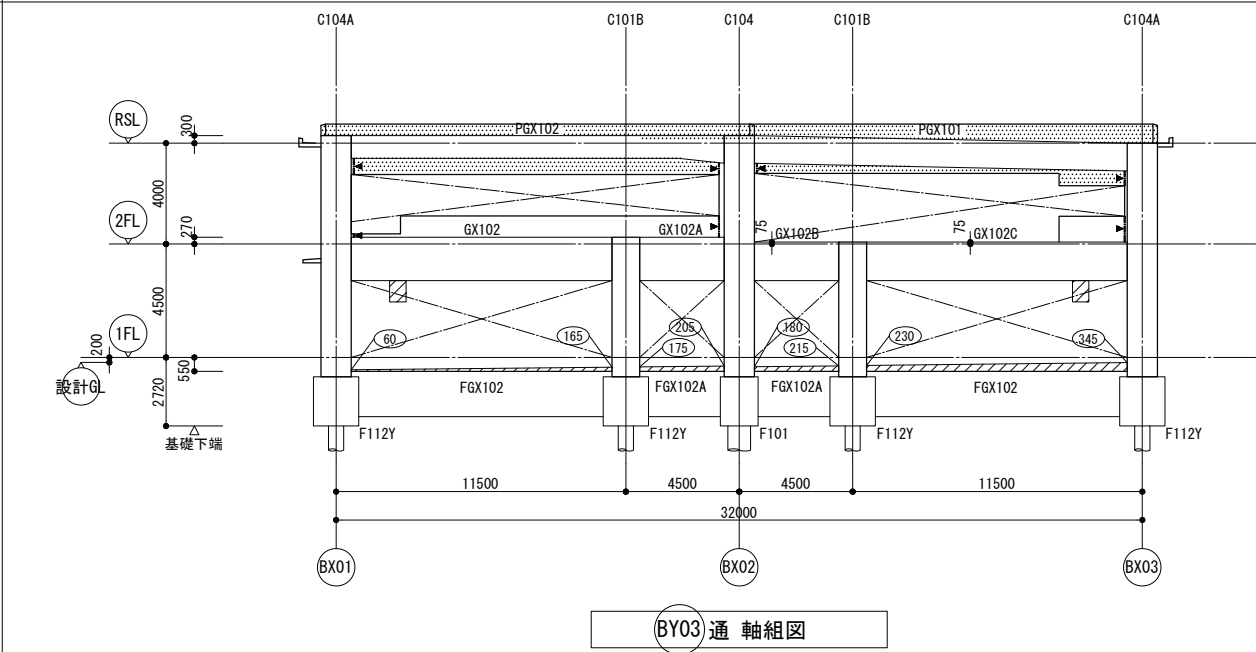
BY01 -2500通 軸組図



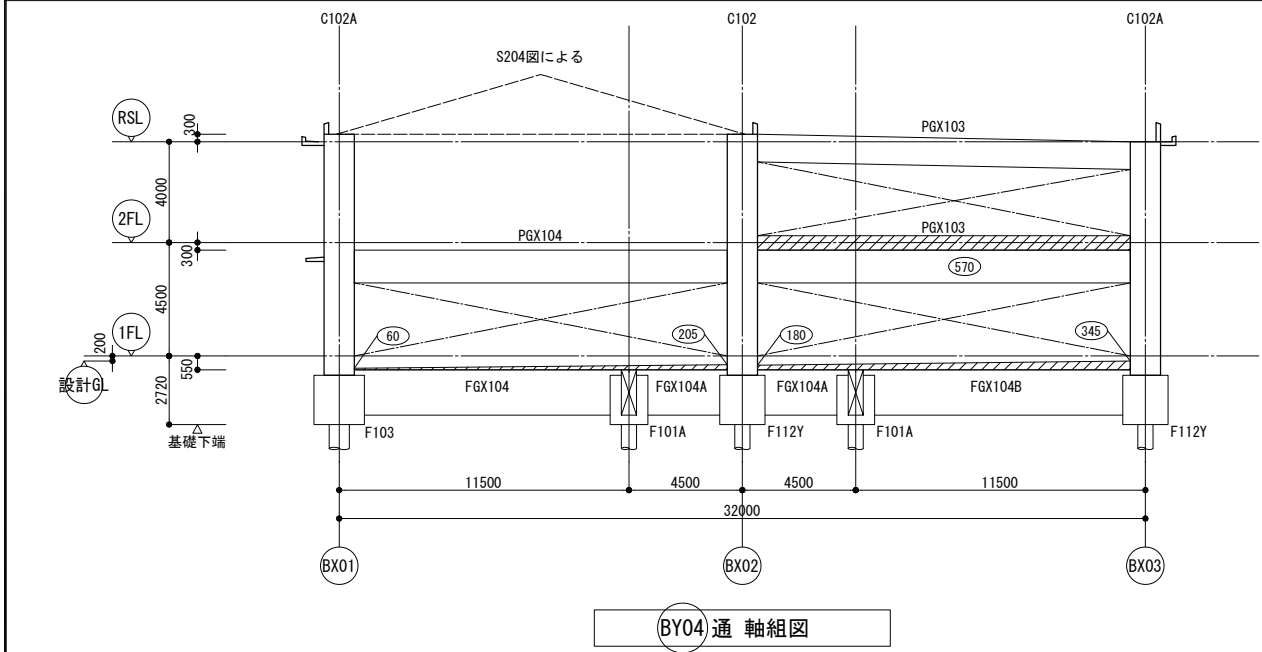
BY01通 軸組図



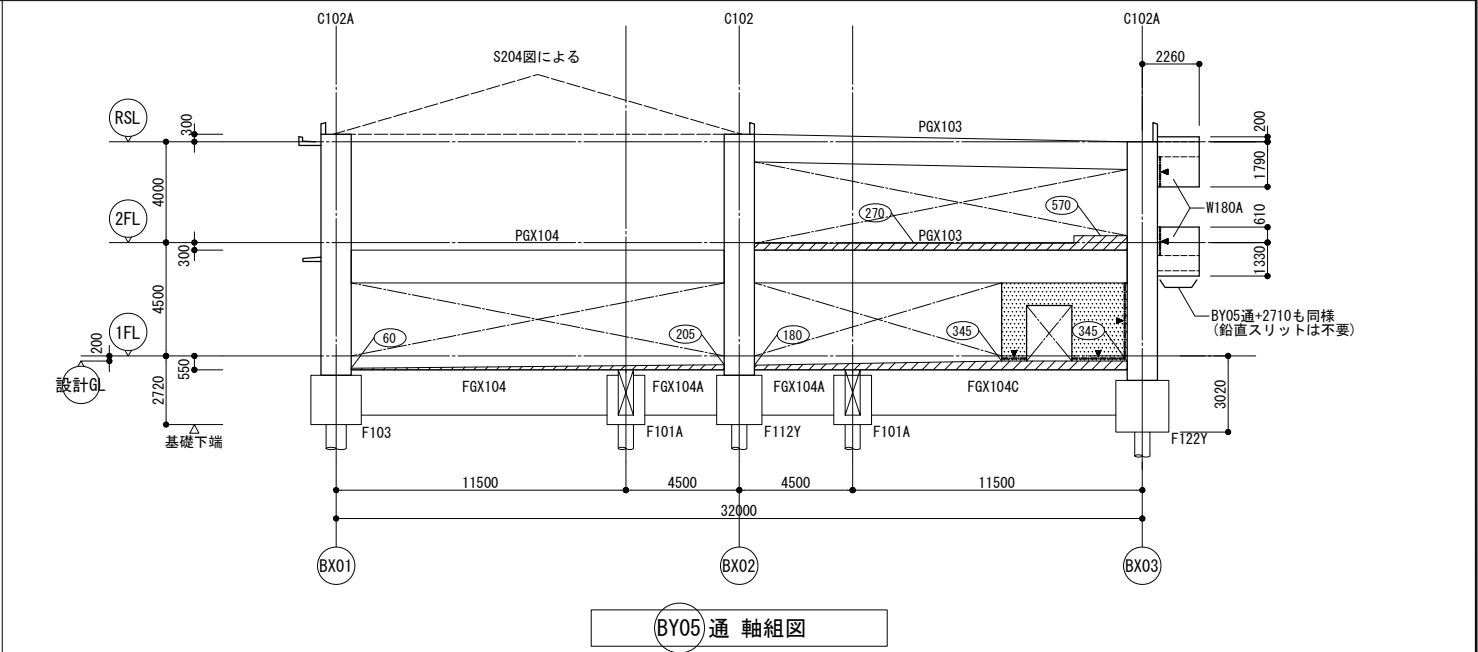
BY02通 軸組図



BY03通 軸組図

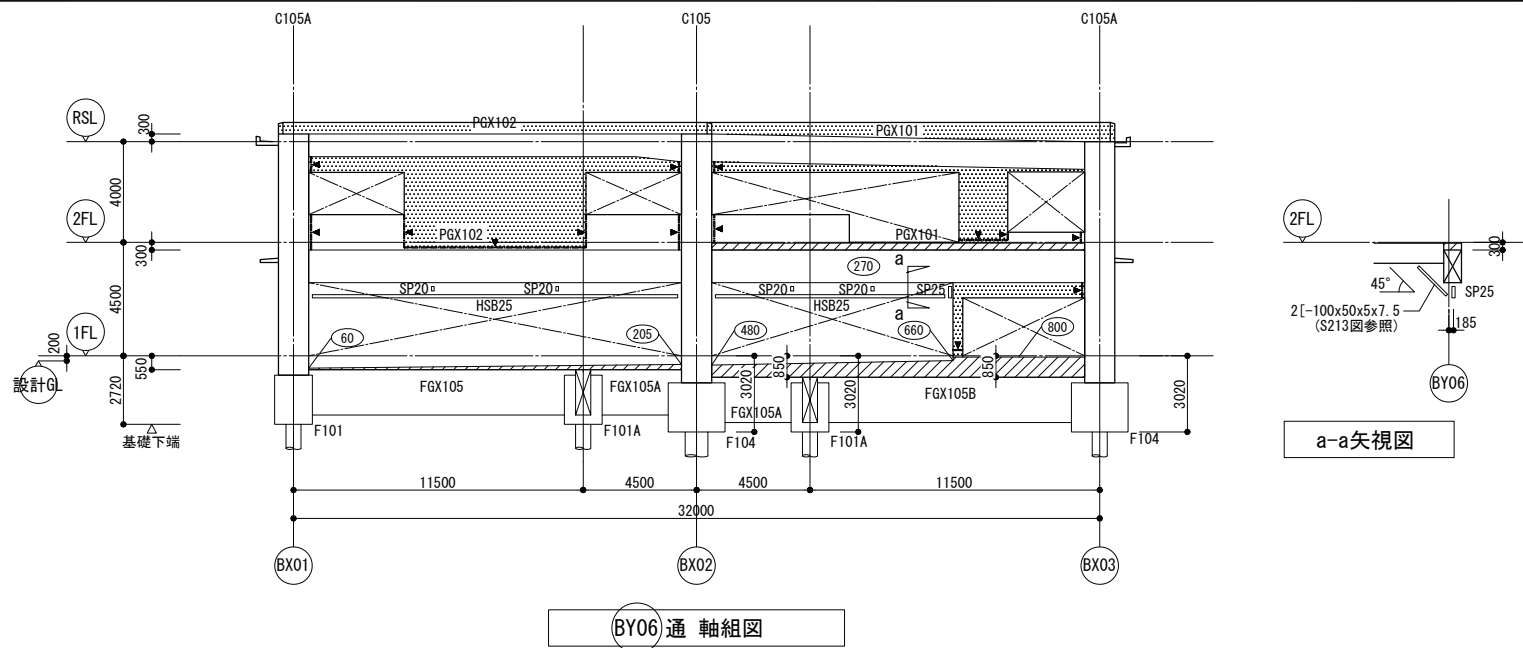


BY04通 軸組図

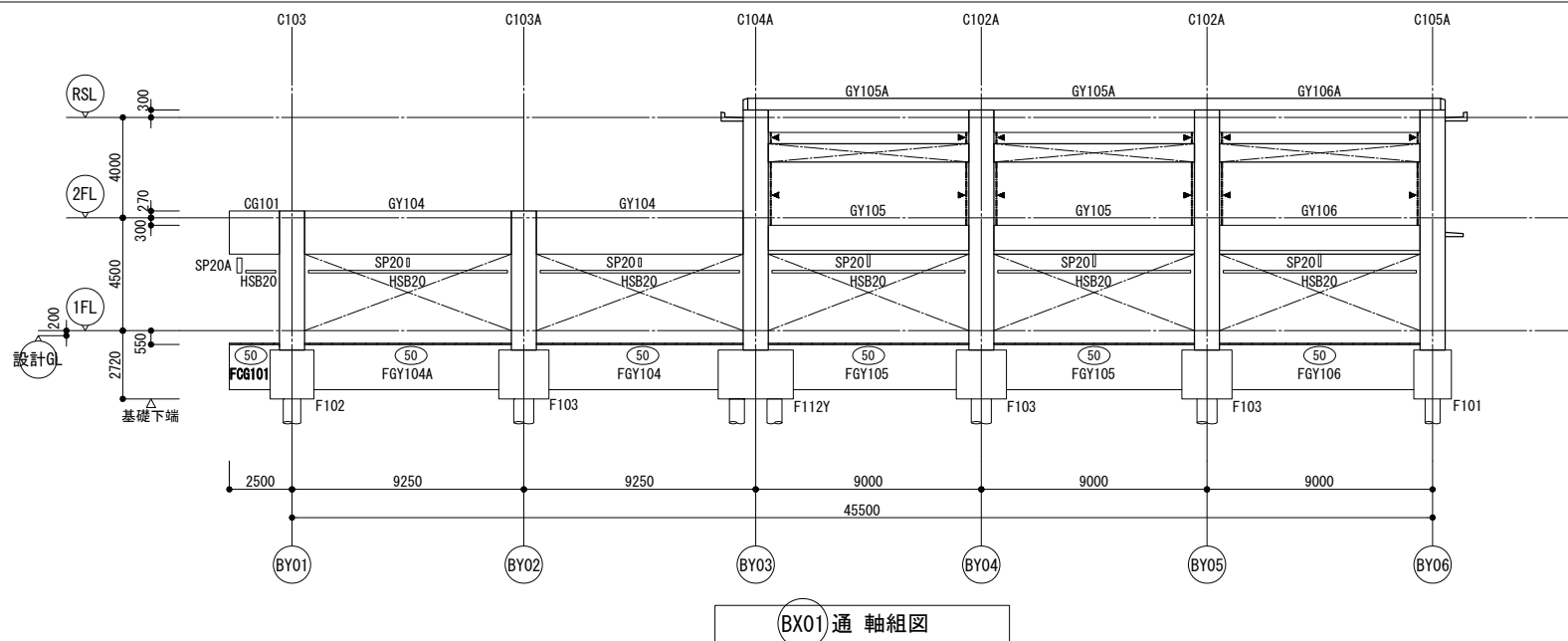


BY05通 軸組図

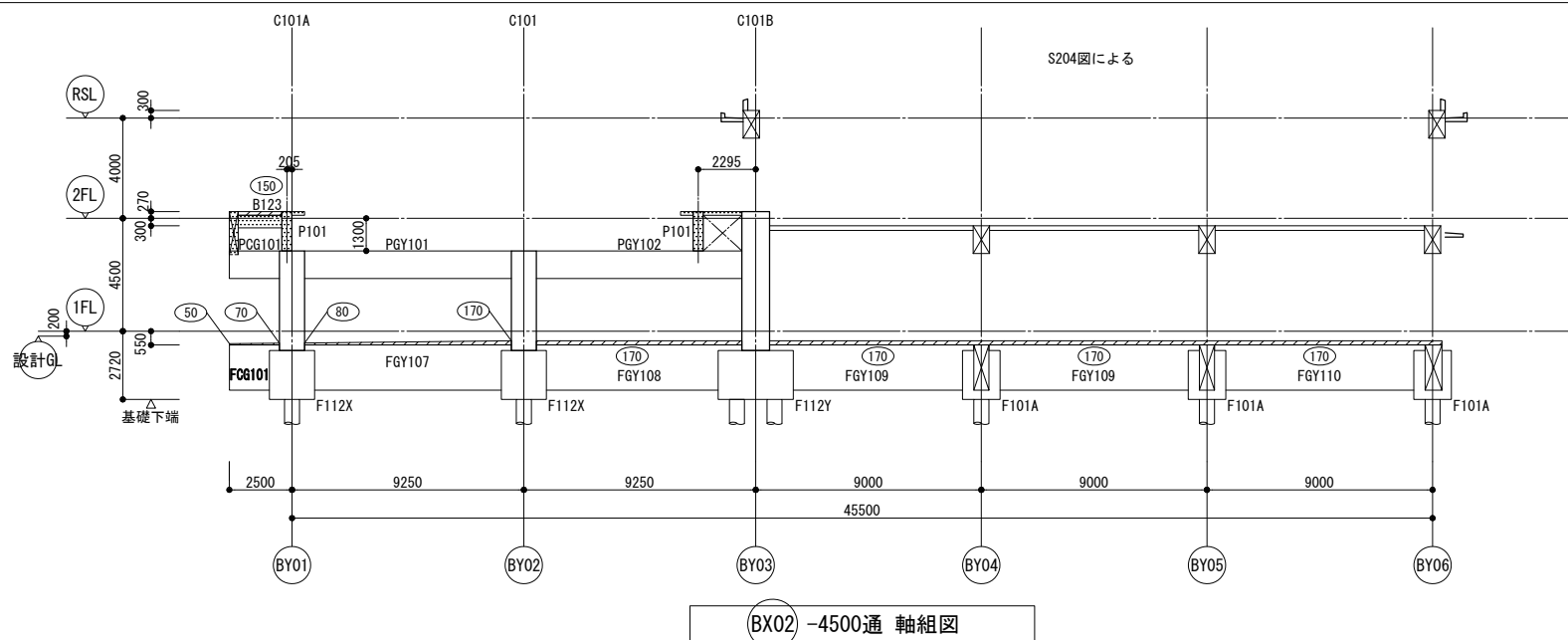
特記を除き、下記とする。			設計番号 20210533		作成日 2024. 03		種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事		図面番号	
1. 壁は W180とする。	4. 梁天端レベルは図示による。 <div>○ 内の数値は梁上増打高さを示す。</div>	株式会社 東畑 建築 事務所										S205
2.  は、耐震スリット（全貫通型、特記を除きスリット幅 2 5、既製品）を示す	5.  は梁上増打を示す。	6. 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄り図」参照	TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792	構造設計一級建築士 No.9786	設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695	図面名称 軸組図その1 (武道場棟)	縮 尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)		
3. スラブ天端レベルは 伏図を参照のこと。	「梁上増打補強筋はS005図による。」	7.  は PC緊張後あと施工範囲を示す。		高木 耕一	中牟田 昌慶		石田 正之	久保 久志				



BY06通 軸組図



BX01通 軸組図



BX02-4500通 軸組図

特記を除き、下記とする。

- 壁は W180とする。
- 耐震スリット (全貫通型、特記を除きスリット幅25、既製品) を示す
- スラブ天端レベルは 伏図を参照のこと。
- 梁天端レベルは図示による。
- は梁上増打を示す。
「梁上増打補強筋はS005図による。」
- 柱・基礎梁の寄り寸法は「柱・大梁寄寸図」参照
- は PC緊張後あと施工範囲を示す。

内の数値は梁上増打高さを示す。

株式会社東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号 20210533
作成日 2024.03
一級建築士 No.273069
高木 耕一

作成日 2024.03
一級建築士 No.345792
構造設計一級建築士 No.9786
中牟田 昌慶

種別/備考
一級建築士 No.252480
設備設計一級建築士 No.1028
石田 正之

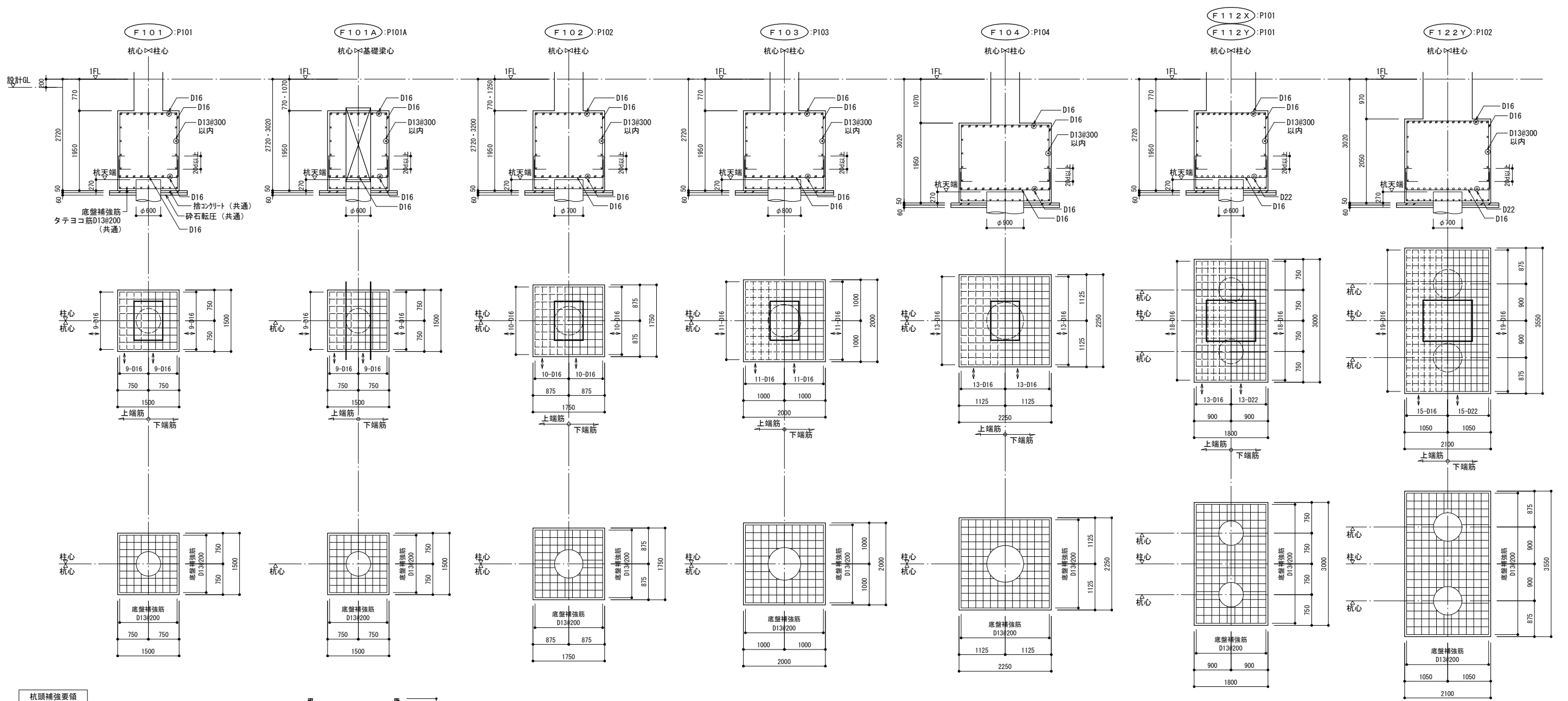
担当
一級建築士 No.343695
久保 久志

工事名称
川越中学校建設工事
図面名称
軸組図その2
(武道場棟)

縮尺 A1:1/150(A1)
A3:1/300(A3)

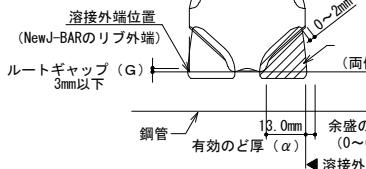
図面番号
S206

◎特記事項：礎柱の断面および配筋は 柱断面表又は鉄骨部材リストを参照のこと。
基礎の向きはビット伏図を参照のこと。

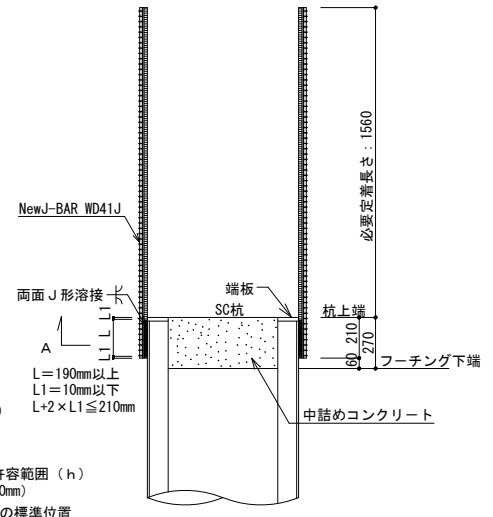


杭頭補強要領
杭頭補強筋の径・本数はS201図による。

NewJ-BAR WSD490 (大臣認定品)
大臣認定番号 MSRB-0129、MSRB-0119
大臣認定番号 MSRB-0108



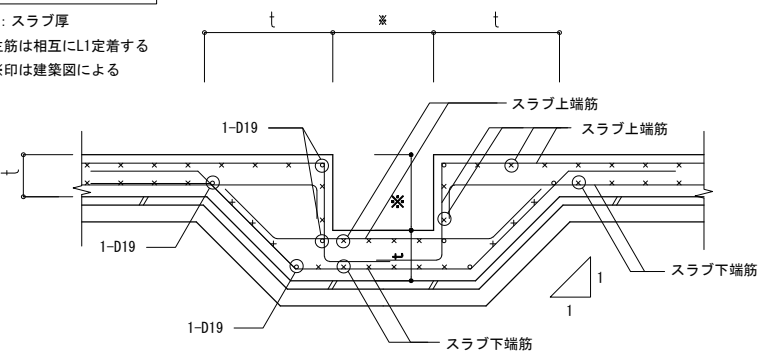
A断面詳細図



J-BARの直線定着

釜場配筋図 1/30

- ・t: スラブ厚
- ・主筋は相互にL1定着する
- ・※印は建築図による



株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		設計番号 20210533 一級建築士 No. 273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之	担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 杭・基礎リスト (武道場棟) 縮尺 A1: 1/50, 30(A1) A3: 1/100, 60(A3)	図面番号 S208
--	--	---	---	--	----------------------------------	---	--------------

基礎梁断面表 1/50 特記外：1. 巾止め筋は マフ型D10@1000以内とする。
2. 2 段筋の定着長さLdは下表Ldn欄を採用する。記載無き限り端部は (Lo/4+15d) , 中央部は (Lo/2+2x20d) とする。

符 号	FGX101			FGX101A		FGX102			FGX102A	FGX103			FGX103A		FGX104			FGX104A	FGX104B		
位 置	B×O1通端 B×O3通端	中 央	他 端	端 部	中 央	B×O1通端 B×O3通端	中 央	他 端	全断面	B×O1通端 B×O3通端	中 央	他 端	端 部	中 央	B×O1通端	中 央	他 端	全断面	他 端	中 央	B×O3通端
断 面																					
B × D	600 X 1800			600 X 1800		750 X 1800			750 X 1800	750 X 1800			750 X 1800		750 X 1800			750 X 1800	750 X 1800		
上 端 筋	10-D32	5-D32	8-D32	8-D32	5-D32	15-D32	14-D32	14-D32	9-D32	13-D32	7-D32	10-D32	10-D32	7-D32	13-D32	10-D32	10-D32	9-D32	10-D32	10-D32	14-D32
下 端 筋	10-D32	7-D32	8-D32	8-D32	8-D32	14-D32	10-D32	9-D32	9-D32	13-D32	10-D32	10-D32	10-D32	10-D32	13-D32	10-D32	10-D32	9-D32	10-D32	10-D32	14-D32
腹 筋	10-D13			10-D13		10-D13			10-D13	10-D13			10-D13		10-D13			10-D13	10-D13		
あばら筋	□-D13@200			□-D13@200		□-D13@150			□-D13@150	□-D13@150			□-D13@150		□-D13@150			□-D13@150	□-D13@150		
カットオフ長さLdn	上端筋: 4300 下端筋: 4300	—	上端筋: 3700 下端筋: 3700	上端筋: 3200 下端筋: 3200	—	下端筋: 3100	—	—	—	上端筋: 4100 下端筋: 4100	—	上端筋: 3200 下端筋: 3200	上端筋: 3100 下端筋: 3100	—	上端筋: 4000 下端筋: 4000	—	—	—	—	—	上端筋: 4200 下端筋: 4200

符 号	FGX104C			FGX105			FGX105A	FGX105B			FGY102		FGY103			FGY104		FGY104A		FGY105		FGY106	
位 置	他 端	中 央	B×O3通端	B×O1通端	中 央	他 端	全断面	他 端	中 央	B×O3通端	端 部	中 央	BY05通端	中 央	BY06通端	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央
断 面																							
B × D	1000 X 1800			750 X 1800			750 X 1800	950 X 1800			700 X 1800		850 X 1800			600 X 1800		700 X 1800		600 X 1800		600 X 1800	
上 端 筋	18-D32	18-D32	21-D32	10-D32	9-D32	9-D32	10-D32	16-D32	16-D32	20-D32	7-D32	5-D32	10-D32	10-D32	13-D32	8-D32	4-D32	10-D32	5-D32	8-D32	4-D32	8-D32	5-D32
下 端 筋	18-D32	18-D32	21-D32	10-D32	9-D32	9-D32	10-D32	16-D32	16-D32	20-D32	7-D32	7-D32	10-D32	10-D32	13-D32	8-D32	7-D32	10-D32	7-D32	8-D32	7-D32	8-D32	7-D32
腹 筋	10-D13			10-D13			10-D13	10-D13			10-D13		10-D13			10-D13		10-D13		10-D13		10-D13	
あばら筋	□-D13@150			□-D13@150			□-D13@150	□-D13@150			□-D13@150		□-D13@150			□-D13@200		□-D13@150		□-D13@200		□-D13@200	
カットオフ長さLdn	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	上端筋:3000 下端筋:3000	-	-	-	上端筋:3600 下端筋:3600	上端筋:3700 下端筋:3700	-	上端筋:3700 下端筋:3700	-	上端筋:3700 下端筋:3700	-	上端筋:3200 下端筋:3200	

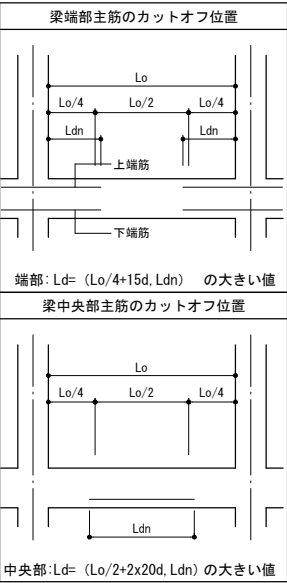
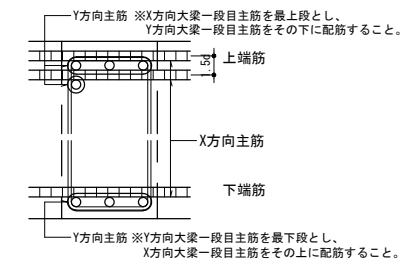
符 号	FGY106A		FGY107			FGY108		FGY109		FGY110	
位 置	端 部	中 央	BY01通端	中 央	BY02通端	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央
断 面											
B × D	850 X 1800		750 X 1800			600 X 1800		600 X 1800		600 X 1800	
上 端 筋	14-D32	7-D32	12-D32	10-D32	10-D32	8-D32	4-D32	7-D32	4-D32	7-D32	4-D32
下 端 筋	14-D32	10-D32	12-D32	10-D32	10-D32	8-D32	7-D32	7-D32	7-D32	7-D32	7-D32
腹 筋	10-D13		10-D13			10-D13		10-D13		10-D13	
あばら筋	□-D13@150		□-D13@150			□-D13@200		□-D13@200		□-D13@200	
カットオフ長さLdn	上端筋: 3900 下端筋: 3900	—	上端筋: 4000 下端筋: 4000	—	—	上端筋: 3700 下端筋: 3700	—	上端筋: 3600 下端筋: 3600	—	上端筋: 3600 下端筋: 3600	—

基礎小梁断面表 1/50 特記外：1. 巾止め筋は マフ型D10@1000以内とする。
2. 2 段筋の定着長さLdは下表Ldn欄を採用する。記載無き限り端部は (Lo/4+15d) , 中央部は (Lo/2+2x20d) とする。

符 号	FB101			FB101A		FB102	FB103		FB104	FCB104	FCG101
位 置	B×O1通端 B×O3通端	中 央	他 端	端 部	中 央	全断面	端 部	中 央	全断面	全断面	全断面
断 面											
B × D	350 X 1000			350 X 1000		350 X 1650	550 X 1650		400 X 800	400 X 800	600 X 1800
上 端 筋	4-D19	3-D19	5-D19	5-D19	3-D19	3-D25	5-D25	5-D25	3-D19	3-D19	5-D32
下 端 筋	3-D19	5-D19	3-D19	3-D19	4-D19	3-D25	5-D25	8-D25	3-D19	3-D19	5-D32
腹 筋	4-D13			4-D13		8-D13	8-D13		2-D13	2-D13	10-D13
あばら筋	□-D10@200			□-D10@200		□-D10@200	□-D13@150		□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200
カットオフ長さLdn	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

大梁主筋位置関係要領図

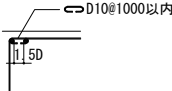
- 主筋の納まりにより位置関係を変更する場合は監理者と協議すること。
- 2段筋の場合 間隔は1.5d (d:鉄筋径) を確保すること。



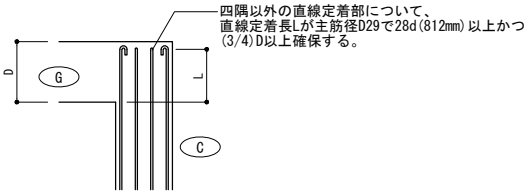
柱断面表 1/50											
1. 〇印は寄せ筋を示す。 2. 仕口部の帯筋は 鉄筋量帯筋比0.2%以上とし、□-D13#100とする。 3. 納まり上フープピッチが広がる箇所は上下にわけて、等量の鉄筋を配置すること。 4. 「S13」は高強度せん断補強筋 KS785の使用箇所を示す。											
符 号	C101	C101A	C101B	C102	C102A	C103	C103A	C104	C104A	C105	C105A
2 階											
X × Y				1200X1000	1200X1000			1200X1000	1200X1000	1200X1000	1200X1000
主 筋				24-D29	24-D29			24-D29	24-D29	24-D29	24-D29
帯 筋				□-D13@100	□-D13@100			□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100
Y 1 階											
X × Y	1100X1000	1000X1000	1100X1100	1200X1000	1200X1000	1100X1000	1200X1000	1200X1000	1200X1000	1200X1000	1200X1000
主 筋	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	20-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29	24-D29
帯 筋	□-S13@100	□-S13@100	□-D13@100	□-S13@100	□-D13@100	□-S13@100	□-S13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-S13@100	□-S13@100

寄せ筋配筋要領

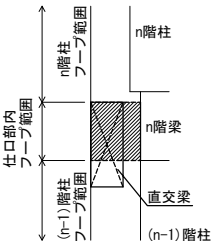
特記を除き、下記とする。
1. Dは呼び径とする。



最上階柱頭部 配筋要領



仕口部内フープ筋の範囲

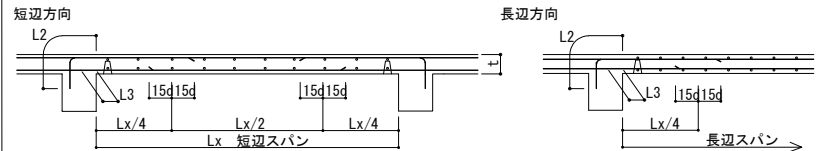


床版断面表 1. SOOは在来工法によるスラブ、FSOOは在来工法による耐圧盤スラブ、CSOOは在来工法による片持スラブを示す。

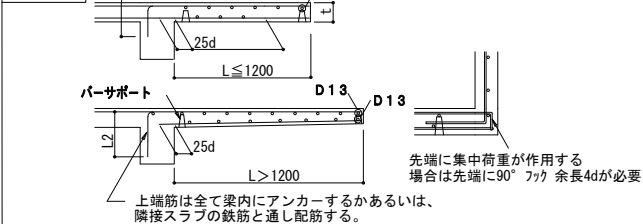
符号	類型	t : スラブ厚 (mm)	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				端部	中央	端部	中央	
S101	1	150	上端筋	D10, D13@200	←	D10, D13@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
S102	1	150	上端筋	D10, D13@200	←	D10, D13@200	←	
			下端筋	D10, D13@200	←	D10@200	←	
S103	1	150	上端筋	D10, D13@150	←	D10, D13@200	←	
			下端筋	D10@150	←	D10@200	←	
S104	1	150	上端筋	D10, D13@200	←	D10, D13@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
S105	1	150	上端筋	D10, D13@200	←	D10, D13@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
S106	1	150	上端筋	D10, D13@200	←	D10, D13@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
S107	1	150	上端筋	D10, D13@200	←	D10, D13@200	←	
			下端筋	D10, D13@200	←	D10@200	←	
S111	1	180	上端筋	D13@150	←	D10, D13@200	←	
			下端筋	D10, D13@150	←	D10, D13@200	←	
S112	1	150	上端筋	D10, D13@200	←	D10, D13@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
S121	1	150	上端筋	D10, D13@150	←	D10, D13@150	←	
			下端筋	D10, D13@150	←	D10, D13@150	←	
FS101	1	250	上端筋	D13@150	←	D13@150	←	逆洗排水槽底盤
			下端筋	D13@150	←	D13@150	←	
CS101	2	150	上端筋	D10, D13@200	←	D10@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
CS102	2	先端:120 基礎:170	上端筋	D10, D13@200	←	D10@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	
CS103	2	150	上端筋	D10, D13@200	←	D10@200	←	
			下端筋	D10@200	←	D10@200	←	

床版配筋表

1 型



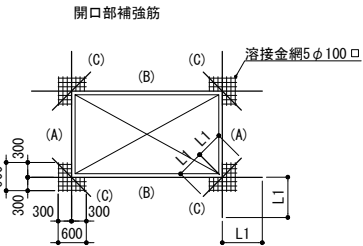
2 型



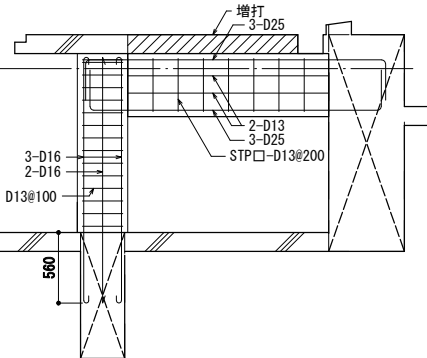
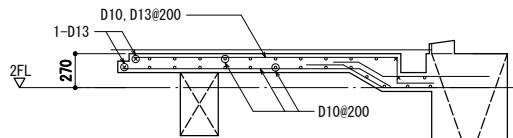
壁断面表 1/30

1. 巾止筋はD10#1000とする。

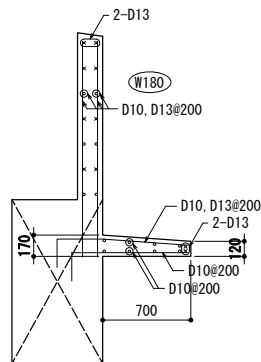
符 号	W180	W180A
断 面		
壁 厚	180	180
タテ筋	D10・D13@200ダブル	D10・D13@200ダブル
ヨコ筋	D10・D13@200ダブル	D10@200ダブル
開口補強	A 4-D16	-
	B 4-D16	-
	C -	-



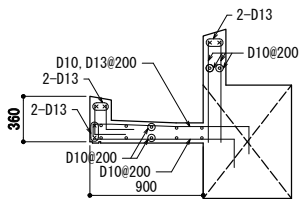
ブルサイド配筋詳細図 1/30



小底配筋詳細図 1/30

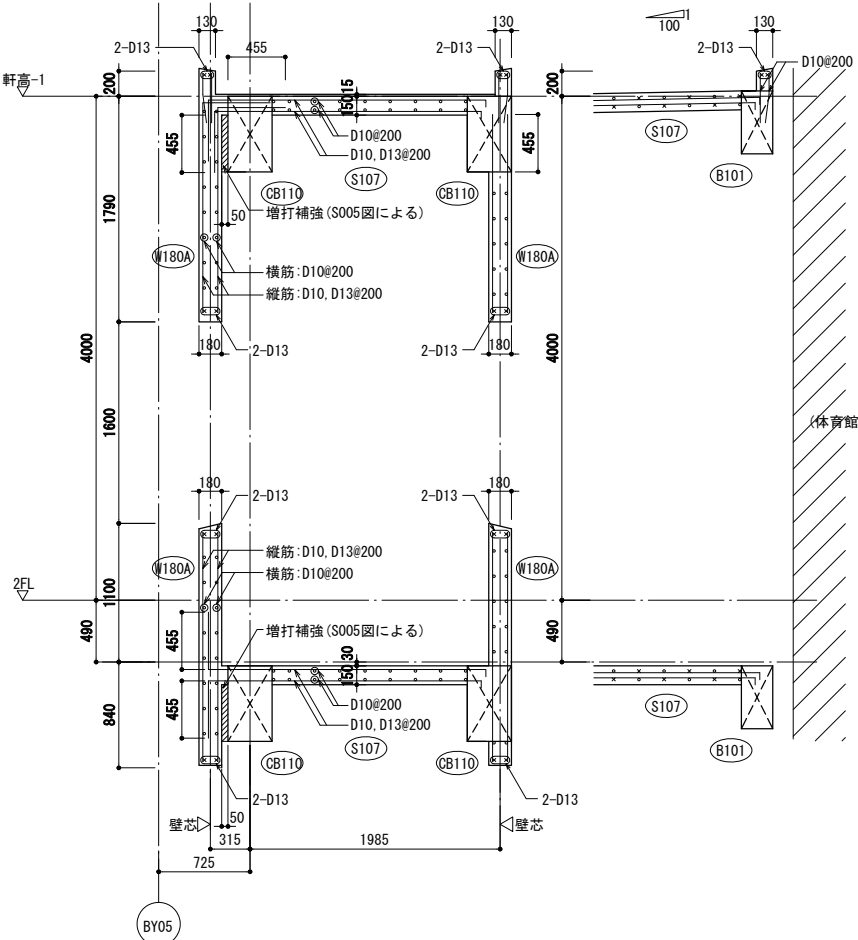


底・バラベット配筋詳細図 1/30



体育館への渡り廊下 配筋要領 1/30

注記：本体柱と壁W180Aが取り付く箇所には鉛直スリットを設けること。



株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		設計番号 20210533 一級建築士 No. 273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之	工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 RC部材リストその2 (武道場棟) 縮尺 A1: 1/50, 30(A1) A3: 1/100, 60(A3)	図面番号 S210
--	--	--	--	--	--	--------------

大梁断面表 1/50 1. 特記を除き、大梁カットオフ筋長さは 端部：Lo/4+15d・中央部：Lo/4+20dを採用すること

符 号	GX101			GX101A	GX102	GX102A	GX102B	GX102C			GY102		GY102A		GY103			
位 置	BX01・BX03通端	中央	他 端	全 域	全 域	全 域	全 域	他 端	中央	BX03通端	端 部	中央	端 部	中央	BY05通端	中央	BY06通端	
R 階																		
B × D											850X900				850X900			
上 端 筋											8-D25	8-D25			8-D25	8-D25	8-D25	
下 端 筋											8-D25	8-D25			8-D25	8-D25	8-D25	
腹 筋											4-D13				4-D13			
あばら筋											▣-D13@100				▣-D13@100			
カットオフ長さ	-			-			-			-			-					
2 階																		
B × D	950X1300			850X1000	600X1720	600X1720	700X1525	700X1525			600X1000		600X1000		600X1000			
上 端 筋	14-D29	14-D29	17-D29	13-D25	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25	14-D25	11-D25	6-D25	11-D25	6-D25	11-D25	6-D25	9-D25	
下 端 筋	10-D29	15-D29	10-D29	8-D25	11-D25	11-D25	12-D25	12-D25	12-D25	12-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	
腹 筋	6-D13			4-D13	10-D13	10-D13	8-D13	8-D13			4-D13		4-D13		4-D13			
あばら筋	▣-D13@100			▣-D13@150	▣-D13@150	▣-D13@150	▣-D13@150	▣-D13@150			▣-D13@100		▣-D13@100		▣-D13@100			
カットオフ長さ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	上端筋:2700 下端筋:2700	-	上端筋:2700 下端筋:2700	-	上端筋:2700	-	-	

符 号	GY104		GY105		GY105A		GY105B			GY106		GY106A					
位 置	端 部	中 央	端 部	中 央	端 部	中 央	BY04通端	中 央	BY05通端	端 部	中 央	端 部	中 央				
R 階																	
B × D			600X900		850X900					600X900		850X900					
上 端 筋			8-D25	6-D25	8-D25	8-D25				8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25
下 端 筋			8-D25	8-D25	8-D25	8-D25				8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25
腹 筋			4-D13		10-D25					4-D13		10-D25					
あばら筋			□-D13@100		□-D13@100					□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100	
カットオフ長さ	-		-		-		-		-		-		-				
2 階																	
B × D	600X1720		600X1000		600X1000		600X1000			600X1000							
上 端 筋	8-D25	6-D25	8-D25	6-D25	8-D25	6-D25	8-D25	6-D25	11-D25	11-D25	6-D25						
下 端 筋	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25	8-D25						
腹 筋	10-D13		4-D13		4-D13		4-D13			4-D13							
あばら筋	□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100		□-D13@100			□-D13@100							
カットオフ長さ	上端筋:2700 下端筋:2700	-	-	-	-	-	-	-	上端筋:2700	上端筋:2700	-						

	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024.03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
		一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695 久保 久志	図面名称 RC部材リストその3 (武道場棟) 縮尺 A1: 1/50 (A1) A3: 1/100 (A3)	S211
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之			

PC梁断面表


符 号	PGX101			PGX102			PGX103			PGX104			PGX105			PGX106	
位 置	BX02通端 B × D	中 央 B × D	BX03通端 B × D	BX01通端 B × D	中 央 B × D	BX02通端 B × D	BX02通端 B × D	中 央 B × D	BX03通端 B × D	BX01通端 B × D	中 央 B × D	BX02通端 B × D	外 端 B × D	中 央 B × D	内 端 B × D	端 部 B × D	中 央 B × D
R 階	700X1100		1000X1100	1000X900	850X900	850X1100	1000X1100	700X1100	1000X1100	-		-	-			-	
2 階	700X1300		1000X1300	1000X1300	700X1300	700X1300	700X1300	700X1300	1000X1300	1000X1300	700X1300		1000X1300			1000X1000	



















符 号	PGY101			PGY102		
位 置	BY01通端 B × D	中 央 B × D	BY02通端 B × D	BY02通端 B × D	中 央 B × D	BY03通端 B × D
R 階	-		-	-	-	-
2 階	1000X1100	700X1100		700X1100		1000X1100



















間柱リスト 1/50






















小梁断面表 1/50

1. 特記を除き、巾止め筋 D10@1000以下とする

符 号	P101
<div><div>Y 断面</div><div></div></div>	
X × Y	400X400
主 筋	8-D16
帯 筋	□-D13@100

符号	B101	B102			B103		B104			B105		B106	B107			B107A		
位置	全 域	外 端	中 央	内 端	端 部	中 央	外 端	中 央	内 端	端 部	中 央	全 域	外 端	中 央	内 端	外 端	中 央	内 端
断面																		
B × D	250X500	350X800			350X800		400X800			400X800		300X600	350X800			400X800		
上 端 筋	2-D19	3-D25	3-D25	5-D25	5-D25	3-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25	4-D25	3-D19	3-D25	3-D25	5-D25	4-D25	4-D25	7-D25
下 端 筋	2-D19	3-D25	4-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	3-D19	3-D25	4-D25	3-D25	4-D25	7-D25	4-D25
腹 筋	-	2-D13			2-D13		2-D13			2-D13		2-D13	2-D13			2-D13		
あばら筋	□-D10@200	□-D10@200			□-D10@200		□-D13@200			□-D13@200		□-D10@200	□-D10@200			□-D13@200		

符号	B107B			B108		B108A		B109	B110	B111			B112			B113		
位置	外 端	中 央	内 端	端 部	中 央	端 部	中 央	全 域	全 域	外 端	中 央	内 端	外 端	中 央	内 端	外 端	中 央	内 端
断面																		
B × D	450X800			350X800		400X800		350X800	350X600	650X1000			450X1000			450X1000		
上 端 筋	5-D25	5-D25	7-D25	5-D25	3-D25	7-D25	4-D25	3-D25	3-D25	9-D25	7-D25	14-D25	7-D25	5-D25	10-D25	5-D25	5-D25	10-D25
下 端 筋	5-D25	8-D25	5-D25	3-D25	4-D25	4-D25	7-D25	3-D25	3-D25	7-D25	12-D25	7-D25	5-D25	9-D25	5-D25	5-D25	7-D25	5-D25
腹 筋	2-D13			2-D13		2-D13		2-D13	2-D13	4-D13			4-D13			4-D13		
あばら筋	□-D13@200			□-D10@200		□-D13@200		□-D10@200	□-D10@200	□-D13@150			□-D13@150			□-D13@150		

符号	B114			B115		B116		B117			B118		B121	B122	B123	B124	B125		B126	CB110	CG101
位置	外 端	中 央	内 端	端 部	中 央	端 部	中 央	外 端	中 央	内 端	端 部	中 央	全 域	全 域	全 域	全 域	端 部	中 央	全 域	全 域	全 域
断面																					
B × D	650X1000			650X1000		650X1000		350X1720			350X1720		350X800	250X500	250X500	400X600	400X600		400X600	350X600	500X1720
上 端 筋	9-D25	7-D25	13-D25	13-D25	7-D25	8-D25	7-D25	3-D25	3-D25	4-D25	4-D25	3-D25	3-D25	2-D19	2-D16	3-D16	3-D19	3-D19	3-D25	3-D25	7-D25
下 端 筋	7-D25	13-D25	7-D25	7-D25	13-D25	10-D25	13-D25	3-D25	5-D25	3-D25	3-D25	4-D25	3-D25	2-D19	2-D16	3-D16	3-D19	4-D19	3-D25	3-D25	5-D25
腹 筋	4-D13			4-D13		4-D13		10-D13			10-D13		4-D13	-	-	2-D13	2-D13		2-D13	2-D13	10-D13
あばら筋	□-D13@150			□-D13@150		□-D13@150		□-D10@200			□-D10@200		□-D10@200	□-D10@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D13@200

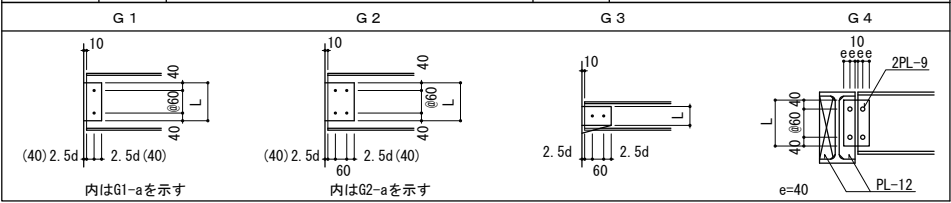
					株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
						一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695	図面名称 R C部材リストその 4 (武道場棟) 縮尺 A1: 1/50 (A1) A3: 1/100 (A3)	S212
						高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志		

二次部材リスト

1. 鋼材はSS400、使用ボルトはHTB(S10T)
ボルトピッチ60mm、鉛直方向のへりあき40mm、水平方向のへりあき50mmとする。

2. 屋外露出部の鉄骨面は溶融亜鉛メッキ(JIS H8641の2種)とし、
ボルトは亜鉛メッキ高力ボルト(F8T相当 大臣認定品)とする。

	符号	断 面	継手形式	備 考
小梁・間柱等 ボルト・G.PL	SB19M	H-194×150×6×9	G 1	G. PL-9, 2-M20
	SB20	H-200×100×5. 5×8	G 1	G. PL-9, 2-M20
	SB30	H-300×150×6. 5×9	G 1	G. PL-9, 3-M20
	HSB10W	H-100×100×6×8	G 3	G. PL-9, 2-M20 横使い
	HSB20	H-200×100×5. 5×8	G 1	G. PL-9, 2-M20 横使い
	HSB25	H-250×125×6×9	G 1	G. PL-9, 2-M20 横使い
	SP100B	□-100×100×6 (STKR400)	-	取付要領を参照
	SP19M	H-194×150×6×9	G 1	G. PL-9, 2-M20
	SP15B	□-150×150×9 (STKR400)	G 1	G. PL-9, 2-M20
	SP20	H-200×100×5. 5×8	G 1	G. PL-9, 2-M20
	SP20A	□-200×200×9 (STKR400)	-	取付要領を参照
	SP25	H-250×125×6×9	G 1	G. PL-9, 2-M20
	SP216	φ-216. 3×9. 0 (STK400)	-	取付要領を参照
	SK101	詳細図参照		
	SK102	詳細図参照		
	SV101	TB-M16		丸鋼ブレース継手リスト参照



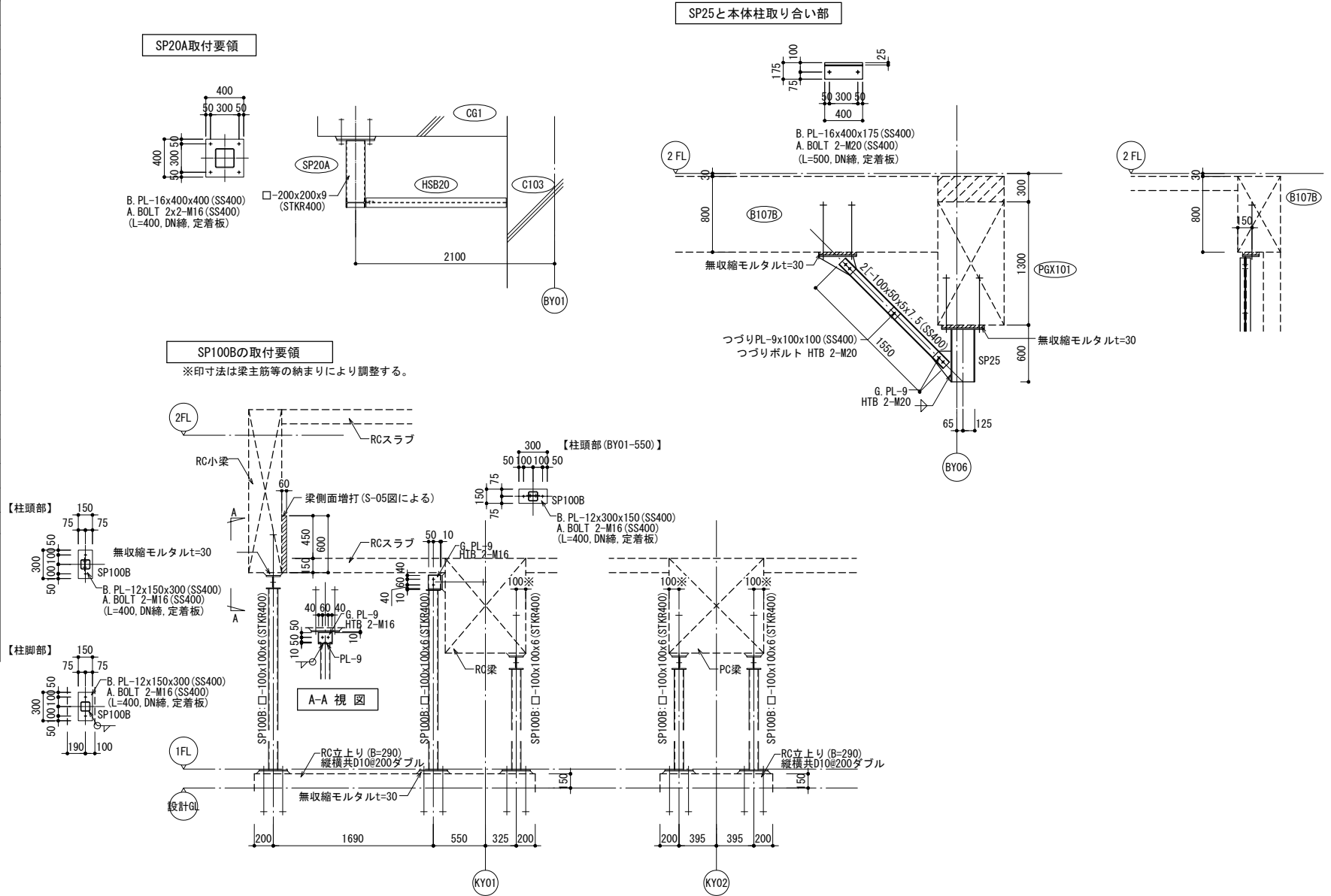
丸鋼ブレース継手リスト

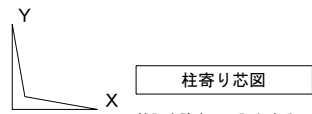
(JISカーボナル筋かい) ボルトはH.T.B (S10T) とする。
屋外露出部は溶融亜鉛メッキ処理を施し、使用ボルトは溶融亜鉛メッキ高力ボルトF8T相当 (大臣認定品) とする。

M 1 6 ~ M 2 2 の場合

M 2 4 ~ M 3 3 の場合

符 号	部 材	G. PL -t	羽子板 t × w	羽子板 H.T.B	はしあき e1 e2	ピッチ p	溶接長 L	B
SV101	M16	9	6 × 50	1-M16	50 70	-	65	70



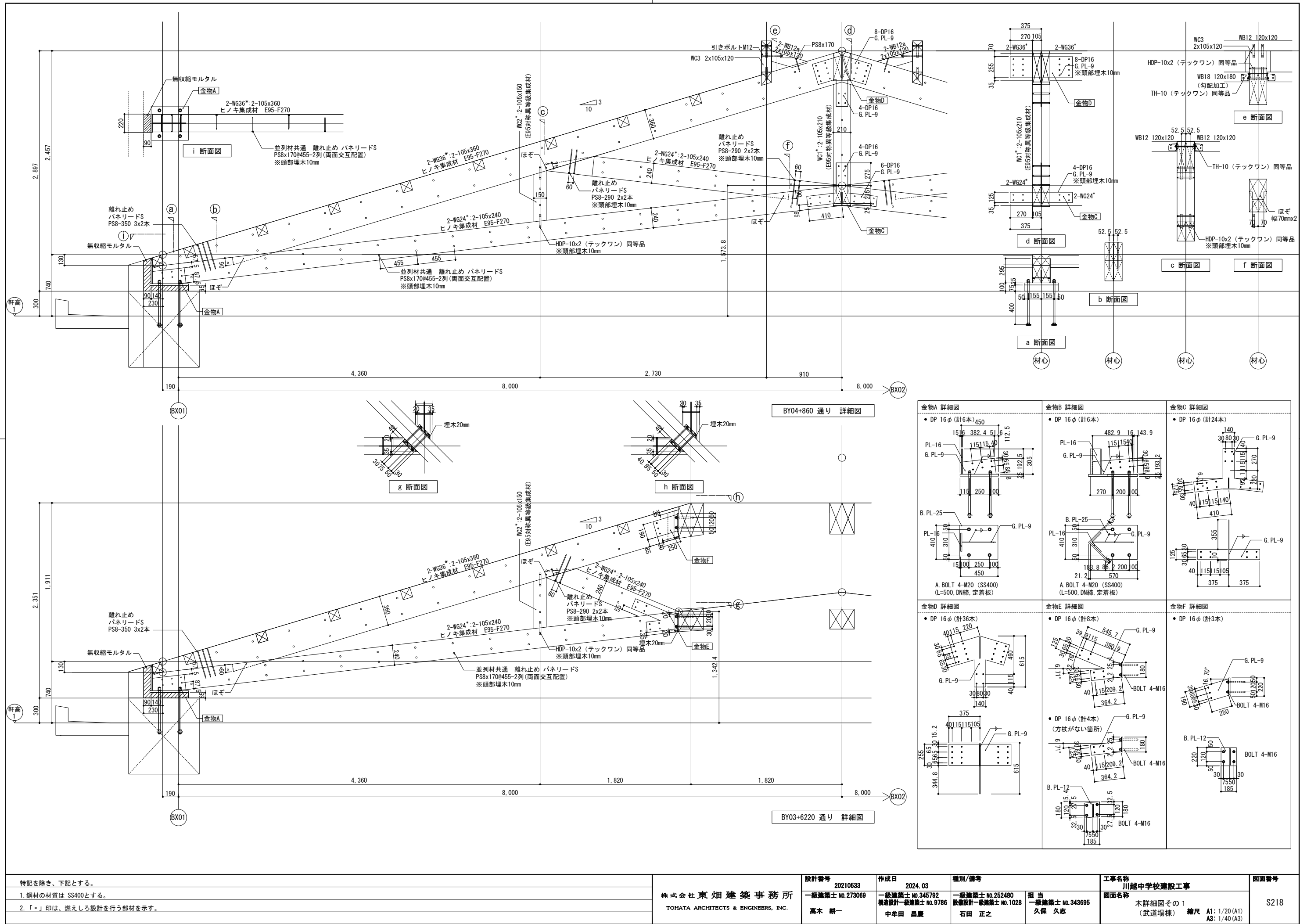


1. ハンチのある大梁のハンチ長は S253図, S254図を参照のこと。

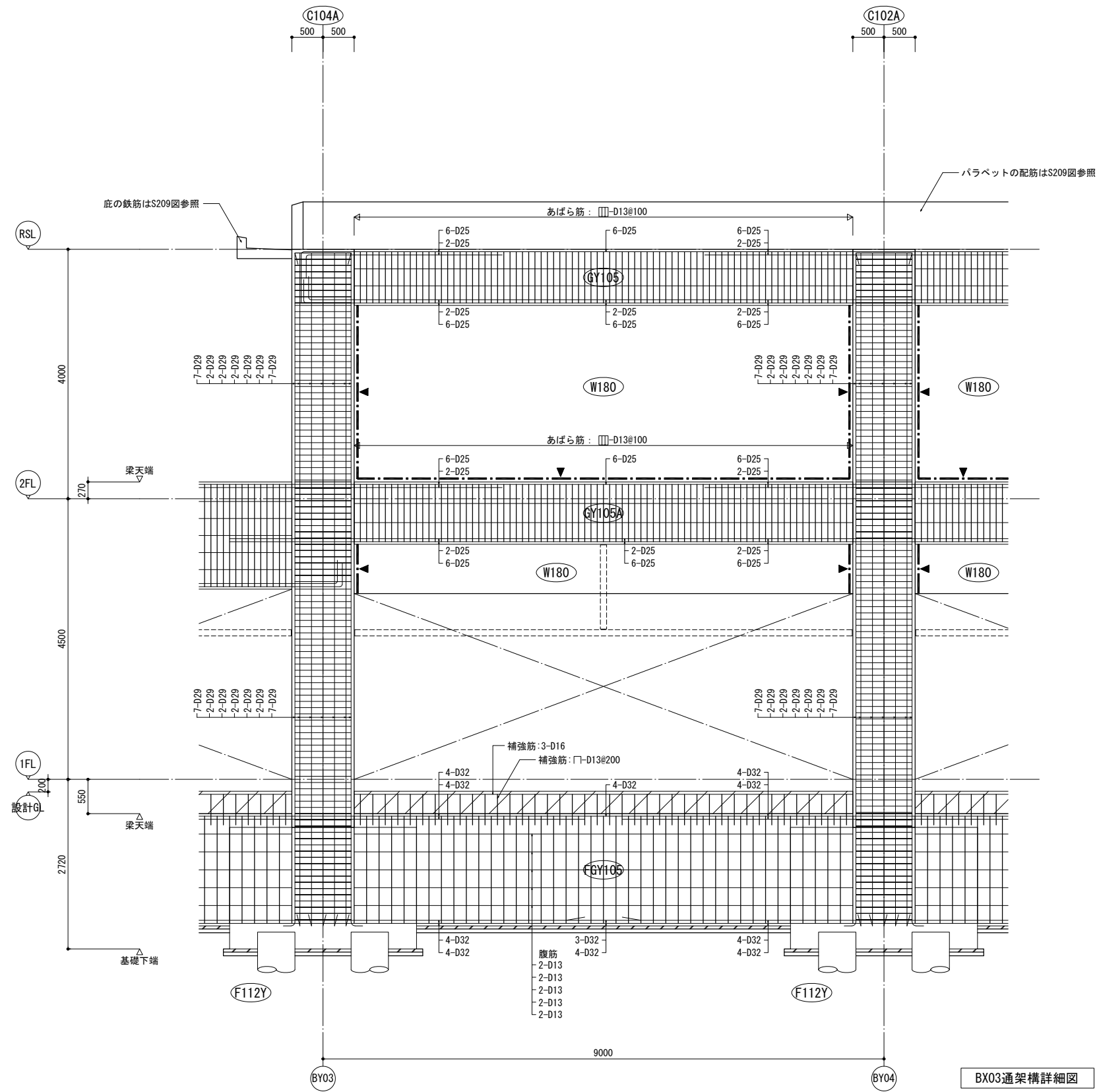
		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S214
	株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 NO. 273069	一級建築士 NO. 345792 構造設計一級建築士 NO. 0786	一級建築士 NO. 252480 設備設計一級建築士 NO. 1028	担 当 一級建築士 NO. 343695	図面名称 柱寄り芯図 (武道場棟)	
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志	縮尺 A1: 1/150, 75(A1) A3: 1/300, 150(A3)	


特記を除き、下記とする。	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S216
1. 鋼材の材質は SS400、高力ボルトはS10Tとする。RC部材との取合部のB、PLはSS400、A、BOLTはSS400とする。		一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028	担 当 一級建築士 No. 343695 図面名称 鉄骨詳細図その 2 (武道場棟) 縮尺 A1: 1/30 (A1) A3: 1/60 (A3)	
2. 通しダイヤフラムの板厚は 取り付く梁フランジの2サイズアップ以上かつ梁フランジ厚+6mm以上とし 材質はSM490Cとする。		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志	
3. 屋外露出部の鉄骨面は溶融亜鉛メッキ (JIS H8641の2種) とし、ボルトは亜鉛メッキ高力ボルト (F8T相当 大臣認定品) とする。						

特記を除き、下記とする。		株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号	
1. 鋼材の材質は SS400、高力ボルトはS10Tとする。RC部材ととの取合部のB. PLはSS400、A. BOLTはSS400とする。			一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028	担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志	図面名称 鉄骨詳細図その 3 (武道場棟) 縮尺 A1: 1/30 (A1) A3: 1/60 (A3)	S217
2. 通しダイヤフラムの板厚は、取り付く梁フランジの2サイズアップ以上かつ梁フランジ厚+6mm以上とし 材質はSN490Cとする。			高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之			
3. 屋外露出部の鉄骨面は溶融亜鉛メッキ (JIS H8641の2種) とし、ボルトは亜鉛メッキ高力ボルト (F8T相当 大臣認定品) とする。								



特記を除き、下記とする。 1. 鋼材の材質は SS400とする。 2. 「・」印は、燃えしろ設計を行う部材を示す。	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533 一級建築士 No.273069 高木 耕一	作成日 2024. 03 一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786 中牟田 昌慶	種別/備考 一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028 石田 正之	担 当 一級建築士 No.343695 久保 久志	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S218
						図面名称 木詳細図その1 (武道場棟)	
						縮尺 A1: 1/20 (A1) A3: 1/40 (A3)	



◎特記事項		５．増大補強要領は「鉄筋コンクリート標準図その３(Ｓ０５図)」参照	
１．特記を除き大梁のあばら筋は □－Ｄ１３@２００とする。	６．最上階柱頭部の柱主筋定着長さは Ｓ２０９図 に示す。		
２．特記を除き大梁の腹筋は ２－Ｄ１３とする。	７．  は 耐震スリットを示す。		
３．特記を除き柱の帯筋は 田－Ｄ１３@１００とする。	８．特記を除き 壁はＷ１８０とする。		
４．特記を除き柱、大梁仕口部帯筋は鉄筋量 〇．２％以上とする。			

		株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号 S220	
			一級建築士 No. 273069	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028	担 当 一級建築士 No. 343695		図面名称
			高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志		架構詳細図 (武道場棟) 縮尺 A1: 1/40 (A1) A3: 1/80 (A3)

プレストレスト コンクリート 特記仕様書

1. 一般事項

a. 適用の範囲

本工事は設計図書並びに本特記仕様書の他、

全国官報販売協同組合『2009年版プレストレストコンクリート造技術基準解説及び設計・計算例』（2009年版）
日本建築学会 『プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説』（2022年版）
『プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種PC）構造設計・施工指針・同解説』（2003年版）
『建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事』（2018年版）

による。

ただし、グラウト工事については
プレストレスト・コンクリート建設業協会
『PCグラウト施工マニュアル 建築編 2013』（2013年版）
『プレストレストコンクリート工事における緊張管理の手引き（建築編）』（2019年版）による。

b. 構造方式

本構造の方式は鉄筋コンクリート造とプレストレストコンクリート（以下PC）造とを組み合わせたものであり、プレストレス導入はポストテンション方式である。
緊張方法については伏図参照とする。

c. 施工計画書

施工の順序・方法・工法等の施工計画は工事着手前に充分検討し、その計画書を監督職員に提出し承諾を受ける。

d. PC工事

PC工事の施工は、株式会社 建研、オリエンタル白石株式会社、株式会社ピーエス三菱の3社の内1社の責任施工とし、施工の範囲はPC鋼材の配置・緊張・グラウトまでの一式とする。

2. 材料

a. 鉄 筋

建築工事標準仕様書による。

b. PC鋼材

PC鋼材は有害な傷のないもので次に適合するものを使用する。
PC鋼材より線 JIS G 3536

記 号		SWPR7BL
呼び径		12.7 mm
断面積		98.71 mm ²
引張荷重		183.0 kN/本
降伏荷重		156.0 kN/本
許容引張荷重	導入時	132.6 kN/本
	定着完了時	124.8 kN/本
緊張端部設計導入力		124.8 kN/本

※ 一時的に過緊張する場合には降伏荷重の0.9倍まで許容するものとする。

c. セメント

セメントはJIS R 5210 に規定するポルトランドセメントを使用し、普通ポルトランドセメントを原則とする。

d. コンクリート

コンクリートの品質は次の通りとする。

設計基準強度	36	N/mm ²
プレストレス導入時強度	27	N/mm ² 以上

e. 混和剤

コンクリート中に混和剤を用いる場合は、その品質・使用量について監督職員の承諾を受ける。

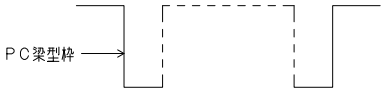
f. プレストレッシング定着工法

（財）日本建築センターの評定または評価を取得している定着工法（VSL工法等）とする。

3. 型枠工事

1. 緊張端定着具取り付け柱型枠にPC鋼材の貫通孔を空けておき、柱型枠の締め付け金物・バタ角・単管等はPC鋼材位置を避けて配置する。

2. PC梁型枠の組立は、PC鋼材の配置作業を考慮して下図実線を先組し、鉄筋PC鋼材配置後に破線部を組み立てる。



※ 施工状況に応じ、型枠の面側面を開放することも検討すること。

3. 梁側枠組立に際しては、事前にセパレーターの配置計画を行いPC鋼材位置を避ける。

4. PC部分は壁の少ない構造であるので、支保工の横つなぎ・筋かい等を充分に入れ横力に対して安全な仮設計画を行う。

5. PC梁のコンクリートは打ち込みの際、セメントペーストが漏れることのないようにする。

6. 型枠及びサポートは必ず2階分のサポートを使用し、コンクリート打設荷重を2層の梁で支持すること。かつサポートの存置期間はプレストレス導入完了までとする。

7. PC梁の貫通孔は監督職員の指示により行う。

4. 鉄筋工事

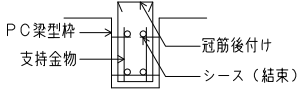
1. PC鋼材と鉄筋との取り合い（定着部近傍・直交梁交差部等）は、事前に施工図を作成して充分検討しておく。

2. PC鋼材配線作業中及び配線後は、原則として電気溶接及び溶断の作業は行わない。やむを得ず行う場合は充分に養生を置くこと。

5. PC鋼材の配置

1. PC鋼材（シース）の配置は、支持金物等により正確・強固に取り付ける。

（凡例）



2. 緊張端端部は充分養生し、シース内に雨水等が入らないように注意する。

3. シース位置の許容誤差は下記による。
部材の最小寸法が60cm未満の部分 ±1.0cm
部材の最小寸法が60cm以上の部分 ±1.5cm
上記の許容差は、水平・垂直の方向に別々に適用される。

4. グラウト注入管及び排気管の口元はセメントペースト等が流入しないように充分養生する。

6. コンクリート工事

プレストレストコンクリートのコンクリート打設にあたっては次のことに留意する。

1. PC梁のコンクリートは、原則として打ち継ぎをしてはならない。

2. PC梁に低強度のコンクリートが混ざらないように打設順序及び養生等を考慮する。

3. 定着部近傍は、プレストレス導入時局部応力が発生するので特に入念に締め固める。

4. PC鋼材・鉄筋・型枠が移動・損傷しないように注意する。

5. PC鋼材（シース）にはバイブレーターが触れてはならない。

6. スラブにもバイブレーターを使用して充分締め固める。

7. 緊張工事

a. 準備作業

1. PC鋼材・定着具の点検・清掃を行う。

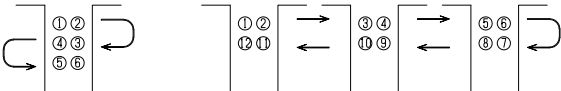
2. 緊張装置は事前にキャリブレーションを行う。

3. プレストレス導入時期は、コンクリートの圧縮強度が所定の強度以上に達したことを確認した後とし、監督職員の指示により行う。導入時期確認用テストピースは現場水中養生、または現場封かん養生とする。

b. 緊張順序

プレストレス導入は、局部的に緊張を完了してしまうことなく構造全体にわたって進めなければならない。

（凡例） 単体 連続



c. 緊張管理

緊張力の管理は緊張装置の荷重計の示度及びPC鋼材の伸びとを測定して行う。

8. グラウト工事

グラウトは、PC鋼材を充分包み込みPC鋼材を錆させないように保護すると共にPC鋼材とコンクリートとの付着を得ることを目的とする。

a. 配 合

グラウトの配合は次を標準とし、圧縮強度は30N/mm² 以上とする。
セメント・・・普通ポルトランドセメント

水 セメント 比	45%以下
混和剤（ノンブリージングタイプ）	セメント量の1.0%

グラウトの練り混ぜは電動グラウトミキサーまたはハンドミキサーを用いる。
プレミックスタイプを使用する場合は、監督職員の承諾を得る。

b. 作 業

1. シース内の閉塞の有無を確認する。

2. グラウトの注入は、グラウトポンプを用いシース内に空隙を残さないように入念に行う。

3. 排出孔より流出するグラウトが注入孔より注入するものと同じ濃度になるまで注入を続け、排出孔を塞ぐ。

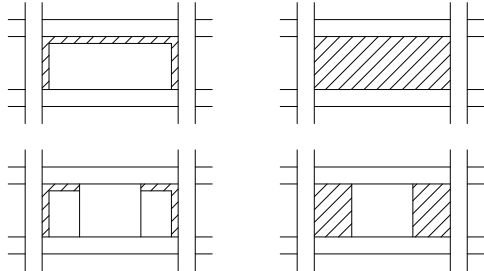
4. 排出孔を塞いだ後に続いて注入孔を塞ぐ。

9. PC鋼材の端部処理

PC鋼材定着具の露出部は、プレストレスト導入後すみやかに無収縮モルタル等で完全に保護する。

10. 壁の取り扱い

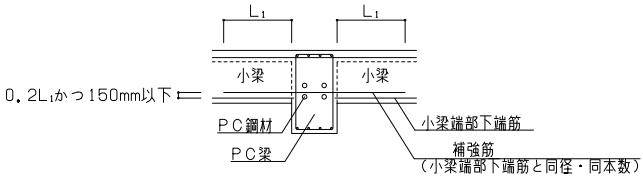
PC梁を含む場合あるいはPC梁に平行な耐震壁・雑壁がある場合は、所定の軸方向圧縮力が導入されるよう以下のような配慮を施す。



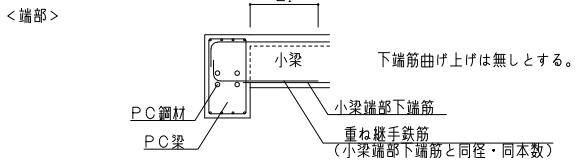
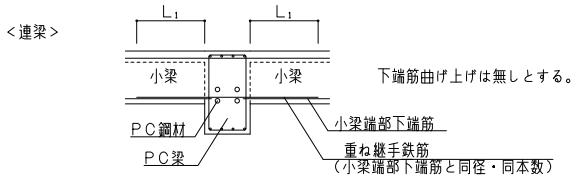
壁周囲スリット 壁後打ちコンクリート
（梁緊張後コンクリート打設）

11. 小梁下端筋の取り扱い

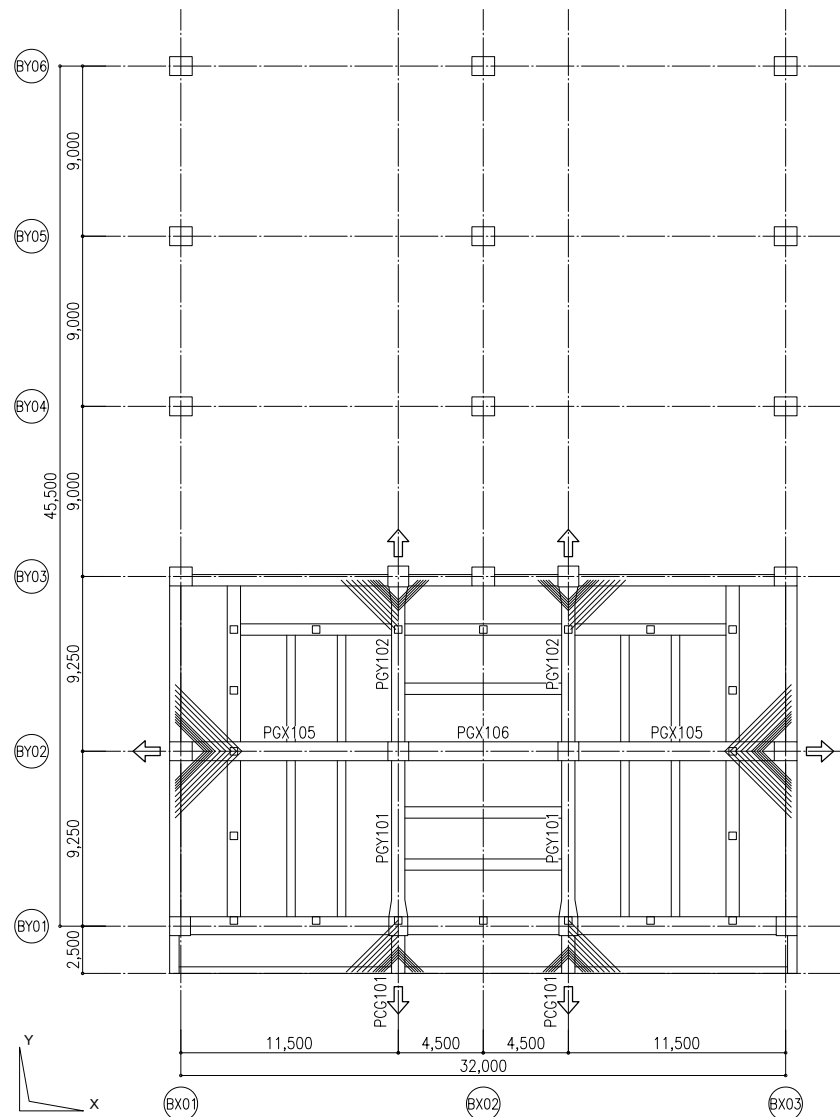
小梁の下端筋がシースと当たる場合には、シースの配置を優先し、以下のような配慮を施す。



※ 重ね継手が可能な場合、下記の通りとする。



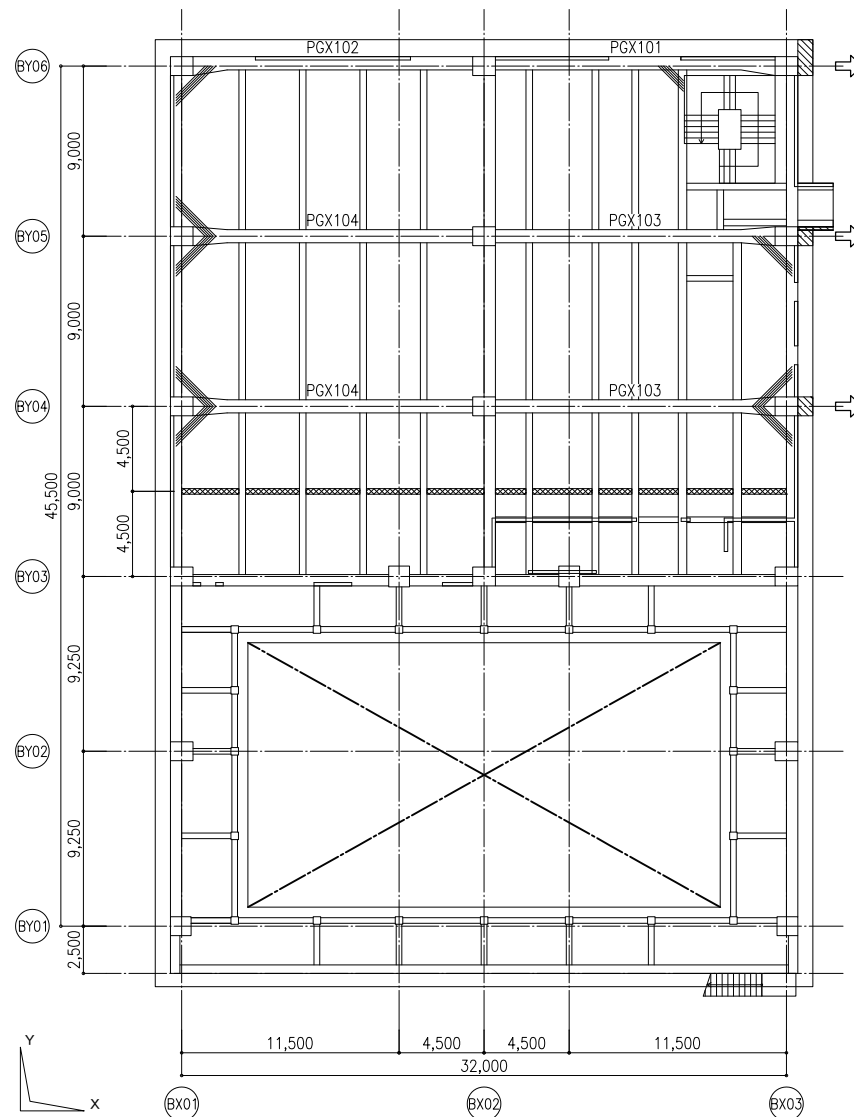
		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 No.273069 高木 耕一	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786 中牟田 昌慶	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028 石田 正之	図面名称 プレストレストコンクリート特記仕様書 （武道場棟） 縮尺 A1: A3:	S251
			担 当 一級建築士 No.343695 久保 久志			



2階ブール底部KEYPLAN S=1:200

特記なき限り下記による。

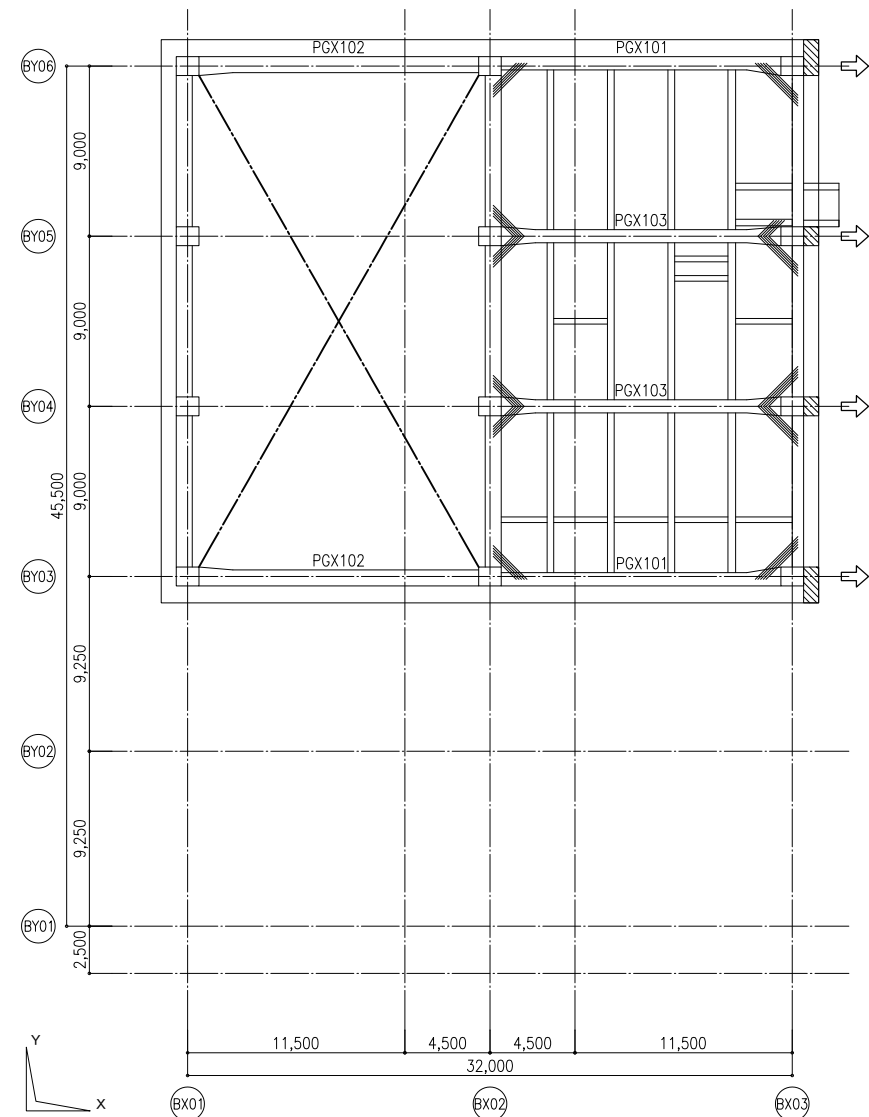
1. ⇨ 印は、PC梁緊張方向を示す。



2階KEYPLAN S=1:200

特記なき限り下記による。

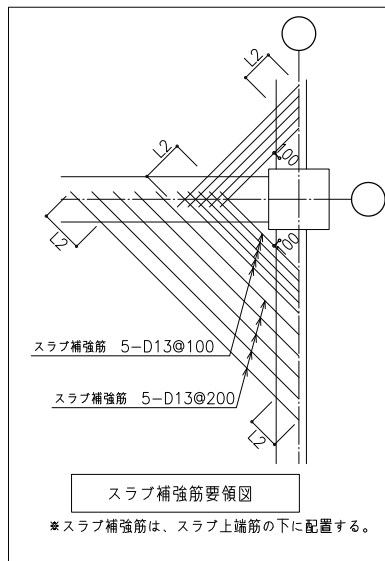
1. ⇨ 印は、PC梁緊張方向を示す。
2. [Hatched pattern] は緊張後コンクリートあと施工とする。
3. [Cross-hatched pattern] はスラブスリット（幅300mm）を示し、PC緊張後コンクリート打設するものとする。



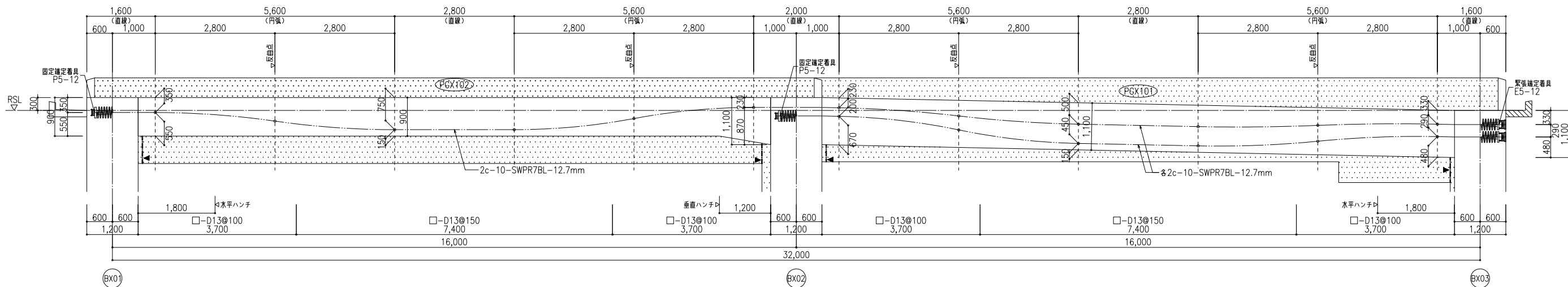
R2階KEYPLAN S=1:200

特記なき限り下記による。

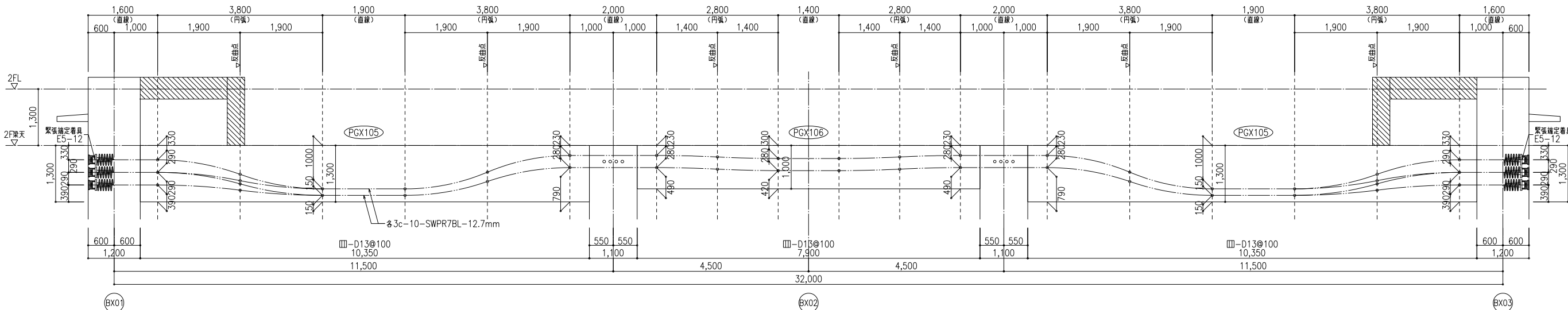
1. ⇨ 印は、PC梁緊張方向を示す。
2. [Hatched pattern] は緊張後コンクリートあと施工とする。



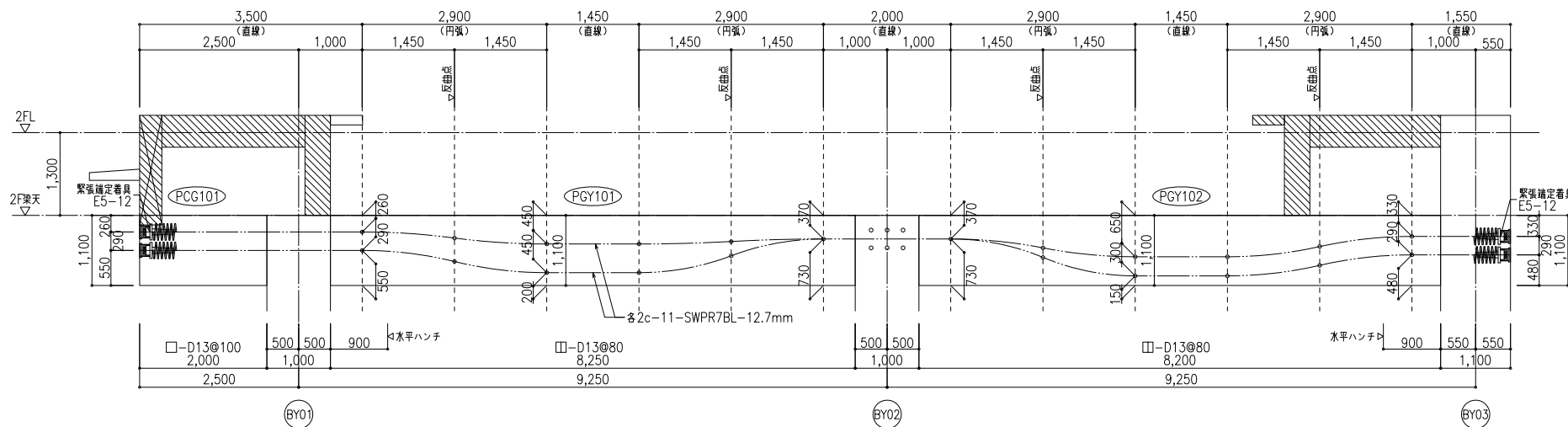
		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
株式会社 東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		一級建築士 NO. 273069	一級建築士 NO. 345792	一級建築士 NO. 252480	担 当 一級建築士 NO. 343695	図面名称 KEYPLAN (武道場棟) 縮尺 A1: 1/200 (A1) A3: 1/400 (A3)	S252
		構造設計一級建築士 NO. 9786	構造設計一級建築士 NO. 1028				
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之			



BY03通 配線断面図 S=1:50



BY02通 配線断面図 S=1:50

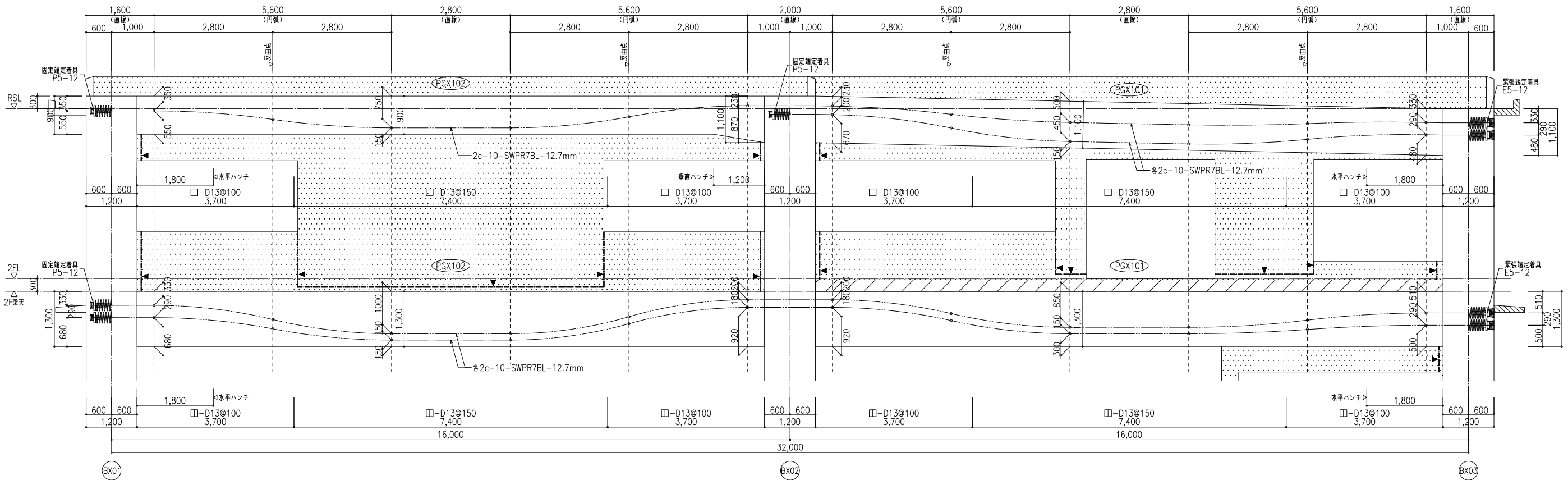


BX02+4500通
BX02-4500通 配線断面図 S=1:50

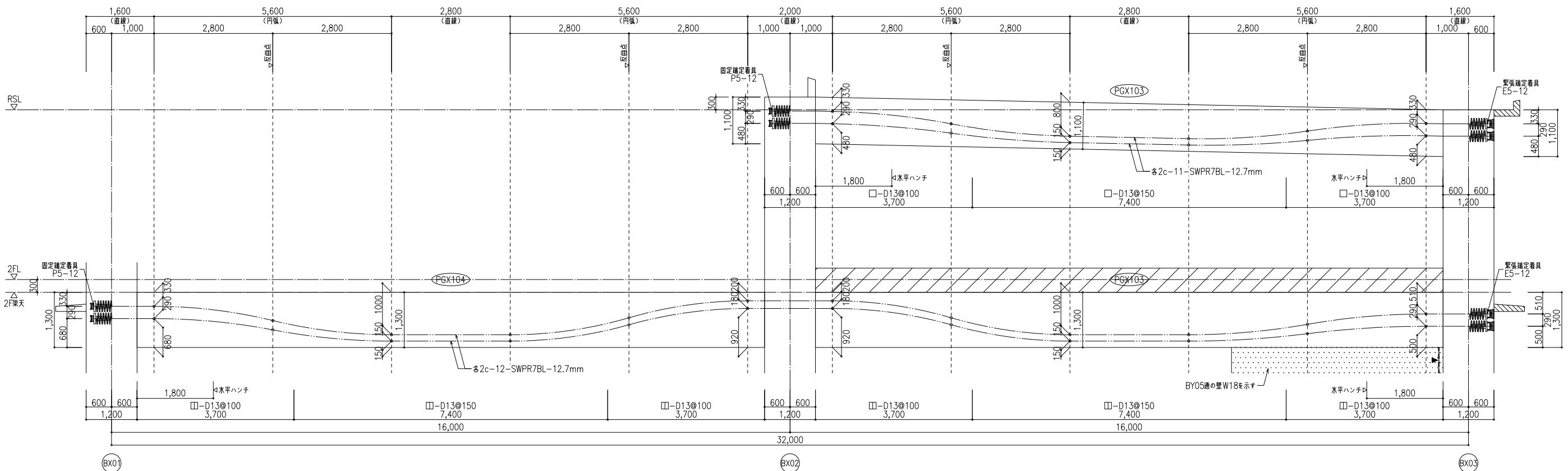
特記なき限り下記による。

1. は、梁上の増打を示す。
2. は緊張後コンクリートあと施工とする。
3. は雑壁・バラベットあと施工範囲を示す。

設計番号 20210533 作成日 2024. 03 一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 高木 耕一		種別/備考 一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之		工事名称 川越中学校建設工事 図面名称 PC配線図 その1 (武道場棟) 縮尺 A1: 1/50 (A1) A3: 1/100 (A3)		図面番号 S253	
株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.		担当 一級建築士 No. 343695 久保 久志					



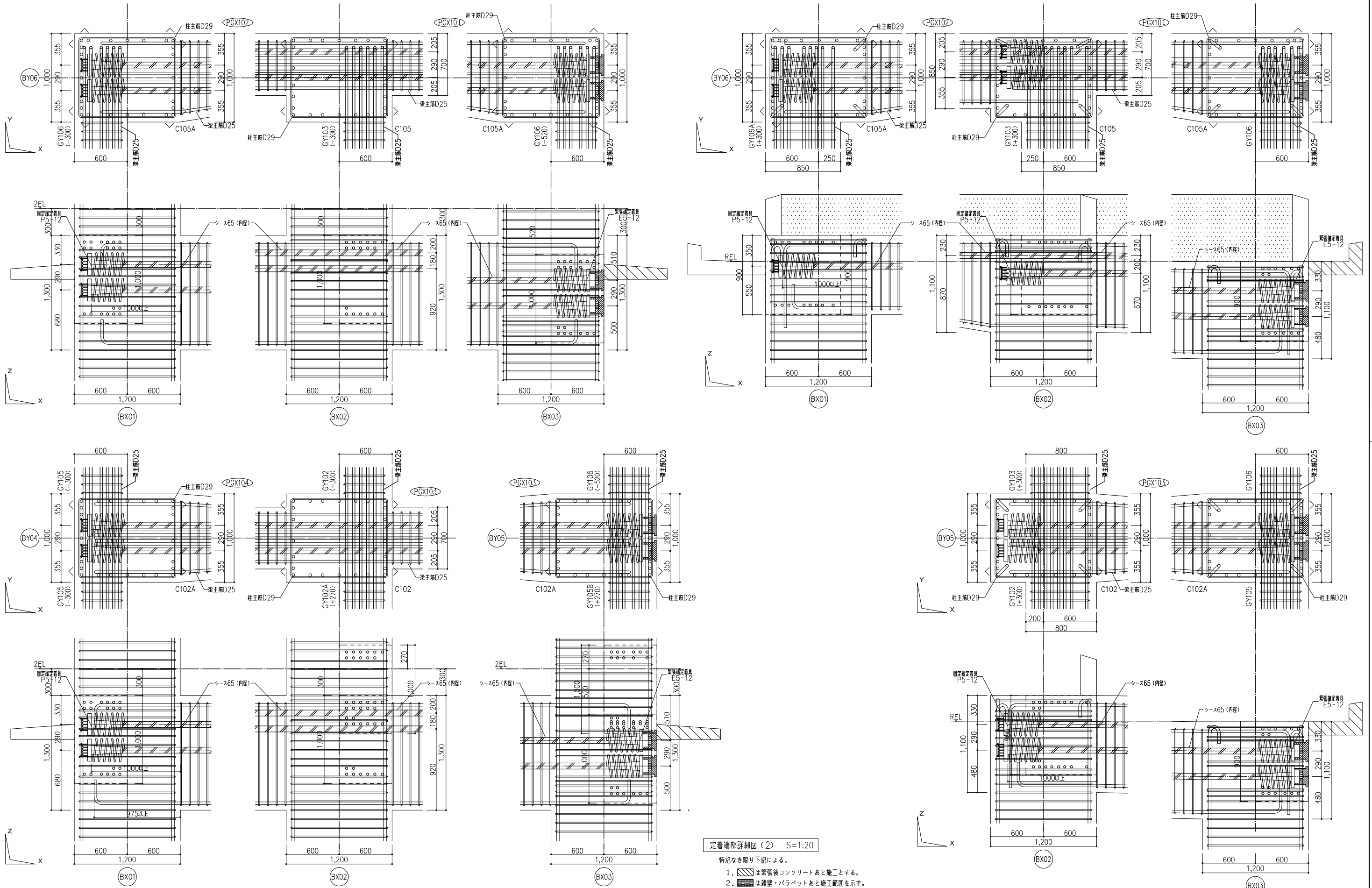
BY06通 配線断面図 S=1:50



BY04・BY05通 配線断面図 S=1:50

- 特記なき限り下記による。
1. は、梁上の増打を示す。
 2. は緊張後コンクリートあと施工とする。
 3. は雑壁・バラベットあと施工範囲を示す。

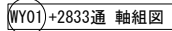
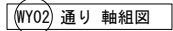
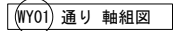
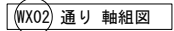
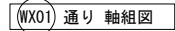
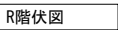
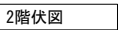
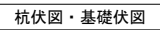
		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
	株式会社 東畑 建築 事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当 一級建築士 No.343695	図面名称 PC配線図 その2 (武道場棟) 縮尺 A1: 1/50 (A1) A3: 1/100 (A3)	S254
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志		



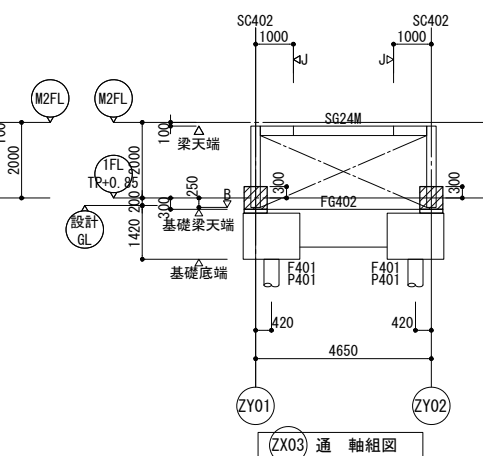
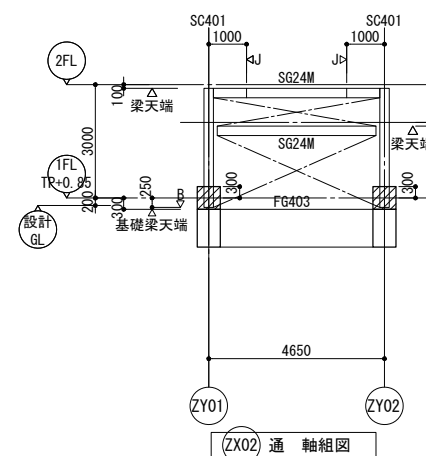
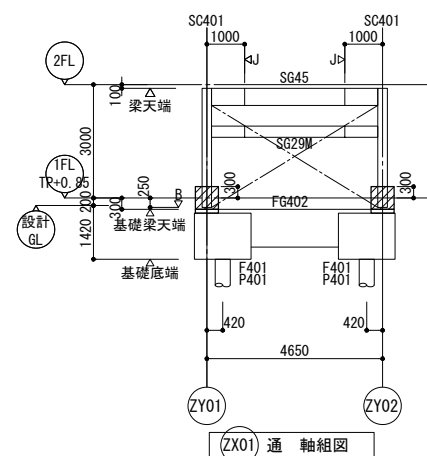
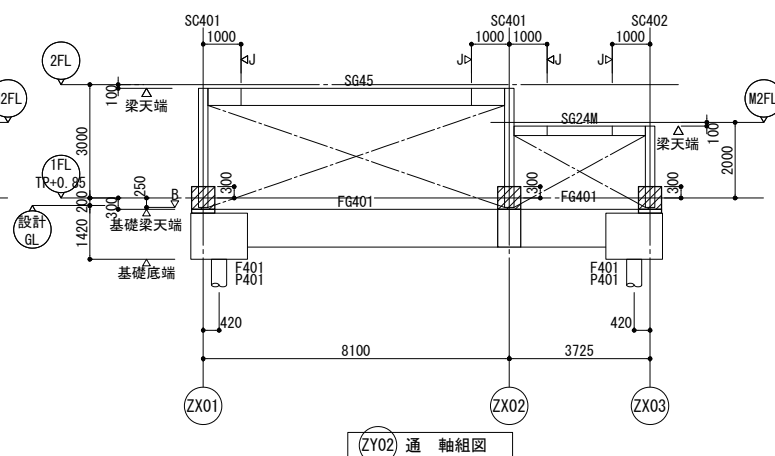
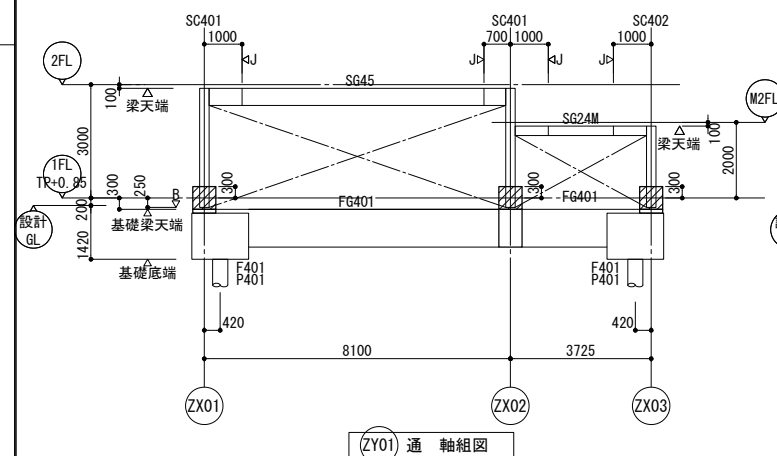
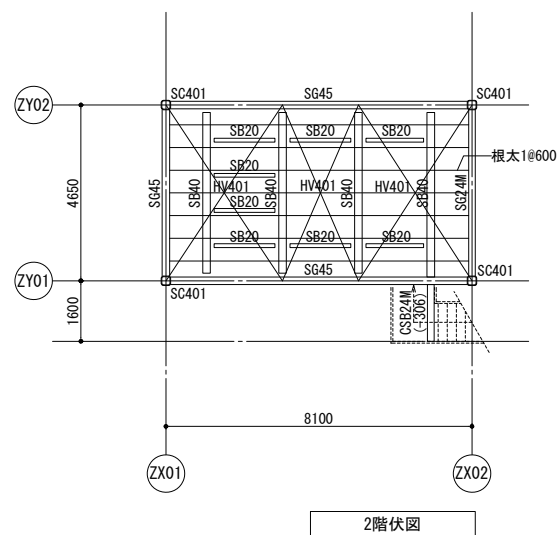
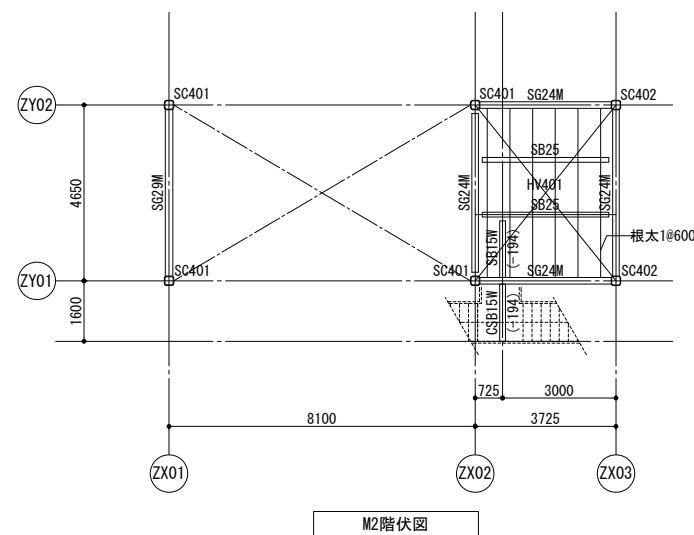
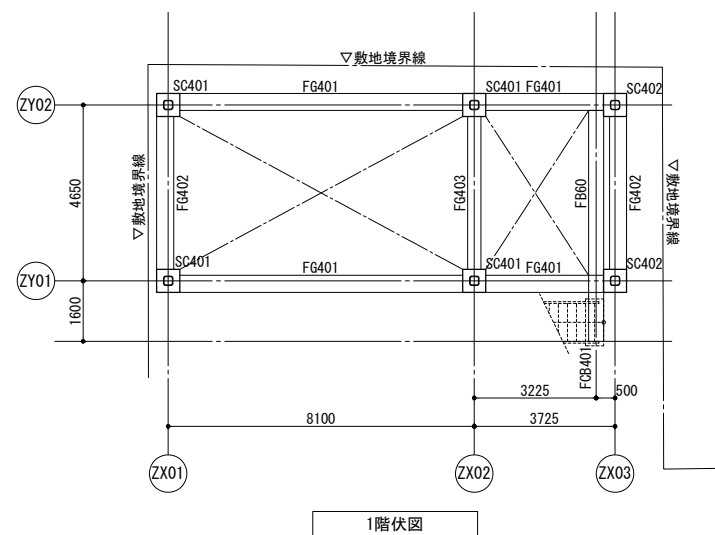
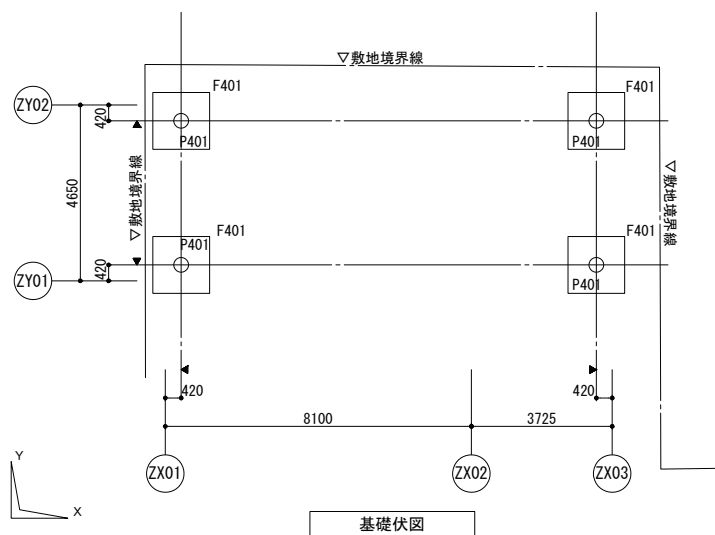
定着端部詳細図(2) S=1:20

- 特記なき限り下記による。
1. は緊張後コンクリートあと施工とする。
 2. は雑壁・バラベツあと施工範囲を示す。

			設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考		工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 NO. 273069	一級建築士 NO. 345792 構造設計一級建築士 NO. 9786	一級建築士 NO. 252480 設備設計一級建築士 NO. 1028	担 当 一級建築士 NO. 343695	図面名称 定着端部詳細図 その2 (武道場棟) 縮尺 A1: 1/20 (A1) A3: 1/40 (A3)	S257	
		高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志			



設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
一級建築士 NO.273069	一級建築士 NO.345792 構造設計一級建築士 NO.9786	一級建築士 NO.252480 設備設計一級建築士 NO.1028	図面名称 伏図・軸組図 (渡り廊下)	S301
高木 耕一	中牟田 昌慶	担当 一級建築士 NO.343695 久保 久志	縮尺 A1:1/150 (A1) A3:1/300 (A3)	





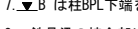
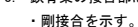



渡り廊下 伏図 軸組図



特記を除き、下記とする。

1. 設計GL=TP+0.65mとする。
2. 1FL=設計GL+200とする。
3. 杭工法はNEWスーパーFK工法(認定番号TACP-0462～0464)又は同等以上の支持力が確保できる下配工法とする。
 - ・Hyper-MEGA工法(膨脹型 拡大比 $\omega=1.0$) (認定番号TACP-0527～0529, TACP-0530～0532)
 - ・Hybrid Kneading工法(節抗摩擦強化型 節抗部掘削径比 $es=1.2$) (認定番号TACP-0586～0588)
5. 杭は以下による。
6. 杭先端レベル=1FL-1400とする。
7. ▼ は杭心を示す。特記なき限り通り柱心=杭心とする。
8. 水平方向のずれ: 水平方向の位置ずれの精度 $\pm 100\text{mm}$ 以下とする。
位置ずれが生じた場合、監督職員の指示により適切な補強を行うこと。
9. 垂直方向のずれ: 杭頭先端レベルの管理は高止まりの生じないように行うこと。

桁符号	記号	杭全長 (m)	本 数 (本)	杭 種						設計用長期	設計用短期	杭頭補強筋 (WSD390)
				上 杭	杭長(m)	中 杭	杭長(m)	下 杭	杭長(m)	許容支持力(kN/本)	許容支持力(kN/本)	
P401	○	23	4	SC杭105 φ400 (SKK490, t=6, 105N)	7	PHC杭105 φ400 (B種, 105N)	8	節付PHC杭105 φ400-550 (A種, 105N)	8	700	1400	4-WD32J

継手は機械式継手（TPジョイント）とし、引き抜き対応仕様とすること。（有効率100%）

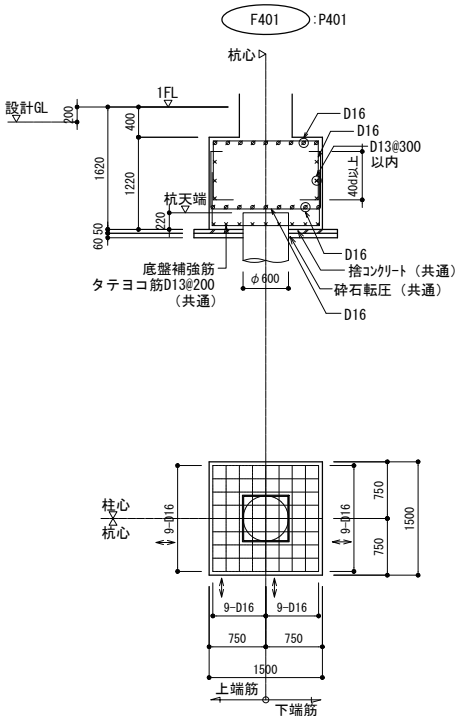
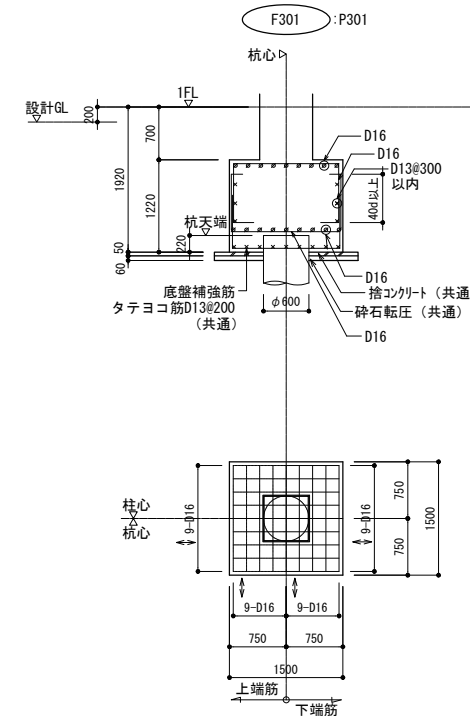
6. 鉄骨梁の接合部は下記による。
6.  J は梁継手位置を示す。
7.  B は柱BPL下端を示す。
8. 鉄骨梁の接合部は下記による。
- ・剛接合を示す。
- 
- ・ピン接合を示す。
- 
9.  は柱上増付補強を示し、雑配筋図による。
10. 大梁天端レベルは軸組図による。
11. 床・小梁レベルは以下による。
- | 記号 | スラブ上端 | 床・小梁上端 |
|---|--------|--------|
|  | — | — |
|  | ±0～-80 | ス |

※数値はFLからとする			
記号	スラブ上端	小梁上端	備考
	-	-100	チェッカープレート
	±0～-80	スラブ下端	水勾配は図示による。

		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
	株式会社 東畑 建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 NO.273069	一級建築士 NO.345792 構造設計一級建築士 NO.9786	一級建築士 NO.252480 設備設計一級建築士 NO.1028	図面名称 伏図・軸組図 (設備機器架台) 縮尺 A1:1/100 (A1) A3:1/200 (A3)	S302
		高木 耕一	中牟田 昌廣	担当 一級建築士 NO.343695 久保 久志		
				石田 正之		

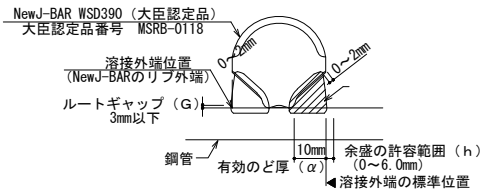
基礎リスト

- 注記) 1. 鉄筋材質 D10～D16 SD295
D19～D25 SD345
2. 基礎の向きは基礎伏図参照

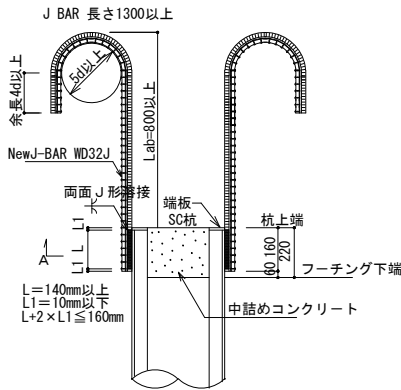


杭頭補強要領

杭頭補強筋の径・本数はS301・S302図による。




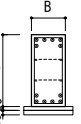
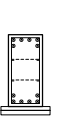
A断面詳細図

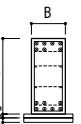
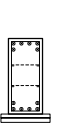
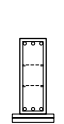
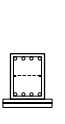
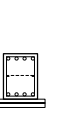


J-BARの折り曲げ定着 (180° フック)

基礎梁リスト

- 注記) 1. 巾止め筋は、 型 -D10@1000 とする。
2. 一段筋と二段筋のあき間隔 特記外1.5d
3. 鉄筋材質 D10～D16 SD295
D19～D25 SD345
4. 地業 捨てコンクリート 厚50
砂利地業 厚60

符 号	FG301	FG302
位 置	全 断 面	全 断 面
断 面 (Fc=24)		
B X D	450x950	450x950
上 端 筋	4/2-D25	4/2-D25
下 端 筋	4/2-D25	4/2-D25
腹 筋	4-D10	4-D10
あ ば ら筋	□-D13@200	□-D13@200

符 号	FG401	FG402	FG403	FCB401	FB60
位 置	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面	全 断 面
断 面 (Fc=24)					
B X D	450x1000	450x1000	350x1000	400x600	450x600
上 端 筋	4/3-D25	4/2-D25	3-D22	4-D22	4-D22
下 端 筋	4/3-D25	4/2-D25	3-D22	4-D22	4-D22
腹 筋	4-D10	4-D10	4-D10	2-D10	2-D10
あ ば ら筋	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@200

		設計番号 20210533	作成日 2024. 03	種別/備考	工事名称 川越中学校建設工事	図面番号
	株式会社東畑建築事務所 TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	一級建築士 No. 273069 高木 耕一	一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶	一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之	担 当 一級建築士 No. 343695 久保 久志	図面名称 基礎・基礎梁リスト (渡り廊下棟・設備機器架台) 縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100
						S303

鉄骨柱リスト

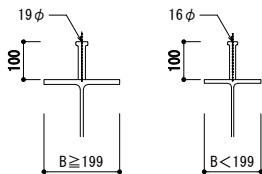
- 注記) 1. 鉄骨材質 BCR295
2. 基礎柱 帯筋の形状はH形
3. 屋外露出部は溶融垂鉛めっき仕上げとする。

符 号	SC301	SC401	SC402
2FL～RFL	□-250x250x9	-	-
1FL～2FL (M2FL)	□-250x250x16	□-250x250x16	□-250x250x12
柱 脚			
柱脚型式	EB250-4-24	EB250-4-30	EB250-4-24
ベースプレート	B. PL-25x390x390 (SN490B)	B. PL-32x410x410 (SN490B)	B. PL-25x390x390 (SN490B)
アンカーボルト	4-M24 (HAB)	4-M30 (HAB)	4-M24 (HAB)
基礎柱			
B x D	600x600	610x610	610x610
主 筋	12-D19 (SD345)	16-D19 (SD345)	12-D19 (SD345)
帯 筋	□-D13@150 (SD295)	□-D13@150 (SD295)	□-D13@150 (SD295)

スタッドコネクタ取付要領図

- ・鉄骨梁とスラブの接合は、スタッドコネクタとする。
・スタッドコネクタは、H=100mmとする。

B	X方向	Y方向
フランジ幅	本数-径-ピッチ	本数-径-ピッチ
B≥199	1-19φ200	左 同
B<199	1-16φ300	左 同



鉄骨大梁リスト

- 注記) 1. 鉄骨材質 SN400B H- H形鋼
2. 剛接合部の継手は $\left(\frac{H}{G}\right)$ 、ピン接合部の継手は $\left(\frac{H}{S}\right)$ とする。
3. 屋外露出部は溶融垂鉛めっき仕上げとし、ボルトは溶融垂鉛めっき高力ボルトF8T（大臣認定品）とする。

符 号	SG29M		SG45		SG29M	
階	位 置	断 面	位 置	断 面	位 置	断 面
RSL	全 域	H-294x200x8x12			全 域	H-294x200x8x12
2FL			全 域	H-450x200x9x14	全 域	H-294x200x8x12
符 号	SG24M		SG29M		SG45	
階	位 置	断 面	位 置	断 面	位 置	断 面
2FL M2FL	全 域	H-244x175x7x11	全 域	H-294x200x8x12	全 域	H-450x200x9x14

鉄骨二次部材リスト

- 注記) 1. 鉄骨材質 SS400
H- H形鋼
BH- 溶接組立H形鋼
SH- 外法一定H形鋼

スラブリスト (FD)

- 注記) 1. D：ダブル配筋を示す
2. 鉄筋材質 D10～D16 SD295
3. 板厚については施工時の荷重状況に応じた必要な板厚とすること。

符 号	床板厚t (mm)	位 置	配 筋	備 考
FD301	150	短辺 (主筋)	D10・13-@200D	表面仕上はZ12とする。
		長辺 (配筋)	D10・13-@200D	
捨て型枠用デッキプレート				

符 号			部材断面	梁		間柱		備 考
小梁	間柱	ブレース		ピン接合	剛接合	ピン接合	剛接合	
SB15W, CB15W			H-150x150x7x10	$\left(\frac{H}{S}\right)$	$\left(\frac{H}{G}\right)$			
SB20			H-200x100x5. 5x8	$\left(\frac{H}{S}\right)$				
CB24M			H-244x175x7x11	$\left(\frac{H}{S}\right)$	$\left(\frac{H}{G}\right)$			
SB25			H-250x125x6x9	$\left(\frac{H}{S}\right)$				
SB30			H-300x150x6. 5x9	$\left(\frac{H}{S}\right)$				
SB40			H-400x200x8x13	$\left(\frac{H}{S}\right)$				
根太1			L-75x75x6					設備機器架台床 GPL-6 HTB 2-M16
根太2			□-100x50x5x7. 5	$\left(\frac{L}{S}\right)$				設備機器架台床外周 手すり下 部材
胴縁			C-100x50x20x2. 3 (SSC400) @600					G. PL-6 中ボルト2-M12
HSB10W			H-100x100x6x8	$\left(\frac{H}{S}\right)$				弱軸使い
	a		H-100x100x6x8			$\left(\frac{H}{S}\right)$		
		b	L-75x75x6					方杖 G. PL-6 HTB 2-M16
		HV401	1-M20 (JIS丸鋼 ブレース)			$\left(\frac{H}{S}\right)$		弱軸使い

鉄骨継手リスト

特記なき限り下記による。

1. 鉄骨材質は下記による。
無印：SS400, SN400B
○：SN490B
2. スプライズプレートの材質は、母材と同材質とする。
3. 継手部において1mmを超える板厚差又は段差がある場合は、フィラープレート (SS400) を用いる。
4. ボルトは、特殊高力ボルトS10T (トルシア型) とする。
(溶融垂鉛メッキボルトF8Tも本図を適用)

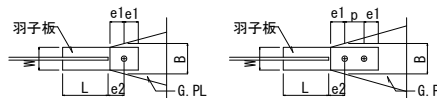
型 式			剛接合								ピン接合											
			<div><div><div>H</div><div>G</div></div><div>(梁用)</div></div>				<div><div><div>I</div></div></div>				<div><div><div>H</div><div>D</div></div><div></div></div>				<div><div><div>H</div><div>S</div></div><div></div></div>				<div><div><div>H</div><div>S 2</div></div><div></div></div>			
項 目	部 材	径	フランジ				ウェブ				ウェブ				ウェブ				ウェブ			
			高力ボルト		添板		高力ボルト		添板		高力ボルト		添板		高力ボルト		カセットプレート		高力ボルト		カセットプレート	
			数量	継手	t ¹ _{t 2}	W x L	数量	継手	t x W x L		数量	継手	t x W x L		数量	継手	厚さ	L	数量	継手	厚さ	L
H形鋼	H-200x100x5. 5x8	M20																				
	H-250x125x6x9	M20																				
	H-300x150x6. 5x9	M20																				
	H-400x200x8x13	M20																				
	H-450x200x9x14	M20	4x6	F2	¹² ₁₂	200x410 80x410	2x5	W2-a	9x170x320					2	G1-a	9	140					
細幅	H-148x100x6x9	M20																				
	H-244x175x7x11	M20	4x4	F2	⁹ _g	175x290 70x290	2x4	W3	9x290x320					2	G1-a	9	140					
	H-294x200x8x12	M20	4x6	F2	⁹ _g	200x410 80x410	2x3	W2-a	9x170x200					3	G1-a	9	200					
	H-100x100x6x8	M16																				
中幅	H-150x150x7x10	M20	4x4	F1	⁹ _g	150x330 60x330	2x2	W1-b	9x350x 80					2	G3	9	80					
広幅																						
その他																						

F1, F2 ()内はF2を示す (40) 2. 5d 10 2. 5d (40) 2PL-t 2PL-t 4PL-t2 L L	W1 W 2PL-t 10 2. 5d 2. 5d L L	W2, W2-a, W2-b ()内はW2-aを示す ()内はW2-bを示す W 2PL-t 10 2. 5d 2. 5d (40) 2PL-t 2PL-t L L	W3 W 2PL-t 10 2. 5d 2. 5d L L	G1-a 10 40 40 L L	G2-a 10 40 40 L L	G3 10 2. 5d 2. 5d L L
--	--	---	--	----------------------------------	----------------------------------	--------------------------------------

型 式		$\left(\frac{L}{S}\right)$		15 40 60
項 目	部 材	高力ボルト	カセットプレート	
溝 形 鋼	径	数量	厚さ	L
	□-100x50x5x7. 5	M16	2	80

丸鋼ブレース継手リスト

- (JISサ-バ-鋼筋かい) ボルトはH. T. B (S10T) とする。
屋外露出部は溶融垂鉛メッキ処理を施し、使用ボルトは溶融垂鉛メッキ高力ボルトF8T相当 (大臣認定品) とする。



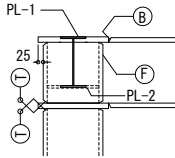
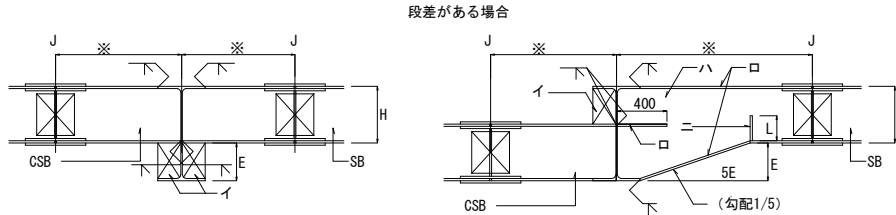
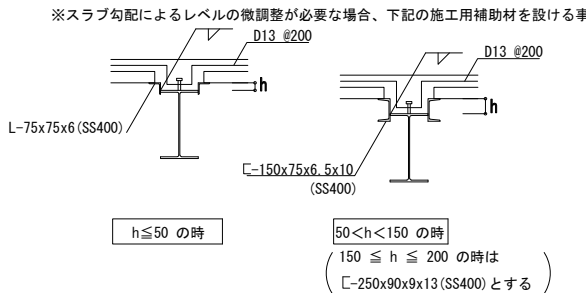
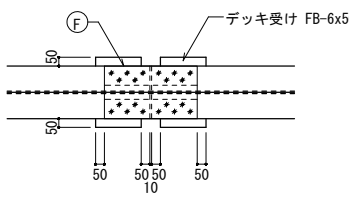
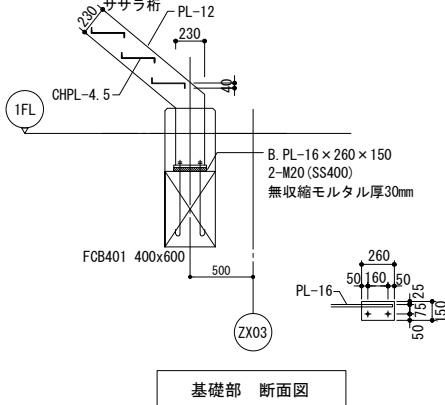
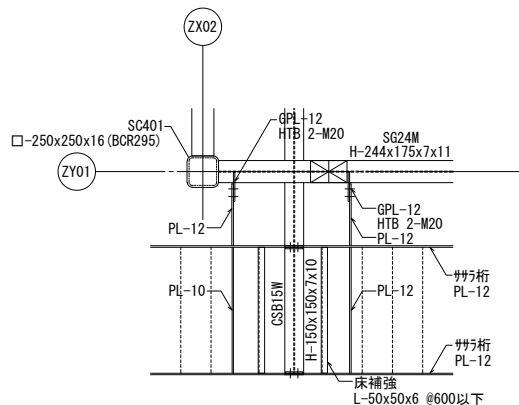
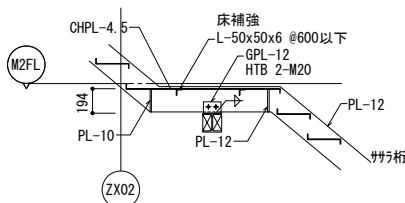
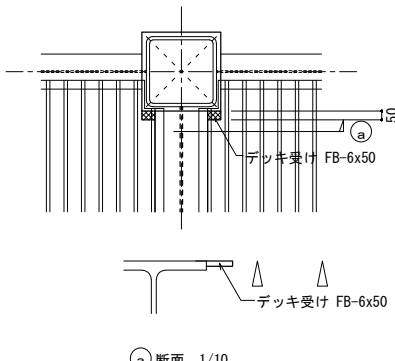
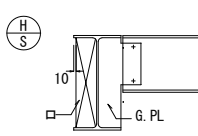
M16～M22の場合

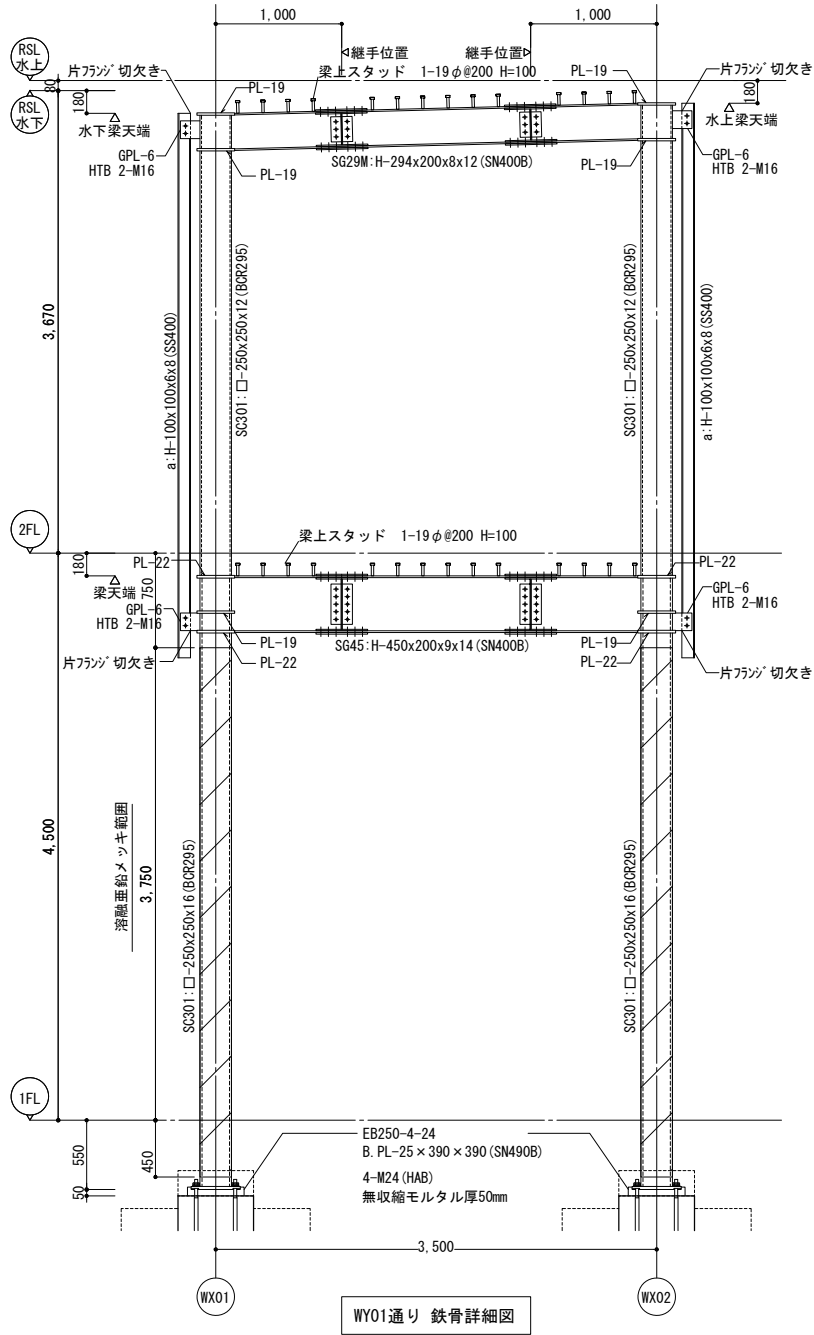
M24～M33の場合



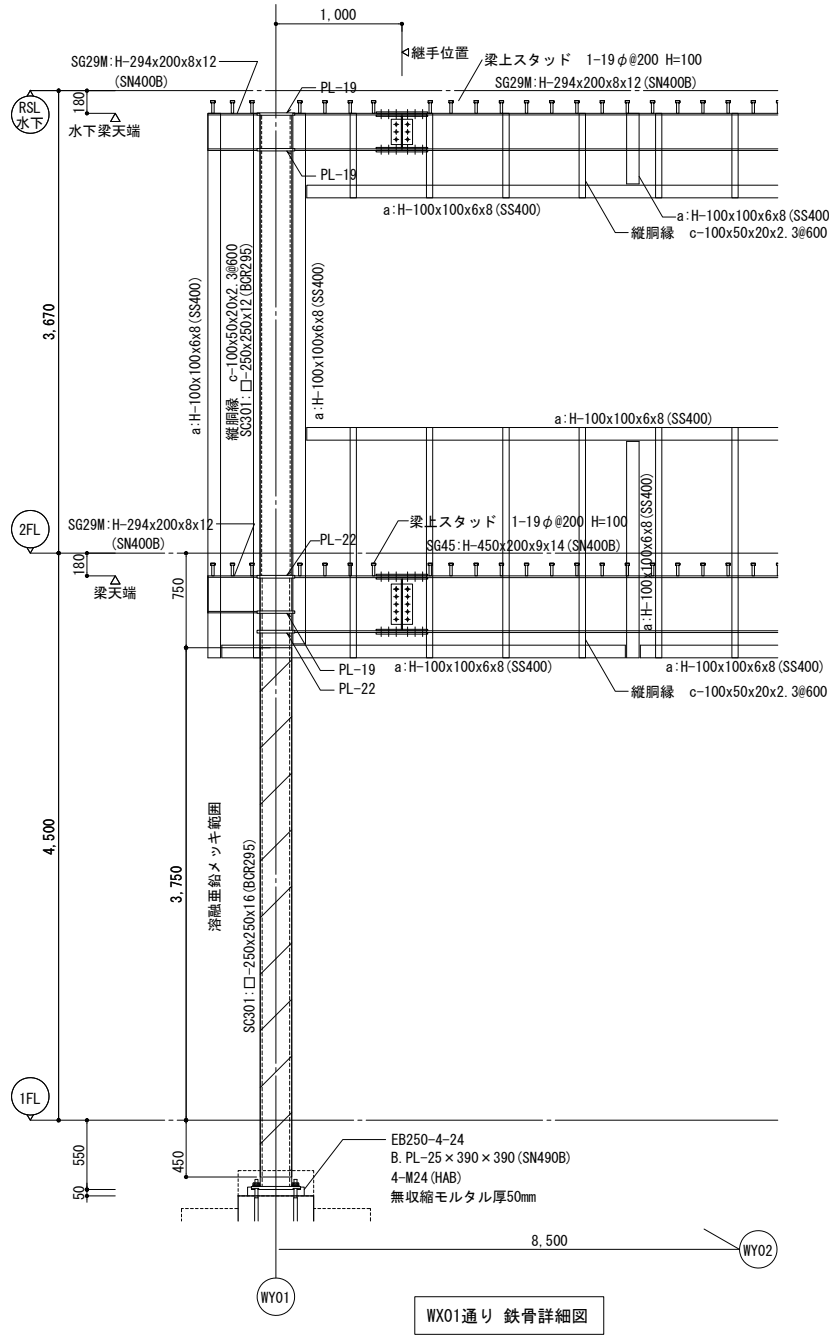
符 号	部 材	G. PL	羽子板	羽子板	はしあき	ピッチ	溶接長	B
HV401	M20	9	9x75	1-M20	50	70	75	80

				設計番号 20210533 一級建築士 No. 273069 高木 耕一		作成日 2024. 03 一級建築士 No. 345792 構造設計一級建築士 No. 9786 中牟田 昌慶		種別/備考 一級建築士 No. 252480 設備設計一級建築士 No. 1028 石田 正之		工事名称 川越中学校建設工事 鉄骨部材リスト (渡り廊下棟・設備機器架台) 担当 一級建築士 No. 343695 久保 久志		図面番号 S304
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--------------

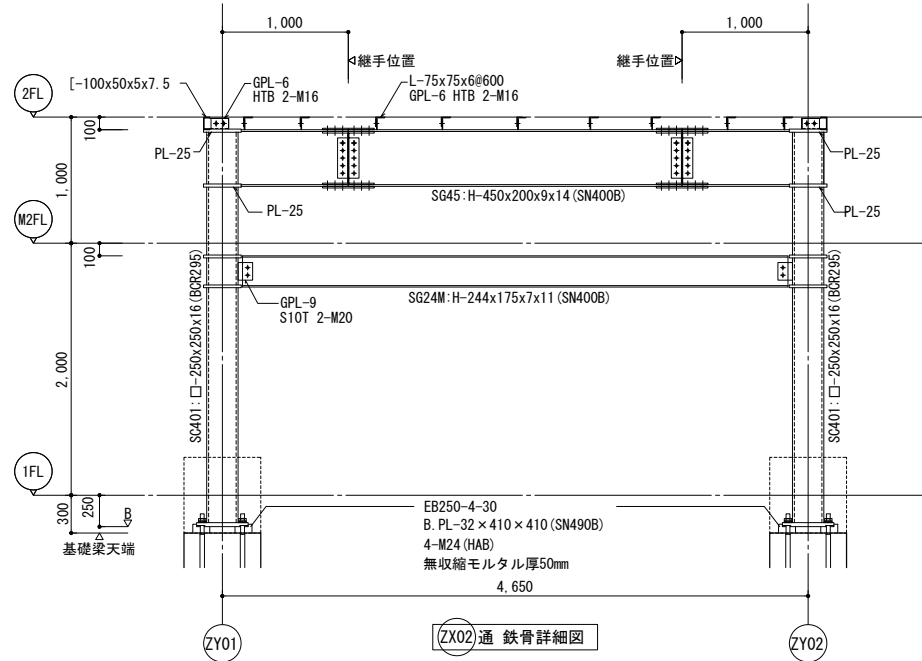
柱梁剛接合部詳細図		片持ち小梁剛接詳細図																																			
<div><p>(通しダイヤフラム) PL-1の板厚： 取合う柱フランジの最大板厚かつ、梁フランジの最大板厚の2サイズアップかつ、16mm以上とする。(設備機器架台のみメッキ孔に配慮し3サイズアップとする) 材質：SN490C</p><p>(内ダイヤフラム) PL-2の板厚： 取合う梁フランジの最大板厚の2サイズアップかつ、16mm以上とする。(設備機器架台のみメッキ孔に配慮し3サイズアップとする) 材質：SN490B</p><p>■板厚は下記を標準とする。</p><table border="1"><tr><td>板厚</td><td>6</td><td>9</td><td>12</td><td>16</td><td>19</td><td>22</td><td>25</td><td>28</td><td>32</td><td>36</td><td>40</td></tr></table><p>・柱、梁のフランジ・ウェブの板厚は上表の標準板厚に読み換える 凡例：PL-13の2サイズアップ→PL-22</p></div>		板厚	6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40	<div><p>段差がある場合</p><p>イ：取付小梁のウェブと同厚以上・同材質 ロ：取付小梁のフランジと同厚以上・同巾・同材質 ハ：取付小梁のウェブと同厚以上・同材質 ニ：取付小梁のウェブと同厚異郷・同材質 L：下記による H<400：L=H H≥400：L=H/2</p></div>																							
板厚	6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40																										
デッキスラブ段差仕様	梁継手回りデッキ受け詳細図	階段詳細図																																			
<div><p>※スラブ勾配によるレベルの微調整が必要な場合、下記の施工用補助材を設ける事</p><p>h≤50 の時</p><p>50<h<150 の時 150 ≤ h ≤ 200 の時は C-250x90x9x13(SS400)とする</p></div>	<div></div>	<div><p>注記)</p><ol style="list-style-type: none">鉄骨材質 無印：SS400ボルト 特記外 トルシア形高力ボルト(HTB)S10T屋外露出部は溶融亜鉛めっき仕上げとする。 またボルトは溶融亜鉛めっき高力ボルトF8T(大臣認定品)とする。アンカーボルト 特記外 L=25d 先端フック付き 二重ナット締め<p>基礎部 断面図</p></div>																																			
デッキスラブ端部補強要領	鉄骨根巻き部 配筋詳細図	<div><p>踊り場 平面図</p></div>																																			
柱回りデッキ受け	ピン接合	<div><p>踊り場 断面図</p></div>																																			
<div><p>② 断面 1/10</p></div>	<div><p>ロ：G.PL及びPL-イと同厚・同材質 注記) 隣接する小梁間隔が300以下 の場合PL-ロは省略する</p></div>																																				
		<table><tr><td>設計番号</td><td>20210533</td><td>作成日</td><td>2024. 03</td><td>種別/備考</td><td></td><td>工事名称</td><td>川越中学校建設工事</td><td rowspan="4">図面番号</td><td rowspan="4">S305</td></tr><tr><td>株式会社 東畑 建築事務所</td><td>一級建築士 No.273069</td><td>一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786</td><td>一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028</td><td>担 当</td><td>図面名称</td><td>鉄骨詳細図その1 (渡り廊下・設備機器架台)</td><td rowspan="3">縮尺</td></tr><tr><td>TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.</td><td>高木 耕一</td><td>中牟田 昌慶</td><td>石田 正之</td><td>久保 久志</td><td></td><td>A1: 1/30 (A1) A3: 1/60 (A3)</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				設計番号	20210533	作成日	2024. 03	種別/備考		工事名称	川越中学校建設工事	図面番号	S305	株式会社 東畑 建築事務所	一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当	図面名称	鉄骨詳細図その1 (渡り廊下・設備機器架台)	縮尺	TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志		A1: 1/30 (A1) A3: 1/60 (A3)							
設計番号	20210533	作成日	2024. 03	種別/備考		工事名称	川越中学校建設工事	図面番号	S305																												
株式会社 東畑 建築事務所	一級建築士 No.273069	一級建築士 No.345792 構造設計一級建築士 No.9786	一級建築士 No.252480 設備設計一級建築士 No.1028	担 当	図面名称	鉄骨詳細図その1 (渡り廊下・設備機器架台)	縮尺																														
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.	高木 耕一	中牟田 昌慶	石田 正之	久保 久志		A1: 1/30 (A1) A3: 1/60 (A3)																															



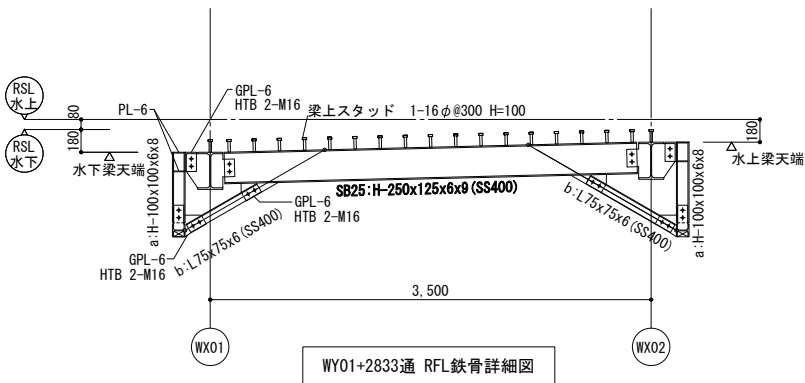
WY01通り 鉄骨詳細図



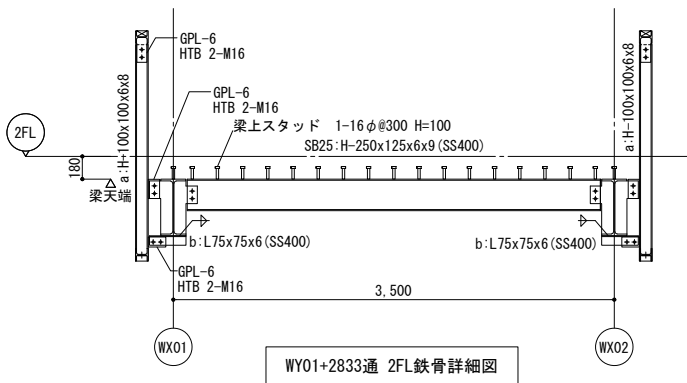
WX01通り 鉄骨詳細図



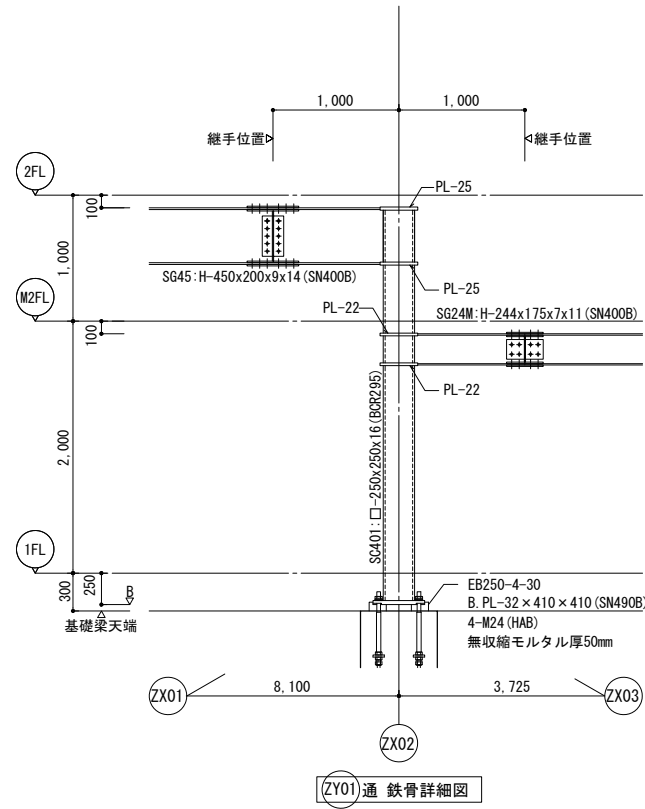
ZX02通 鉄骨詳細図



WY01+2833通 RFL鉄骨詳細図



WY01+2833通 2FL鉄骨詳細図



ZY01通 鉄骨詳細図

特記を除き、下記とする。

- 鋼材の材質は SS400、高力ボルトはS10Tとする。
- 通しダイヤフラムの板厚は、取り付け梁フランジの2サイズアップ以上かつ梁フランジ厚+6mm以上とし、材質はSN490Cとする。（設備機器架台はメッキ孔に配慮し3サイズアップ以上とする）
- 屋外露出部の鉄骨面は溶融亜鉛メッキ（JIS H8641の2種）とし、ボルトは亜鉛メッキ高力ボルト（F81相当 大臣認定品）とする。

株式会社東畑建築事務所
TOHATA ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

設計番号
20210533
一級建築士 No.273069
高木 耕一

作成日
2024. 03
一級建築士 No.345792
構造設計一級建築士 No.9786
中牟田 昌慶

種別/備考
一級建築士 No.252480
設備設計一級建築士 No.1028
石田 正之

担当
一級建築士 No.343695
久保 久志

工事名称
川越中学校建設工事
図面名称 鉄骨詳細図その2
（渡り廊下・設備機器架台）
縮尺 A1: 1/30 (A1)
A3: 1/60 (A3)

図面番号
S306